

除湿機サービスマニュアル

床置一体型（再熱専用機）

UDP2W2

UDP3W2

UDP5W2

UDP8W2

UDP10W2

床置リモコン型（冷却機能付機）

UDP2WC2+UDRCP2WC1

UDP3WC2+UDRCP3WC1

UDP5WC2+UDRCP5WC1

UDP8WC2+UDRCP8WC1

UDP10WC2+UDRCP10WC1



この星に、たしかな未来を

2-260-1-D

'15-09 発行

目次

1. 製品の概要〔特長および新旧比較は新商品技術情報をご覧ください。〕	3
1.1 安全にお使いいただくためのご注意	3
1.2 施工上の主な注意点	10
2. 試運転	11
2.1 試運転前の点検	11
2.2 操作スイッチ	13
2.3 試運転手順	14
2.4 引き渡し時の指導	24
3. 運転制御	25
3.1 制御方法	25
3.2 運転操作	31
3.3 電気配線図	37
4. 製品の様子がおかしいときの処置	40
4.1 簡易点検方法	40
4.2 故障診断方法	46
4.3 運転状態の確認	61
5. 保守・サービス	66
5.1 保守基準	66
5.2 運転状態の確認	67
5.3 主要部品の交換方法	68
6. 製品の仕様	100
6.1 仕様表	100
6.2 使用基準	106
6.3 寸法図	108
6.4 構造図	118
6.5 性能	126
7. 応用機能	129
7.1 室内プリント基板からのオプション機能	129
7.2 操作スイッチからのオプション設定機能	132
7.3 複数台制御	135
7.4 ペアリモコン機能	140
7.5 外部機器異常信号入力	142
8. オプション部品	143
8.1 プレナムチャンバー	143
8.2 ダクトチャンバー	145
8.3 ビニールダクト	146
8.4 コネクター付きコード	147
8.5 コントロールタイマー	147
8.6 背面吸込ダクトセット	148
8.7 エアーフィルター	150
8.8 木台	154
8.9 プーリセット	155
8.10 ベースカバー	157
8.11 操作スイッチ塞ぎカバー	158
8.12 室外ユニットオプション部品	159
9. 参考資料	160
9.1 送風機特性曲線	160
9.2 冷凍サイクル系統図	165

1. 製品の概要

1.1 安全にお使いいただくためのご注意

- この「安全にお使いいただくためのご注意」は、据え付けおよび使用方法について、安全のために必ずお守りいただくための注意事項をまとめたものです。
- ご使用前によくお読みのうえ、正しく据え付けられているかご確認ください。
- 据付工事完了後、試運転を行い、異常のないことを確認ください。

1 はじめに

- この製品は国内向一般用除湿機です。
- 食品・動植物および美術品の除湿・乾燥には対象物に適したそれぞれの除湿・乾燥手順および条件を確認した上でご使用ください。
- 次のような場所への設置はしないでください。ユニットが故障する原因となります。
 - 油(機械油も含む)の飛沫・蒸気の多い場所
 - 酸性またはアルカリ性の雰囲気のある場所。
 - 温泉地など硫化ガスの多い場所
 - 雨風が侵入するような場所(室内ユニットは屋内専用機です)
 - 可燃性ガスの発生・流入などの恐れがある場所
 - カーボン繊維や金属粉が浮遊する場所
 - 海岸地帯の塩分の多い場所
 - 煙突の煙がかかる場所
 - 標高1,000m以上の場所
 - 油や粉末などを直接吸い込む恐れのある場所
- 木材・薬品などの特殊雰囲気(腐食性や可燃性のあるもの)や、熱交換器の目づまりを発生させる原因になる塵埃が多量にある雰囲気では使用できません。
- 電磁波を発生する医療機器などを使用するときは、除湿機の誤作動防止に注意してください。
電磁波の発信面を、電気品箱および操作パネルに直接向かない位置に据え付けてください。
電磁波の空中伝播の影響をさけるため、電磁波を発信する機器やラジオなどは、除湿機より3m以上離してください。元電源のオン/オフ操作は短時間(10秒以内)に繰り返さないでください。
- 降雪地域および落葉が直接製品に降りかかる場所では防雪フードをご使用ください。また、積雪地域では室外ユニットに架台を設けてください。
- 24時間運転など運転時間が長い使用方法の場合には、定期的な予防保全を実施する必要があります。
このような使用方法の場合には、お買い上げの店またはメーカー指定のお客様ご相談窓口にご相談ください。
- 動植物に直接風が当たる場所には設置しないでください。動植物に悪影響を及ぼす原因となることがあります。

記号の意味

 **警告**： 取り扱いを誤ると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定できる場合を示します。

： 禁止事項を示します。

 **注意**： 取り扱いを誤ると、使用者が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定できる場合を示します。

： 強制事項を示します。特定しない一般的な使用者の行為を指示する表示です。

留意事項： 警告・注意以外の注記事項を示します。

： 強制事項を示します。必ずアース線を接続するよう指示する表示です。

2 安全のために必ずお守りください

- ご使用の前に、この「安全のために必ずお守りください」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、「**△警告**」「**△注意**」に区分していますが、誤った取り扱いをした時に、死亡および重傷などの重大な結果に結び付く可能性が大きいものを特に「**△警告**」の欄にまとめて掲載しています。しかし、「**△注意**」の欄に掲載した事でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性もあります。いずれも安全に関する重要な内容を掲載していますので必ずお守りください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

据え付け・試運転について

 警告	● 据付工事は据付点検要領書に従って確実に行ってください。据付点検要領書の記載と異なる据付工事をし、据え付けに不備があると、水漏れ・感電・火災・ユニットの落下によるケガの原因になります。	!
	● 据え付けは除湿機の質量に十分耐える場所に確実に行ってください。強度不足や取り付けが不完全な場合は、除湿機の落下や転倒によるケガの原因になります。	!
	● 可燃性ガスの発生や流入などの恐れがある場所には据え付けしないでください。発火や火災の原因になります。	⊘
	● 小部屋へ据え付ける場合は、万一、冷媒が漏れても限界濃度を超えないように対策してください。限界濃度を超えない対策については、販売店と相談してください。万一、冷媒が室内に漏れた場合、その濃度が許容値を超えるような小部屋では窒息などの危険があり、許容値を超えない対策が必要です。詳細は技術資料、JRA GL-13:2012(http://www.jraia.or.jp/index.html)をご覧ください。	!
	● 冷媒を取り扱う場合には、必ず革手袋を着用してください。万一、冷媒が直接手などに掛かると凍傷を負う原因になります。	!
	● 除湿機の上に乗ったり、物を載せたりしないでください。落下によるケガの原因になります。	⊘
	● 据付工事は、R410A用に製造された専用のツール・配管部材を使用し、据付点検要領書に従って確実に行ってください。使用しているHFC系R410A冷媒は、従来の冷媒(R22やR407C)に比べ圧力が約1.4倍高くなります。専用の配管部材を使用しなかったり、据え付けに不備があると破裂・ケガの原因になり、また、水漏れ・感電・火災の原因になります。	!
	● 冷媒漏れチェックは確実に行ってください。冷媒は不燃性・非毒性・無臭性の安全冷媒(フルオロカーボン)を使用していますが、万一、フルオロカーボンが漏れて火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。また、フルオロカーボンは空気より比重が重いので、床面付近をおおい、酸素欠乏の原因になります。	!
	● 除湿機は不燃性の冷媒R410A専用機です。据え付けおよび修理・移設の際に、R410A以外の物質を混入させないでください。他の冷媒や空気・酸素・プロパン・アルコールなどの可燃性物質が混入すると爆発・火災・ケガの原因になります。	!
	● 据え付けの際は、圧縮機を運転する前に、確実に冷媒配管を取り付けてください。修理・移設・廃棄の際は、圧縮機を停止してから冷媒配管を取り外してください。冷媒配管が取り付けられておらず、阻止弁が開放状態で圧縮機を運転すると空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧となり爆発・火災・ケガなどの原因になります。	!
	● 気密試験は必ず窒素ガスを使用してください。誤って酸素および毒性ガスを使用すると、爆発や中毒の原因になります。	!
	● 配管ろう付け時のガスブローには必ず窒素ガスを使用してください。誤って酸素ガス・炭酸ガス・フロンガスなどを使用すると、爆発や中毒の原因になります。	!
	● 配管ろう付け時のガスブローには必ず減圧弁を使用してガス圧を0.03～0.05MPaに調整してください。ガス圧が高すぎると、爆発の原因になります。	!
	● 除湿機の冷媒配管接続口にある阻止弁は冷媒配管接続前には開閉しないでください。一旦開きますと阻止弁と接続口の間に高圧の冷媒が入り、接続口のフレアナットなどを取り外した際に高圧の冷媒ガスが吹き出し、フレアナットなどを吹き飛ばし危険です。また、接続口のフレアナットなどを外す際には前の工程で接続口と阻止弁の間に高圧の冷媒がないか十分チェックしてください。	⊘
	● ろう付け作業前には必ず周囲の可燃物を排除してから、ろう付け作業を実施してください。火災の原因になります。また、冷媒を取り扱う場合には、必ず革手袋を着用してください。万一、冷媒が直接手などに掛かると凍傷を負う原因になります。	!

据え付けについて	
警告	<p>●既設冷媒配管内の洗浄について</p> <p>(1) 洗浄には不燃性、非毒性の洗浄液を使用してください。可燃性の洗浄液を使用しますと、爆発や火災の原因となります。</p> <p>(2) 密閉した場所での作業は、酸欠の恐れがありますので、十分な換気をしながら実施ください。また、洗浄液は、火気に触れるなど高温状態となりますと、有毒ガスが発生する原因になります。</p> <p>(3) 洗浄液は、洗浄後に必ず回収してください。フロン類をみだりに大気中に放出することは法律により禁じられています。</p>
	●洗浄には、不燃性・非毒性の洗浄液を使用してください。可燃性の洗浄液を使用しますと爆発や火災の原因になります。
	●密閉した場所での作業は、酸欠の恐れがありますので、十分な換気をしながら実施してください。また、洗浄液は、火気に触れるなど高温状態となりますと、有毒ガスが発生する原因になります。
	●洗浄液は、洗浄後に必ず回収してください。フロン類をみだりに大気中に放出することは法律により禁じられています。
	●室内ユニットドレン配管は、腐食性ガスなどの発生する排水溝に直接いれないでください。室内に有毒ガスが流入し、中毒などの原因になります。
	●油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液などを頻繁に使うところで使用すると、腐食による冷媒漏れ・感電・著しい性能の低下・故障の原因になります。
	●圧カスイッチなどの保護装置を改造（短絡など）して運転を行った場合、発煙・火災・破裂の原因になります。
注意	●本室内ユニットは塵埃の少ない屋内専用です。防塵・防水構造ではありません。守られない場合は重大な事故の原因になることがあります。
	●ドレン配管は確実に排水するよう、配管してください。不確実な場合は屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。
	●フォークリフトのツメ先端が反対面から出ていることを確認してください。室内ユニットベースの破損や転倒の原因になることがあります。
	●フォークリフトに当て布やダンボールを当てて製品を保護してください。室内ユニットの塗装に傷がつくと、防錆効果が失われ、錆の発生する原因になることがあります。
	●据付床面は水平で平坦な場所としてください。また、床面に据え付ける際、室内ユニットの水平度を出して据え付けてください。 水平でないとドレン水の流れが悪くなり、ドレンパンからオーバーフローしたりします。
	●複数台の室内ユニットを共通ダクトで施工することはできるかぎり避けてください。やむを得ず複数台の室内ユニットを共通ダクトで施工する場合は、送風機を連動させて運転するようにしてください。1台でも送風機が停止していると除湿効果や冷却効果が悪くなり、最悪の場合、圧縮機が故障する場合があります。
	●カバー・パネルの開閉、エアフィルターの取り付けおよび取り外し時は、手でしっかり保持してください。落下や傷害の原因になることがあります。
	●フレアナットを締めすぎないでください。フレアナットを締めすぎると経年でフレアナットが割れ、冷媒漏れが発生することがあります。指定のトルクで締め付けを行ってください。

1. 製品の概要

1.1 安全にお使いいただくためのご注意

電気工事について		
警告	●電気工事をするには資格が必要です。資格のあるお店に依頼してください。ご自分で電気工事をされ不備があると、感電の原因になります。	!
	●ヒューズは決められた容量のものを取り付けてください。誤って大きな容量のヒューズを取り付けると、異常電流が流れてもヒューズが溶断しない場合があります、過熱・火災の原因になります。	!
	●アースの接続はD種接地工事により電気工事士の方が行ってください。室内外ユニットのアースを取り付けないと、感電など思わぬ事故につながります。アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線などに接続しないでください。 アースが不完全な場合は、感電の原因になります。電源電圧 300V 以上の低電圧回路でご使用する場合には、C種接地工事を施設する義務があります。	! ⚡
	●電気工事は「電気設備に関する技術基準」「内線規程 (JEAC 8001) (最新のもの)」およびこの据付点検要領書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。電源回路容量不足や施工不備があると、感電や火災の原因になります。	!
	●室内ユニット間の配線は所定のケーブルを使用してください。ケーブルの誤選定は感電や火災の原因になります。	!
	●配線の端子は規定のトルクにて確実に締め付けてください。端子の締め付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱・火災・感電の原因になります。	!
	●室内ユニット～操作スイッチ間の接続は所定のケーブルを使用してください。ケーブルの誤選定は感電や火災の原因になります。	!
	●端子接続部にケーブルの外力が伝わらないようにケーブルを確実に固定してください。固定が不完全な場合は、発熱や火災の原因になります。	!
	●漏電遮断器を必ず設置してください。法規（電気設備に関する技術基準を定める省令）により設置が定められています。設置しないと地絡により火災や感電の原因になります。	!
	●電気配線作業や点検などでサービスカバーを開けるときには元電源を完全に切ってから行ってください。感電の原因となります。また、遠隔操作や停電自動復帰運転により運転スイッチを押さなくても運転することがあるため、電源を切らずにカバーを開けていた場合は、ファンの回転などによりケガの原因になります。	!
●現地配線施工時は、ネズミなどの小動物に現地配線がかじられることのないよう配慮し施工してください。配線をかじられると火災の原因になります。	!	
●サービスカバーを取り付ける際は、電気配線がかみ込まないように注意してください。感電や火災の原因になります。	!	
注意	●除湿機の電源を、大量の電力を使用する機器（リフト・コンテナクレーン・電鉄用整流器・インバーター電源装置・アーク炉・電気炉・大型の誘導電動機・大型の開閉器など）と同一の電源トランスから配電する場合や大量の電力を使用する機器の電源線と除湿機の電源線同士が近接している場合は、機器の消費電力の急激な変動や、開閉器の作動により、極稀に除湿機の電源線に誘導サージ電圧が発生し、除湿機が正常に運転されない場合が発生する恐れがあります。事前に現地での電源状況を把握され、当該の恐れのある場合は、除湿機に接続する電源線へのサージの重畳を防止（電源線の接続元の変更・配線引回し方法の見直し・サージ抑制機器の取り付けなど）してください。	!

1. 製品の概要

1.1 安全にお使いいただくためのご注意

運転中に		
警告	●空気の吹出口および吸込口に指または棒などを入れたり、空気吹出網を取り外したまま運転しないでください。 内部でファンが高速回転していますのでケガの原因になります。	⊘
	●濡れた手でスイッチを操作しないでください。 感電の原因になります。	⊘
	●室内ユニットを運転している部屋では引火物を使用しないでください。 ラッカー・ペイントなどの可燃性スプレーおよび油（機械油も含む）の蒸気は火災の原因になります。	⊘
	●室内ユニットの風が直接あたる場所へ燃焼器具を置かないでください。 燃焼器具の不完全燃焼の原因になります。	⊘
	●長時間冷風を身体に当てたり、冷やし過ぎないようにしてください。 体調悪化および健康障害の原因になります。	⊘
	●燃焼器具と一緒に運転するときは、こまめに換気してください。 換気が不十分な場合は、酸素不足の原因になります。	!
	●安全装置がたびたび作動したり運転スイッチの作動が確実でない場合は、ただちに元電源を切ってください。 漏電または過電流の可能性があるため、感電、火災および破裂の原因になります。 お買い上げの店またはメーカー指定のお客様ご相談窓口にご連絡ください。	!
	●不燃性・非毒性・無臭性のフルオロカーボン（安全冷媒）を使用していますが、万一、フルオロカーボンが漏れて火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。また、フルオロカーボンは空気より比重が重いため、床面付近をおおい酸素欠乏の原因になります。	!
	●万一、フルオロカーボンが漏れたときには、ストーブなどの火気を消して床面を掃くようにして換気したうえで、お買い上げの店またはメーカー指定のお客様ご相談窓口にご連絡ください。	!
	●異常時（こげ臭いなど）は、運転を停止してただちに元電源を切ってください。異常のまま運転を続けると故障、感電および火災などの原因になります。 お買い上げの店またはメーカー指定のお客様ご相談室にご連絡ください。	!
注意	●室内ユニットのカバーおよびパネルを取り外したまま運転しないでください。 内部に電気品があるため通電部分に触れると感電の原因になります。	⊘
	●室外ユニットの空気吹出口の保護網は取り外さないでください。 内部でファンが回転していますのでケガの原因になります。（冷却機能付機のみ）	⊘
	●動植物に直接風があたる場所には設置しないでください。 動植物に悪影響を及ぼす場合があります。	⊘
	●雪およびみぞれの日に運転するときは、室外ユニットの雪および氷を取り除いてください。 50℃以下のお湯をかけて溶かしてください。送風機用モーターの焼損および能力低下などの原因になることがあります。	!
	●機械部に物を載せたり、手を入れたりしないでください。 内部でファンが高速回転していますので発熱やケガの原因になることがあります。	⊘
	●密閉された室内で除湿機を運転させる場合には、除湿乾燥対象物の許容温湿度範囲を超えないようにしてください。 除湿乾燥対象物の品質を低下させたり、破損させる原因になることがあります。	⊘

修理・移設について		
警告	●除湿機を修理または移設するときは、お買い上げの店またはメーカー指定のお客様ご相談窓口にご相談ください。修理や据え付けに不備があると、感電および火災の原因になります。	!
	●修理技術者および専門業者以外の方は、絶対に分解したり、修理・改造したりしないでください。分解および修理・改造に不備があると、異常動作によりケガ、感電および火災などの原因になります。	⊘
	●移設はお買い上げの店または資格のある専門業者に依頼してください。据え付けに不備があると、水漏れ、感電および火災の原因になります。	!
	●冷媒であるフロン類をみだりに大気に放出することは法律で禁止されています。したがって、冷凍機を廃棄する場合は冷媒を回収する必要がありますので、お買い上げの店または資格のある専門業者にご相談ください。フロン類の種類と充填量および二酸化炭素換算値は、製品正面の冷媒回収銘板に記載されています。また、冷媒が漏れると、酸素欠乏の原因になります。	⊘

1. 製品の概要

1.1 安全にお使いいただくためのご注意

その他の警告および注意

 警告	<ul style="list-style-type: none"> ●万一、火災が発生した場合は、すべての電源を切ってください。爆発の原因になります。消火の際は、油・電気火災用消火器をご使用ください。 	!
	<ul style="list-style-type: none"> ●お手入れの際は、必ず除湿機の元電源を切ってください。感電の原因になります。また、遠方操作や停電自動復帰運転により、運転スイッチを押さなくても運転することがあるため、電源を切らずカバーを開けている場合には、ファンの回転などによるケガの原因になります。 	!
	<ul style="list-style-type: none"> ●お手入れの際は、足場はしっかりしたものを使用してください。転倒および傷害の原因になります。 	!
	<ul style="list-style-type: none"> ●お手入れのときなど、花瓶など水が入った容器を載せないでください。ユニット内部に浸水して電気絶縁が劣化し、感電の原因になります。 	/
	<ul style="list-style-type: none"> ●製品および電気配線の改造変更をしないでください。重大事故の原因になります。 	/
	<ul style="list-style-type: none"> ●室内ユニットの機械室および送風機室内部には触らないでください。内部には保護装置およびプリント基板があります。これらに触ったり、設定値を変更したりすると重大事故の原因になります。 	/
	<ul style="list-style-type: none"> ●室内ユニットのサービスカバーやパネルを外したまま運転しないでください。電気部品の通電部分に触ると感電の原因になります。 	/
	<ul style="list-style-type: none"> ●室内ユニットを水洗いしないでください。感電の原因になります。 	/
	<ul style="list-style-type: none"> ●室内ユニットの配管内には冷媒が封入されているため高圧になっております。資格者以外は配管接続部をゆるめたり、外したりしないでください。資格者以外が作業すると重大事故の原因になります。 	!
	<ul style="list-style-type: none"> ●除湿機を改造したり純正部品以外を組み込まないでください。重大事故の原因になります。やむをえず改造したり純正部品を組み込む場合は、当社は責任を負いかねますのでお買い上げの店またはメーカー指定のお客様ご相談室にご連絡ください。 	/
<ul style="list-style-type: none"> ●配線コネクターなどを外すときは、先端のプラグを持って外してください。コードを引っ張って抜くと芯線の一部が断線して発熱および発火の原因になります。 	!	
<ul style="list-style-type: none"> ●この製品は、不燃焼・非毒性・無臭性のフルオロカーボン（安全冷媒）を使用していますが、万一、製品よりフルオロカーボンが漏れ火気に触れると有害なガスが発生し、目やのどに刺激を感じる場合があります。また、フルオロカーボンは空気より比重が重い床面付近をおおい、酸欠状態となる場合がありますので、万一、フルオロカーボンが漏れた場合には火気を止め（ストーブなどを消す）、床面を掃くように換気した上でお買い上げの店にご連絡ください。 	!	
 注意	<ul style="list-style-type: none"> ●長期間ご使用にならない場合は、安全のための元電源を切ってください。火災の原因になることがあります。 	!
	<ul style="list-style-type: none"> ●掃除をするときおよび整備・点検のときは、必ず停止スイッチを押して元電源を切ってください。感電やファンによるケガの原因になることがあります。 	!
	<ul style="list-style-type: none"> ●漏電遮断器は定期的に動作確認をしてください。漏電遮断器を故障のまま使用すると漏電のときに作動せず、感電の原因になることがあります。 	!
	<ul style="list-style-type: none"> ●お手入れの際は、安全のため手袋などをしてください。ケガの原因になることがあります。 	!
	<ul style="list-style-type: none"> ●露出している配管および配線に触れないでください。火傷および感電の原因になることがあります。 	/
	<ul style="list-style-type: none"> ●掃除のときは、熱交換器フィンに直接手を触れないでください。ケガの原因になることがあります。 	/
	<ul style="list-style-type: none"> ●濡れた手で電源プラグなどの電気部品には触れないでください。感電の原因になることがあります。 	/
	<ul style="list-style-type: none"> ●高温部に触れないでください。圧縮機・熱交換器・配管などは100℃以上になっている部分があり、触れると火傷の原因になることがあります。 	/
	<ul style="list-style-type: none"> ●吸込グリルの開閉、エアフィルターの取り付けおよび取り外し時は手でしっかり保持してください。落下および傷害の原因になることがあります。 	!
	<ul style="list-style-type: none"> ●除湿機の上に乗ったり、物を載せたりしないでください。落下および転倒などによるケガの原因になることがあります。 	/
	<ul style="list-style-type: none"> ●ドレン配管は据付点検要領書に従って確実に施工し、結露が発生しないよう断熱処理をしてください。水漏れし家財などを濡らす原因になることがあります。 	!
	<ul style="list-style-type: none"> ●運転開始12時間以上前に元電源を入れてください。クランクケースヒーターに通電し、圧縮機を予熱するためです。元電源を入れた後すぐに運転スイッチを入れると、圧縮機が冷えた状態で始動し、故障の原因になることがあります。 	!
	<ul style="list-style-type: none"> ●保守点検を実施してください。特に室外ユニットについては台風の接近時などには外板パネルのねじのゆるみがないかなどチェックしてください。強風で外板パネルなどが外れて吹き飛ばされると大変危険です。また、積雪地方で防雪フード（現地準備品）を取り付けている場合は、防雪フードの取り付け部についても同様のチェックをしてください。 	!

使用上のご注意

法律に従って除湿機を据え付けし、使用してください。

1. 「高圧ガス保安法」を遵守してください。
2. 「電気設備の技術基準」を遵守してください。
3. 電源回路には漏電遮断器を施工し、より安全な保護機能を持たせてください。万一の漏電時の感電事故が防止できます。

洗浄液の廃棄は法の規定に従って処分してください。

熱交換器の洗浄液および不凍液などを下水に廃棄せず、法の規定に従って処分してください。詳細はお買いあげの店にご相談ください。

1. 感電および火災防止のために

- 漏電遮断器は決められた容量のものを使用し、他の機器と共用することは避け、除湿機専用としてください。

	ヒューズは決められた容量のものを取り付けてください。誤って大きな容量のヒューズを取り付けると、異常電流が流れてもヒューズが溶断しない場合があります、過熱・火災の原因になります。	
---	--	---

2. 圧縮機を逆転させない

- 圧縮機は回転方向が規定されています。逆転させると圧縮機が破損することがあります。

3. 圧縮機の表面は高温

- 圧縮機は高圧チャンバー方式を採用していますので、表面温度は吐出ガス温度にほぼ等しくなります。直接、手を触れないように注意してください。

4. 冷凍サイクル内へのゴミ侵入の防止

- 圧縮機はダイレクト吸い込みですので、冷媒の補充および再封入時にはゴミや酸化スケールなどの侵入防止に対する配慮をしてください。
 - (1) 配管ろう付け時の窒素ガス置換の実施。
 - (2) 配管切断時の高速カッター使用の禁止。

5. ノイズによるトラブルを避けるためのご注意

- アース配線を必ず実施してください。
 - (1) 接地は必ず専用接地とし、電動機や変圧器などの大電力機器との共通接地は絶対に避けてください。また、単に感電防止が目的で多くの機器が接地されている接地線や鉄骨などへの接地も避けてください。
 - (2) 接地工事は、D種接地（接地抵抗 100 Ω 以下）で行ってください。
 - (3) 接地地点はできるだけ除湿機の近くとし、アース線は極力短くしてください。
 - (4) 信号線（センサーのリード線類）および伝送（連絡）線は、交流電源線とは併走させず 30cm 以上離すか、専用の金属電線管内に入れ、電線管の片端はアースしてください。
- 除湿機の電源線と他機器の電源線は別系統としてください。
- 誘導負荷を制御する開閉器のコイルと並列に、必ずサージキラーを取り付けてください。
- 電磁波を発生する機器の付近に据え付ける（電子リモコンも含む）場合は、電子波放射器の発信面が直接製品本体の電気品箱や操作スイッチに対向しない位置に据え付けてください。

6. 他機器への電波障害を避けるために

- 除霜運転により、電源線にはノイズが乗りますので、隣接する機器類に影響を及ぼす場合があります。この影響により、ノイズクレームが発生しないように以下に注意事項を記載します。
 - (1) 本体および電源配線と受信機器はできるだけ（3m 以上）離してください。
 - (2) 電源配線を金属管で施工する場合は、金属管に必ずアースをとってください。
 - (3) 本体および他の受信機器には各々単独でアースをとってください。

7. 取り扱いについてのご注意

- 配線工事のあと、電気部品端子と大地間を DC500V 絶縁抵抗計で測定し 1 M Ω 以上あることを確認してください。ただし、電子回路部（直流回路）の絶縁抵抗の測定は行わないでください。
- 除湿機の運転・停止は必ず操作スイッチにより操作をしてください。

すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください

運転に先だって、「据付点検要領書」をご参照のうえ、据付状態を点検し、異常がないことを確認してください。据付状態の点検を完了した後、次の項目について点検してください。

1 破損の点検

除湿機の外観および内部に損傷がないかを点検してください。

2 送風機の点検

(1) 送風機のランナーがケーシングの中央にあって、ケーシングに接触しないか手まわしによって点検します。シャフトとランナーの固定、ファンプーリおよびモータープーリが各シャフトに十分に固定されていることを点検してください。

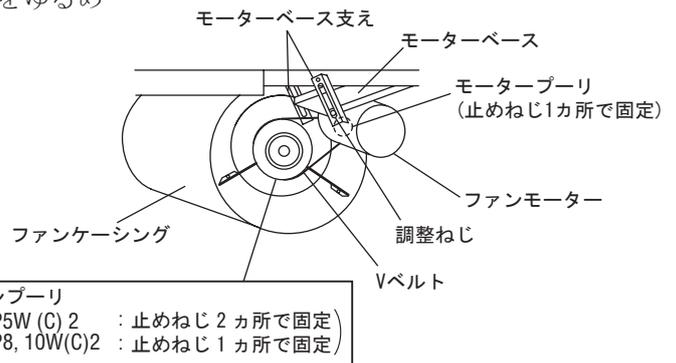
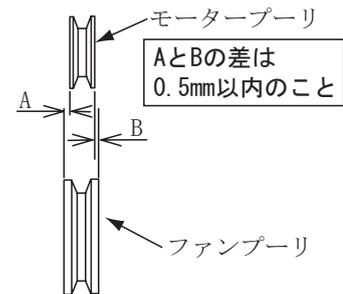
(2) プーリの芯合わせ点検 (UDP5, 8, 10W (C) 2)

右図のとおり、プーリの端面相異寸法を測定し、左右寸法の差が0.5mm以内であることを確認してください。

左右の差が0.5mm以上である場合は、0.5mm以内となるようプーリ位置を調整してください。

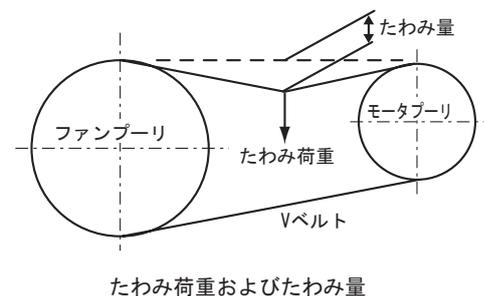
(3) ファンベルトの張り具合は良いか点検します。

ファンプーリとモータープーリの中央位置においてベルトを軽く指で押えて約5mmたわむようにベルトの張りを調整します。左右のモーターベース支えを締め付けている調整ねじをゆるめて、モーターベースを上下することにより行います。



ベルトの張りはスパン長さの中心で、ベルトに垂直に荷重をかけることにより、点検できます。なお、テンションゲージをご利用いただけますと容易に点検ができます。

型式	たわみ量 (mm)	Vベルトの種類	たわみ荷重 (N)	
			新しいベルト	張り直し時
UDP5W2 UDP5WC2	2.4	レッドラベル	13 ~ 19	13 ~ 17
UDP8W2 UDP8WC2	2.3	レッドラベル	16 ~ 23	16 ~ 20
UDP10W2 UDP10WC2	2.3	レッドラベル	16 ~ 23	16 ~ 20



(4) 回転方向の点検をします。送風運転を行い、送風機のランナーがケーシングの矢印方向に回転することを確認してください。また、異常音が出ていないか注意してください。

(5) 送風機の回転を停止したとき、全速から停止までの時間が5～10秒程度であることを確認してください。

(6) 共通ダクト仕様の点検

複数台の室内ユニットが吸込・吹出ダクトを共用するシステムは思わぬトラブルの要因となりますので、できるだけ避けてください。やむを得ず複数台の室内ユニットを共通ダクトで施工する場合は、送風機を連動させて運転するようにしてください。1台でも送風機が停止していると除湿効果や冷却効果が悪くなり、最悪、圧縮機が故障する場合があります。

3 ねじの点検

輸送中の振動で、ねじがゆるんでいることがないか。また、据付作業中にねじ部締め付け忘れがないかを点検してください。特に電気配線のねじ部は入念に点検してください。

4 冷媒漏れの点検

輸送中の振動で、配管ろう付け部に亀裂が生じることがあります。
冷媒漏洩箇所がないか、入念に点検してください。

5 ディップスイッチ設定の点検

「4.1 2 ディップスイッチ設定の点検」(41 ページ)を参照のうえ、出荷時の設定位置になっているかどうかを点検してください。

6 絶縁点検

電気部品端子と大地間を DC500V 絶縁抵抗計で測定し、1M Ω 以上あることを確認してください。
1M Ω 未満の場合は電気充電部の絶縁不良ですので、運転しないでください。

7 阻止弁全開（冷却機能付機の場合）

試運転の際は、室内ユニットの阻止弁が全開に開いていることを確認のうえ、試運転をしてください。

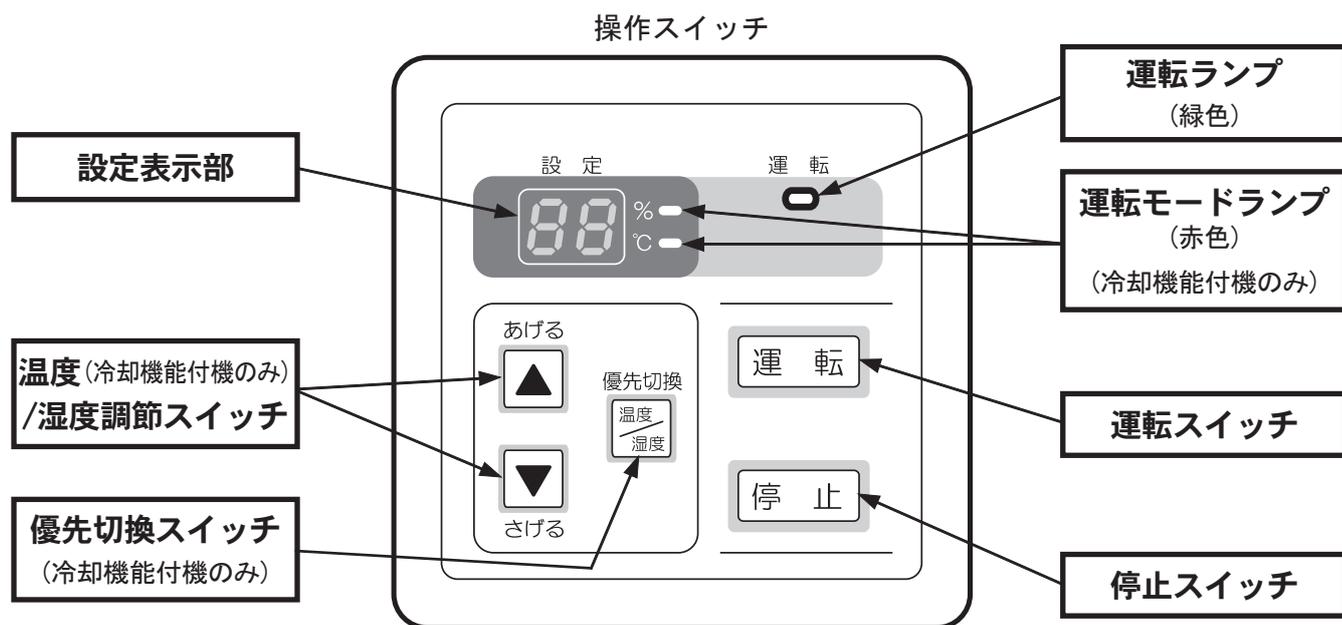
8 電源相の点検

相順が合っていない時または相が欠相の時には運転されません。
操作スイッチにアラーム「05」が表示されます。
電気品箱フタに貼り付けの電気配線図を参照し、相を点検してください。
(電源端子台の2次側での相の入れ換えは行わないでください。)

9 クランクケースヒーター通電

1～8 項の点検が終了しましたら、室内ユニットの電源を入れてください。クランクケースヒーターに通電されて圧縮機が予熱されます。圧縮機が冷えた状態で始動させると故障することがありますので、通電後 **12 時間** の時間をとってください。

1 各部の名称



2 各部の説明

- (1) 表示は「設定湿度(冷却機能付機は設定温度/湿度)」「運転ランプ」「運転モードランプ(冷却機能付機のみ)」があります。また、操作スイッチは[運転][停止][優先切換(冷却機能付機のみ)][湿度調節(冷却機能付機は温度/湿度調節)]があります。
- (2) 通常操作する場合は、**運転** **停止** スイッチのみを操作してください。
- (3) 設定温度/湿度を変更する場合は、[優先切換][温度/湿度調節]スイッチをご使用ください。
- (4) 異常が発生すると直ちに運転を停止します。この際、運転ランプ(赤色)が点滅し、設定表示部に異常コードを表示します。詳細は次ページ「2.3 **2** 異常表示」の項をご参照ください。
なお、異常コードは**停止** スイッチを押すことによりリセットされます。

1 試運転

「3.2 運転操作」(31 ページ)の項を参照して、試運転を行ってください。

2 異常表示

- 除湿機に異常が発生しますとただちに運転を停止し、設定表示部に異常コードの表示と運転ランプ(緑色)の点滅表示をします。このようなときは、「4.2 故障診断方法」(46 ページ)の項で原因を確かめてください。

【アラームコード(異常)一覧表】

アラームコード	異常内容	作動機器と作動設定値								
01 (応用機能設定時のみ)	外部機器異常	応用機能設定時、外部機器の異常が10秒継続								
02	保護装置作動	<ul style="list-style-type: none"> ■ 高圧遮断装置・・・4.15MPa ■ 室内ファン用インターナルサーモ・・・130℃ (2・3馬力相当) ■ 室内ファン用サーマルリレー (5～10馬力相当) <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>馬力</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>設定値</td> <td>2.8A</td> <td>6.2A</td> <td>9.0A</td> </tr> </table>	馬力	5	8	10	設定値	2.8A	6.2A	9.0A
馬力	5	8	10							
設定値	2.8A	6.2A	9.0A							
05	相検出異常	室内ユニット電源配線の相誤りによる逆相または端子部ゆるみなどによる欠相								
08	圧縮機上部温度上昇	圧縮機上部温度127℃以上が10分継続または140℃以上が5秒間継続								
11	吸込空気温度サーミスター(THM1)異常	コネクター部のゆるみ・外れ・断線								
13	配管温度サーミスター(THM2)異常	コネクター部のゆるみ・外れ・断線								
15	吸込空気湿度センサー(THU)異常	吸込空気湿度センサーの異常								
20	圧縮機上部温度サーミスター(THM3)異常	コネクター部のゆるみ・外れ・断線								
22 (冷却機能付機のみ)	外気温度サーミスター(THM4)異常[冷却機能付機のみ]	コネクター部のゆるみ・外れ・断線 室内外操作回路連絡配線異常								
38	保護検出回路異常	保護検出回路異常								
39	圧縮機過電流異常	圧縮機電流過大または下限値以下								
47	低圧圧力低下異常	蒸発温度が-30℃以下が10分間継続								

留意事項

1. 異常原因を取り除く場合は、操作スイッチの[停止]スイッチを押して、除湿機が停止したことを確認した後に元電源を切ってから実施してください。
2. 保護装置の設定については、「6.1仕様表」(100～105ページ)の項を参照してください。
3. 原因がわからない場合は、お買い上げの店にご連絡ください。

3 その他のチェック項目

試運転時に下記の項目について点検してください。

(1) 送風機の点検

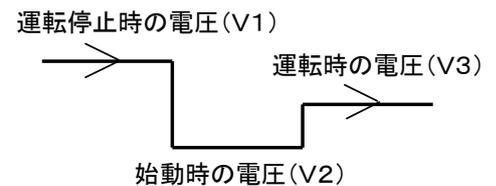
送風機が正しい方向に回転し、風が出ていることを確認してください。

(2) 電源電圧の調査

電源電圧を調査して、線間電圧のアンバランスと電圧値に異常がある場合には、電力会社に相談して適切な処置をしてください。

一般的に始動時は右図に示すように、電圧は一度降下してから回復します。この始動電圧 (V2) が本機の端子において 170V 以下になったり、また、運転時の電圧 (V3) が 180 ~ 220V の範囲を外れていますと、機器故障の原因となりますのでご注意ください。

留意事項	<p>起動時の電圧低下が大きいと、マイコンが瞬時停電検出を行う場合があります。この場合、機器が運転および停止を頻繁に繰り返したり、不規則な運転動作を行うことがあります。</p>
------	--



(3) 運転圧力

正規冷媒量のときの運転圧力は、次ページの「**4** 運転圧力線図」をご参照ください。

(4) 高圧遮断装置の作動チェック

保護装置のうちで最も重要な高圧遮断装置の作動を確認してください。高圧圧力をあげるには、再熱運転中に室内ユニットの空気吸込口をふさいでください。

高圧遮断装置の出荷時の設定値は 4.15MPa です。

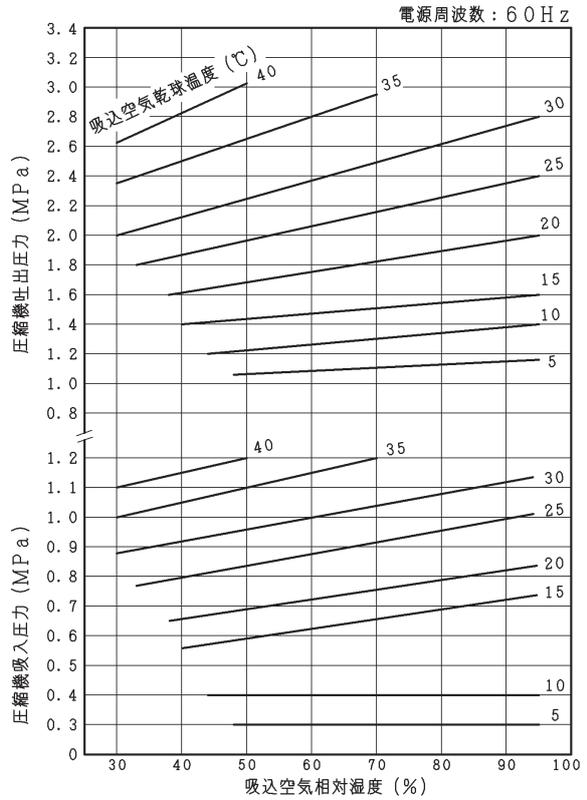
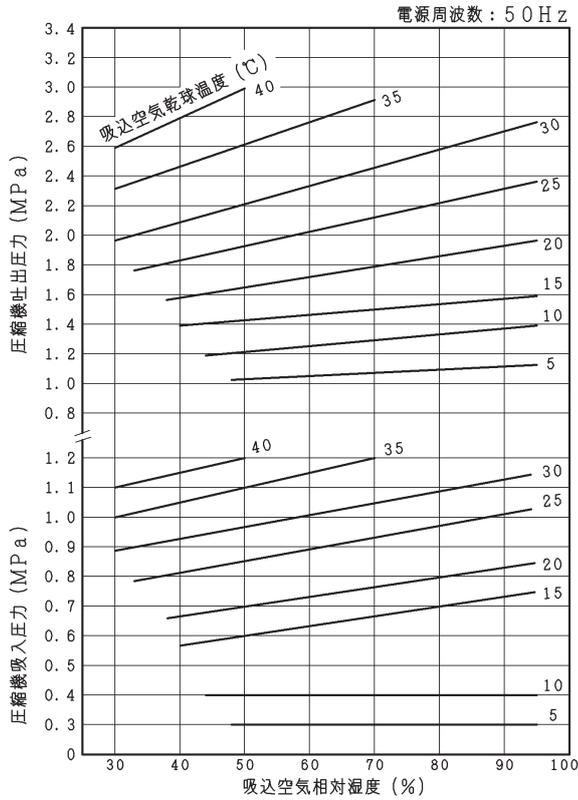
(5) 試運転の際のご注意

- ① 運転停止後 3 分以上経過してから、運転を開始するようにしてください。また、配線容量が不足していると、電圧降下が激しく始動不能となりますので、このときは、ただちに運転を停止してください。
- ② 保護装置が作動したときには、運転を「停止」させ、原因を処置し、その後再び運転を開始してください。
- ③ 圧縮機を運転するために圧縮機用電磁接触器の接点を機械的に押し出すと、圧縮機が故障するだけでなく危険ですので、絶対に押さないでください。
- ④ スクロール圧縮機を使用しているエアコンは、逆転防止のため逆相リレーを設けてあります。圧縮機が運転しない場合は、R・S・T 相の結線が正しく接続されているか、確認してください。

4 運転圧力線図

除湿機の運転圧力線図を下図に示します。

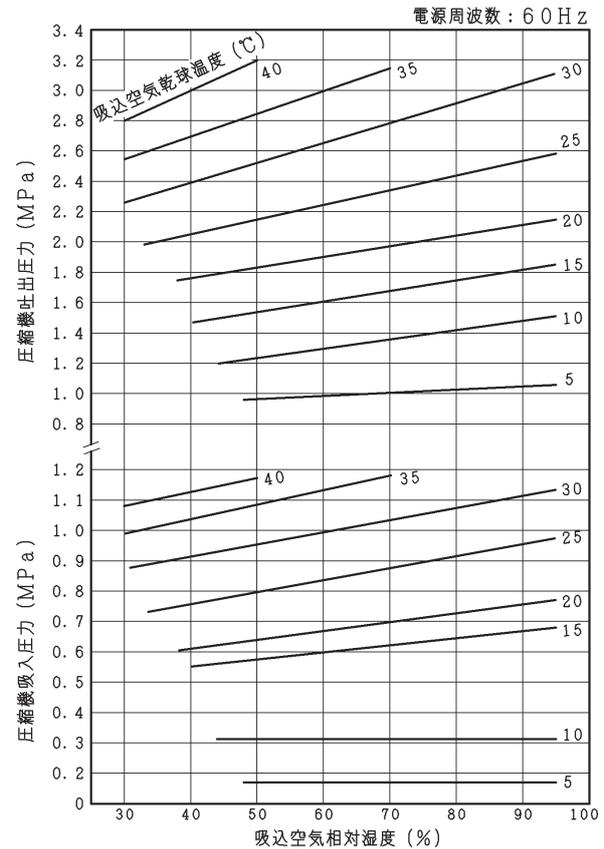
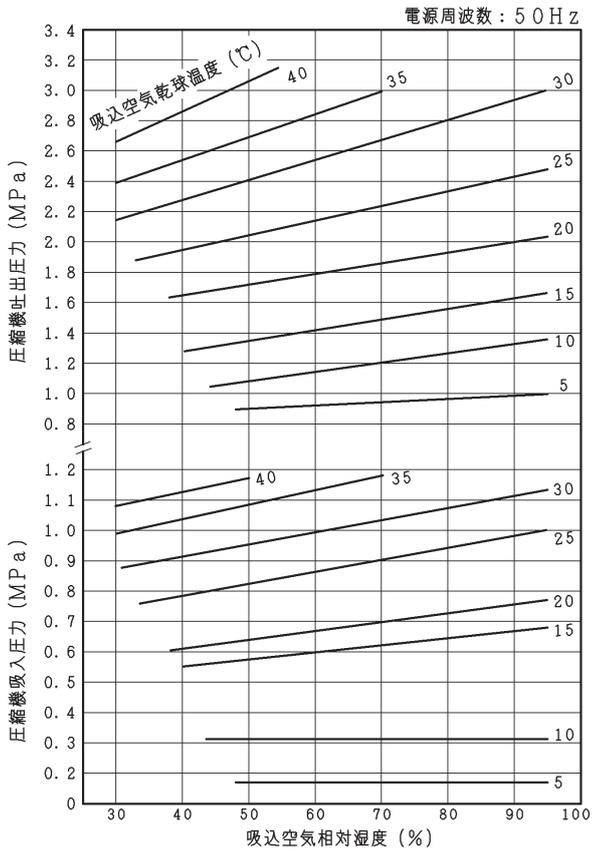
● UDP2W2



併記

1. 本図は、定格風量時を示します。

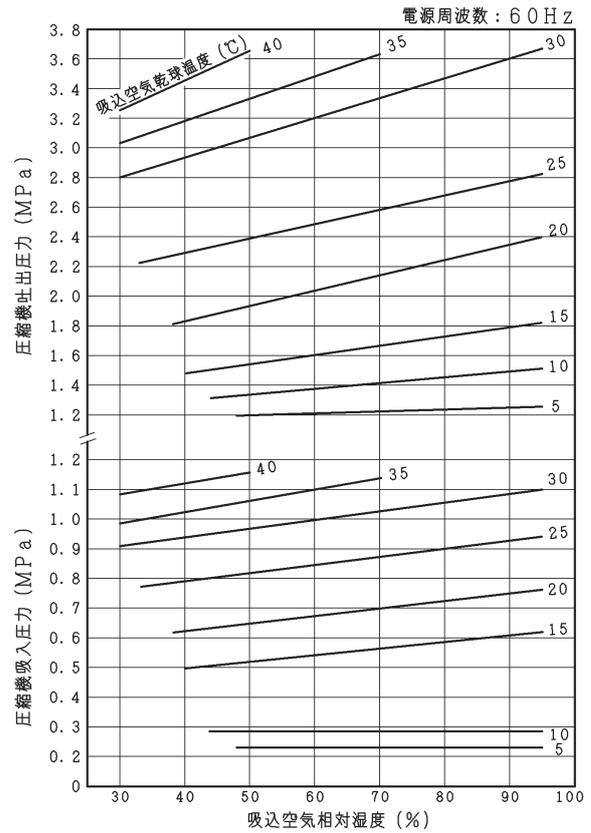
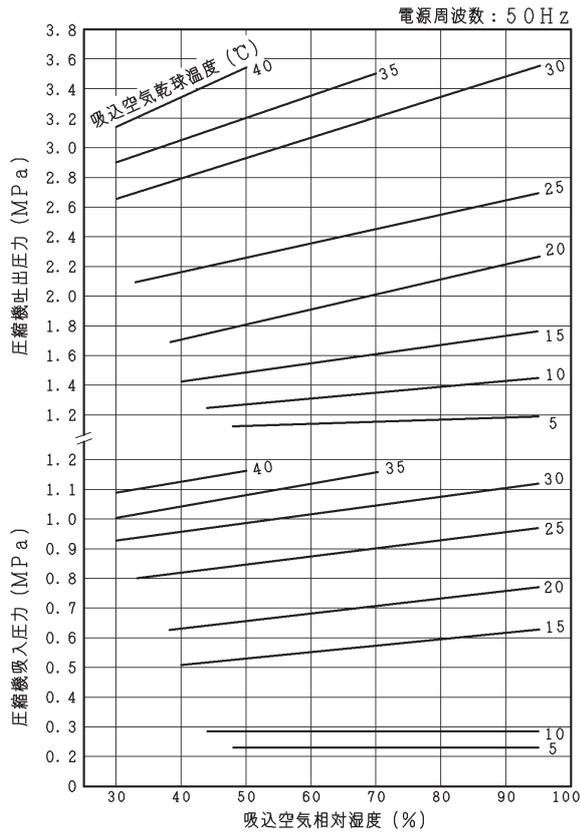
● UDP3W2



併記

1. 本図は、定格風量時を示します。

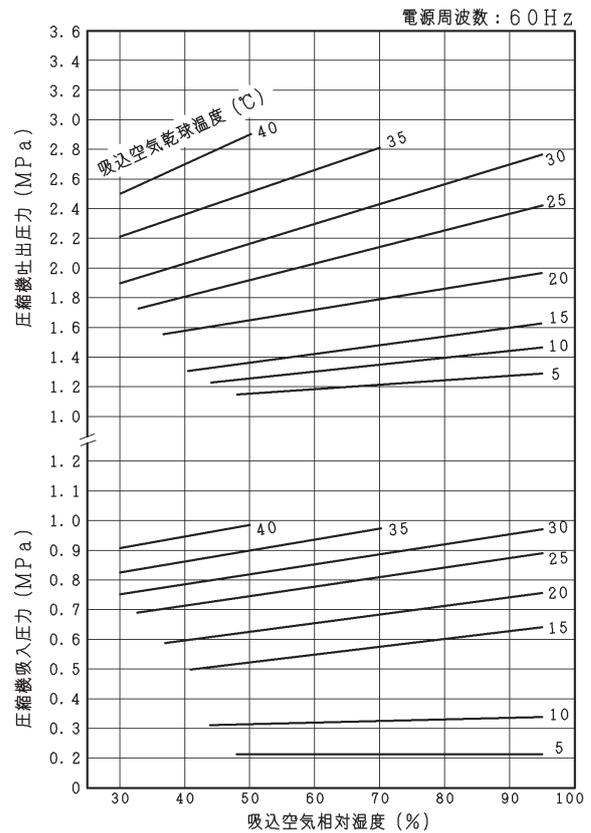
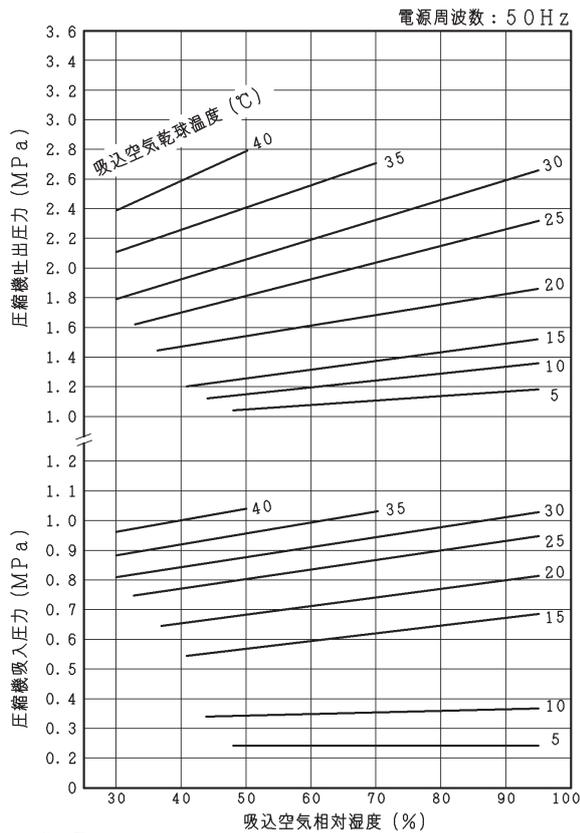
● UDP5W2



注 記

1. 本図は、定格風量時を示します。

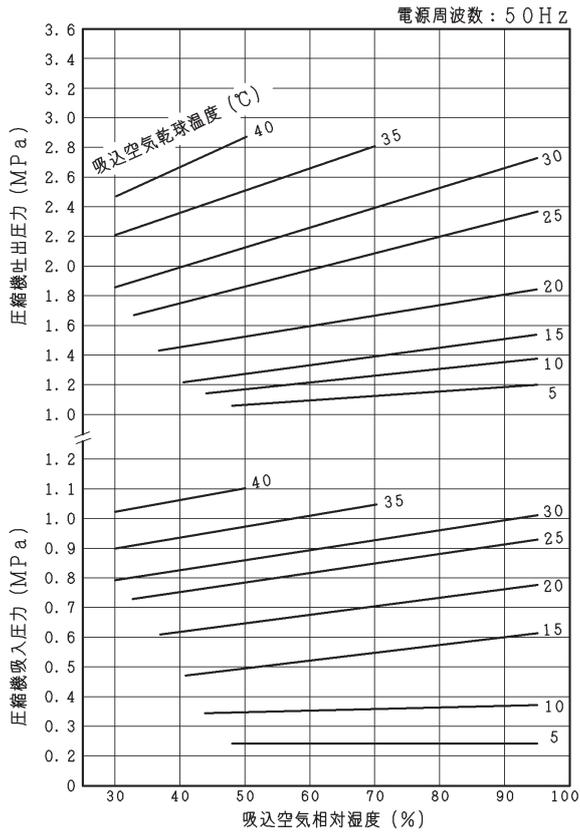
● UDP8W2



注 記

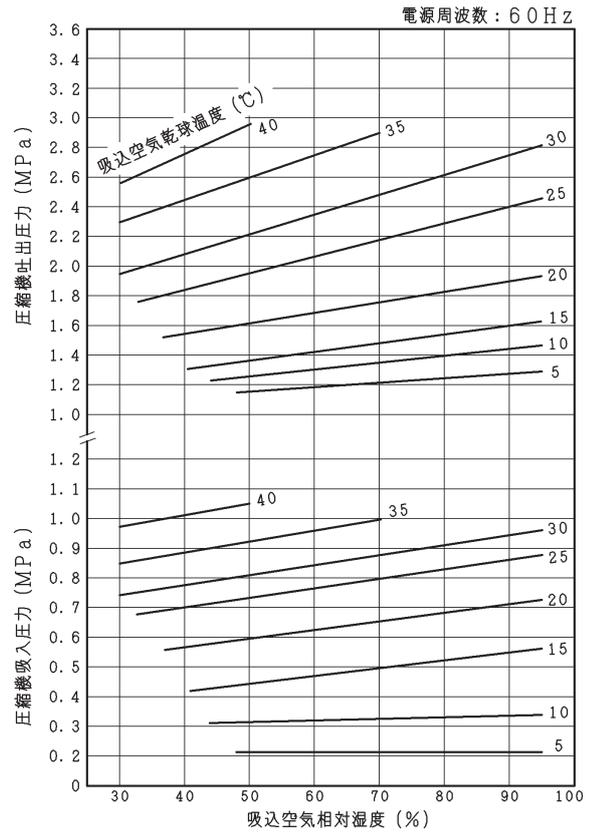
1. 本図は、定格風量時を示します。

● UDP10W2

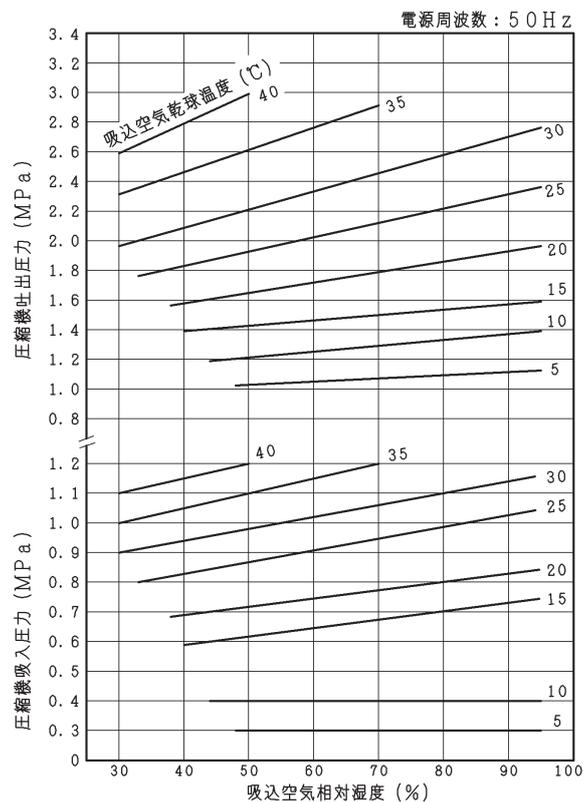


注 記

1. 本図は、定格風量時を示します。

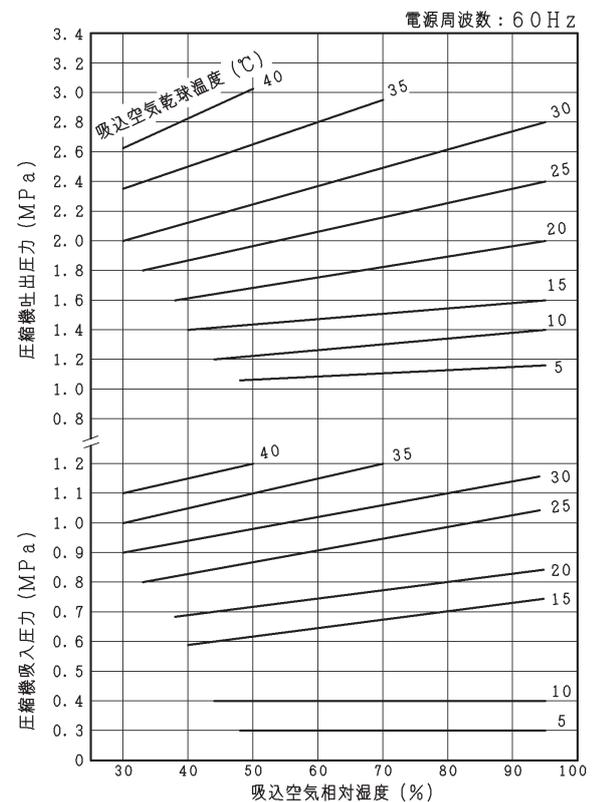


● UDP2WC2 + UDRCP2WC1 (再熱運転時)

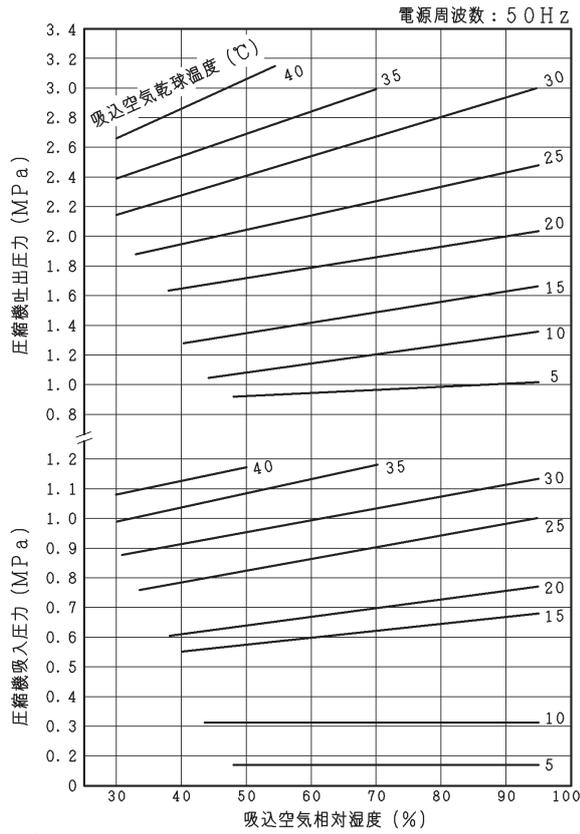


注 記

1. 本図は、定格風量時を示します。

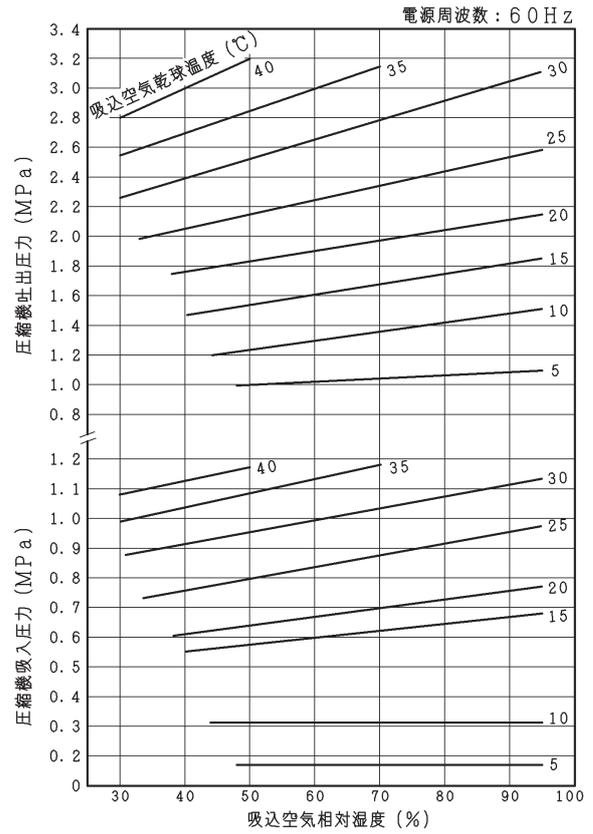


● UDP3WC2 + UDRCP3WC1 (再熱運転時)

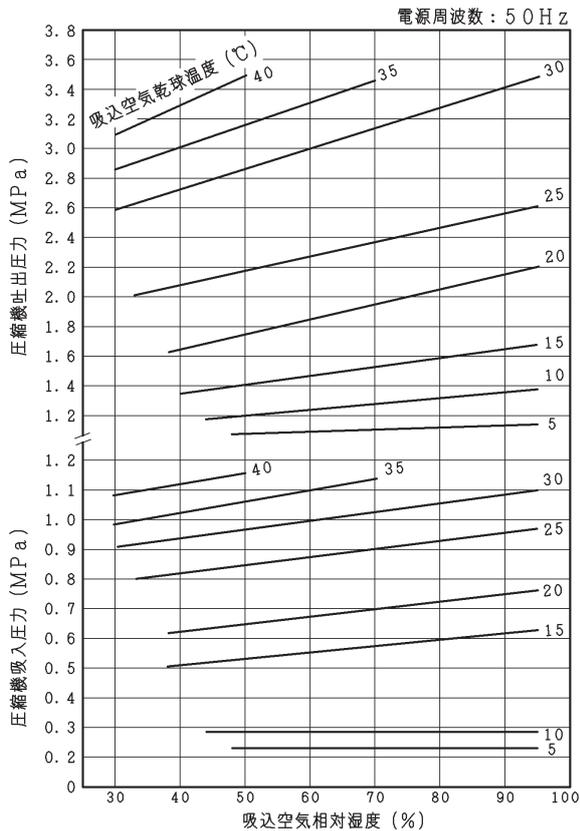


注 記

1. 本図は、定格風量時を示します。

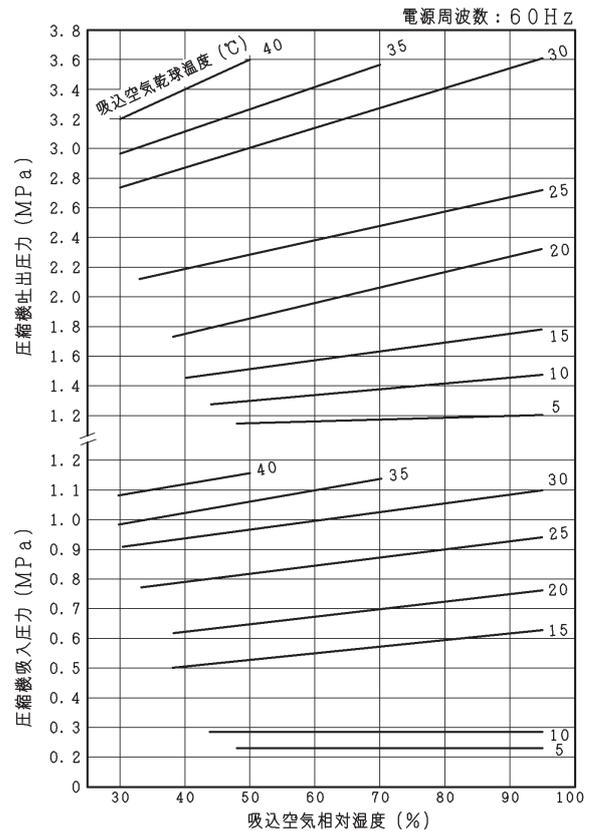


● UDP5WC2 + UDRCP5WC1 (再熱運転時)

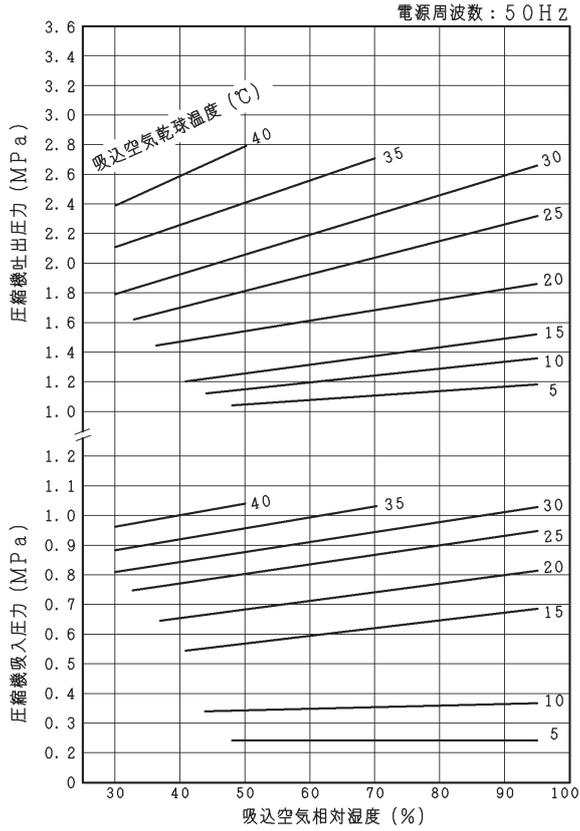


注 記

1. 本図は、定格風量時を示します。

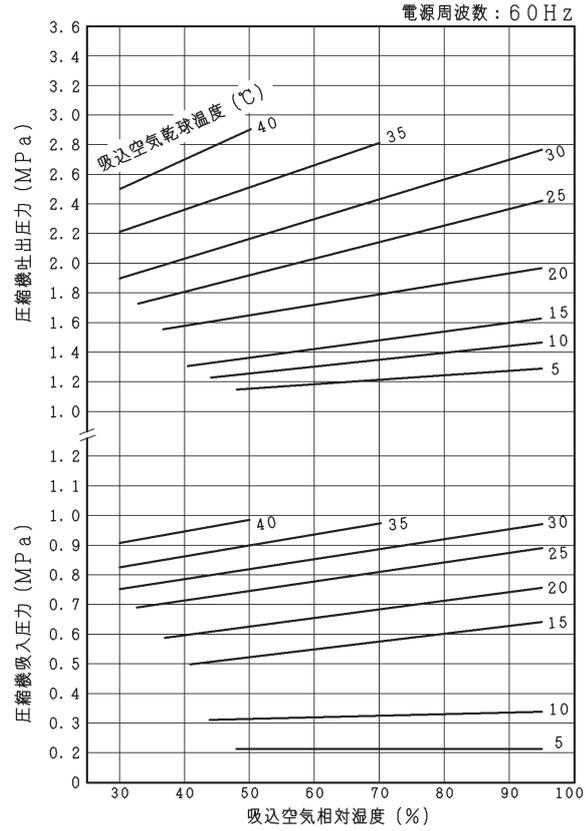


● UDP8WC2 + UDRCP8WC1 (再熱運転時)

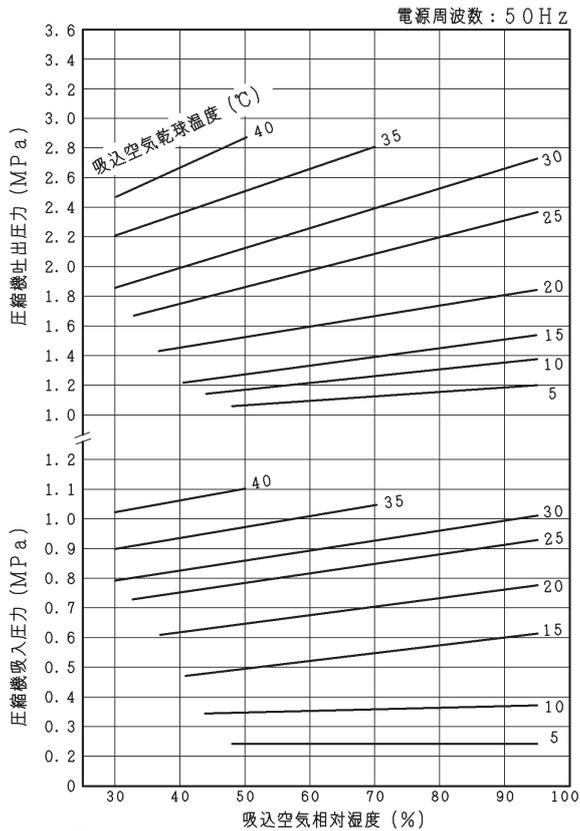


注 記

1. 本図は、定格風量時を示します。

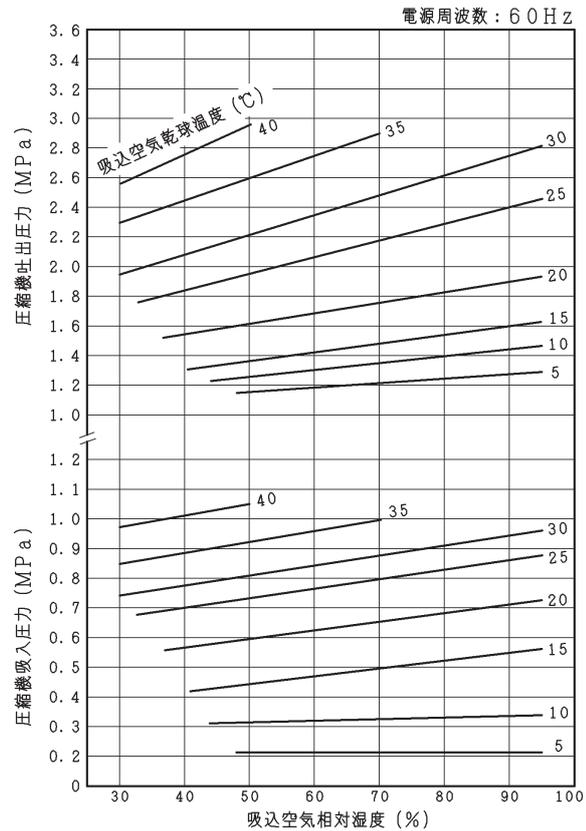


● UDP10WC2 + UDRCP10WC1 (再熱運転時)

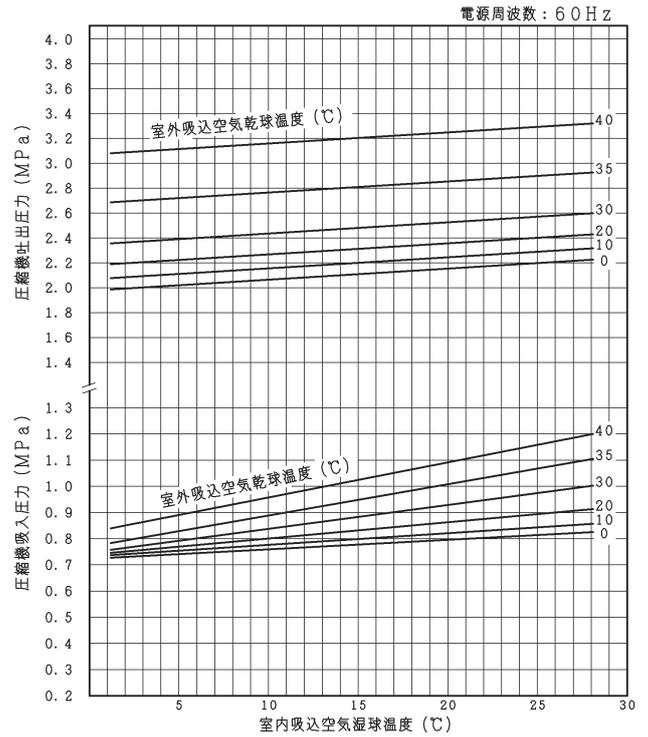
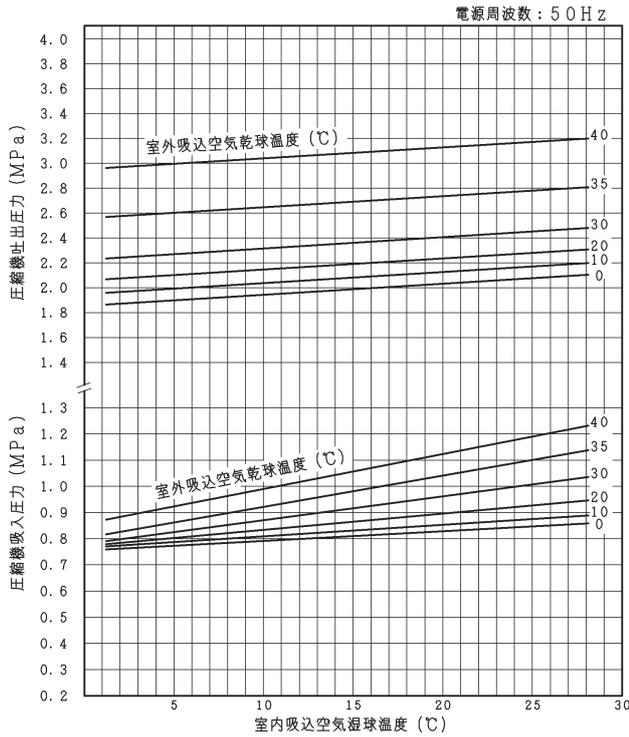


注 記

1. 本図は、定格風量時を示します。



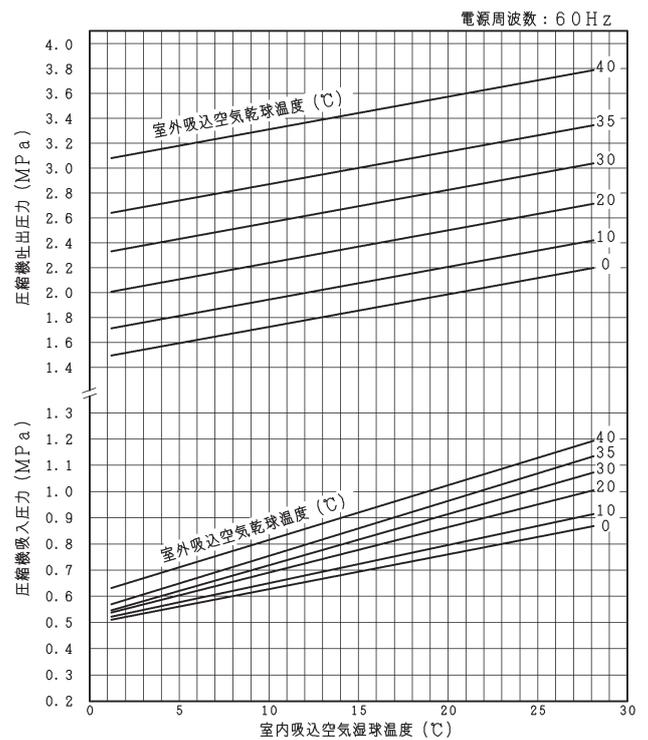
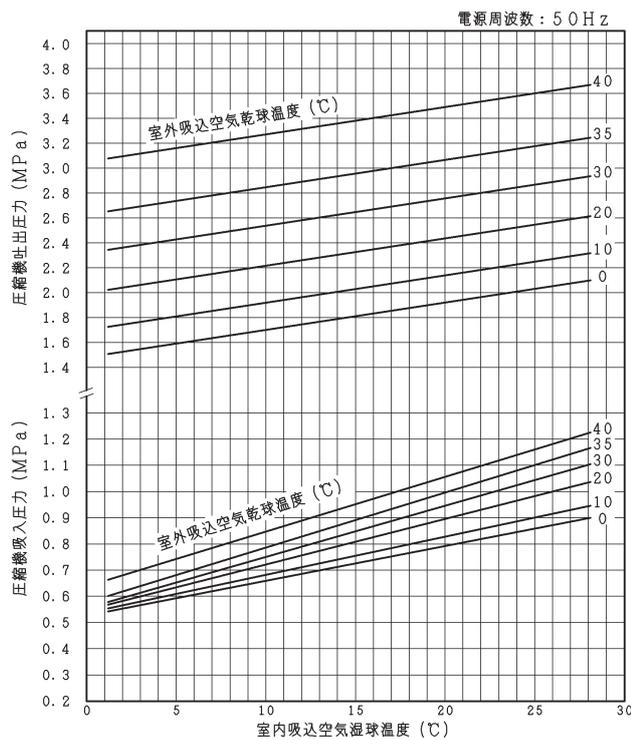
● UDP2WC2 + UDRCP2WC1 (冷却運転時)



注 記

1. 本図は、定格風量時を示します。
2. 室外吸込乾球温度が約20℃以下になると、室外機風量制御により圧力が増減する場合があります。

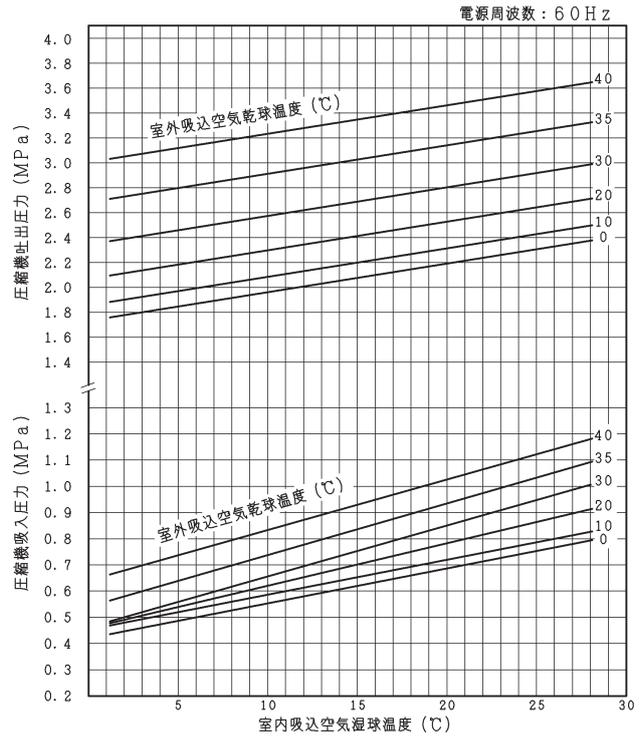
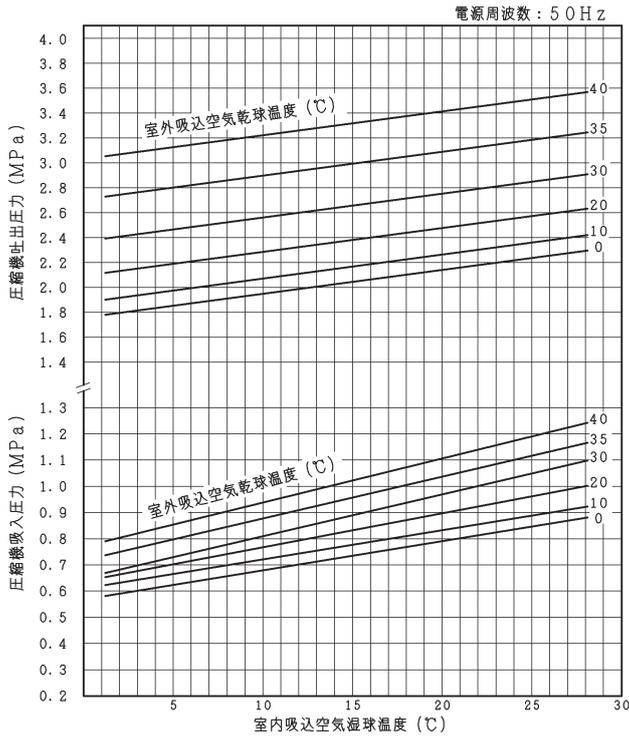
● UDP3WC2 + UDRCP3WC1 (冷却運転時)



注 記

1. 本図は、定格風量時を示します。
2. 室外吸込乾球温度が約20℃以下になると、室外機風量制御により圧力が増減する場合があります。

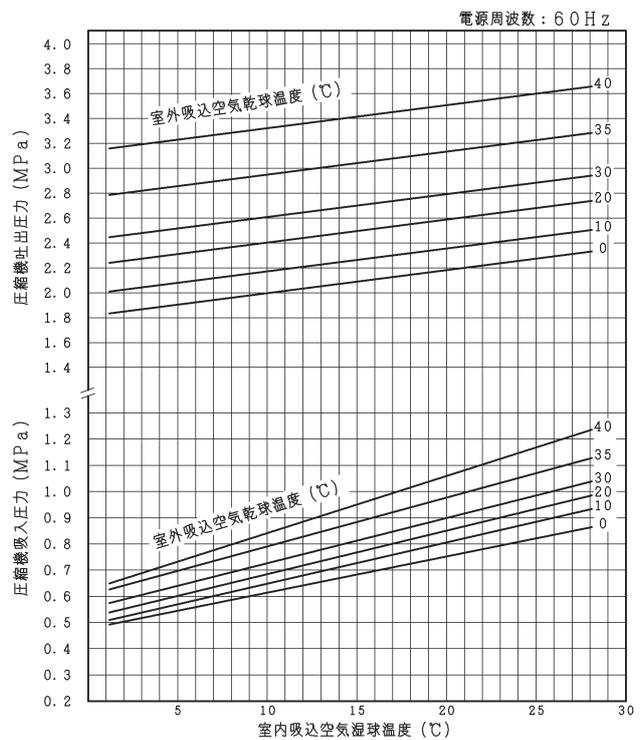
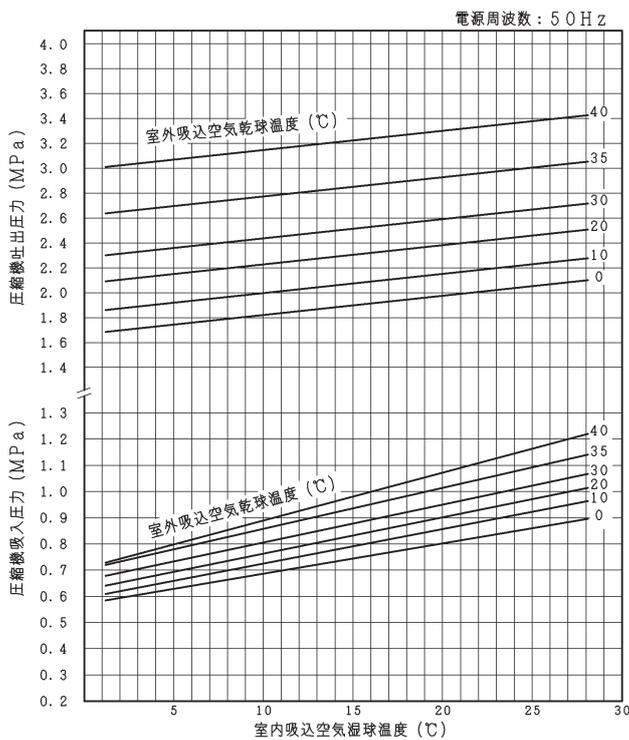
● UDP5WC2 + UDRCP5WC1 (冷却運転時)



注 記

1. 本図は、定格風量時を示します。
2. 室外吸込乾球温度が約20℃以下になると、室外機風量制御により圧力が増減する場合があります。

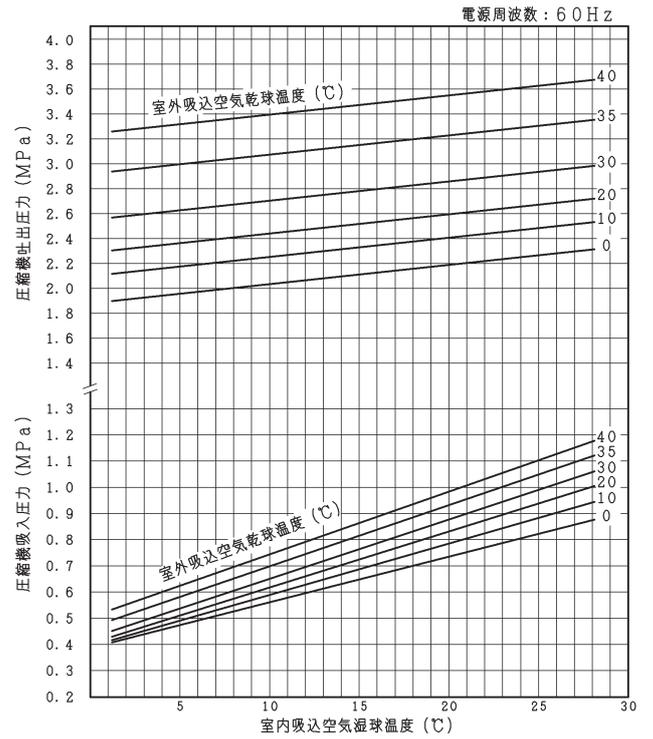
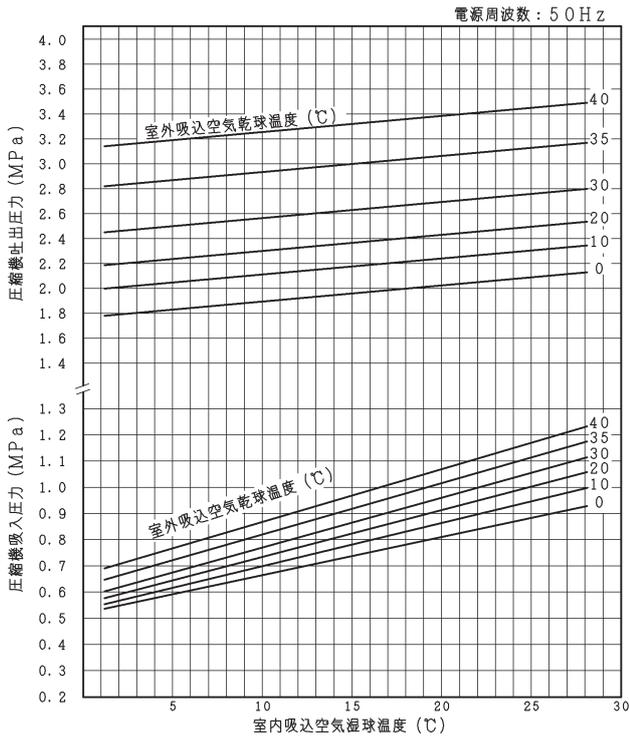
● UDP8WC2 + UDRCP8WC1 (冷却運転時)



注 記

1. 本図は、定格風量時を示します。
2. 室外吸込乾球温度が約20℃以下になると、室外機風量制御により圧力が増減する場合があります。

● UDP10WC2 + UDRCP10WC1 (冷却運転時)



注 記

1. 本図は、定格風量時を示します。
2. 室外吸込乾球温度が約20℃以下になると、室外機風量制御により圧力が増減する場合があります。

試運転を完了して除湿機を引き渡す際、取扱説明書により運転操作の要領、定期的な保守の仕方についてお客さまに十分説明し、指導してください。

(1) シーズン中は電源を切らない

圧縮機にクランクケースヒーターを使用しています。運転停止中に圧縮機が冷えすぎると始動時にホーミング現象を起こして、圧縮機内部の軸受けや弁が損傷する恐れがあります。それを防ぐため、クランクケースヒーターが用いられます。クランクケースヒーターは除湿機内で結線してありますので、冷暖房シーズン中は除湿機の電源を切らないでください。

(2) エアークフィルターの清掃について

効果的な冷房・暖房運転するために定期的にエアークフィルターの清掃をしてください。詳しくは「取扱説明書」をご参照ください。

(3) 冷媒が漏れた場合の処理



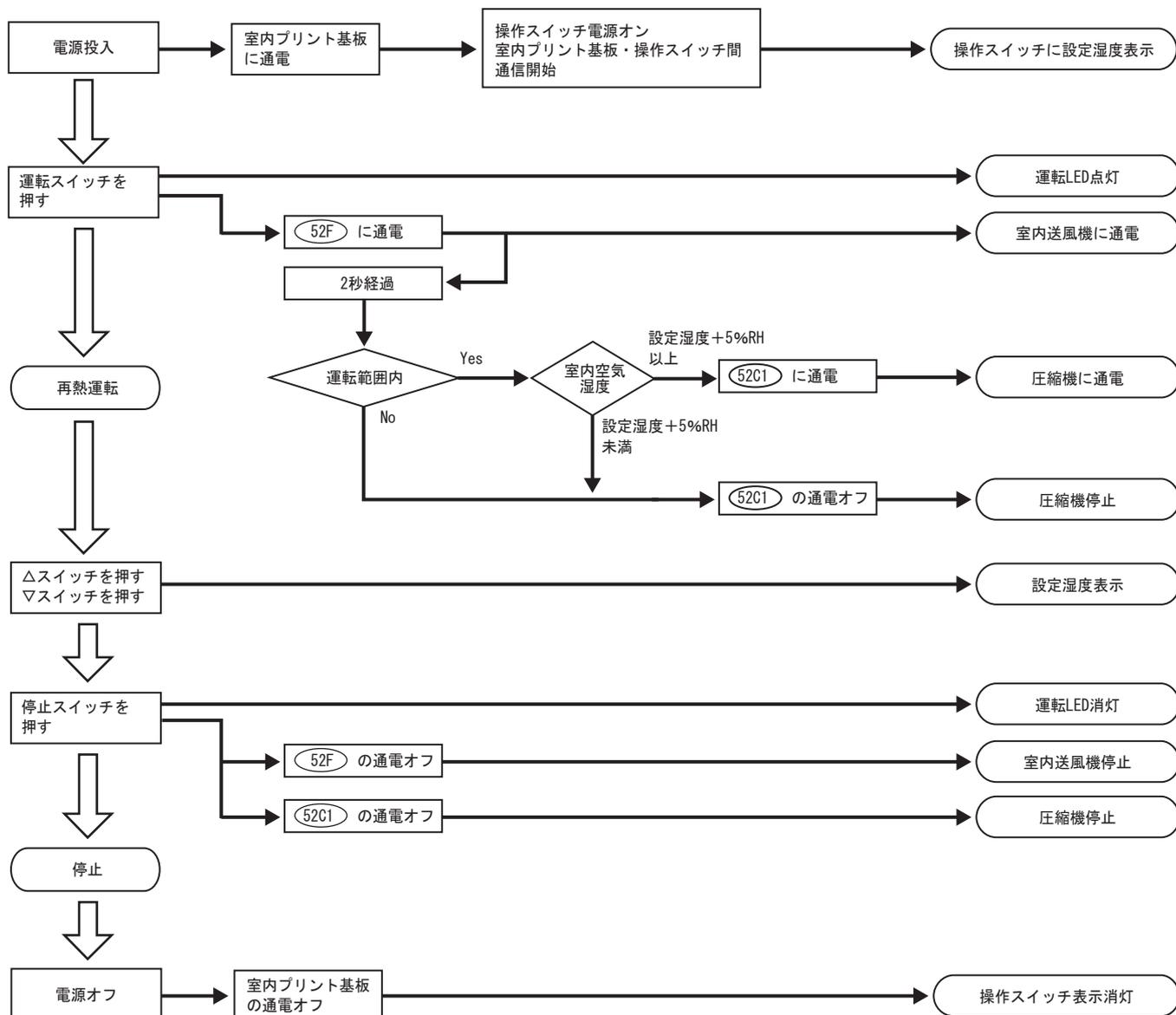
この製品は、不燃焼・非毒性・無臭性のフルオロカーボン（安全冷媒）を使用していますが、万一、製品よりフルオロカーボンが漏れ火気に触れると有害なガスが発生し、目やのどに刺激を感じる場合があります。また、フルオロカーボンは空気より比重が重いため床面付近をおおい、酸欠状態となる場合がありますので、万一、フルオロカーボンが漏れた場合には火気を止め（ストーブなどを消す）、床面を掃くように換気した上でお買い上げの店にご連絡ください。



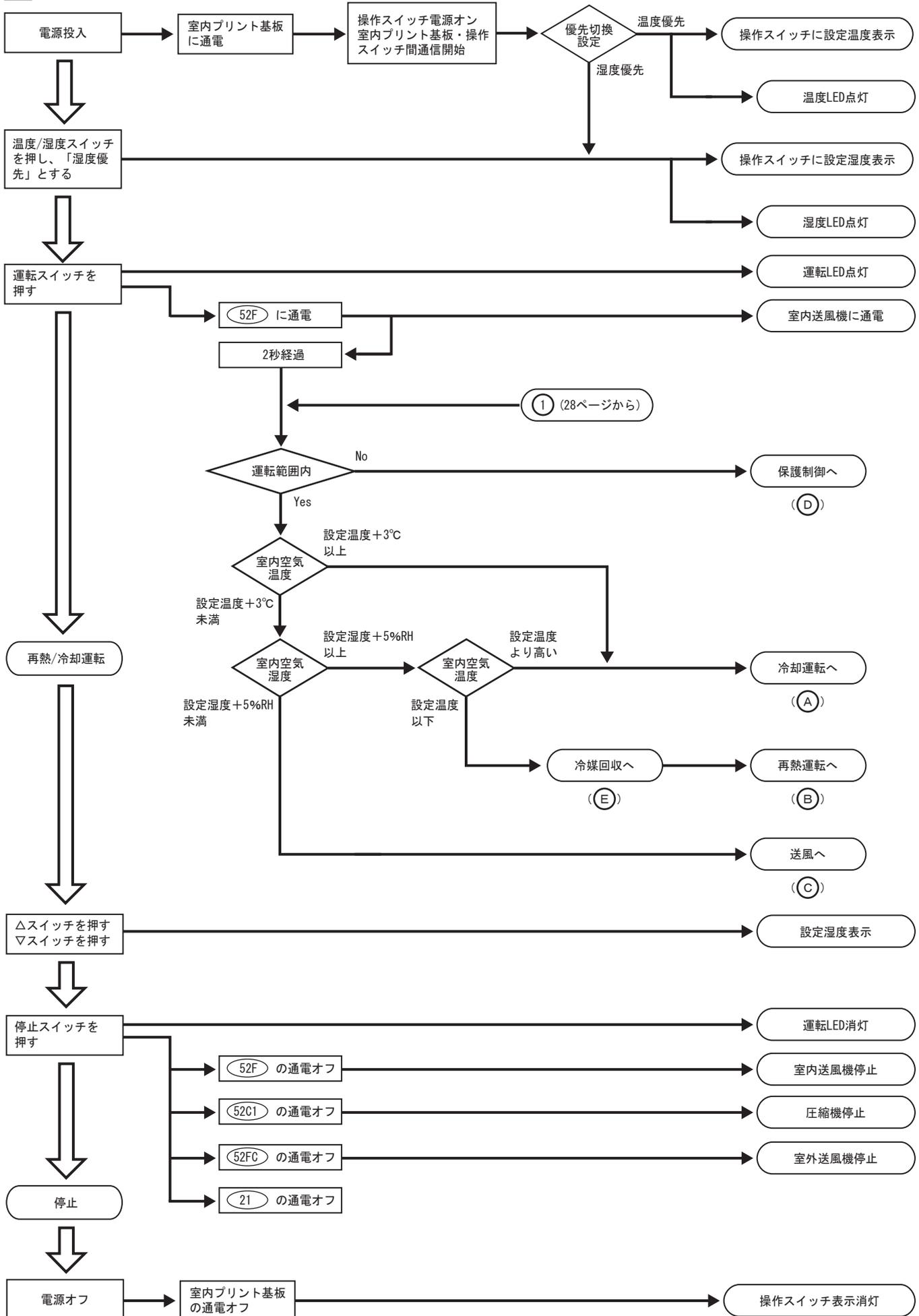
(4) 保証書などの取り扱い

保証書・取扱説明書・添付点検要領書は、試運転後、お客様に渡していただくものですので、大切にお取り扱いください。

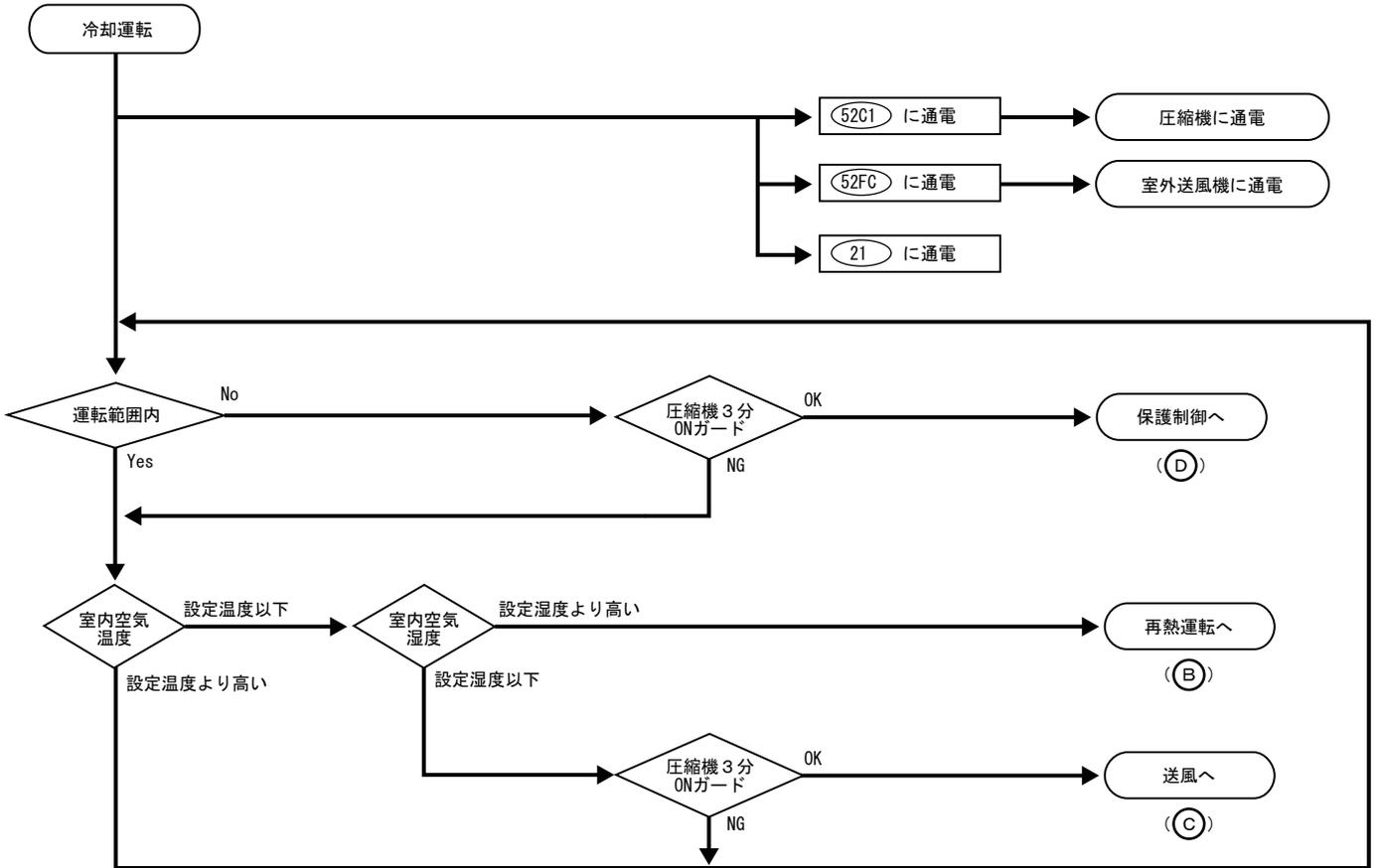
1 再熱運転制御



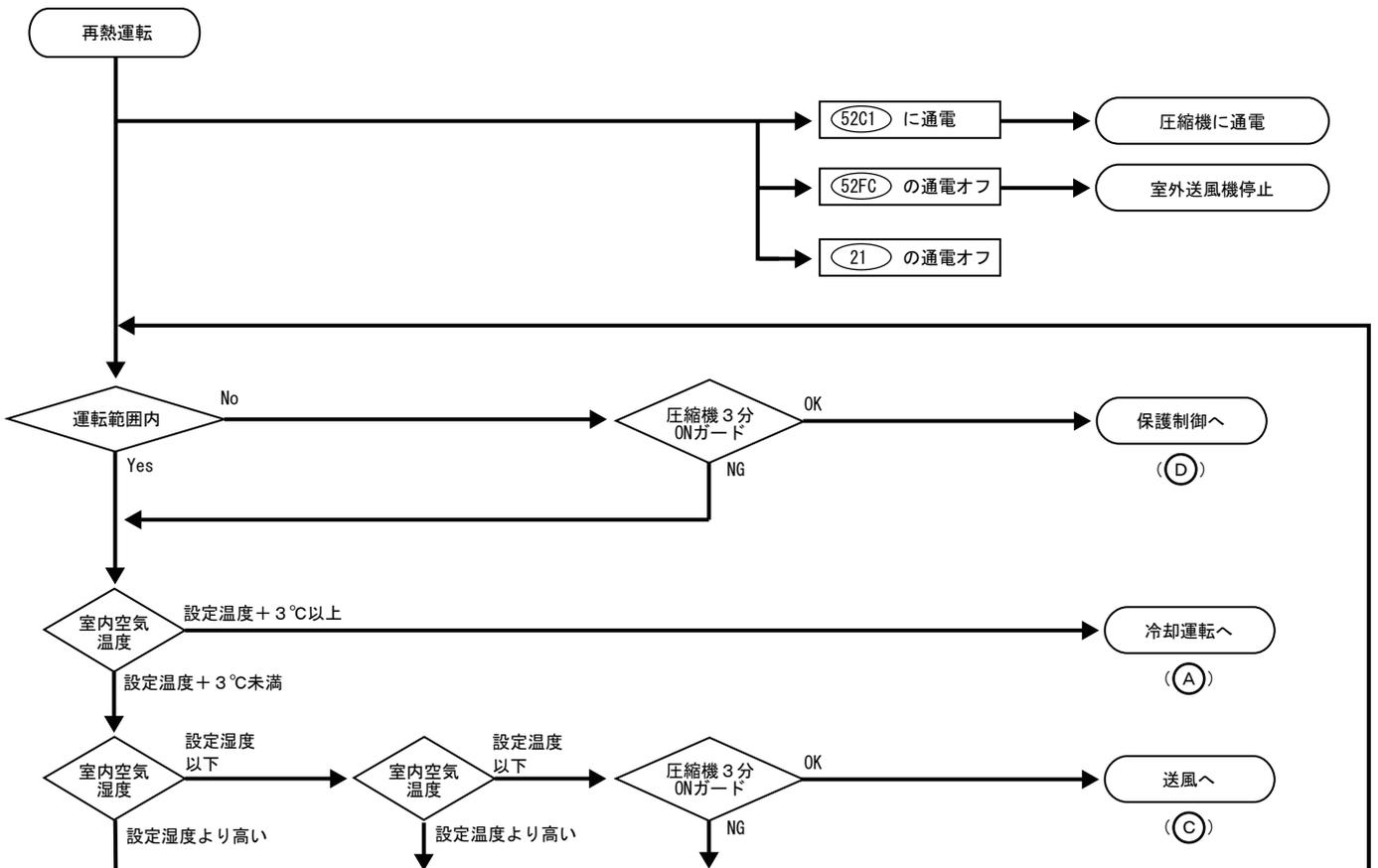
2 冷却機能付機 湿度優先制御

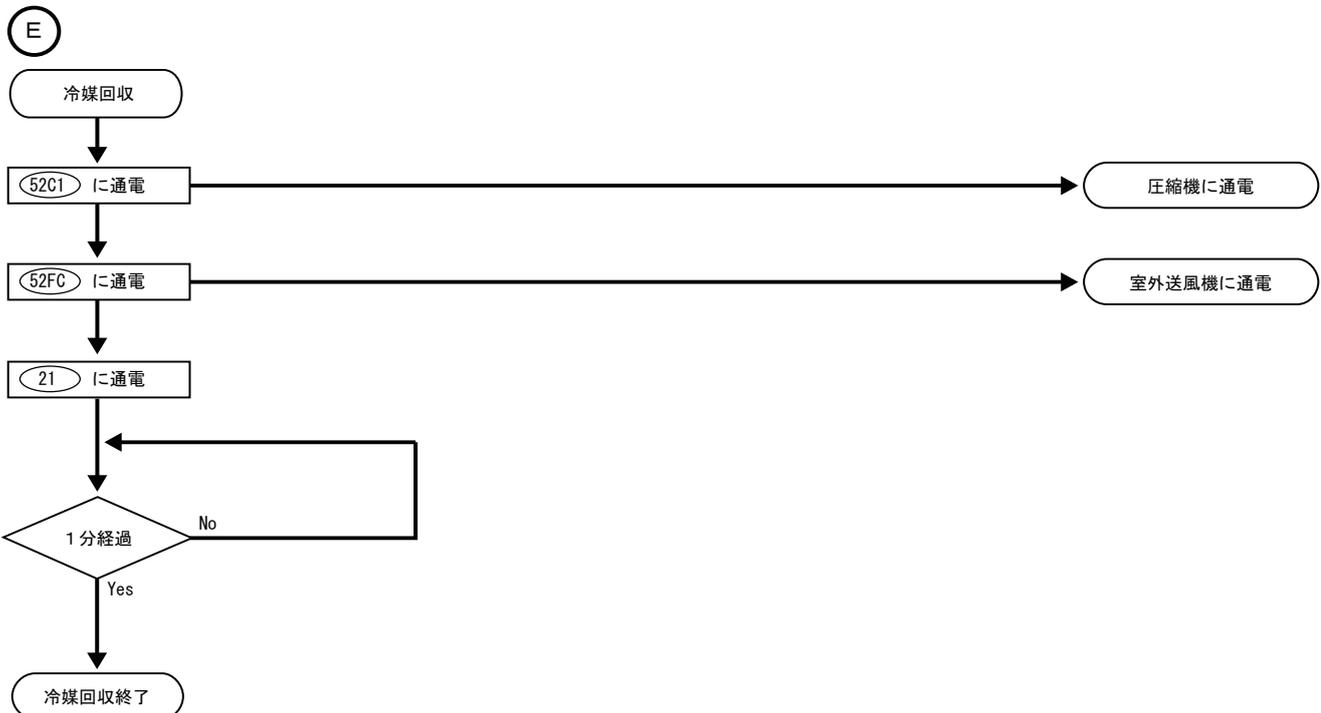
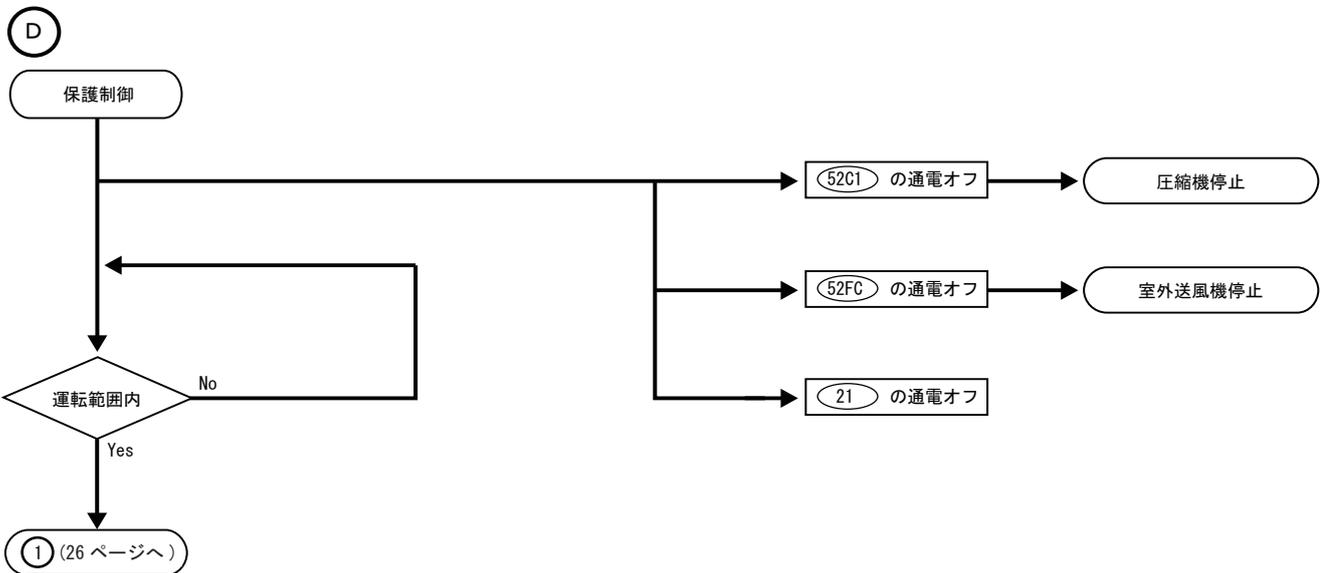
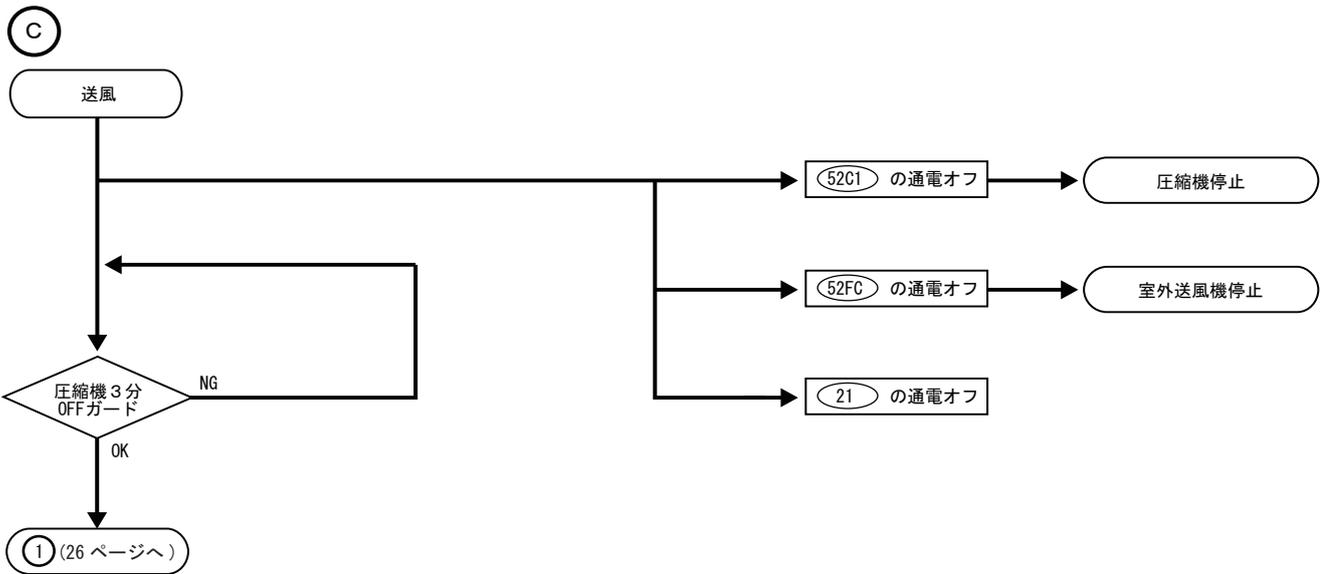


(A)

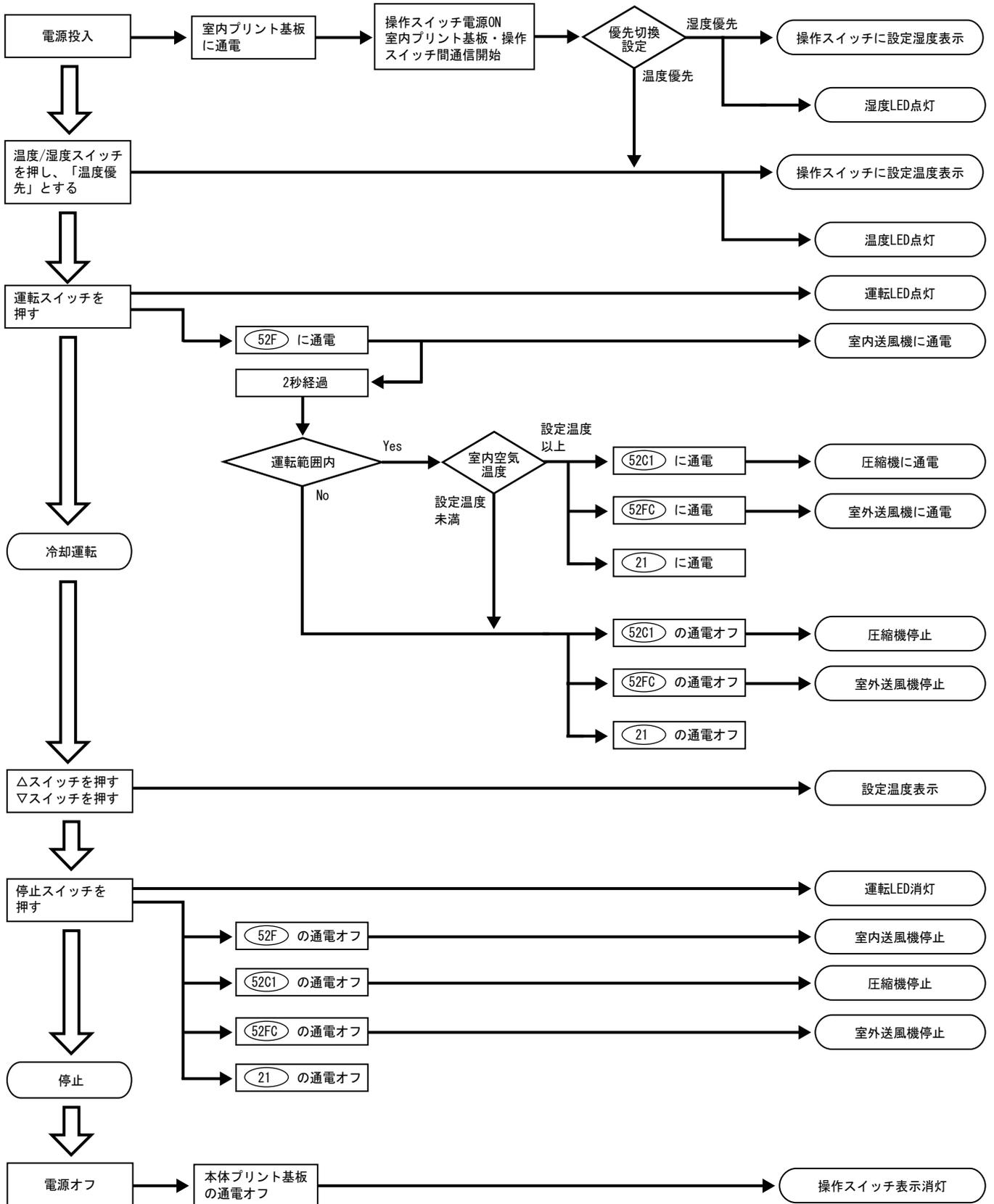


(B)

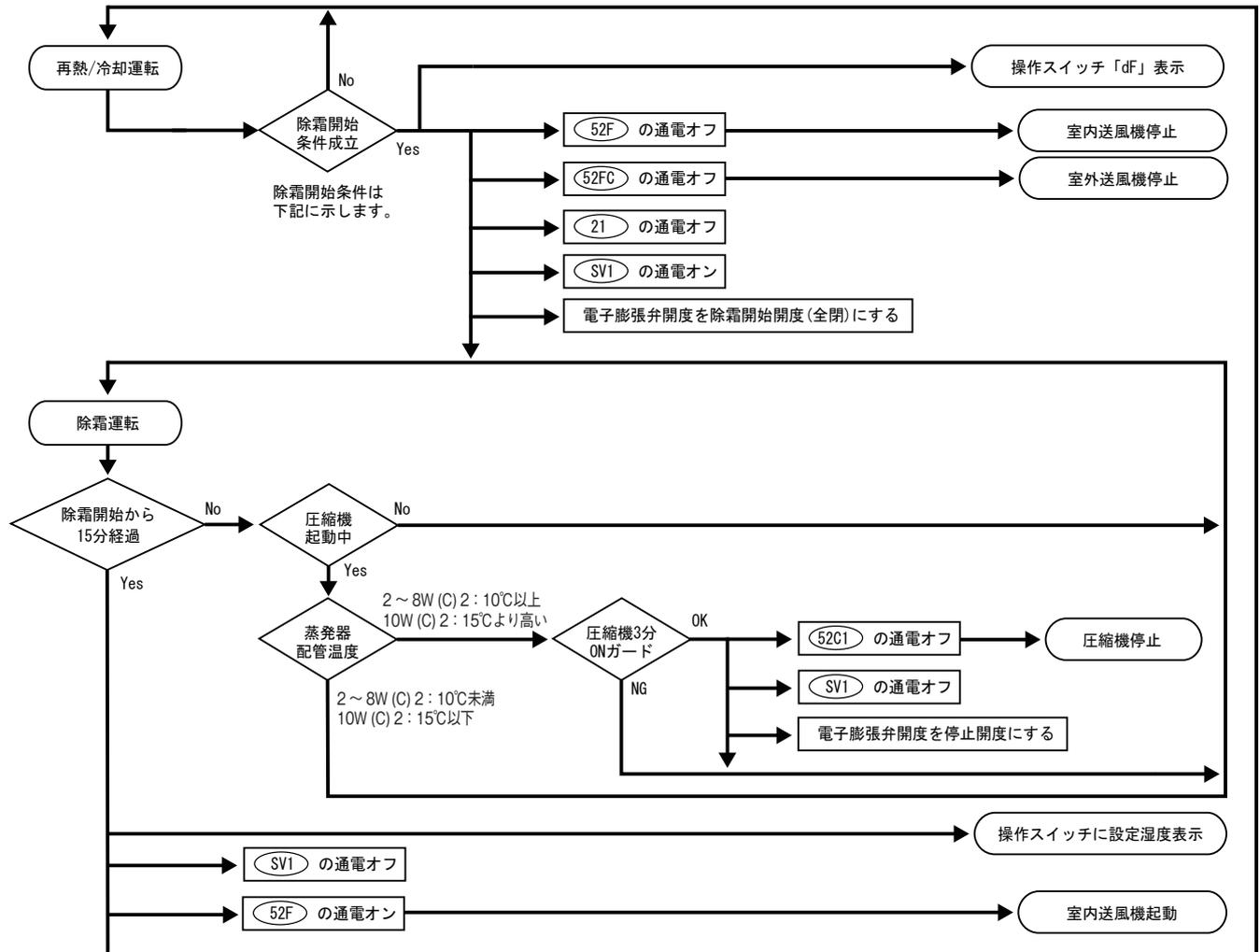




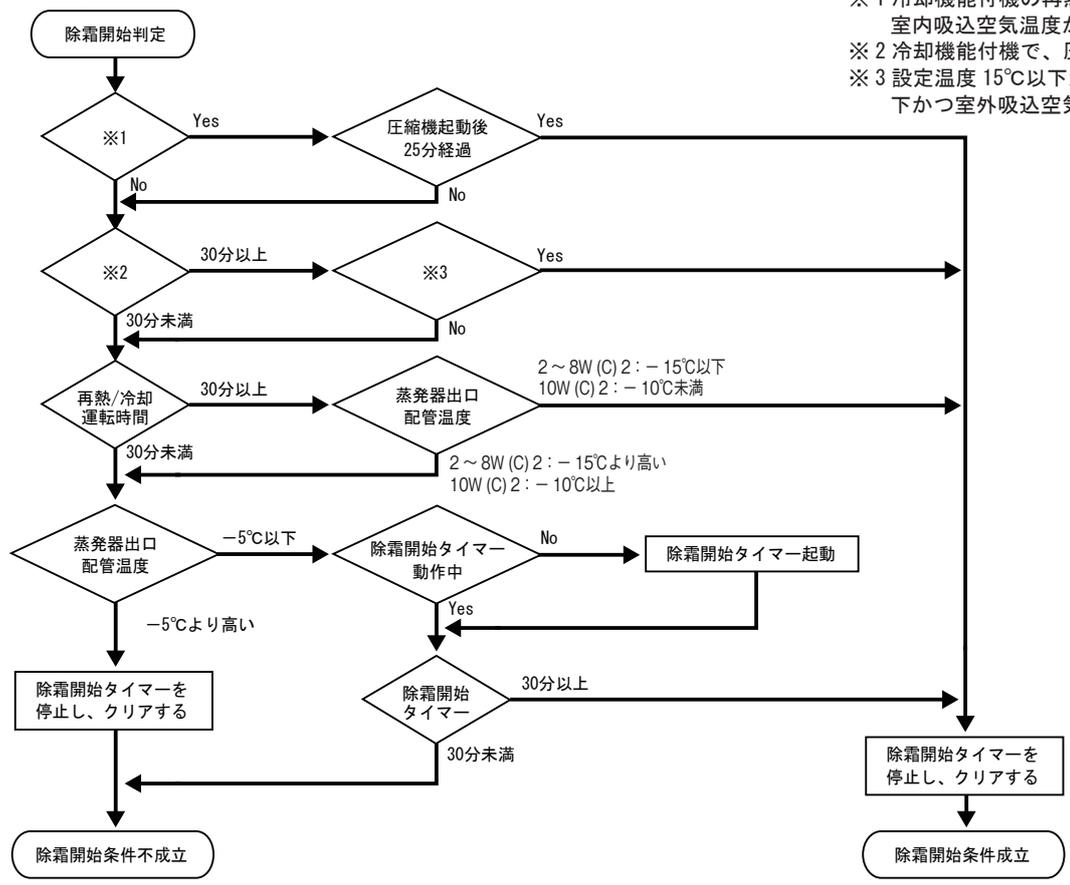
3 冷却機能付機 温度優先制御



4 除霜制御



● 除霜開始条件

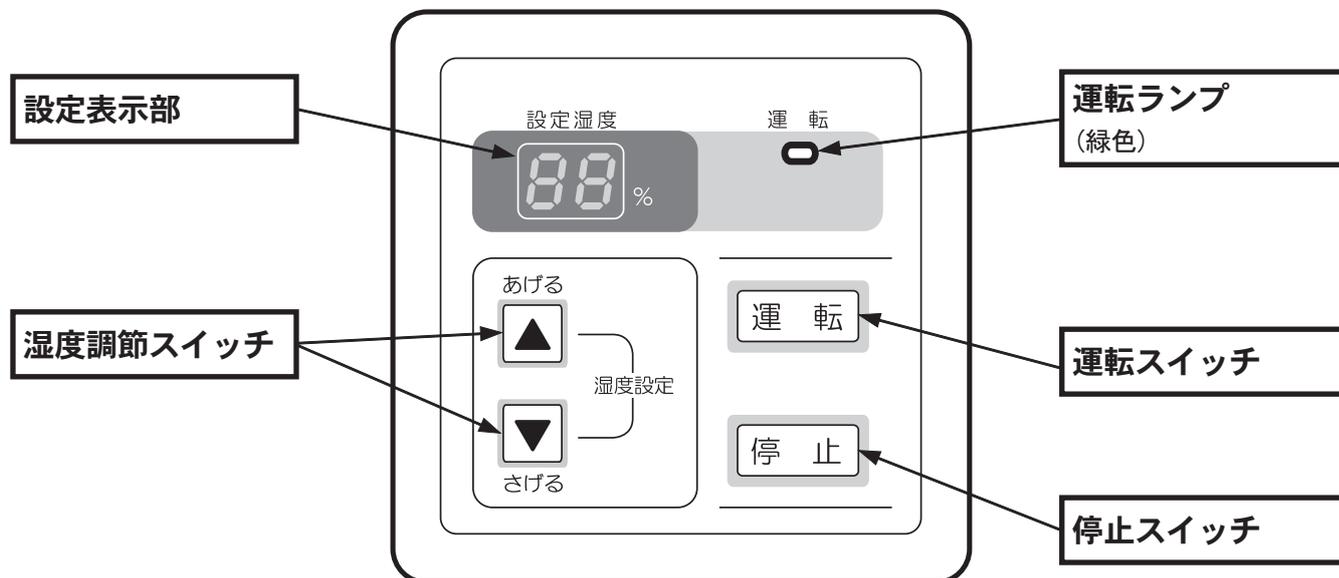


- ※1 冷却機能付機の再熱運転時で圧縮機起動5分後の室内吸込空気温度が3°C以下
- ※2 冷却機能付機で、圧縮機の運転積算時間が30分以上かつ室内吸込空気温度20°C以下かつ室外吸込空気温度20°C以下
- ※3 設定温度15°C以下かつ室内吸込空気温度20°C以下かつ室外吸込空気温度20°C以下

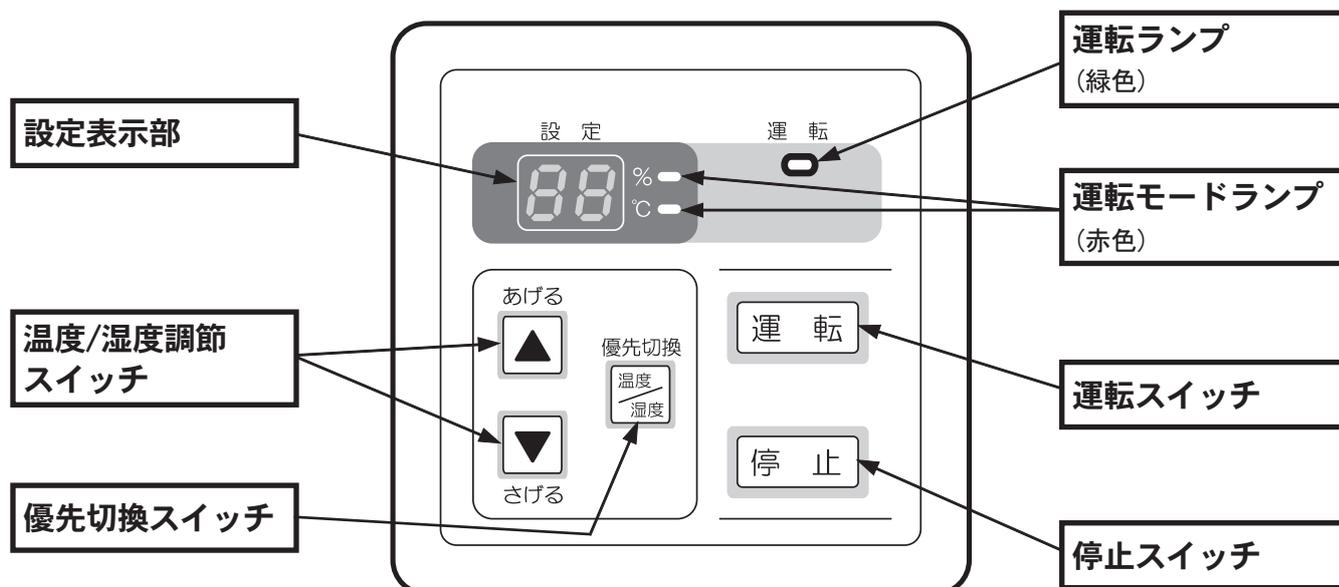
主な操作方法を示します。詳細については「取扱説明書」をご参照ください。

1 操作スイッチ

再熱専用機種用



冷却機能付機種用



2 再熱専用機

運転と働き

再熱運転…

ご希望の湿度を基準にして自動的に「再熱」と「送風」を切り換える運転です。

- 室内ユニット吸込空気湿度が、設定湿度より高いときに再熱運転をします。室内吸込空気湿度が設定湿度より低くなると送風運転に切り換わり、再び室内吸込空気湿度が設定湿度より約5% RH高くなると再熱運転に戻ります。

留意事項

再熱運転をすると、吹出空気温度が吸込空気温度より高くなります。温度変化のない除湿を必要とする部屋には使用できません。

準備

電源を入れます。
圧縮機の保護のため、運転を開始する12時間以上前に電源を入れてください。



“初回運転時のみ「60」が表示されます。”
(2回目以降は前回停止時の設定値が表示されます。)

- 電源を入れてから約15秒間自動で初期確認を行います。確認中は、設定表示部の「・」が点滅します。

運転

運転 **スイッチ**を押します。
運転ランプが点灯します。
運転を開始します。



(運転に入った場合を示します。)

湿度

スイッチで湿度を設定します。
 あげる
 さげる
 あげる部を押すごとに1% RHずつ上がります。
(最高80% RH)
 さげる部を押すごとに1% RHずつ下がります。
(最低30% RH)



(56% RHに設定した場合を示します。)

- 湿度設定を「0h」に設定すると連続運転ができます。(P.36ページ)
- 一旦設定すると設定状態を記憶していますので**再設定は不要**です。
- 湿度は製品運転前でも設定できます。

停止

停止 **スイッチ**を押します。
運転ランプが消灯します。
運転を停止します。



3 冷却機能付機（湿度優先運転）

湿度優先運転は冷却機能付機のみの機能です。再熱専用機は湿度優先運転できません。

運転と働き

湿度優先運転…

ご希望の湿度と温度を基準にして自動的に「再熱」「送風」「冷却」を切り換える運転です。

- 室内ユニット吸込空気温度が、設定温度より高いときに冷却運転をします。室内吸込空気温度が設定温度より低くなり室内吸込空気湿度が設定湿度より高いときに再熱運転をします。また、室内吸込空気湿度が設定湿度より低くなると送風運転に切り換わり、再び室内吸込空気湿度が設定湿度より約5%RH高くなると再熱運転に戻ります。

なお、再熱または送風運転中に、室内吸込空気温度が設定温度より高くなると、冷却運転に切り換わり、再び室内吸込空気温度が設定温度より低くなると再熱または送風運転に戻ります。

準備

電源を入れます。
圧縮機の保護のため、運転を開始する12時間以上前に電源を入れてください。



“初回運転時のみ「60」が表示されます。”
(2回目以降は前回停止時の設定値が表示されます。)

- 電源を入れてから約15秒間自動で初期確認を行います。確認中は、設定表示部の「・」が点滅します。

温度湿度

優先切換
温度/湿度
スイッチを押して、運転モードランプを「℃(温度)」に切り換えます。

あげる
▼ **スイッチ** で温度を設定します。
さげる

あげる ▲ 部を押すごとに1℃ずつ上がります。(最高40℃)
さげる ▼ 部を押すごとに1℃ずつ下がります。(最低5℃)

優先切換
温度/湿度
スイッチを押して、運転モードランプを「%(湿度)」に切り換えます。

あげる
▼ **スイッチ** で湿度を設定します。
さげる

あげる ▲ 部を押すごとに1%ずつ上がります。(最高80% RH)
さげる ▼ 部を押すごとに1%ずつ下がります。(最低30% RH)



優先切換
スイッチ



(24℃、56% RHに設定した場合を示します。)

- 湿度設定を「RH」に設定すると連続運転ができます。(P.36ページ)
- 一旦設定すると設定状態を記憶していますので**再設定は不要**です。

運転

運転 **スイッチ**を押します。
運転ランプが点灯します。
運転を開始します。



(運転に入った場合を示します。)

停止

停止 **スイッチ**を押します。
運転ランプが消灯します。
運転を停止します。



4 冷却機能付機（温度優先運転）

温度優先運転は冷却機能付機**のみ**の機能です。再熱専用機は温度優先運転できません。

運転と働き

温度優先運転…

ご希望の温度を基準にして自動的に「冷却」と「送風」を切り換える運転です。

- 室内ユニット吸込空気温度が、設定温度より高いときに冷却運転をします。室内吸込空気温度が設定温度より低くなると送風運転に切り換わり、再び室内吸込空気温度が設定温度より約3℃高くなると冷却運転に戻ります。（湿度とは無関係に運転します。）

準備

電源を入れます。
圧縮機の保護のため、運転を開始する12時間以上前に電源を入れてください。



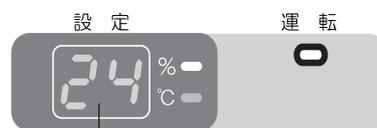
“初回運転時のみ「50」が表示されます。”
(2回目以降は前回停止時の設定値が表示されます。)

- 電源を入れてから約15秒間自動で初期確認を行います。確認中は、設定表示部の「・」が点滅します。

温度

優先切換
温度
温度
スイッチを押して、運転モードランプを「℃（温度）」に切り換えます。

あげる
さげる
スイッチ
で温度を設定
します。
(あげる部を押すごとに1℃
ずつ上がります。
(最高40℃)
さげる部を押すごとに1℃
ずつ下がります。
(最低5℃)

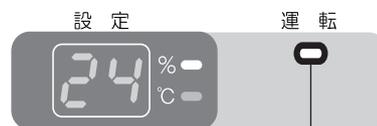


(24℃に設定した場合を示します。)

- 一旦設定すると設定状態を記憶していますので**再設定は不要**です。

運転

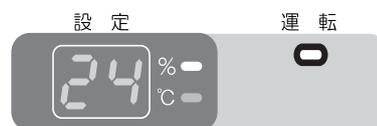
運 転 **スイッチ**を押します。
運転ランプが点灯します。
運転を開始します。



(運転に入った場合を示します。)

停止

停 止 **スイッチ**を押します。
運転ランプが消灯します。
運転を停止します。



5 室内ユニット吸込空気温湿度の確認のしかた

〈再熱専用機〉

<h2>確認方法</h2>	<p>  部の「湿度設定」を長押し(約1秒)すると、「吸込空気湿度」を表示します。 設定湿度に戻すときには、  部の「湿度設定」を長押し(約1秒)してください。 </p>	<p> 吸込空気湿度が24%の場合を示します。  </p> <p>「●」が点灯します。</p>
---------------	---	---

〈冷却機能付機〉

<h2>確認方法</h2>	<p>  スイッチを長押し(約1秒)すると、「吸込空気湿度」を表示します。 優先切替  スイッチを押すごとに、「吸込空気湿度」⇄「吸込空気温度」を切り換えることができます。 設定温度(湿度)に戻すときには、 優先切替  スイッチを長押し(約1秒)してください。 </p>	<p> (湿度優先運転の場合を示します。) 吸込空気湿度が24%の場合を示します。  </p> <p> 点滅 「●」が点灯します。 点滅 吸込空気温度が30°Cの場合を示します。  </p>
---------------	---	--

6 その他の表示について

(1) 通常時の表示

<h2>除霜</h2>	<p> 除霜運転のとき ● 設定表示部に「dF」が表示されます。 室内送風機は停止します。 (注)通常は、除霜運転中(「dF」表示中)の停止操作はしないでください。次回の運転時に異常停止することがあります。(除霜時間は最長で30分間です。) </p>	<p> 設定温度 運転  </p> <p>「dF」表示</p>
<h2>送風</h2>	<p> 送風運転のとき ● 設定表示部が回転しているように点滅します。 </p>	<p>  回転 </p>
	<p> 再熱運転中、冷却運転中でも  スイッチを長押し(約1秒)すると送風運転に切り換わります。 (送風運転を解除する場合は、再び  スイッチを長押しします。) </p>	<p>  長押し </p>

<h3>連続運転</h3>	<p>再熱運転または湿度優先運転時に  スイッチを押し続けると、設定表示部に「On」が表示されて、連続運転をします。</p> <p>(注)1. 連続運転とは、室内吸込空気湿度に関係なく運転を継続させる運転モードです。</p> <p>(注)2. 湿度優先運転時に設定温度が29℃以下の場合には「On」に設定できません。</p> <p>(注)3. 24時間に一度、電子膨張弁を調整するため、約3分間送風運転に切り換わります。</p> <p>(注)4. 湿度優先運転時は、連続運転中でも設定温度より室内吸込空気温度が高くなると、冷却運転に切り換わります。</p>	 <p>設定温度 運転</p> <p>「On」表示</p>
<h3>フィルター</h3>	<h4>フィルターサイン(応用機能設定時)</h4> <ul style="list-style-type: none"> ●表示部に「FH」が表示されます。 <p>エアーフィルターの清掃時期をお知らせします。</p> <p>フィルターサインは積算運転1,200時間または2,500時間で点灯します。</p> <p>掃除後、 スイッチを押すと表示は消えます。</p>	 <p>設定温度 運転</p>

●温湿度設定範囲について(冷却機能付き機のみ)

湿度設定可能な範囲は最大で30～80%RHですが、高温高湿または低温低湿雰囲気での冷却運転による除湿機の故障を防止するため、設定温度に応じて湿度設定範囲が下表のように制限されます。

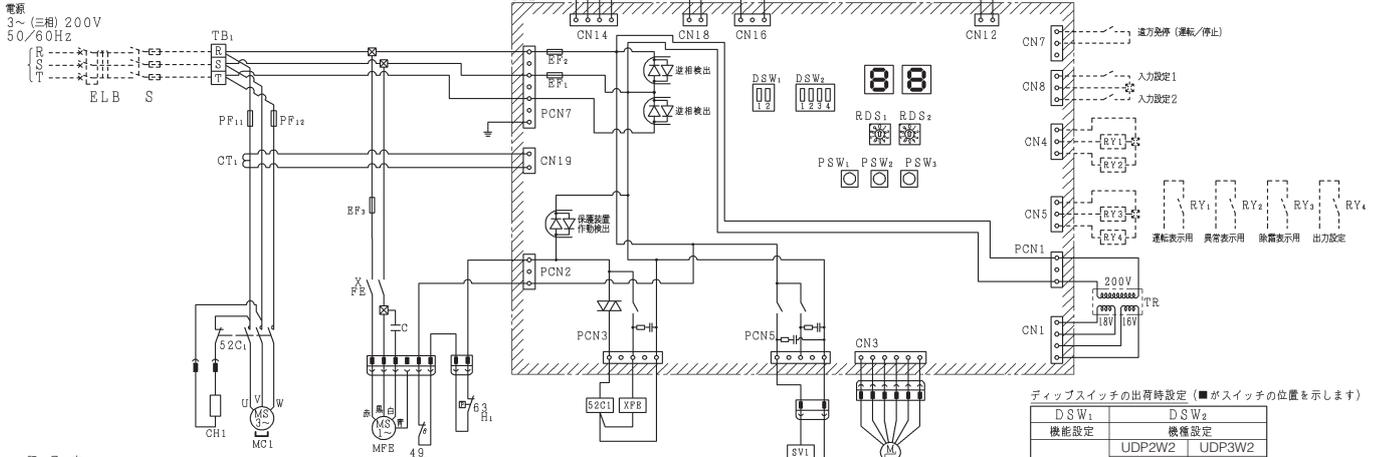
設定温度(℃)	湿度設定可能な範囲(%RH)	設定温度(℃)	湿度設定可能な範囲(%RH)
40	On・30～34	20・21	38～80
38・39	On・30～44	18・19	40～80
36・37	On・30～52	16・17	40～80
34・35	On・30～62	14・15	41～80
32・33	On・30～72	12・13	43～80
30・31	On・30～80	10・11	44～80
28・29	32～80	8・9	45～80
26・27	34～80	6・7	47～80
24・25	36～80	5	48～80
22・23	36～80		

(2) 異常時の表示

<h3>異常</h3>	<p>異常時には、アラームコードが設定表示部に表示され、運転が停止します。</p> <p>アラームコードの番号を確認して、お買い上げの店にご連絡ください。</p> <p> または  スイッチでアラームをリセットすることができます。</p>	 <p>設定温度 運転</p> <p>アラームコード</p>
<h3>停電</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ●すべての表示が消えます。 ●停電などで運転が止まると、再び通電されても再運転しません。運転操作をやり直してください。 	
<h3>ノイズ</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ●すべての表示が消え、運転も停止することがあります。これはノイズの影響で装置保護のためマイコンが作動したものです。元電源を切り、運転操作をやり直してください。 	

1 電気配線図

● UDP2W2 / UDP3W2



記号表

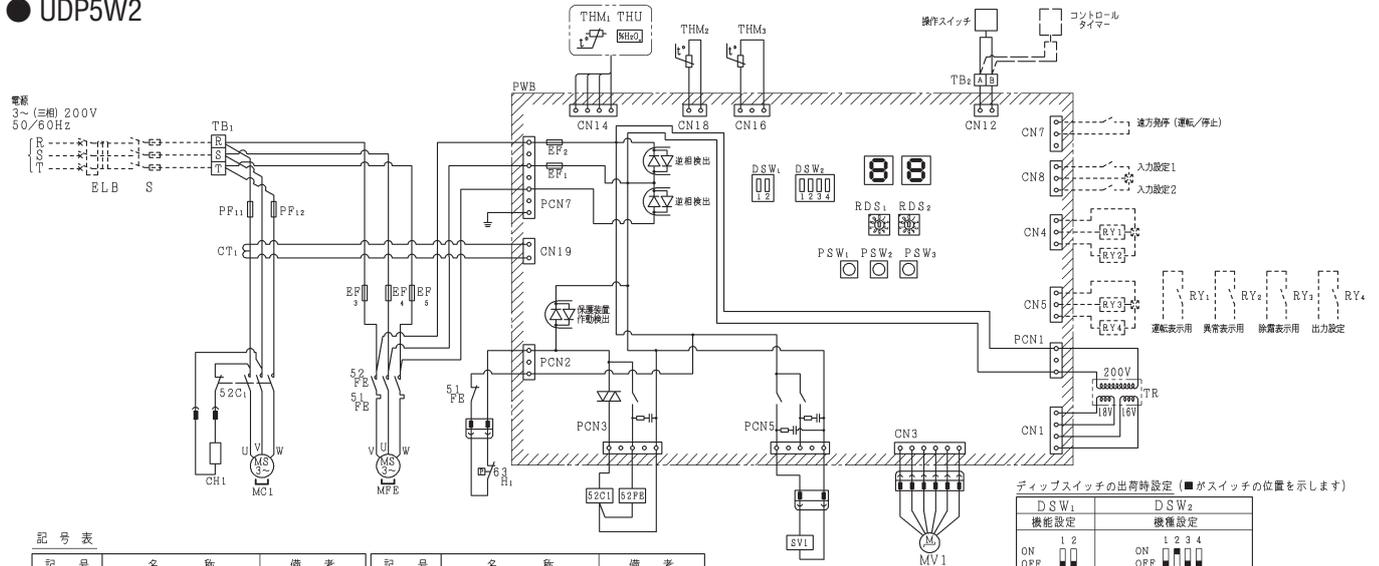
記号	名称	備考	記号	名称	備考
MC1	電動機	圧縮機用	XFE	補助継電器	室内送風機用
MPE	電動機	室内送風機用	C	コンデンサ	室内送風機用
52C1	電磁接触器	圧縮機用	49FE	インターナルサーモスタット	室内送風機用
BF3	ヒューズ	室内送風機用	THU	湿度センサー	室内吸込空気用
PPF11, 12	動力用ヒューズ	圧縮機用	THM1	サーミスター	室内吸込空気用
CH1	Cヒーター		THM2	サーミスター	室内配管用
63H1	高圧遮断装置		THM3	サーミスター	圧縮機上用
CT1	変流器	電流検出用	PSW1-3	スイッチ	
PWB	プリント板		DSW1, 2	スイッチ	
EF1, 2	ヒューズ		RDS1, 2	スイッチ	
TR	トランス		PCN	コネクタ	強電部
TB1	端子台	主電線用	CN	コネクタ	弱電部
TB2	端子台	リモコン用	ELB	漏電遮断器	不付
MV1	電子制御膨張弁		S	手元開閉器	不付
SV1	電磁弁	除霜用	RY1-4	補助継電器	不付

ディップスイッチの出荷時設定 (■がスイッチの位置を示します)

DSW1		DSW2			
機能設定		機能設定			
		UDP2W2		UDP3W2	
ON	1 2	ON	1 2 3 4	ON	1 2 3 4
OFF	1 2	OFF	1 2 3 4	OFF	1 2 3 4

- 注記
1. 図中破線部分は、現地工事区分を示します。
 2. 図中[R|S|T]は、TB1の端子を示します。
 3. 図中//部分はプリント板、□□はプリント板のコネクタを示します。
 4. 保護装置が作動した場合に自動的に再起動する回路は、絶対に構成しないでください。
 5. 入力設定1, 2は、操作スイッチの応用機能設定により外部ヒューミを選択し使用してください。また出力設定も同様に圧縮機サーモON/除霜出力を選択し使用してください。
 6. 補助継電器(RY1~4)は電気箱内へ最大3個まで取り付けることができます。4個取り付ける場合は別設置で検討してください。

● UDP5W2



記号表

記号	名称	備考	記号	名称	備考
MC1	電動機	圧縮機用	52FE	電磁接触器	室内送風機用
MPE	電動機	室内送風機用	51FE	過電流継電器	室内送風機用
52C1	電磁接触器	圧縮機用	THU	湿度センサー	室内吸込空気用
BF3-5	ヒューズ	室内送風機用	THM1	サーミスター	室内吸込空気用
PPF11, 12	動力用ヒューズ	圧縮機用	THM2	サーミスター	室内配管用
CH1	Cヒーター		THM3	サーミスター	圧縮機上用
63H1	高圧遮断装置		PSW1-3	スイッチ	
CT1	変流器	電流検出用	DSW1, 2	スイッチ	
PWB	プリント板		RDS1, 2	スイッチ	
EF1, 2	ヒューズ		PCN	コネクタ	強電部
TR	トランス		CN	コネクタ	弱電部
TB1	端子台	主電線用	ELB	漏電遮断器	不付
TB2	端子台	リモコン用	S	手元開閉器	不付
MV1	電子制御膨張弁		RY1-4	補助継電器	不付
SV1	電磁弁	除霜用			

ディップスイッチの出荷時設定 (■がスイッチの位置を示します)

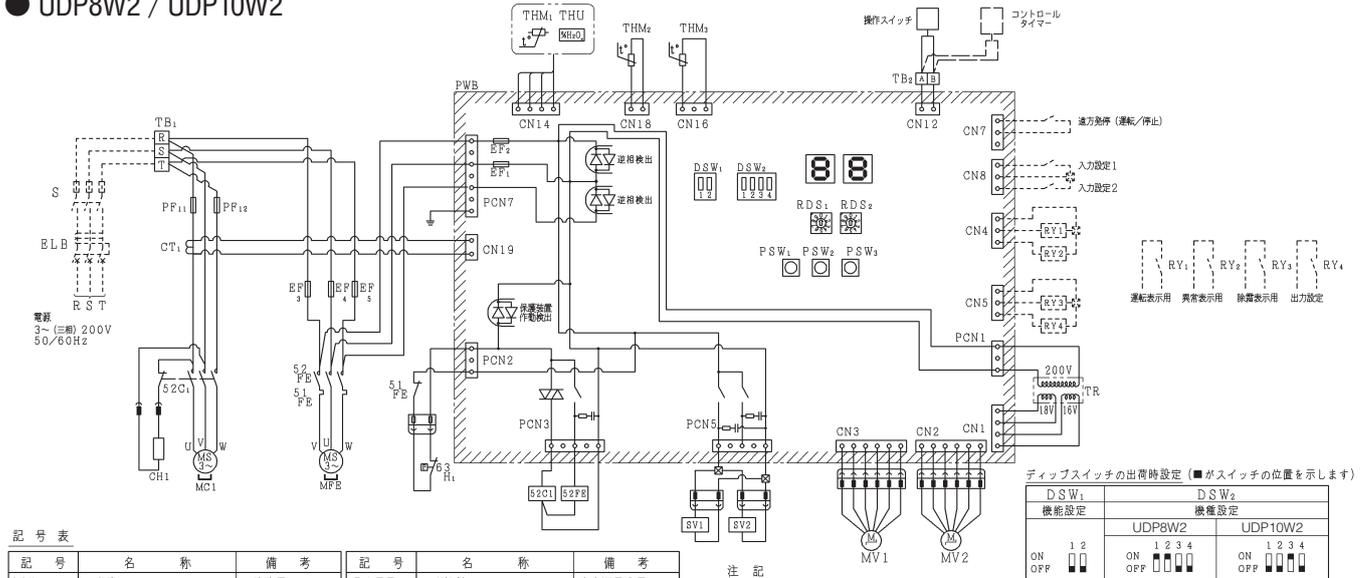
DSW1		DSW2			
機能設定		機能設定			
		UDP2W2		UDP3W2	
ON	1 2	ON	1 2 3 4	ON	1 2 3 4
OFF	1 2	OFF	1 2 3 4	OFF	1 2 3 4

- 注記
1. 図中破線部分は、現地工事区分を示します。
 2. 図中[R|S|T]は、TB1の端子を示します。
 3. 図中//部分はプリント板、□□はプリント板のコネクタを示します。
 4. 保護装置が作動した場合に自動的に再起動する回路は、絶対に構成しないでください。
 5. 入力設定1, 2は、操作スイッチの応用機能設定により外部ヒューミを選択し使用してください。また出力設定も同様に圧縮機サーモON/除霜出力を選択し使用してください。
 6. 補助継電器(RY1~4)は電気箱内へ最大3個まで取り付けることができます。4個取り付ける場合は別設置で検討してください。

3. 運転制御

3.3 電気配線図

● UDP8W2 / UDP10W2



記号表

記号	名称	備考	記号	名称	備考
MC ₁	電動機	圧縮機用	52FE	電磁接触器	室内送風機用
MFB	電動機	室内送風機用	51FE	過電流継電器	室内送風機用
52C ₁	電磁接触器	圧縮機用	THU	凝夜センサー	室内吸込空気用
EF ₃₋₅	ヒューズ	室内送風機用	THM ₁	サーミスター	室内吸込空気用
PF _{11, 12}	動力用ヒューズ	圧縮機用	THM ₂	サーミスター	室内配管用
CH ₁	Cヒーター		THM ₃	サーミスター	圧縮機上用
63H ₁	高圧遮断装置		PSW ₁₋₃	スイッチ	
CT ₁	変流器	電流検出用	DSW _{1, 2}	スイッチ	
PWB	プリント板		RDS _{1, 2}	スイッチ	
EF _{1, 2}	ヒューズ		PCN	コネクタ	強電部
TR	トランス		CN	コネクタ	弱電部
TB ₁	端子台	主電源用	BLB	漏電遮断器	不付
TB ₂	端子台	リモコン用	S	手元開閉器	不付
MV _{1, 2}	電子制御膨張弁		RY ₁₋₄	補助継電器	不付
SV _{1, 2}	電磁弁	除霜用			

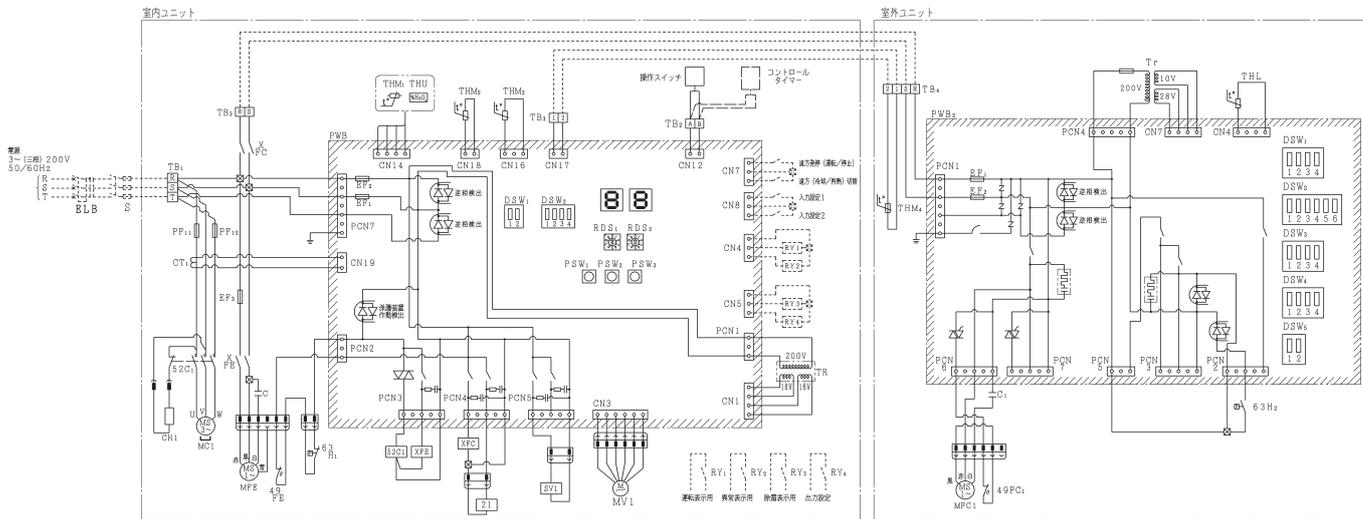
注記

1. 図中破線部分は、現地工事区分を示します。
2. 図中[R|S|T]は、TB₁の端子を示します。
3. 図中斜線部分はプリント板、[]はプリント板のコネクタを示します。
4. 保護装置が作動した場合に自動的に再起動する回路は、絶対に構成しないでください。
5. 入力設定1, 2は、操作スイッチの応用機能設定により外部ヒューズ/サーモを選択してください。また出力設定も同様に圧縮機サーモON/除霜出力を選択してください。
6. 補助継電器 (RY₁₋₄) は電気箱内へ最大3個まで取り付けることができます。4個取り付ける場合は別設置で検討してください。

ディップスイッチの出荷時設定 (■がスイッチの位置を示します)

DSW ₁	機能設定	DSW ₂	機能設定
ON	1 2	ON	1 2 3 4
OFF	1 2	OFF	1 2 3 4

● UDP2WC2 + UDRCP2WC1 / UDP3WC2 + UDRCP3WC1



記号表

記号	名称	備考	記号	名称	備考
MC ₁	電動機	圧縮機用	C	コンデンサ	室内送風機用
MFB	電動機	室内送風機用	C ₁	コンデンサ	室外送風機用
MFC ₁	電動機	室外送風機用	49FC	インナーサーモスタート	室内送風機用
52C ₁	電磁接触器	圧縮機用	49FC ₁	補助継電器	室外送風機用
EF ₃	ヒューズ	室内送風機用	21	四方弁	
PF _{11, 12}	動力用ヒューズ	圧縮機用	THU	凝夜センサー	室内吸込空気用
CH ₁	Cヒーター		THM ₁	サーミスター	室内吸込空気用
63H ₁	高圧遮断装置		THM ₂	サーミスター	室内配管用
63H ₂	圧力スイッチ		THM ₃	サーミスター	圧縮機上用
CT ₁	変流器	電流検出用	THM ₄	サーミスター	室外吸込空気用
PWB _{1, 2}	プリント板		THL	サーミスター	室外配管用
EF _{1, 2}	ヒューズ		PSW ₁₋₃	スイッチ	
TR	トランス		DSW _{1, 2}	スイッチ	
TB ₁	端子台	主電源用	RDS _{1, 2}	スイッチ	
TB ₂	端子台	リモコン用	PCN	コネクタ	強電部
TB ₃	端子台	室外送風機用	CN	コネクタ	弱電部
TB ₄	端子台	室外配管検知用	ELB	漏電遮断器	不付
MV ₁	電子制御膨張弁		S	手元開閉器	不付
SV ₁	電磁弁	除霜用	RY ₁₋₄	補助継電器	不付
XFB	補助継電器	室内送風機用			

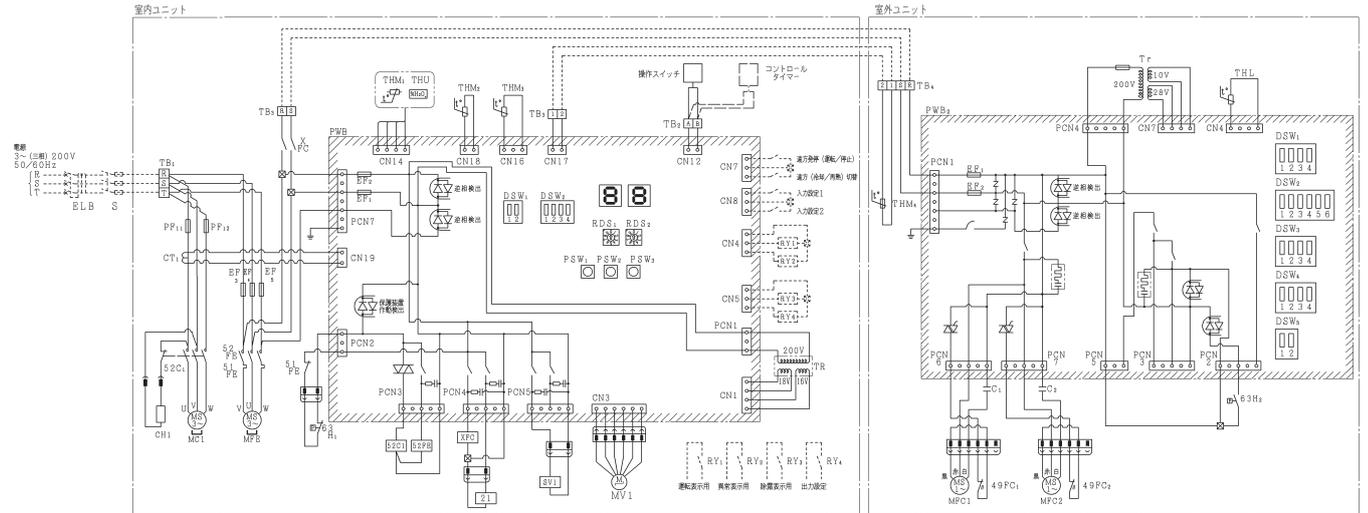
ディップスイッチの出荷時設定 (■がスイッチの位置を示します)

DSW ₁	室内ユニット	DSW ₂	室外ユニット	DSW ₃	室外ユニット	DSW ₄	室外ユニット	DSW ₅	室外ユニット
機能設定	UDP2WC2	UDP3WC2	試験転	UDRCP2WC1	UDRCP3WC1	容量	冷媒系統	伝送	
ON	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4 5 6	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2	
OFF	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4 5 6	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2	

注記

1. 図中破線部分は、現地工事区分を示します。
2. 図中[R|S|T|A|B|I|2]は、TB₁₋₄の端子を示します。
3. 図中斜線部分はプリント板、[]はプリント板のコネクタを示します。
4. 保護装置が作動した場合に自動的に再起動する回路は、絶対に構成しないでください。
5. 入力設定1, 2は、操作スイッチの応用機能設定により外部ヒューズ/サーモを選択してください。また出力設定も同様に圧縮機サーモON/除霜出力を選択してください。
6. 補助継電器 (RY₁₋₄) は電気箱内へ最大3個まで取り付けることができます。4個取り付ける場合は別設置で検討してください。

● UDP5WC2 + UDRCP5WC1



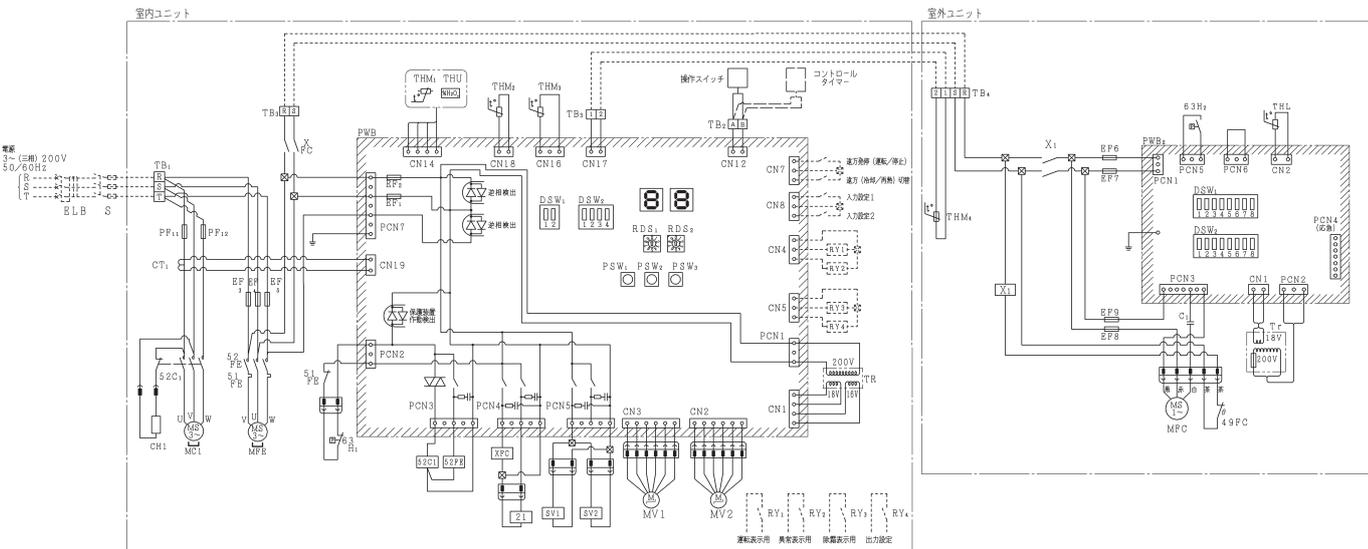
記号	名称	備考	記号	名称	備考
MC1	電動機	圧縮機用	S1PB	過電流継電器	室内送風機用
MFB	電動機	室内送風機用	C1.2	コンデンサ	室外送風機用
MPC1.2	電動機	室外送風機用	49PC1.3	インターナルサーモスタット	室外送風機用
S2C1	電磁接触器	圧縮機用	XFC	補助継電器	室外送風機用
EPF3-5	ヒューズ	室内送風機用	Z1	四方弁	
PF11.12	動力用ヒューズ	圧縮機用	THU	温度センサー	室内吸込空気用
CH1	Cヒーター		THM1	サーミスター	室内吸込空気用
63H1	高圧遮断装置		THM2	サーミスター	室内配管用
63H2	圧力スイッチ		THM3	サーミスター	圧縮機上用
CT1	変流器	電流検出用	THM4	サーミスター	外気温度検知用
PWB1.2	プリント板		THL	サーミスター	室外配管用
EPF1.2	ヒューズ		PSW1-3	スイッチ	
TR, Tr	トランス		DSW1.2	スイッチ	
TB1	端子台	主電源用	RDS1.2	スイッチ	
TB2	端子台	リコン用	CN	コネクタ	強電部
TB3	端子台	室外機接続用	PCN	コネクタ	弱電部
TB4	端子台	室外機接続用	BLB	漏電遮断器	不付
MV1.2	電子制御弁装置		IS	手元閉閉器	不付
SV1	電磁弁	除霜用	RY1-4	補助継電器	不付
S2PB	電磁接触器	室内送風機用			

ディップスイッチの出荷時設定 (■がスイッチの位置を示します)

室内ユニット		室外ユニット	
DSW1	DSW2	DSW1	DSW2
機能設定	機能設定	試験運転	オプション
ON OFF	ON OFF	ON OFF	ON OFF
1 2	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4 5 6

- 注 記
- 図中破線部分は、現地工事区分を示します。
 - 図中 [RISITAI] は、TB1-4の端子を示します。
 - 図中 [] 部分はプリント板、[] はプリント板のコネクタを示します。
 - 保護装置が作動した場合自動的に再起動する回路は、絶対に構成しないでください。
 - 入力設定 1, 2 は、操作スイッチの応用機能設定により外部ヒューズ/サーモを選択し使用してください。また出力設定も同様に圧縮機サーモON/除霜出力を選択し使用してください。
 - 補助継電器 (RY1-4) は電気箱内へ最大3個まで取り付けることができます。4個取り付ける場合は別設で検討してください。

● UDP8WC2 + UDRCP8WC1 / UDP10WC2 + UDRCP10WC1



記号	名称	備考	記号	名称	備考
MC1	電動機	圧縮機用	C1	コンデンサ	室外送風機用
MFE	電動機	室内送風機用	XFC	補助継電器	室外送風機用
MFC	電動機	室外送風機用	EPF4-9	ヒューズ	室外送風機用
S2C1	電磁接触器	圧縮機用	X1	補助継電器	室外送風機用
EPF3-5	ヒューズ	室内送風機用	Z1	四方弁	
PF11.12	動力用ヒューズ	圧縮機用	THU	温度センサー	室内吸込空気用
CH1	Cヒーター		THM1	サーミスター	室内吸込空気用
63H1	高圧遮断装置		THM2	サーミスター	室内配管用
63H2	圧力スイッチ		THM3	サーミスター	圧縮機上用
CT1	変流器	電流検出用	THM4	サーミスター	外気温度検知用
PWB1.2	プリント板		THL	サーミスター	室外配管用
EPF1.2	ヒューズ		PSW1-3	スイッチ	
TR, Tr	トランス		DSW1.2	スイッチ	
TB1	端子台	主電源用	RDS1.2	スイッチ	
TB2	端子台	リコン用	CN	コネクタ	強電部
TB3	端子台	室外機接続用	PCN	コネクタ	弱電部
TB4	端子台	室外機接続用	BLB	漏電遮断器	不付
MV1.2	電子制御弁装置		IS	手元閉閉器	不付
SV1	電磁弁	除霜用	RY1-4	補助継電器	不付
S2PB	電磁接触器	室内送風機用			
S1PB	過電流継電器	室内送風機用			

ディップスイッチの出荷時設定 (■がスイッチの位置を示します)

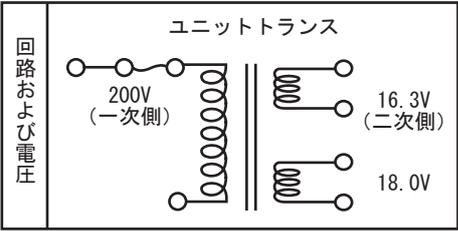
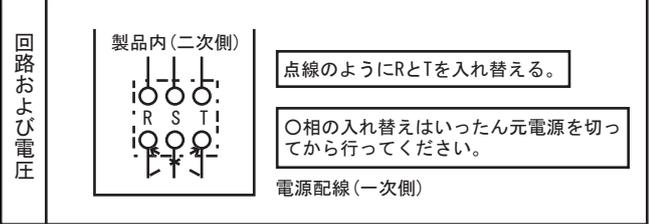
室内ユニット		室外ユニット	
DSW1	DSW2	DSW1	DSW2
UDP8WC2	UDP10WC2		
ON OFF	ON OFF	ON OFF	ON OFF
1 2	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4 5 6 7 8

- 注 記
- 図中破線部分は、現地工事区分を示します。
 - 図中 [RISITAI] は、TB1-4の端子を示します。
 - 図中 [] 部分はプリント板、[] はプリント板のコネクタを示します。
 - 保護装置が作動した場合自動的に再起動する回路は、絶対に構成しないでください。
 - 入力設定 1, 2 は、操作スイッチの応用機能設定により外部ヒューズ/サーモを選択し使用してください。また出力設定も同様に圧縮機サーモON/除霜出力を選択し使用してください。
 - 補助継電器 (RY1-4) は電気箱内へ最大3個まで取り付けることができます。4個取り付ける場合は別設で検討してください。

電気部品の点検を始める前には、運転を停止し、必ずすべての電源スイッチを切ってください。

1 電源・結線の点検

製品の様子がおかしい時は、まず、下表の点検を実施してください。また、取扱説明書の「故障かなと思ったら」の内容を確認してください。

項番	点検項目	点検方法
1	電源ブレーカー、またはヒューズが切れていないか。	電源ブレーカーの二次電圧、ヒューズの導通をテスターにより調べてください。
2	操作スイッチ部に設定値が表示されているか。	室内ユニット正面にある操作スイッチ部に、設定値がデジタル表示されていることを確認してください。
3	トランスの二次配線が正しく接続されているか。	トランスの二次側の接続を外し、テスターにて電圧（交流）を測定します。トランスに表示の電圧が出ていることを確認してください。 
	電気配線（一次側）が正しく接続されているか。	ユニット電源が逆相のときは送風機が逆転します。この場合下図の要領で配線をチェックしてください。 
4	配線のゆるみ・誤配線はないか。	プリント基板上の配線接続にゆるみがないか調べてください。 <ul style="list-style-type: none"> ■サーミスターのコネクター差し込み（各種） ■操作パネル他ケーブルのコネクター差し込み ■トランスのコネクター差し込み ■200V回路の各種コネクター差し込み ■プリント基板配線接続にゆるみがないか、また、現地配線に誤りがないかを、「3.3 電気配線図」（37～39ページ）と照らし合わせて確認してください。
5	断線はないか。	異常を生じている回路中の断線はないか調査してください。

留意事項

- プリント基板の取り扱いには十分注意してください。
1. 保守・点検時以外は絶対に触らないでください。
 2. 点検する際は、絶対に素手で触らないでください。静電気発生防止用手袋を着用してください。
 3. プリント基板表面の電子部品には触らないでください。

4. 製品の様子がおかしいときの処置

4.1 簡易点検方法

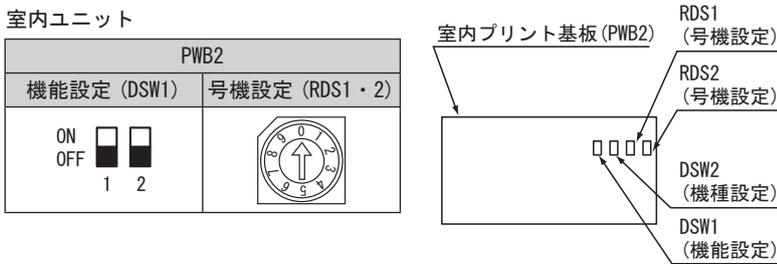
2 ディップスイッチ設定の点検

設定に誤りがないか確認してください。(保守・点検時以外はディップスイッチの設定は変更しないでください。)

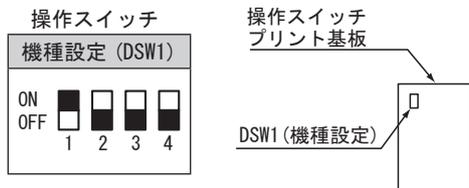
ディップスイッチは出荷時により設定されています。

現地で設定変更すると、除湿機の運転に不具合が生じたり、故障の原因となりますので、保守・点検時以外は変更しないでください。

(■がスイッチの位置を示します。)



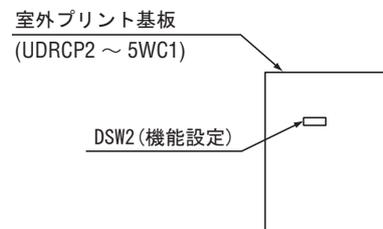
機種設定 (DSW2)				
UDP2W2	UDP3W2	UDP5W2	UDP8W2	UDP10W2
ON OFF 1 2 3 4				
UDP2WC2	UDP3WC2	UDP5WC2	UDP8WC2	UDP10WC2
ON OFF 1 2 3 4				



室外ユニット (冷却機能付機のみ)

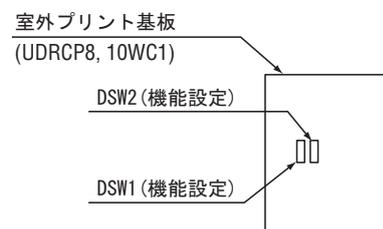
機能設定 (DSW2)	
UDRCP2WC1	UDRCP3, 5WC1
ON OFF 1 2 3 4 5 6	ON OFF 1 2 3 4 5 6

注) 上記以外のディップスイッチ (DSW1・DSW3～DSW5) は、すべて OFF です。



室外ユニット (冷却機能付機のみ)

機能設定 (DSW1)	機能設定 (DSW2)
UDRCP8, 10WC1	UDRCP8, 10WC1
ON OFF 1 2 3 4 5 6 7 8	ON OFF 1 2 3 4 5 6 7 8



③ 室内プリント基板の入出力確認

室内ユニットのプリント基板の入出力情報（サーミスターの検知温度など）が正しいか、点検モードにより確認してください。

点検モード

運転中または停止中に **停止** を押しながら **▼** を 1 秒以上同時に押すと、点検モードになります。

再度 **停止** を押しながら **▼** を 1 秒以上同時に押すと、点検モードを終了します。

点検モードの内容は下表のように **▲** **▼** で各項目の切り換えができます。

（注記）下表の値は表示例のため、実際の表示内容とは異なります。

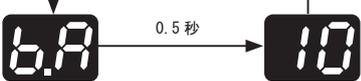
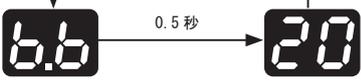
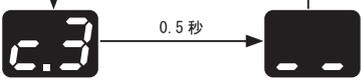
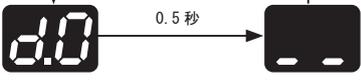
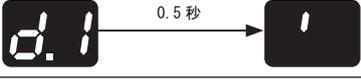
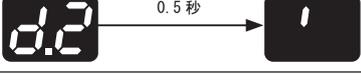
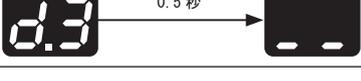
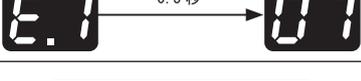
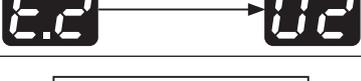
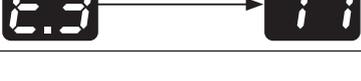
項目	デジタル表示部の表示例	動作機器の名称
操作スイッチ ソフトウェアバージョン		（例）U200 を表示 操作スイッチプリント基板に内蔵している制御ソフトウェアのバージョン情報を表示
室内ユニット ソフトウェアバージョン		（例）H300 を表示 室内プリント基板に内蔵している制御ソフトウェアのバージョン情報を表示
吸込空気温度		（例）20℃ を表示 THM1 の検知温度を表示
吸込空気湿度		（例）70% を表示 THU の検知湿度を表示
蒸発器出口配管温度		（例）-10℃ を表示 THM2 の検知温度を表示
圧縮機上部温度		（例）60℃ を表示 THM3 の検知温度を表示
外気温度		（例）20℃ を表示 再熱専用機の場合は「__ __」 THM7 の検知温度を表示
制御情報		
圧縮機電流値		（例）10A を表示 CTI の電流検知値を表示
制御情報		

（次ページへ続く）

4. 製品の様子がおかしいときの処置

4.1 簡易点検方法

(前ページより続き)

項目	デジタル表示部の表示例	動作機器の名称
電源周波数		(例) 60Hz を表示 室内プリント基板で検知している電源周波数を表示
制御情報		
制御情報		
膨張弁開度 1		(例) 15% を表示 膨張弁開度 = 15% × 20 パルス / % = 300 パルス 電子膨張弁 (MV1) の開度指示値を表示
膨張弁開度 2		(例) 15% を表示 (8・10 馬力のみ) 2～5 馬力相当は「00」を表示 電子膨張弁 (MV2) の開度指示値を表示
制御情報		
制御情報		
入出力情報 (室内ユニット)		(例) 外部出力 (CN4-3) を表示 詳細は 45 ページ  表示をご参照ください。
リレー出力 (室内ユニット)		(例) リレー Y2 を表示 詳細は 45 ページ  表示をご参照ください。
制御情報		
異常履歴 1		最新のアラームコードから順に異常履歴 1～3 に表示 なお、異常履歴のない場合は、00 を表示 詳細は 64 ページの別表 1「点検項目 00 アラームコード」をご参照ください
異常履歴 2		
異常履歴 3		

(次ページへ続く)

4. 製品の様子がおかしいときの処置

4.1 簡易点検方法

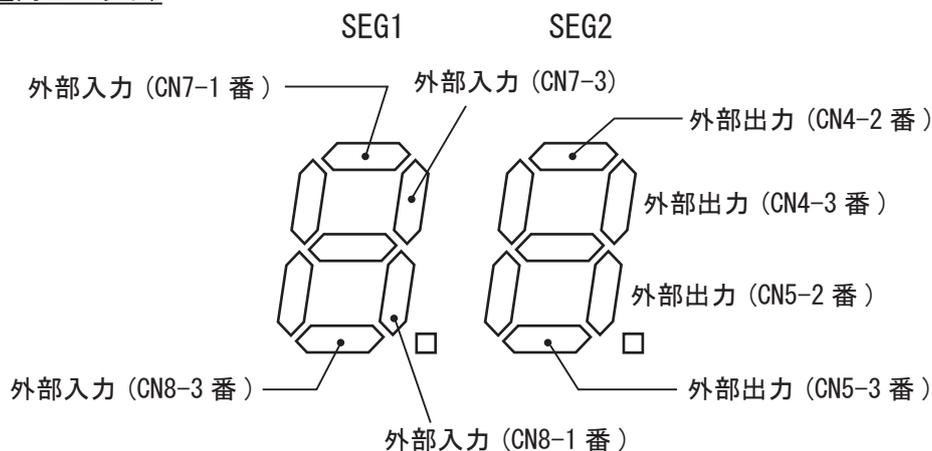
(前ページより続き)

項目	デジタル表示部の表示例	動作機器の名称
異常回数		(例) 10 回を表示 異常の回数を表示
瞬時停電回数		(例) 10 回を表示 瞬時停電回数を表示
伝送異常回数		(例) 10 回を表示 室内ユニットとリモコン間の伝送異常回数を表示
制御情報		

(ソフトウェアバージョンの項目へ戻る)

☐1 表示 (SEG1 と SEG2 に表示)

入力や情報 (室内ユニット)



☐2 表示 (SEG2 に表示)

リレー出力 (室内ユニット)

リレー Y6

(XFE) (2・3 馬力相当のみ) (室内送風機)

(52FE) (5・8・10 馬力相当のみ) (室内送風機)

SSR1 (圧縮機)

リレー Y5

(XFC) (冷却機能付) (室外送風機)

SEG2

リレー Y1

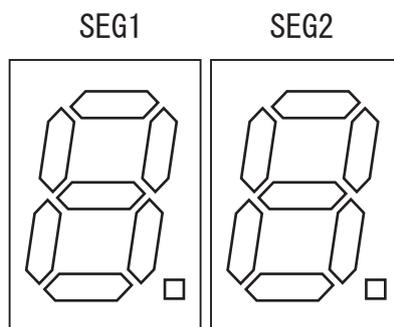
リレー Y2

リレー Y3 (SV2 は 8・10 馬力のみ)

電磁弁 (除霜運転)

リレー Y4 (21) (冷却機能付)

(四方弁)



(セグメントの 1 桁目が SEG2、2 桁目が SEG1 となります)

アラームコード(異常)一覧

異常を検出すると、運転ランプが点滅し、設定表示部に異常内容に応じたアラームコードが表示されます。異常内容や異常検出条件は、下表のようになります。

アラームコード	異常内容	異常検出条件												
	外部機器異常 (応用機能設定時のみ)	外部機器からの異常信号を検知・・・10秒継続												
	高圧遮断装置(63H)の作動	圧縮機吐出圧力が4.15MPa以上												
	室内送風機用インターナルサーモスタット(49FE)の作動 [2・3馬力相当機]	室内ファンモーターに内蔵のインターナルサーモスタットが130℃以上												
	室内送風機用過電流継電器(51FE)の作動 [5・8・10馬力相当機]	室内ファンモーターの電流値が下表の値以上												
		<table border="1"> <tr> <td>相当馬力</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>電流値(A)</td> <td>2.8</td> <td>6.2</td> <td>9.0</td> </tr> </table> (注)復帰させるには、室内ユニット電気箱内の過電流継電器(51FE)を手動リセットする必要があります	相当馬力	5	8	10	電流値(A)	2.8	6.2	9.0				
相当馬力	5	8	10											
電流値(A)	2.8	6.2	9.0											
	相検出異常	主電源の逆相または欠相												
	圧縮機上部温度過昇	圧縮機上部温度が127℃以上・・・10分継続 または140℃以上・・・5秒継続												
	吸込空気温度サーミスター(THM1)異常(室内ユニット)	サーミスターの断線・短絡またはコネクター部(CN14)のゆるみ・外れ												
	配管温度サーミスター(THM2)異常(室内ユニット)	サーミスターの断線・短絡またはコネクター部(CN18)のゆるみ・外れ												
	吸込空気湿度センサー(THU)異常(室内ユニット)	湿度センサーの異常またはコネクター部(CN14)のゆるみ・外れ												
	圧縮機上温度サーミスター(THM3)異常	サーミスターの断線・短絡またはコネクター部(CN16)のゆるみ・外れ												
	外気温度サーミスター(THM4)異常(室内ユニット)[冷却機能付機のみ]	サーミスターの断線・短絡またはコネクター部(CN7)のゆるみ・外れ												
	保護検出回路異常	保護検出回路の断線およびコネクター部(PCN2)のゆるみ・外れまたは電源投入時にアラームコードの  条件に該当												
	圧縮機電流異常	圧縮機の電流値が 0Aまたは右表の値以上	相当馬力	2	3	5	8	10	電流値(A)	13	18	34	48	63
相当馬力	2	3	5	8	10									
電流値(A)	13	18	34	48	63									
	低圧圧力低下異常	蒸発器出口配管温度が -30℃以下・・・10分継続												

(注)以下の表示は、異常ではありません。

表示	内容	対処方法
 (「dF」を表示)	除霜運転中です。 (室内送風機が停止します)	除霜運転終了後に、自動的に通常運転となります。除霜時間は、最長で30分間です。 (注)除霜中は運転を停止しないようにしてください。次の運転時に異常停止することがあります。
 (回転しているように点滅)	送風運転中です。 (圧縮機は運転しません)	運転スイッチを長押し(約1秒)すると、送風運転⇄通常運転が切り換わります。 停止スイッチを押すと、運転を停止します。 (注)通常運転に切り換えた際は、圧縮機の3分ガードが優先しますので、圧縮機がすぐに運転しない場合があります。
 (「On」を表示)	連続運転に設定されています。 (吸込空気湿度に関係なく運転を継続します)	設定湿度をあげると、湿度設定値が表示されて連続運転は解除されます。

電源供給不良

- 設定表示部に設定値が表示されない。
- 運転しない。

ヒューズの熔断、漏電遮断器 (ELB) の作動の場合は過電流が流れた原因についても調査し、処理する必要があります。

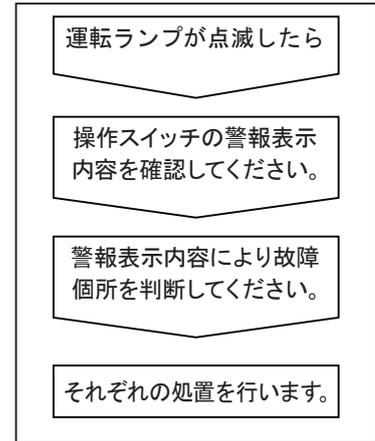
現象	原因	調査方法	処理・対策（電源を切って実施）	
操作スイッチで運転させても送風機が運転しない	停電・電源入れ忘れ	テスターで電圧測定	電源の回復を待つ 電源を入れる	
	電源ヒューズの熔断・ELBの作動	配線間の短絡	配線被覆のはがれを調査	短絡を除去した後ヒューズ交換
		配線の地絡（アース）	絶縁抵抗を測定	地絡を除去した後ヒューズ交換
		圧縮機用電動機の故障	線間抵抗・絶縁抵抗を測定	圧縮機交換・ヒューズ交換
		室内送風機用電動機の故障	線間抵抗・絶縁抵抗を測定	室内送風機用電動機交換・ヒューズ交換
	操作回路用ヒューズの熔断	室外送風機用電動機の故障	線間抵抗・絶縁抵抗を測定	室外送風機用電動機交換・ヒューズ交換
		配線間の地絡	配線被覆の剥れを調査	短絡を除去した後ヒューズ交換
		操作回路地絡（アース）	絶縁抵抗を測定	地絡を除去した後ヒューズ交換
		圧縮機用電動機の故障	線間抵抗・絶縁抵抗を測定	圧縮機交換・ヒューズ交換
		室内送風機用電動機の故障	線間抵抗・絶縁抵抗を測定	室内送風機用電動機交換・ヒューズ交換
		室外送風機用電動機の故障	線間抵抗・絶縁抵抗を測定	室外送風機用電動機交換・ヒューズ交換
	圧縮機用電動機・室内・室外送風機用電動機・補助継電器・四方弁コイル故障	コイルの抵抗値を測定	圧縮機・送風機用電動機・電磁接触機・四方弁のコイル・ヒューズ交換	
	プリント基板用トランスコイルの故障	トランス二次電圧測定	トランス交換	
	ケーブルの断線	配線・接続	コード接続・修復	
	ケーブルコネクタ部接触不良	プリント基板接続部接触不良・接続不良	接続状態調査 (ゆるみ・プリント基板上のコネクタ差し込み位置などチェック)	ゆるみ修復 接続位置修正 コード交換
操作スイッチの故障		スイッチの接触をチェック	スイッチ故障のとき交換	
プリント基板の故障	プリント基板への配線の外れ	接続を調査	配線接続を直す	
	プリント基板の故障	プリント基板上のLED1点灯をチェック	LED1が点灯しないとき交換	
誤結線		「据付点検要領書」により確認		
送風機用電動機の故障	コイル断線	テスターでコイル抵抗測定	送風機用電動機交換	
	コイル焼損	絶縁抵抗を測定		
送風機用電磁接触機の故障	コイル断線	テスターでコイル抵抗測定	電磁接触器交換	
	接触不良	接点間の電圧測定		
送風機用電動機の過電流継電器過電流検出回路または過熱防止サーモスタットが作動または主回路ヒューズが熔断	電源電圧の高すぎ・低すぎ	電圧測定	運転時の電圧を180～220Vにする	
	送風機用電動機の故障	絶縁抵抗、コイル抵抗を測定	送風機用電動機交換	
	静圧減少による送風機の風量増加	風量・ダクト抵抗を測定	規定の静圧で送風機を運転	
	送風機のランナーがケーシングに当たる	ランナーを手回ししてみる	ランナー位置を調整	
送風機のベアリング摩耗	Vベルトを外し、ランナーを手回ししてみる	ベアリング交換		

機器異常

現象	原因	調査方法	処理・対策（電源を切って実施）	
機械は運転しているが、異音を発生している	室内送風機のケーシング内に異物が混入	調査する	異物を除去する	
	送風機のベアリング摩耗	調査する	ベアリング交換	
	室内送風機ランナーがケーシングに当たる	調査する	ランナーの位置を調査する	
	室外送風機のプロペラファンがシュラウドに当たる	調査する	プロペラファンの位置を調査する	
	圧縮機からの異音	据え付けまたは組立不良	各部締付ボルトのゆるみ点検	増締する
		液圧縮	電子膨張弁の動作を点検	電子膨張弁交換
		圧縮機内部の摩耗・破損	圧縮機内部から異音発生	圧縮機交換
		クランクケースヒーターがあたたまらない	導線チェック（クランクケースヒーター・プリント基板）	クランクケースヒーター交換またはプリント基板交換
	電磁接触器のうなり	接点の荒れを調査	接点交換	
	キャビネットの振動	ねじのゆるみ調査	増し締めを行う	

1 故障診断の概要

警報表示の場合は、運転ランプが点滅しています。
この時に電源を切ったり、停止スイッチを押さないでください。
(表示内容が消えてしまいます。)

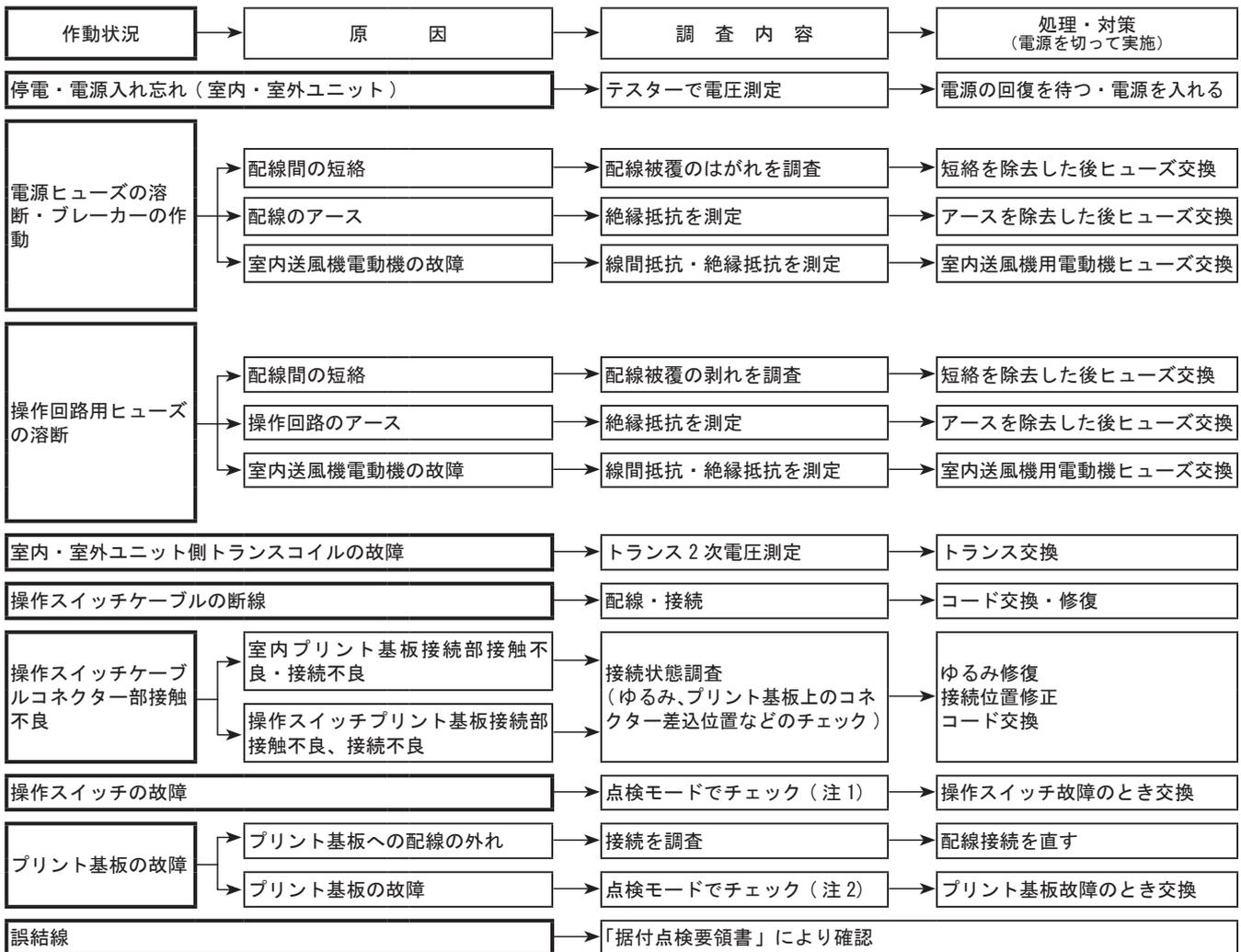


2 操作スイッチの警報内容および処置

警報表示内容により故障診断方法（項目・手順など）が異なりますので詳細診断方法をご参照のうえ、診断してください。また、故障内容が同じでも運転条件などにより警報表示内容が異なる場合もありますので、故障診断に際し、ご注意ください。

表示灯、液晶表示の点灯のない場合 室内・室外ユニット、操作スイッチ電源供給不良

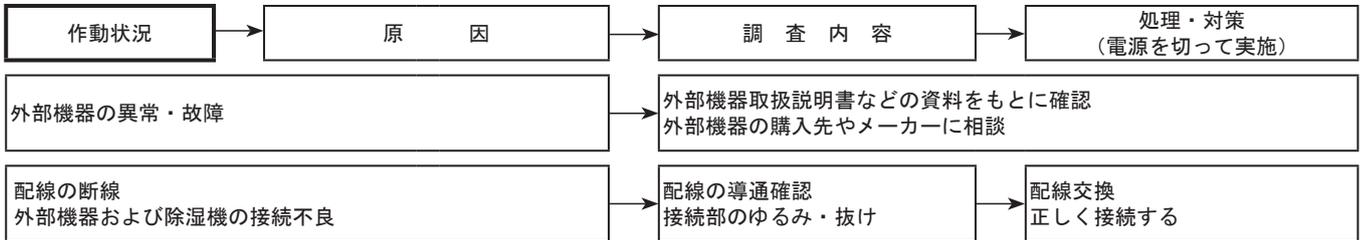
- 操作スイッチおよび室内・室外プリント基板の表示灯が点灯しない。
 - 運転しない。
- ヒューズの溶断・ブレーカーの作動の場合は、過電流が流れた原因についても調査し、処理する必要があります。



(注) 1. 操作スイッチの点検モードについては42～44ページをご参照ください。
2. プリント基板の点検モードについては42～44ページをご参照ください。

アラームコード 01 外部機器異常（応用機能設定時）

- 操作スイッチの運転ランプが点滅し、設定表示部にアラームコードを表示します。
- ★室内プリント基板上のディップスイッチを外部機器異常信号入力の設定に変更した場合、除湿機運転中に外部機器からの異常信号を10秒間連続して検知すると、運転を停止しアラームコードを表示します。

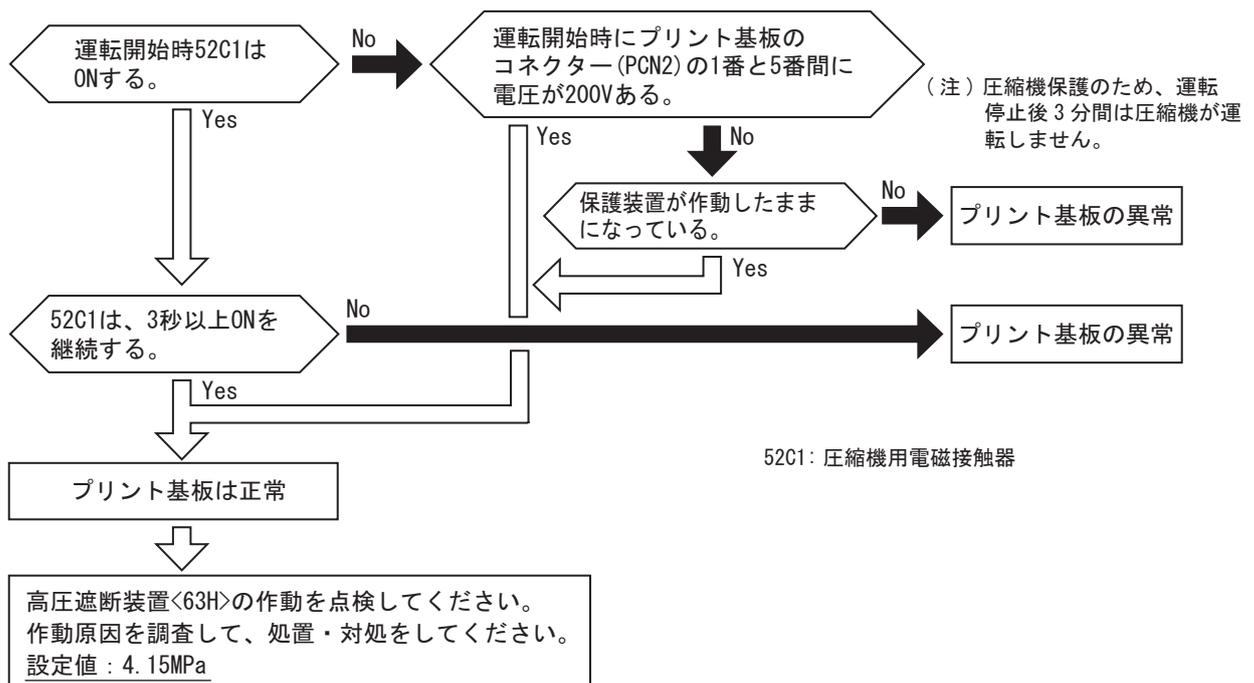


- (注)1. 本アラームは、プリント基板上のディップスイッチを外部機器異常信号入力の設定に変更した場合のみ発生します。
2. 外部機器の異常や故障については、外部機器の購入先やメーカーにご相談ください。

アラームコード 02 保護装置作動

①高圧遮断装置

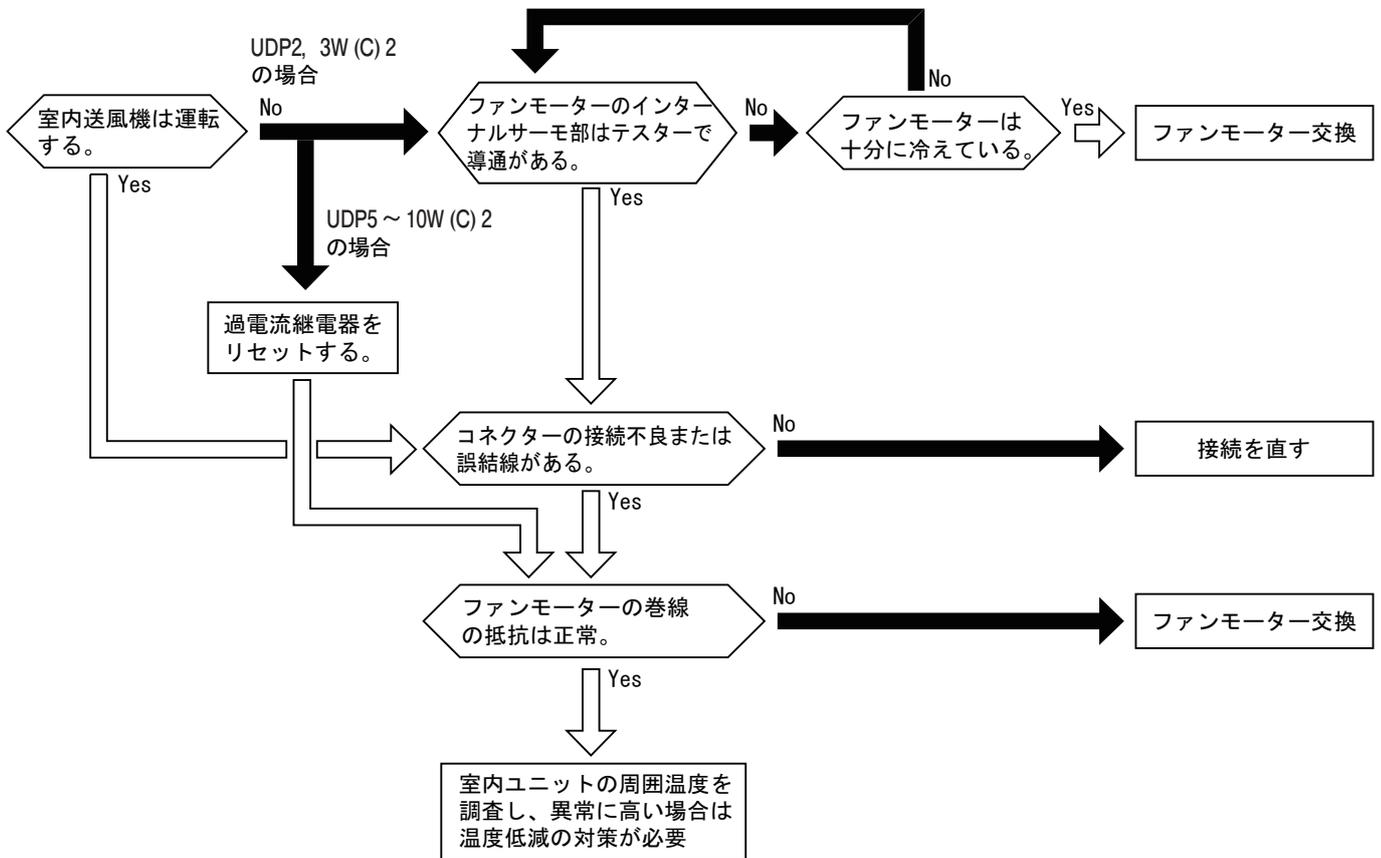
- 操作スイッチの運転ランプが点滅し、設定表示部にアラームコードを表示します。
- ★圧縮機運転中（52C1 ON中）に高圧遮断装置（63H）が作動した場合にアラームコードを表示します。





②室内送風機用インターナルサーモスタット、過電流継電器

- 操作スイッチの運転ランプが点滅し、設定表示部にアラームコードを表示します。
- ★ 室内送風機用電動機のインターナルサーモスタットまたは過電流継電器が作動した場合、アラームコードを表示します。



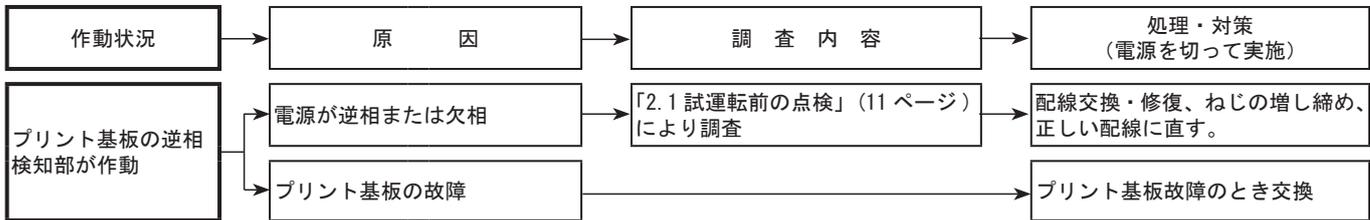
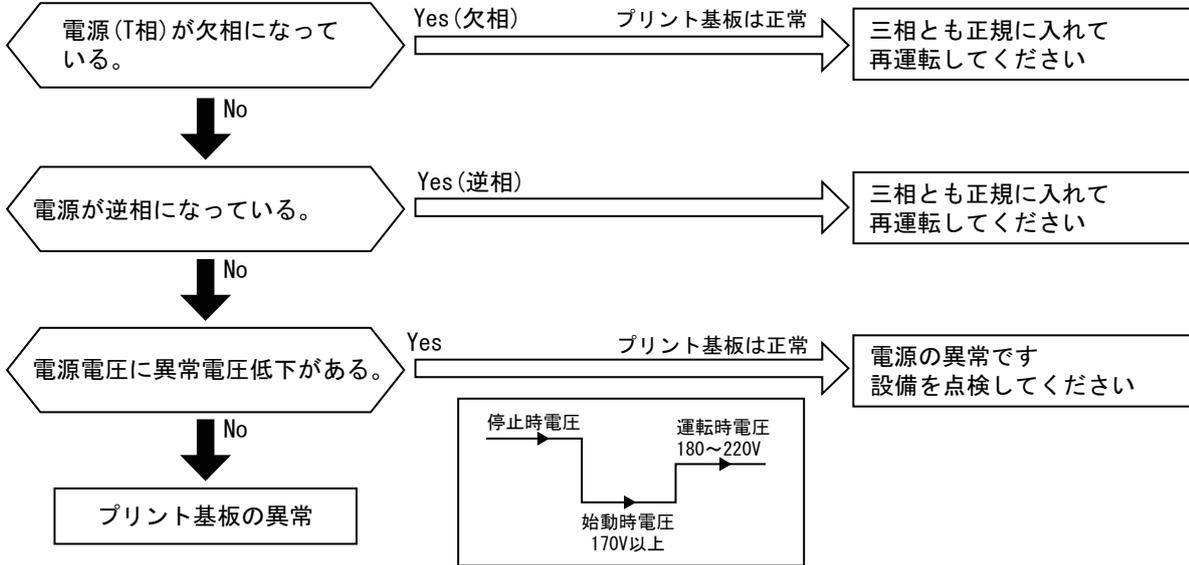
作動状況	原因	調査内容	処理・対策 (電源を切って実施)	
室内送風機用電動機のインターナルサーモまたは過電流継電器が作動	室内送風機用電動機の故障	コイル抵抗の測定 絶縁抵抗の測定	室内送風機用電動機の故障のとき交換	
	インターナルサーモまたは過電流継電器の故障	故障	インターナルサーモ故障の場合、室内送風機用電動機の温度が下がってから導通をチェック	室内送風機用電動機交換
		過電流継電器	過電流継電器をリセットして接点の導通をチェックおよび設定値のチェック	過電流継電器交換
		接触不良	テスターで抵抗測定	ゆるみを修正・コネクター交換
		接続不良	接続を調査	接続を直す。

アラーム
コード

05

相検出異常

- 操作スイッチの運転ランプが点滅し、設定表示部にアラームコードを表示します。
- ★ 200V 電源の逆相接続またはT相欠相となった場合、アラームコードを表示します。

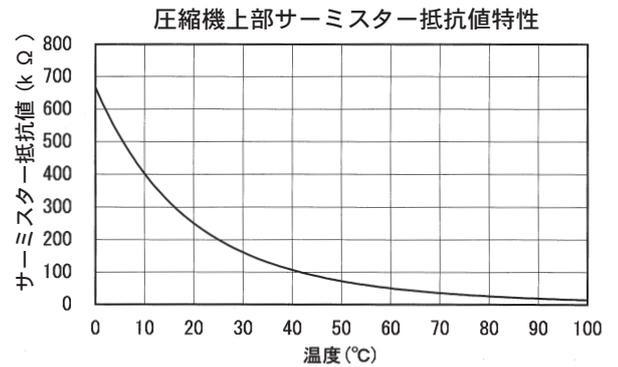
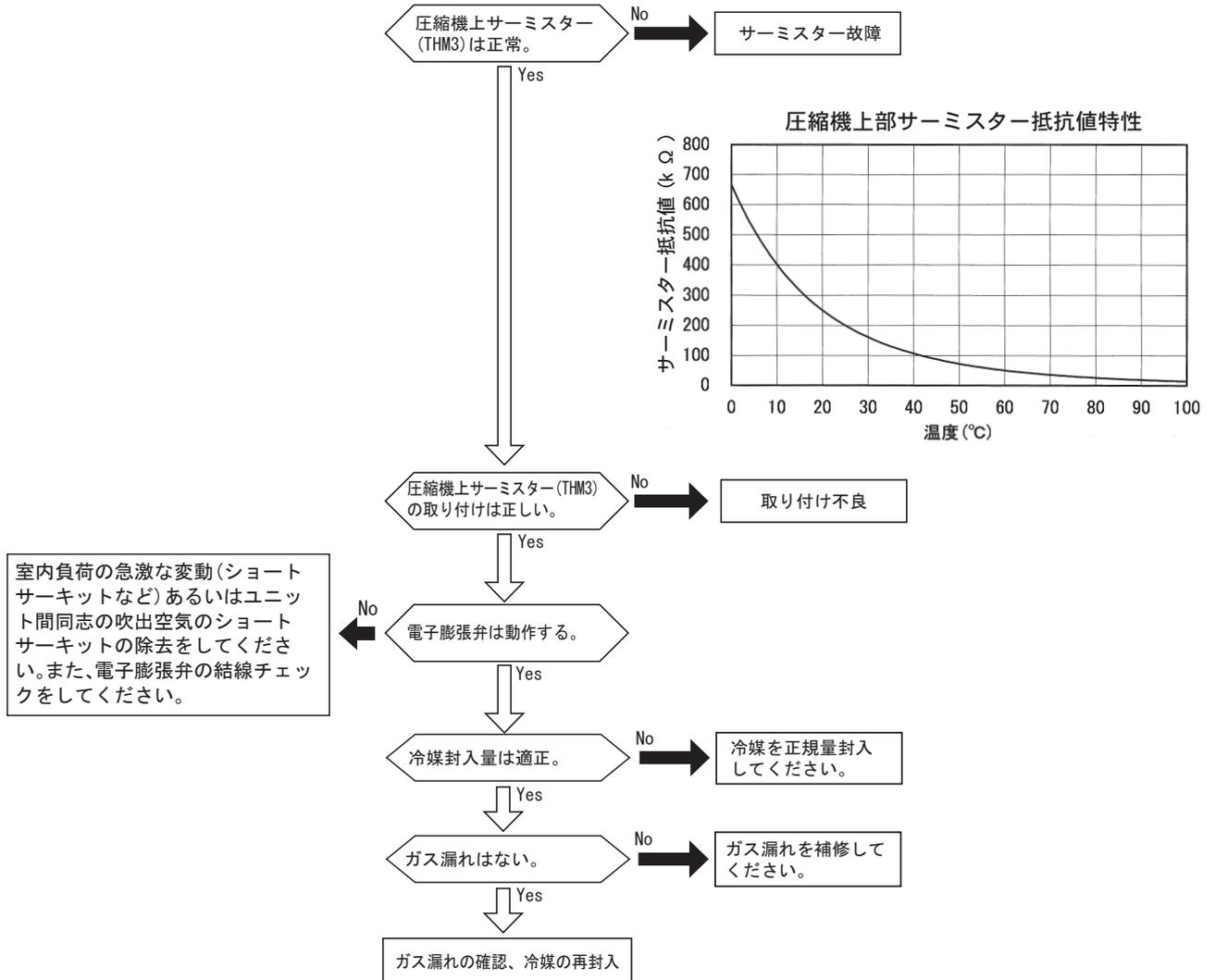


アラーム
コード

08

(圧縮機上部) 温度過昇

- 操作スイッチの運転ランプが点滅し、設定表示部にアラームコードを表示します。
- ★ 運転中に圧縮機上部サーミスター温度が 127℃以上を 10 分間継続、または 140℃以上が 5 秒間継続した場合、アラームコードを表示します。



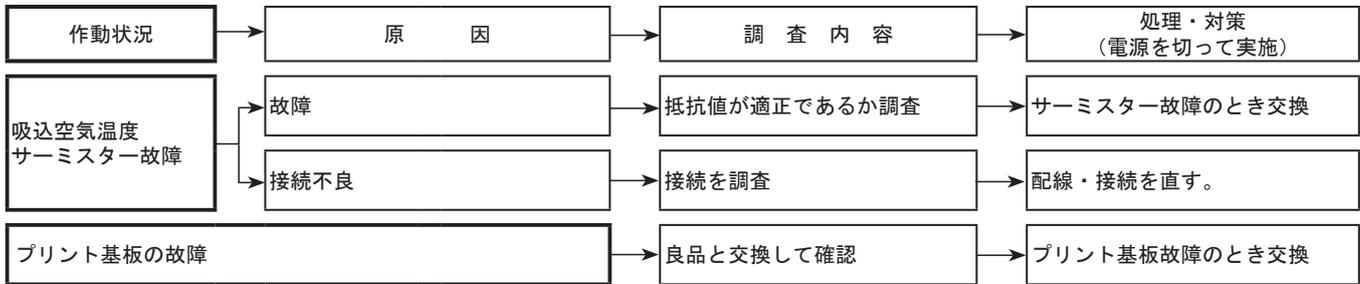
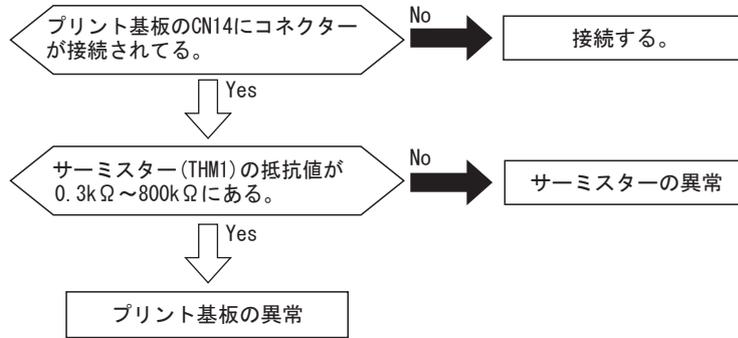
作動状況	原因	調査内容	処理・対策 (電源を切って実施)	
(圧縮機上部) 温度過昇	冷媒封入量減少	運転圧力を調査	冷媒を正規量封入する。	
	電子膨張弁の故障	弁前後温度・配線の調査	電子膨張弁故障のとき交換	
	プリント基板故障	故障	良品と交換して確認	プリント基板故障のとき交換
		配線の外れ (電子膨張弁用配線)	接続を調査	配線接続を直す。
	吐出ガスサーミスター故障	故障	抵抗値が適正であるか調査	サーミスター故障のとき交換
		サーミスター取付状態不具合	取付状態の調査	取付状態を直す。
		接続不良	接続を調査	ゆるみ修正・コネクタ交換 接続を直す。

アラーム
コード

11

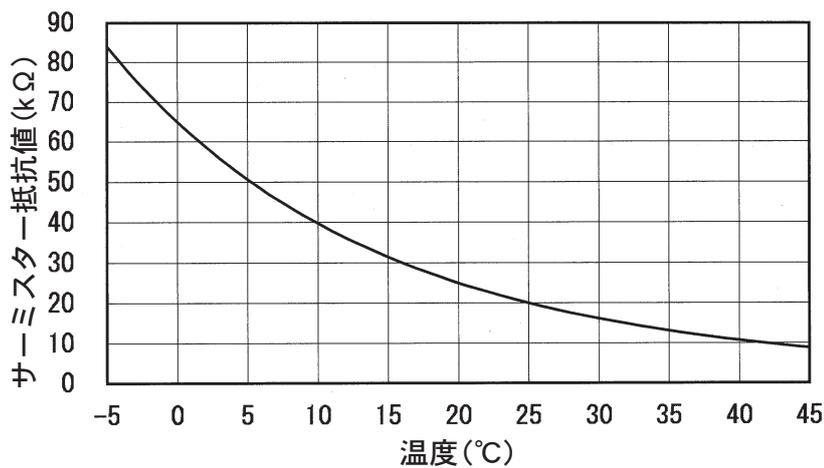
吸込空気温度サーミスター (THM1) 異常 (室内ユニット)

- 操作スイッチの運転ランプが点滅し、設定表示部にアラームコードを表示します。
- ★ 運転中にサーミスターが短絡 ($0.3k\Omega$ 以下) か、断線 ($800k\Omega$) したと認識した場合、アラームコードを表示します。



(注) 吸込空気温度サーミスターは湿度センサーと一体形となっています。湿度センサーは吸込グリル内側のセンサーケース (黒色) 内にあります。

吸込空気温度サーミスター抵抗値特性

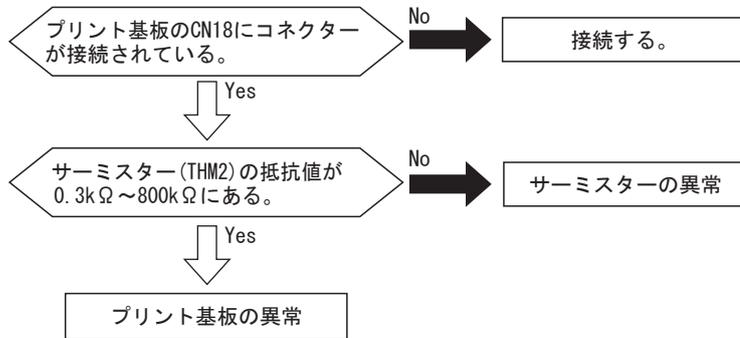


アラーム
コード

13

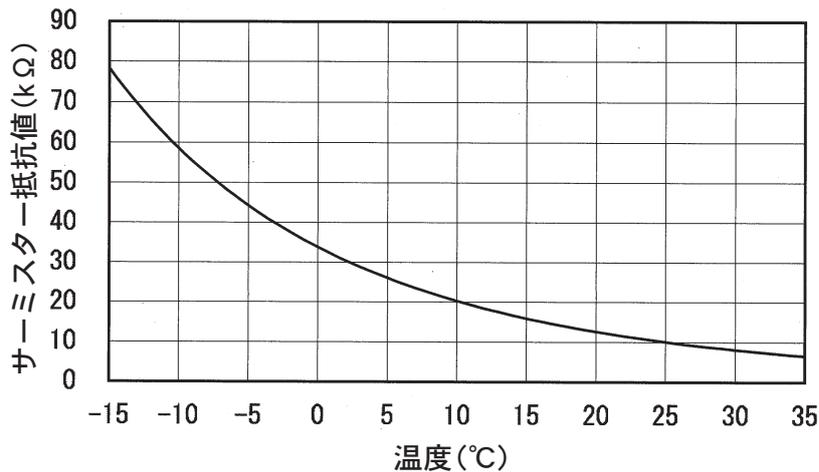
配管温度サーミスター (THM2) 異常 (室内ユニット)

- 操作スイッチの運転ランプが点滅し、設定表示部にアラームコードを表示します。
- ★ 運転中にサーミスターが短絡 ($0.3k\ \Omega$ 以下) か、断線 ($800k\ \Omega$ 以上) したと認識した場合、アラームコードを表示します。



作動状況	原因	調査内容	処理・対策 (電源を切って実施)
配管温度 サーミスター故障	故障	抵抗値が適正であるか調査	サーミスター故障のとき交換
	接続不良	プリント基板への接続を調査	配線・接続を直す。
プリント基板の故障		良品と交換して確認	プリント基板故障のとき交換

配管温度サーミスター抵抗値特性

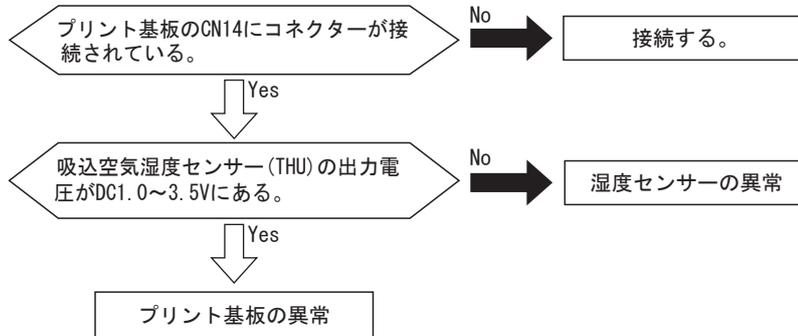


アラーム
コード

15

吸込空気湿度センサー (THU) 異常 (室内ユニット)

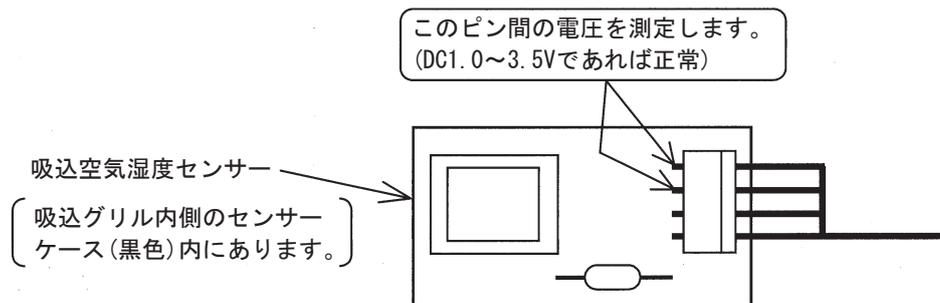
- 操作スイッチの運転ランプが点滅し、設定表示部にアラームコードを表示します。
- ★ 運転中に吸込空気湿度センサーが短絡（出力電圧 DC3.5V 以上）か、断線（出力電圧 DC1.0V 以下）したと認識した場合、アラームコードを表示します。



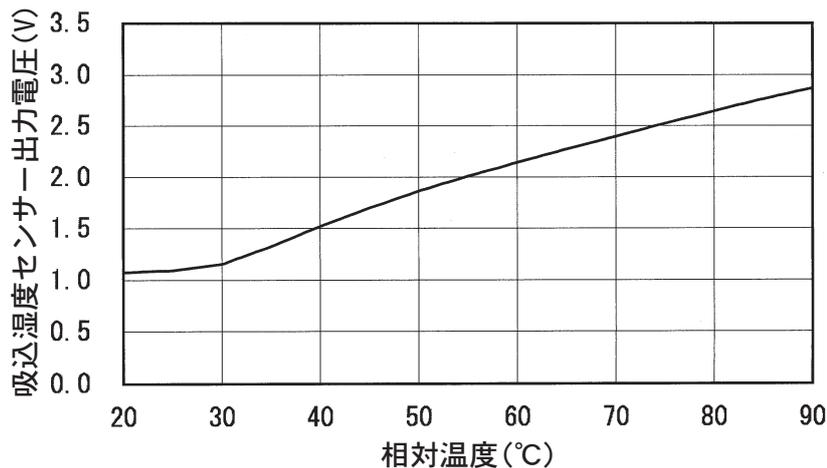
作動状況	原因	調査内容	処理・対策 (電源を切って実施)
吸込空気湿度センサー故障	故障	出力電力が適正であるか調査	吸込空気湿度センサー故障のとき交換
	接続不良	接続を調査	配線・接続を直す。
プリント基板の故障		良品と交換して確認	プリント基板故障のとき交換

吸込空気湿度センサーの出力電圧測定方法

プリント基板上のコネクタ (CN14) を接続した状態で、吸込空気湿度センサーの下図の位置を測定してください。(吸込空気湿度センサーの取り扱いには十分注意してください。また、絶対に濡らさないでください。)



吸込空気湿度センサー出力電圧特性

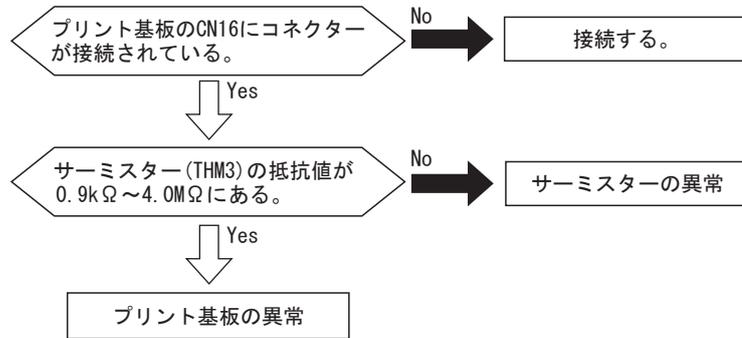


アラーム
コード

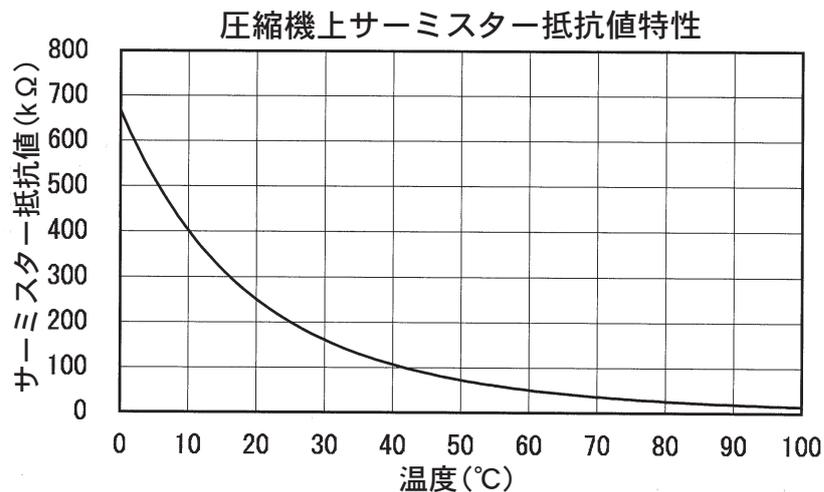
20

圧縮機上温度サーミスター (THM3) 異常

- 操作スイッチの運転ランプが点滅し、設定表示部にアラームコードを表示します。
- ★ 運転中にサーミスターが短絡 ($0.9\text{k}\Omega$ 以下) か、断線 ($4.0\text{M}\Omega$ 以上) したと認識した場合、アラームコードを表示します。



作動状況	原因	調査内容	処理・対策 (電源を切って実施)
圧縮機上温度 サーミスター故障	故障	抵抗値が適正であるか調査	サーミスター故障のとき交換
	接続不良	プリント基板への接続を調査	配線・接続を直す。
プリント基板の故障		良品と交換して確認	プリント基板故障のとき交換

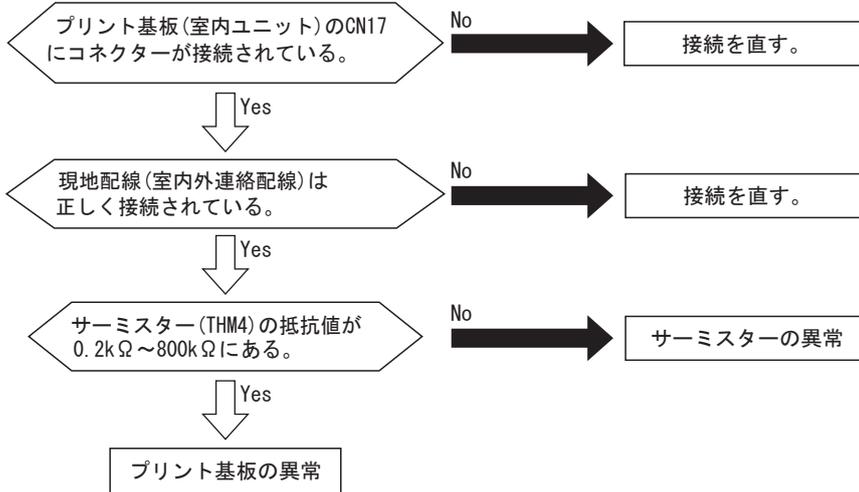


アラーム
コード

22

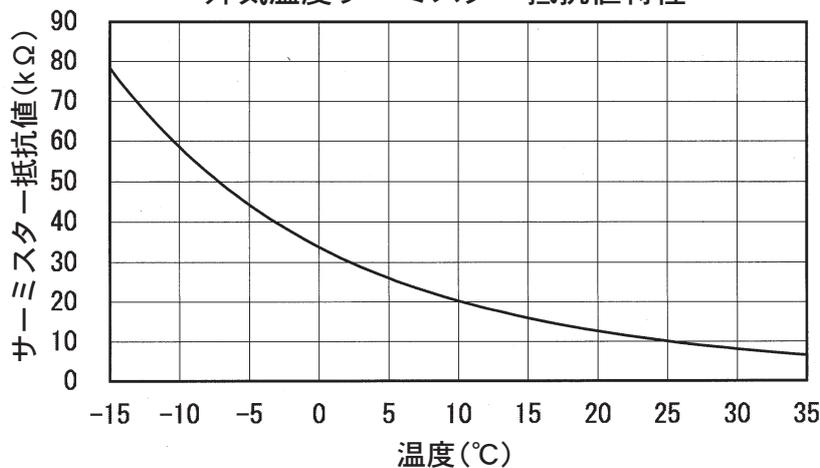
外気温度サーミスター (THM4) 異常 (室外ユニット)

- 操作スイッチの運転ランプが点滅し、設定表示部にアラームコードを表示します。
- ★ 運転中にサーミスターが短絡 ($0.2k\ \Omega$ 以下) か、断線 ($800k\ \Omega$ 以上) したと認識した場合、アラームコードを表示します。



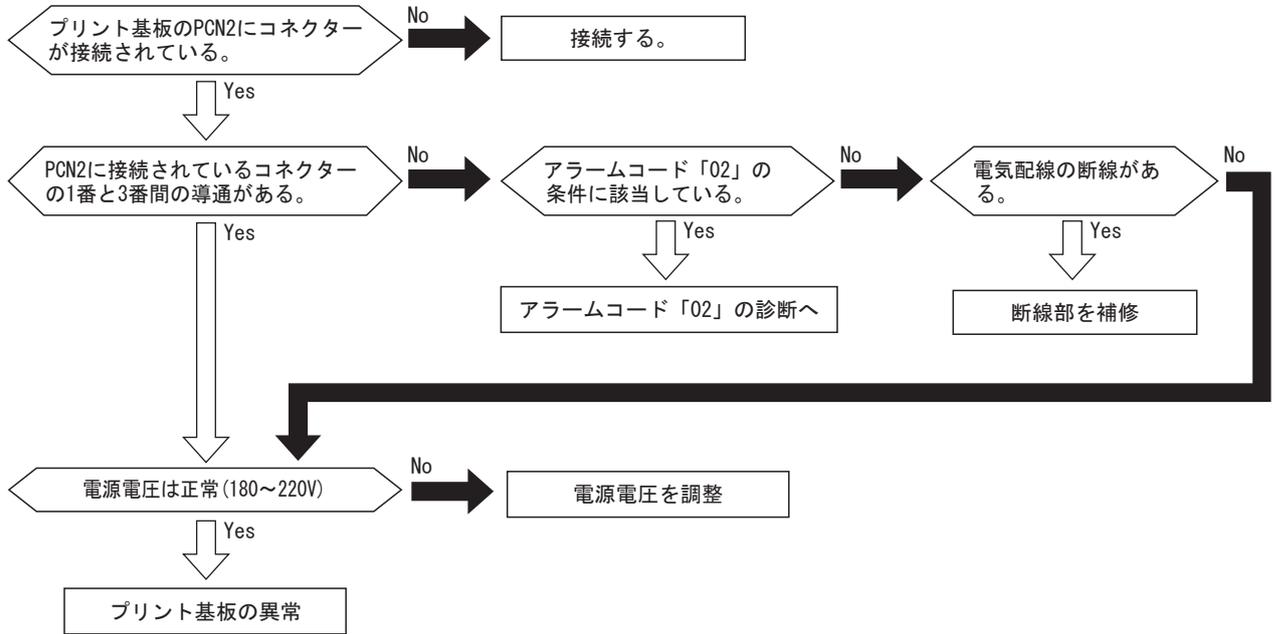
作動状況	原因	調査内容	処理・対策 (電源を切って実施)
外気温度 サーミスター故障	故障	抵抗値が適正であるか調査	サーミスター故障のとき交換
	接続不良	プリント基板への接続および 現地配線の接続を調査	配線・接続を直す。
プリント基板の故障		良品と交換して確認	プリント基板故障のとき交換

外気温度サーミスター抵抗値特性



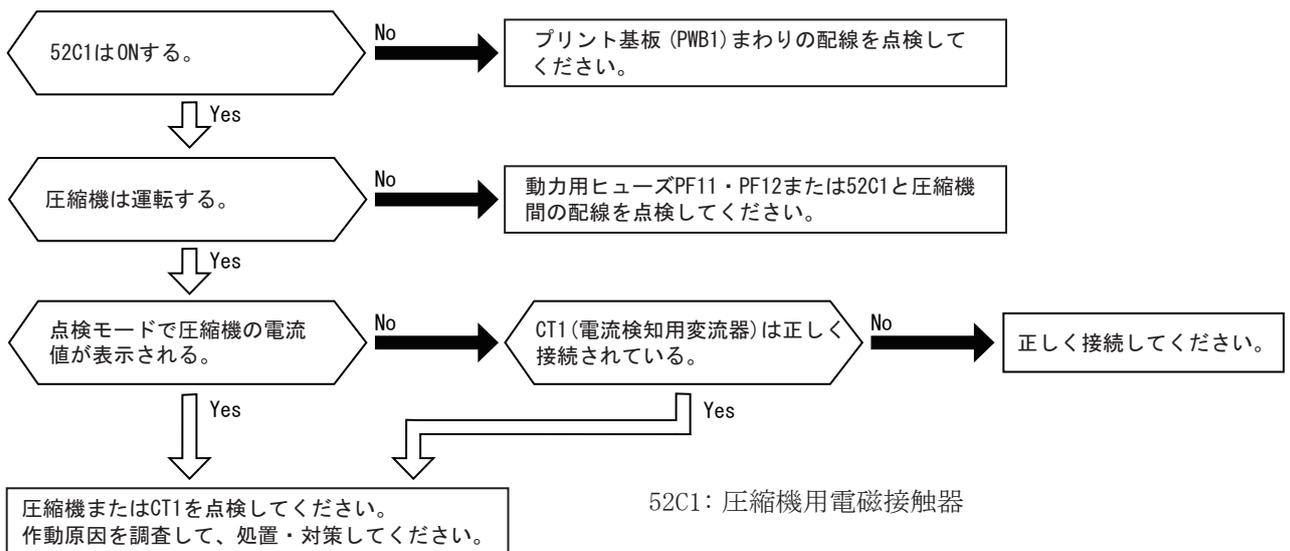
アラームコード **38** 保護検出回路異常

- 操作スイッチの運転ランプが点滅し、設定表示部にアラームコードを表示します。
- ★ 電源投入時に保護検出回路に異常があった場合、アラームコードを表示します。



アラームコード **39** 圧縮機電流異常

- 操作スイッチの運転ランプが点滅し、設定表示部にアラームコードを表示します。
- ★ 圧縮機運転中 (52C1 ON 中) に電流値が過電流制限値を超えた場合、または電流値が 0A の場合、運転を停止し、アラームコードを表示します。

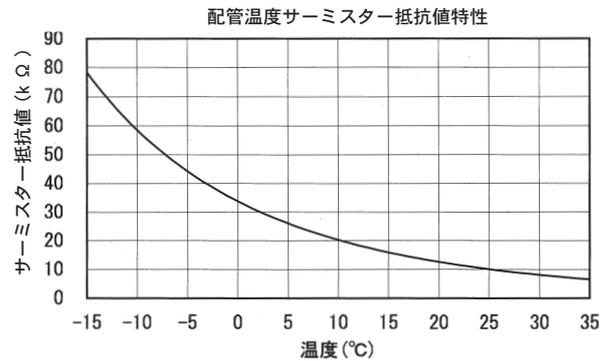
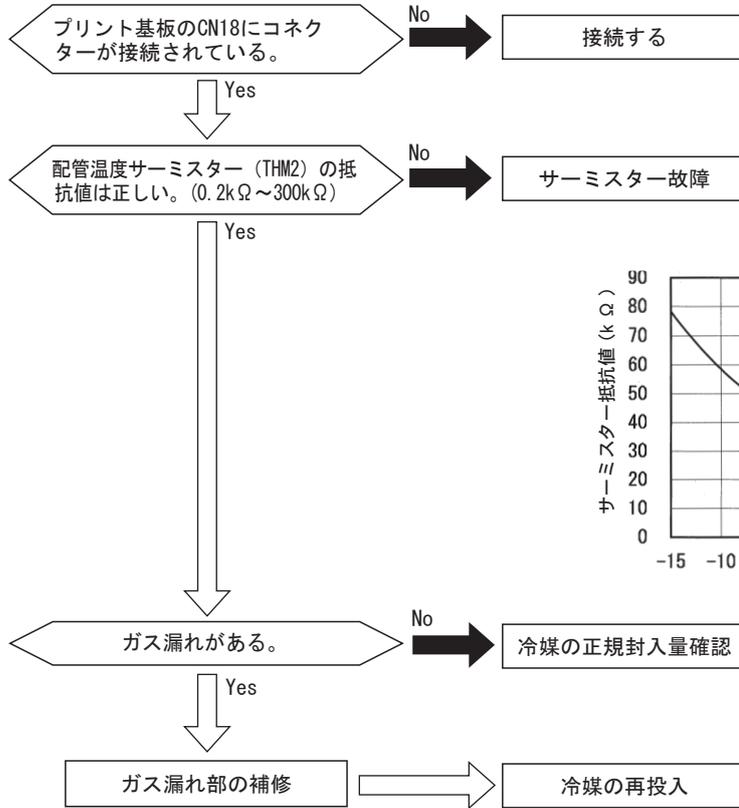


アラーム
コード

47

低圧圧力低下異常

- 操作スイッチの運転ランプが点滅し、設定表示部にアラームコードを表示します。
- ★ 圧縮機運転中に蒸発器出口配管温度が -30°C 以下を 10 分間継続した場合、運転を停止しアラームコードを表示します。



作動状況	原因	調査内容	処理・対策 (電源を切って実施)
配管温度 サーミスター異常	故障	抵抗値が適正であるか調査	サーミスター故障のとき交換
	接続不良	プリント基板への接続を調査	配線接続を直す。
プリント基板の故障		良品と交換して確認	プリント基板故障のとき交換
低圧側圧力が 低すぎるため 真空異常	阻止弁の開操作忘れ	阻止弁の開位置を確認	阻止弁を全開にする。
	電子膨張弁の故障および 誤動作	つまりがあるか調査	つまりを除去する。
		接続コード・コネクタを調査	コネクタを交換する。
		コイルが動作しているか	コイル交換
	ガス漏れ	圧縮機上温度サーミスターが正常か調査	サーミスター交換
		圧縮機上温度サーミスターが正しく取り付けられているか調査	サーミスター取り付けを直す。
		露点気温度と圧力の関係を調査	真空引き後、冷媒再封入
	ガス漏れ個所がないか調査	ガス漏れ個所の補修と真空引き後、冷媒再封入	

1 点検表示

室内プリント基板上の7セグメント (SEG1・SEG2) および点検スイッチ (PSW1～3) により、除湿機の運転状況、または各種冷凍サイクル温度などを把握することができます。

確認方法

①点検モードの表示

電源投入後、室内プリント基板上のPSW3を押すと、7セグメントに点検項目「AL」が表示されます。

②点検項目の選択

PSW1またはPSW2を押し、点検項目を選択します。点検項目を進める場合はPSW2を押し、戻す場合はPSW1を押してください。

③点検項目の状態表示

点検項目を選択後、PSW3を押すと、点検項目の状態値が表示されます。再度PSW3を押すと、点検項目に戻ります。

④点検の終了

点検を終了する場合、まず点検項目「AL」を表示させます。このとき、「AL」以外の点検項目を表示中の場合、PSW3を1秒以上長押しすると、点検項目「AL」にジャンプします。点検項目「AL」を表示させた後、PSW3を押して「AL」の状態値表示にすれば、通常表示となり、点検は終了となります。

(注)点検モードは、電源投入後、常時起動しており、点検項目「AL」の状態値を表示しています。



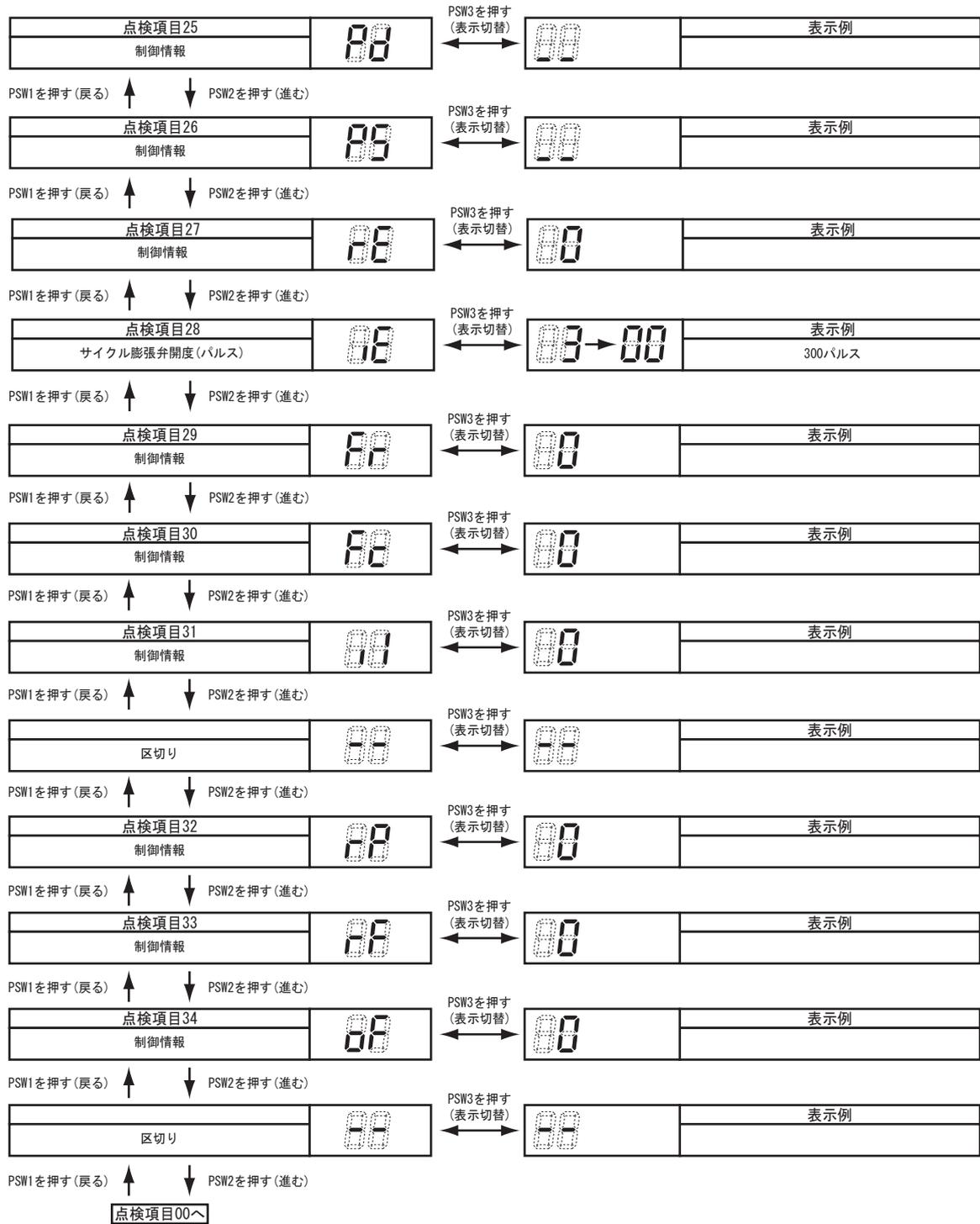
4. 製品の様子がおかしいときの処置

4.3 運転状態の確認

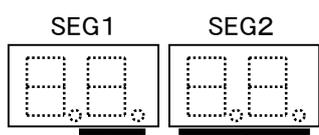
点検項目10 制御情報	00	PSW3を押す (表示切替)	00	表示例
PSW1を押す(戻る) ↑ ↓ PSW2を押す(進む)				
点検項目11 制御情報	00	PSW3を押す (表示切替)	00	表示例
PSW1を押す(戻る) ↑ ↓ PSW2を押す(進む)				
点検項目12 制御情報	00	PSW3を押す (表示切替)	00	表示例
PSW1を押す(戻る) ↑ ↓ PSW2を押す(進む)				
点検項目13 異常履歴1	00	PSW3を押す (表示切替)	00	表示例 アラームコード「19」(別表1による)
PSW1を押す(戻る) ↑ ↓ PSW2を押す(進む)				
点検項目14 異常履歴2	00	PSW3を押す (表示切替)	00	表示例 アラームコード「02」(別表1による)
PSW1を押す(戻る) ↑ ↓ PSW2を押す(進む)				
点検項目15 異常履歴3	00	PSW3を押す (表示切替)	00	表示例 アラームコード「11」(別表1による)
PSW1を押す(戻る) ↑ ↓ PSW2を押す(進む)				
点検項目16 制御情報	00	PSW3を押す (表示切替)	00	表示例
PSW1を押す(戻る) ↑ ↓ PSW2を押す(進む)				
点検項目17 入出力情報(室内ユニット)	00	PSW3を押す (表示切替)	00	表示例 外部出力「運転」
PSW1を押す(戻る) ↑ ↓ PSW2を押す(進む)				
点検項目18 リレー出力(室内ユニット)	00	PSW3を押す (表示切替)	00	表示例 室内ファン運転、SV2オン
PSW1を押す(戻る) ↑ ↓ PSW2を押す(進む)				
点検項目19 制御情報	00	PSW3を押す (表示切替)	00	表示例
PSW1を押す(戻る) ↑ ↓ PSW2を押す(進む)				
区切り	00	PSW3を押す (表示切替)	00	表示例
PSW1を押す(戻る) ↑ ↓ PSW2を押す(進む)				
点検項目20 瞬時停電回数	00	PSW3を押す (表示切替)	00	表示例 2回
PSW1を押す(戻る) ↑ ↓ PSW2を押す(進む)				
点検項目21 制御情報	00	PSW3を押す (表示切替)	00	表示例
PSW1を押す(戻る) ↑ ↓ PSW2を押す(進む)				
点検項目22 外気温度(°C)	00	PSW3を押す (表示切替)	00	表示例 30°C
PSW1を押す(戻る) ↑ ↓ PSW2を押す(進む)				
点検項目23 圧縮機上部温度(°C)	00	PSW3を押す (表示切替)	00	表示例 80°C
PSW1を押す(戻る) ↑ ↓ PSW2を押す(進む)				
点検項目24 制御情報	00	PSW3を押す (表示切替)	00	表示例
PSW1を押す(戻る) ↑ ↓ PSW2を押す(進む)				

4. 製品の様子がおかしいときの処置

4.3 運転状態の確認



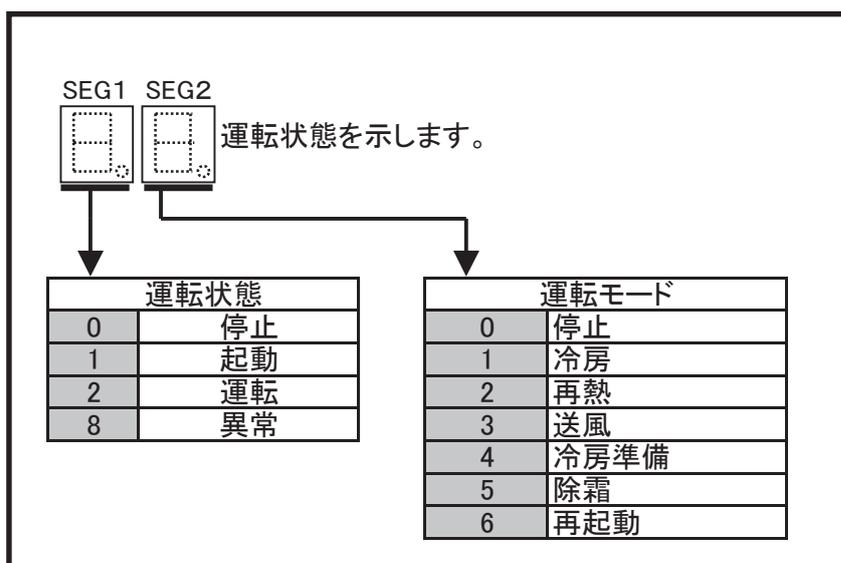
別表1: 点検項目00 アラームコード



室内側の理由でアラーム表示された場合、SEG 1(左側)に室内ユニット番号が表示されます。

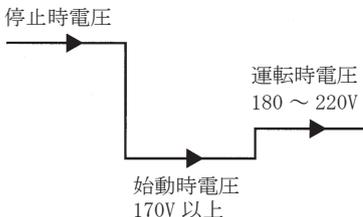
アラームコード	異常内容	異常検出条件												
01	外部機器異常 (応用機能設定時のみ)	応用機能設定時、外部機器の異常が10秒継続												
02	高圧遮断装置(63H)の作動	圧縮機吐出圧力が4.15MPa以上												
	室内送風機用インターナルサーモスタット(49FE)の作動 [2・3馬力相当機]	室内ファンモーターに内蔵のインターナルサーモスタットが130℃以上												
05	室内送風機用過電流継電器(51FE)の作動 [5・8・10馬力相当機]	室内ファンモーターの電流値が下表の値以上												
		<table border="1"> <tr> <td>相当馬力</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>電流値(A)</td> <td>2.8</td> <td>6.2</td> <td>9.0</td> </tr> </table> <p>(注)復帰させるには、室内ユニット電気箱内の過電流継電器(51FE)を手動リセットする必要があります</p>	相当馬力	5	8	10	電流値(A)	2.8	6.2	9.0				
相当馬力	5	8	10											
電流値(A)	2.8	6.2	9.0											
08	相検出異常	主電源の逆相または欠相												
11	圧縮機上部温度上昇	圧縮機上部温度が127℃以上・・・10分継続 または140℃以上・・・5秒継続												
13	吸込空気用サーミスター (THM1)異常	サーミスターの断線・短絡またはコネクター部(CN14)のゆるみ・外れ												
15	配管用サーミスター (THM2)異常	サーミスターの断線・短絡またはコネクター部(CN18)のゆるみ・外れ												
20	吸込空気用湿度センサー (THU)異常	湿度センサーの異常またはコネクター部(CN14)のゆるみ・外れ												
22	圧縮機上用サーミスター (THM3)異常	サーミスターの断線・短絡またはコネクター部(CN16)のゆるみ・外れ												
38	外気温度サーミスター (THM4)異常 [冷却機能付機のみ]	サーミスターの断線・短絡またはコネクター部(CN7)のゆるみ・外れ												
39	保護検出回路異常	保護検出回路の断線およびコネクター部(PCN2)のゆるみ・外れ												
47	圧縮機電流異常	圧縮機の電流値が 0Aまたは右表の値以上												
		<table border="1"> <tr> <td>相当馬力</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>電流値(A)</td> <td>13</td> <td>18</td> <td>34</td> <td>48</td> <td>63</td> </tr> </table>	相当馬力	2	3	5	8	10	電流値(A)	13	18	34	48	63
相当馬力	2	3	5	8	10									
電流値(A)	13	18	34	48	63									
	低圧圧力低下異常	蒸発器出口配管温度が -30℃以下・・・10分継続												

別表2: 点検項目「ST」 運転状態の表示内



1 保守基準表

表 5・1 保守基準

点検項目	点検頻度	規格(処置)	備考	
総合	(1) 騒音	随時	聴覚にて異常のないこと 特に圧縮機・送風機およびカバーの音に注意	正面前方 1m 程度の位置で判断すること
	(2) 振動	同上	触感または視覚にて異常振動のないこと	
	(3) 圧縮機の始動・停止頻度	同上	1 時間に 6 回以内のこと	多いときは風のショートサーキット・負荷の減少・オン/オフ温度差過少が考えられる
ユニット	(1) 汚れ	随時	柔らかい布でふきとる	ベンジン・シンナー・クレンザーは絶対に使用しない
	(2) さび	同上	防錆塗料で補修する	
	(3) がたつき	同上	ねじ類の増し締めを行う	
	(4) 断熱材のはがれ	同上	接着剤ではりつける	接着剤としてノガワケミカル製ダイヤボンドなどを使用する
	(5) 水漏れ	1 回/月	水受・ドレン配管を清掃する	
圧縮機	(1) 騒音	随時	始動時・運転時および停止時において聴覚にて異常のないこと	
	(2) 絶縁抵抗	1 回/年	DC500V 絶縁抵抗計にて 3M Ω 以上のこと	
	(3) 防振ゴムの老化	同上	常に触感による弾性を有すること	
	(4) 端子箱内の点検	同上	配線が確実に行われていること	
熱交換器の目づまり		1 回/月 (1 回/週)	フィン部に目づまりがある場合は汚れを除去のこと 汚れがひどいときは中性洗剤を併用して随時実施のこと	
電気関係	(1) 電源電圧	随時	電源電圧は下図であること 	停止時に対する運転時の電圧降下は 4V (電源電圧の 2% 以下) を目安としてください。停止時 200V、運転中 196V の時、電圧降下 4V、始動電流は運転電流の 5~8 倍のため (始動時 7 倍として) $200 - (4 \times 7) = 172V$ (始動時電圧) となる。
	(2) 絶縁抵抗	1 回/年	各機器とも DC500V 絶縁抵抗計にて 1M Ω 以上のこと	
	(3) 電線の接触	同上	締付部のゆるみ、被覆のはがれないこと	
	(4) アース線	随時	正しく取り付けられていること	
	(5) ヒューズ	同上	正しい容量のものが取り付けられていること	
	(6) 電磁接触器	随時	オン/オフを数回繰り返して、うなり音の発生のないこと 外観に異常のないこと	オン/オフの繰り返しは 3 分以上の間隔で行うこと
	(7) 補助継電器	同上	作動がスムーズに行われること	
	(8) 操作スイッチ	同上	運転・停止が確実に行われること 設定変更がスムーズに行われること	
送風機関係	(1) 振動・騒音	随時	感覚にて異常のないこと	
	(2) ファン	同上	正しい方向に回転し、風量が正規量であること	
	(3) 絶縁抵抗	1 回/年	DC500V 絶縁抵抗計にて 3M Ω 以上のこと	
冷媒漏れ	1 回/年	各機器並びに配管接続部を発泡剤またはリークテスターにて点検し、冷媒漏れのないこと	推奨発泡剤 ■ギュポフレックス(横河商事)	

1 運転状態の確認

次の点について運転状態を確認してください。

(1) 電流値

運転電流は100%負荷で定格電流「6.1 仕様表」(100～105 ページ)の(80～120%の範囲であることを確認してください。

(2) 低圧圧力

低圧圧力に異常のないことを確認してください。

運転圧力と吸込空気温湿度の関係は「2.3 試運転手順」(14～23 ページ)の項をご参照ください。

(3) 高圧圧力

高圧圧力に異常のないことを確認してください。

運転圧力と吸込空気温湿度の関係は「2.3 試運転手順」(14～23 ページ)の項をご参照ください。

(4) 吐出ガス温度

吐出ガス温度が極端に高くないこと(120℃以下であること)を確認してください。

(5) 吸込空気温湿度

吸込空気温湿度が使用温湿度範囲内であることを確認してください。使用温湿度範囲は「6.2 使用基準」(106 ページ)の項をご参照ください。

<室内プリント基板の簡易点検方法>

製品の様子がおかしいときは、以下の点検を行ってください。

① 電源ブレーカー、またはヒューズが切れていないか。

電源ブレーカーの2次電圧、ヒューズの導通をテスターにより調べてください。

② 室内プリント基板上のLED表示

室内ユニット電気品箱内のプリント基板上のLED表示により、伝送状態を判断することができます。

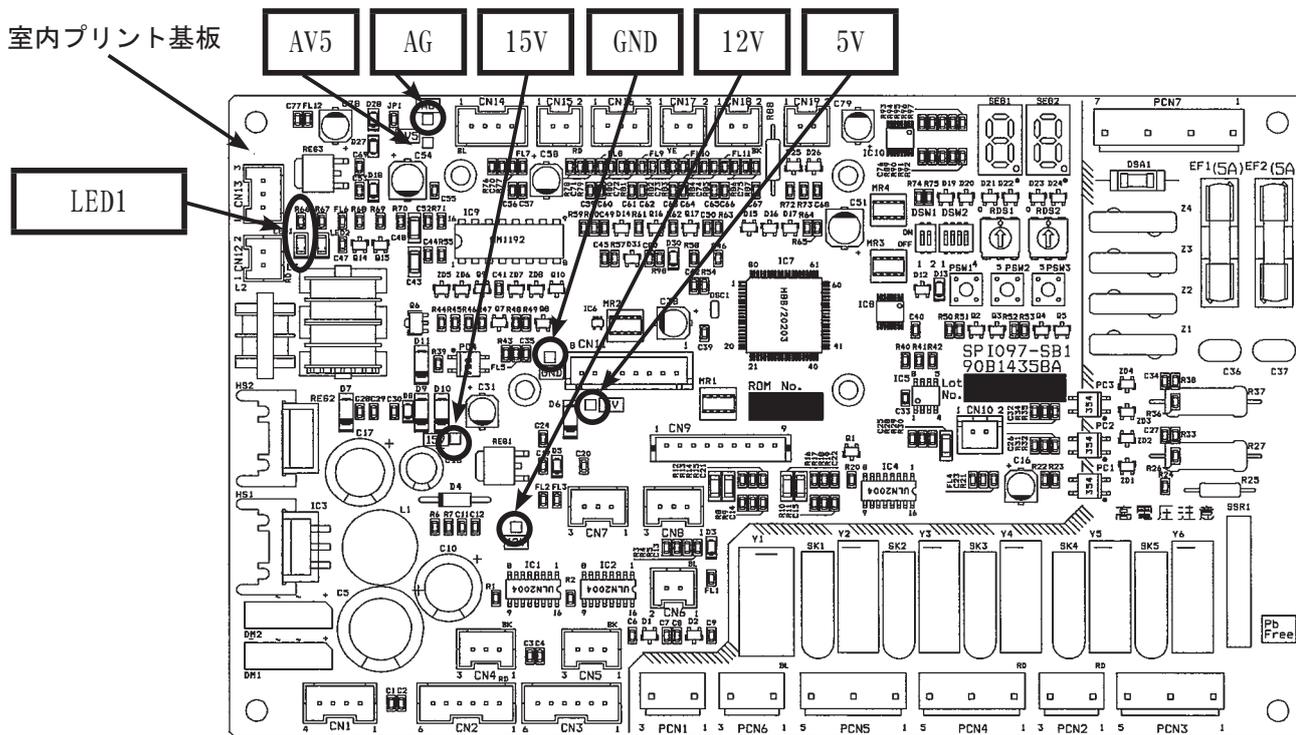
(LEDの位置は次項の図象を参照してください。)

LED No.	正常時	異常時	備考
LED1 (赤)	点滅	点灯または消灯	室外ユニットリモコンの伝送

③ 室内プリント基板上のDC電圧が正しく出力されているか。

室内ユニット電気品箱内のプリント基板にある下表のテストピン間の電圧をテスターにより測定し、正しく出力されていることを確認してください。(15V・12V・5V・GND・AV5・AGの位置は下図を参照してください。)

測定箇所	電圧
15V - GND間	15 ± 1V
12V - GND間	12 ± 1V
5V - GND間	5 ± 0.5V
AV5 - AG間	5 ± 0.5V



留意事項

室内プリント基板の取り扱いには十分注意してください。

1. 通常は絶対に触らないでください。
2. 点検する際は、絶対に素手で触らないでください。静電気発生防止用手袋を着用してください。
3. 室内プリント基板表面の電子部品には触らないでください。

すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

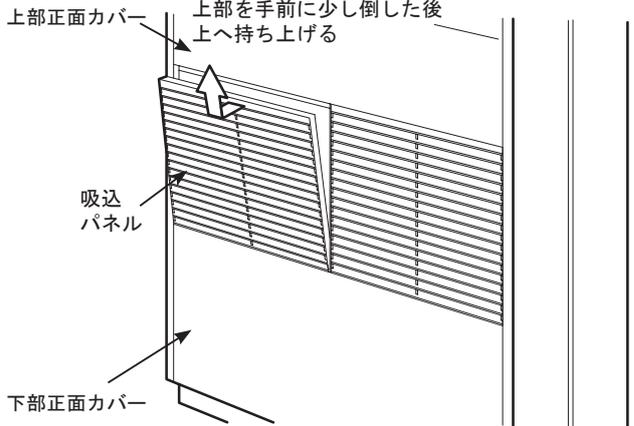
1 室内ユニット

主要部品の取外要領については、次に述べる手順によって行ってください。また、主要部品を組み込むときは、取外方法と逆の手順によって行ってください。

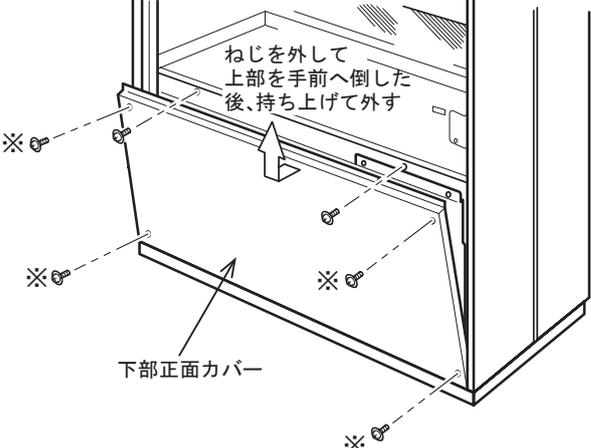
なお、冷凍サイクル部品を取り外したまま冷凍サイクルを放置しますと、水分やゴミが冷凍サイクル中に混入しますので、取り外し後速やかに交換する部品を組み込んでください。また、本資料は代表的な製品の図象で記載しますので、機種により図象が異なる場合があります。

(1) 正面カバーの取り外し

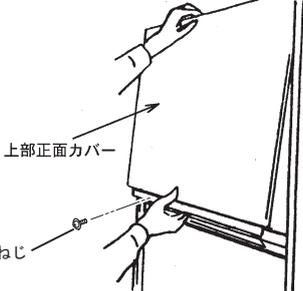
① 吸込パネルの取り外し

手 順	使用工具
<p>1. 吸込パネルは、永久磁石により上部正面カバーと下部正面カバーとの間に取り付けてあります。吸込パネルを取り外す場合には、吸込パネル上部を手前に倒して上へ持ち上げてください。</p>	 <p>上部正面カバー</p> <p>上部を手前に少し倒した後 上へ持ち上げる</p> <p>吸込 パネル</p> <p>下部正面カバー</p>

② 下部正面カバーの取り外し

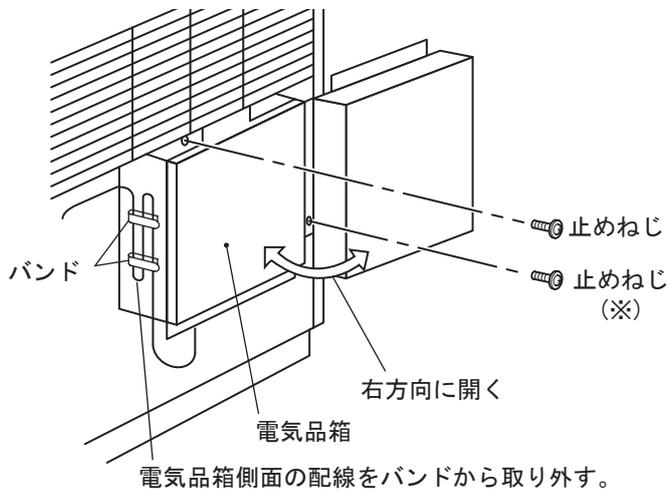
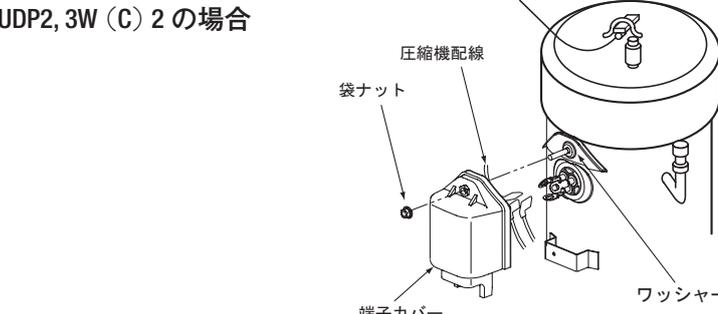
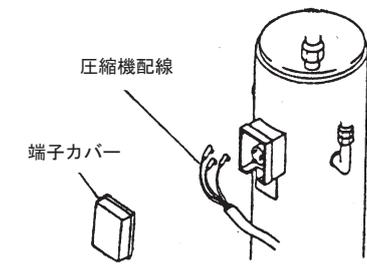
手 順	使用工具										
<p>1. 吸込パネルを取り外した後、下部正面カバーの上部を固定しているねじ（下表）を外して、下部正面カバーを上方に持ち上げて取り外します。</p> <p>※印部（4本）は、UDP2, 3W(C) 2のみです。</p> <table border="1" data-bbox="263 1467 694 1657"> <thead> <tr> <th>型式</th> <th>本数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>UDP2, 3W(C) 2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>UDP5W(C) 2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>UDP8W(C) 2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>UDP10W(C) 2</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	型式	本数	UDP2, 3W(C) 2	3	UDP5W(C) 2	2	UDP8W(C) 2	3	UDP10W(C) 2	4	<p>プラスドライバー</p>  <p>ねじを外して 上部を手前へ倒した 後、持ち上げて外す</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>下部正面カバー</p>
型式	本数										
UDP2, 3W(C) 2	3										
UDP5W(C) 2	2										
UDP8W(C) 2	3										
UDP10W(C) 2	4										

③ 上部正面カバーの取り外し

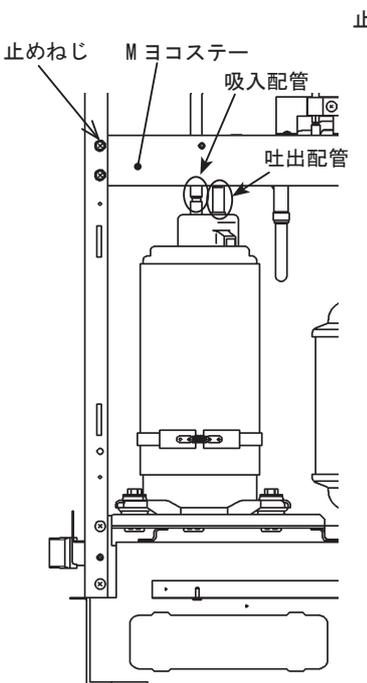
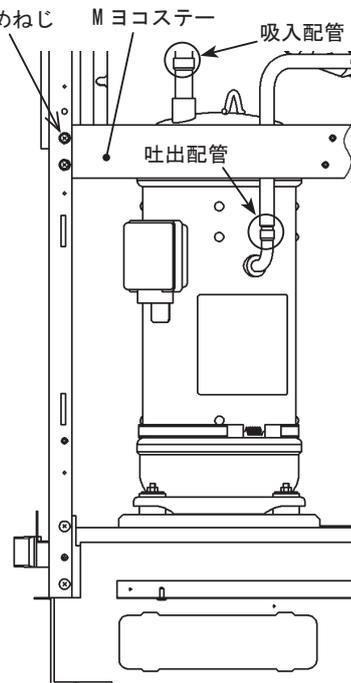
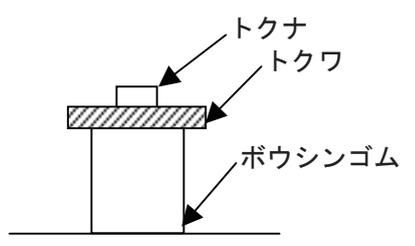
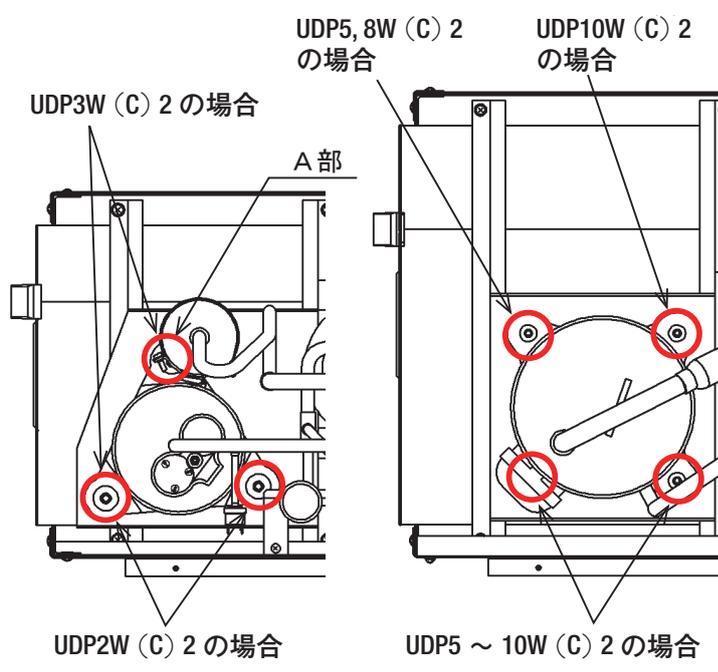
手 順	使用工具								
<p>1. 吸込パネルを取り外した後、上部正面カバーの下部を固定しているねじ（下表）を外して、上部正面カバーを上方に持ち上げて取り外します。</p> <table border="1" data-bbox="199 1982 726 2128"> <thead> <tr> <th>型式</th> <th>本数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>UDP2～5W(C) 2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>UDP8W(C) 2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>UDP10W(C) 2</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	型式	本数	UDP2～5W(C) 2	2	UDP8W(C) 2	3	UDP10W(C) 2	4	<p>プラスドライバー</p>  <p>上部正面カバー</p> <p>ねじ</p>
型式	本数								
UDP2～5W(C) 2	2								
UDP8W(C) 2	3								
UDP10W(C) 2	4								

すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

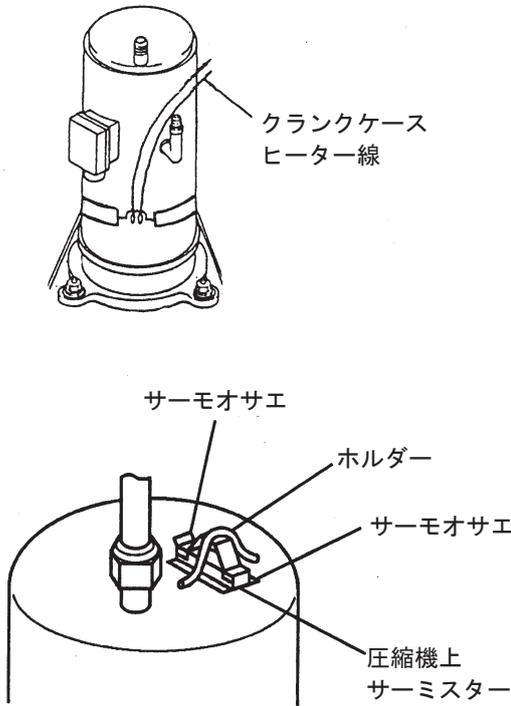
(2) 圧縮機の取り外し

手 順	使用工具
<p>1. 前ページ「(1) ②下部正面カバーの取り外し」の要領に従って、正面カバーを取り外します。</p> <p>2. 高圧側、低圧側チェックジョイントより冷媒を回収します。必ずダブルスパナ作業で行ってください。 チェックジョイントの位置は、製品ごとに異なりますので、「6.4 構造図」(118～125ページ)をご参照ください。</p> <p>3. 電気品箱の止めねじ(2本)を外し、電気品箱を右方向に開きます。 (UDP2, 3W (C) 2のみ)</p> <div data-bbox="95 884 662 1019" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>留意事項 電気箱を開く際、右下にある止めねじ(※部)を確実に外してください。外し忘れた場合、電気箱が変形します。</p> </div>	<p>プラスドライバー・チャージホース・モンキーレンチ(2本)・ろう付け器具一式</p> 
<p>4. 圧縮機に取り付けている防音カバーを取り外してください。</p> <p>5. 圧縮機の端子カバーを取り外し、圧縮機配線を取り外します。(その際、端子記号とマークバンドを確認してください。取り付け時に配線を間違えると圧縮機が逆転し、破損する場合があります。)</p>	
	<p>UDP2, 3W (C) 2の場合</p>  <p>UDP5W (C) 2の場合</p>  <p>UDP8, 10W (C) 2の場合</p>

すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

手 順	使用工具	プラスドライバー・チャージホース・ モンキーレンチ (2本) ・ろう付け器具一式	
<p>6. Mヨコステーの左右端を固定している止めねじ (1本) を外し、Mヨコステーを取り外します。</p> <p>7. 吸入配管・吐出配管のろう付け部を取り外します。</p>		 <p>止めねじ Mヨコステー 吸入配管 吐出配管</p> <p>UDP2, 3W (C) 2 の場合</p>	 <p>止めねじ Mヨコステー 吸入配管 吐出配管</p> <p>UDP5 ~ 10W (C) 2 の場合</p>
<p>8. 圧縮機を固定しているナットを外します。A部 (UDP3W (C) 2のみ) は、トクナおよびトクワを取り外してください。</p>		 <p>トクナ トクワ ボウシゴム</p> <p>UDP3W (C) 2 の場合</p>	 <p>UDP5, 8W (C) 2 の場合</p> <p>UDP10W (C) 2 の場合</p> <p>A部</p> <p>UDP2W (C) 2 の場合</p> <p>UDP5 ~ 10W (C) 2 の場合</p>

すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

手 順	使用工具	プラスドライバー・チャージホース・モンキーレンチ (2本)・ろう付け器具一式
<p>9. 圧縮機のクランクケースヒーター線を取り外します。</p> <p>10. 圧縮機上サーミスター、サーモオサエ、ホルダーを取り外します。(UDP5~10W (C) 2のみ) 圧縮機交換後、使用する部品ですので、なくさないよう保管してください。</p> <p>11. 圧縮機を上方へ持ち上げて取り外します。</p>		 <p>The diagram consists of two parts. The top part shows a cylindrical compressor with a wire labeled 'クランクケースヒーター線' (Crankcase heater wire) connected to a terminal. The bottom part shows a top view of the compressor with labels for 'サーモオサエ' (Thermistor), 'ホルダー' (Holder), 'サーモオサエ' (Thermistor), and '圧縮機上サーミスター' (Top compressor thermostat).</p>

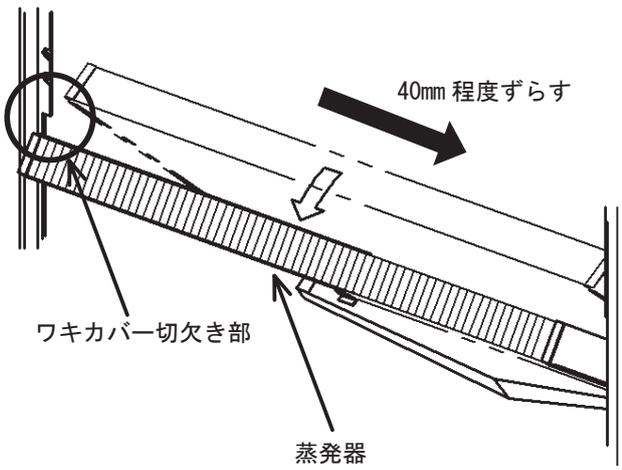
留 意 事 項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 圧縮機を取り外したまま冷凍サイクルを放置しますと、水分やごみが冷凍サイクル中に混入しますので、取り外し後すみやかに交換する圧縮機を組み込んでください。やむをえず長時間放置する場合は、吸入配管および吐出配管にキャップをしてください。 2. サービス圧縮機のキャップは、圧縮機交換直前に外してください、 なお、組み込みの際に圧縮機内にごみが入らないよう、吸入管・吐出管にテーピングなどをして組み込み、配管接続時に外してください。 3. 再組立時の配線接続は、圧縮機の端子番号と配線マークバンド記号を確実に一致させて結線してください。配線番号をまちがえると圧縮機が逆回転し、破損します。
----------------	---

すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

(3) 熱交換器（蒸発器）の取り外し

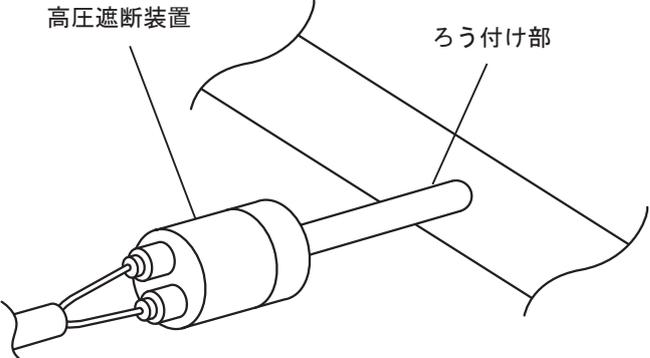
手 順	使用工具 プラスドライバー・チャージホース・スパナ・ モンキーレンチ・ろう付け器具一式
<p>1. 「(1)②下部正面カバーの取り外し」(69ページ)の要領に従って、正面カバーを取り外します。</p> <p>2. 高圧側、低圧側チェックジョイントより冷媒を回収します。必ずダブルスパナ作業で行ってください。 チェックジョイントの位置は「6.4 構造図」(118～125ページ)をご参照ください。</p> <p>3. ツユウケを取り外します。ツユウケは蒸発器とMヨコステーに止めねじで3カ所固定されています。 (UDP8, 10W (C) 2のみ)</p> <p>4. 蒸発器の入口側および出口側の配管接続部のろう付けを取り外します。</p> <p>5. エバマエイタ・エバシキリイタ左右および蒸発器を固定しているねじ(9本)を外し、エバマエイタ・エバシキリイタ左右を取り外します。 (UDP8, 10W (C) 2のエバシキリイタ左は蒸発器の背面側にありますので、取り外す必要はありません。)</p>	

すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

手 順	使用工具	プラスドライバー・チャージホース・モンキーレンチ・ろう付け器具一式
<p>6. 蒸発器の配管固定、ねじをすべて外した後、蒸発器を右方向へ40mm程度ずらし、ワキカバーの切欠き部まで手前側に倒します。</p> <p>7. ワキカバーの切欠き部より蒸発器を引き抜きます。</p> <div data-bbox="97 672 663 871" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>留意事項</p> <p>製品内部はサイクル配管が複雑に引き回されています。蒸発器を引き抜く際に蒸発器の配管が、他のサイクル配管と干渉し引き出しにくい場合は、取り外す蒸発器の配管を切断したり、干渉するサイクル配管を一旦取り外すなどの処置を行ってください。</p> </div>		 <p style="text-align: center;">ワキカバー切欠き部</p> <p style="text-align: center;">蒸発器</p>

すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

(4) 高圧遮断装置の取り外し

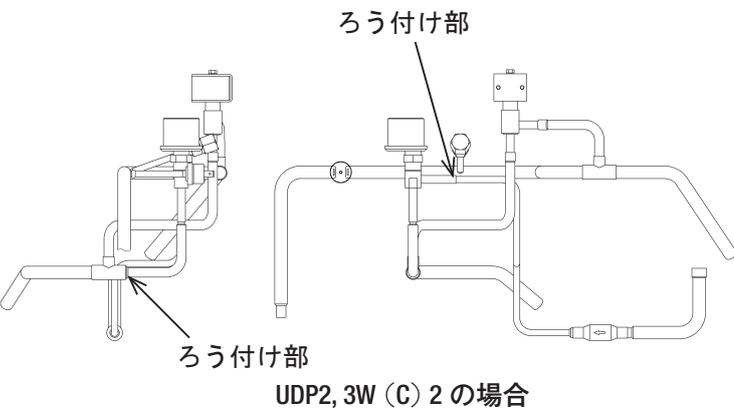
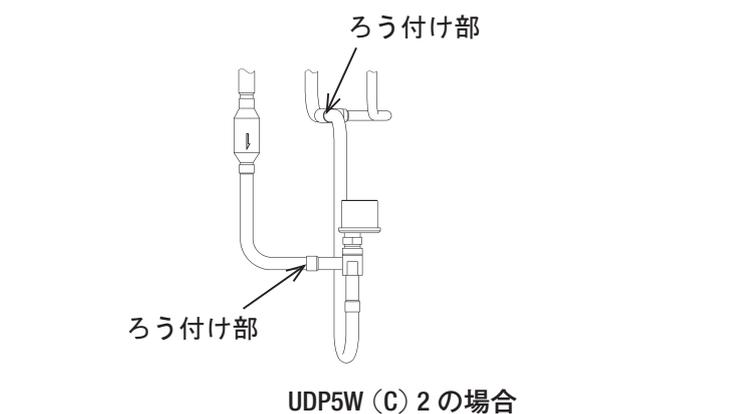
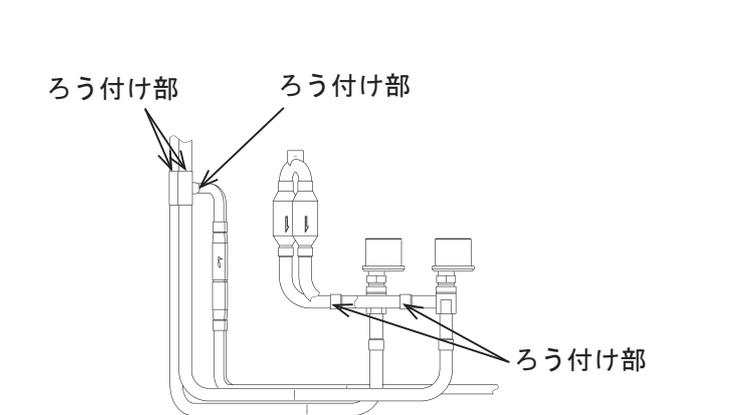
手 順	使用工具	ろう付け器具一式
<ol style="list-style-type: none"> 「(1) ②下部正面カバーの取り外し」(69 ページ)の要領に従って、下部正面カバーを取り外します。 チェックジョイントより冷媒を回収します。「(2) 圧縮機の取り外し」(70 ページ)を参照してください。 バーナーでろう付け部をあぶりながら高圧遮断装置を取り外します。 高圧遮断装置の位置は、製品ごとに異なりますので「6.4 構造図」(118 ~ 125 ページ)をご参照ください。 		

留意事項

高圧遮断装置を取り外したまま冷凍サイクルを放置しますと、水分やごみが冷凍サイクル中に混入しますので、取り外し後速やかに交換する高圧遮断装置を組み込んでください。やむを得ず長時間放置する場合は、シールしてください。

すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

(5) 電子膨張弁の取り外し

手 順	使用工具						
<p>1. 「(1) ②下部正面カバーの取り外し」(69 ページ)の要領に従って、正面カバーを取り外します。</p> <p>2. 高圧側、低圧側チェックジョイントより冷媒を回収します。必ずダブルスパナ作業で行ってください。 チェックジョイントの位置は、製品ごとに異なりますので、「6.4 構造図」(118～125 ページ)をご参照ください。</p> <p>3. 電子膨張弁の配線の中継している接続コネクタを外します。 (UDP5W (C) 2 は、電気品箱内です)</p> <p>4. 電子膨張弁本体を濡れ雑巾で冷却しながらろう付け部を取り外します。 (電子膨張弁の位置は「(9) ①四方弁コイルの取り外し」(82 ページ)を参照してください。)</p>	<p>モンキーレンチ (2 本)・ろう付け器具一式 濡れ雑巾</p>  <p>ろう付け部</p> <p>ろう付け部</p> <p>UDP2, 3W (C) 2 の場合</p>  <p>ろう付け部</p> <p>ろう付け部</p> <p>UDP5W (C) 2 の場合</p>  <p>ろう付け部</p> <p>ろう付け部</p> <p>ろう付け部</p> <p>UDP8, 10W (C) 2 の場合</p>						
<table border="1" data-bbox="124 1310 673 1415"> <thead> <tr> <th></th> <th>電子膨張弁の数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>UDP2～5W (C) 2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>UDP8, 10W (C) 2</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>		電子膨張弁の数量	UDP2～5W (C) 2	1	UDP8, 10W (C) 2	2	
	電子膨張弁の数量						
UDP2～5W (C) 2	1						
UDP8, 10W (C) 2	2						

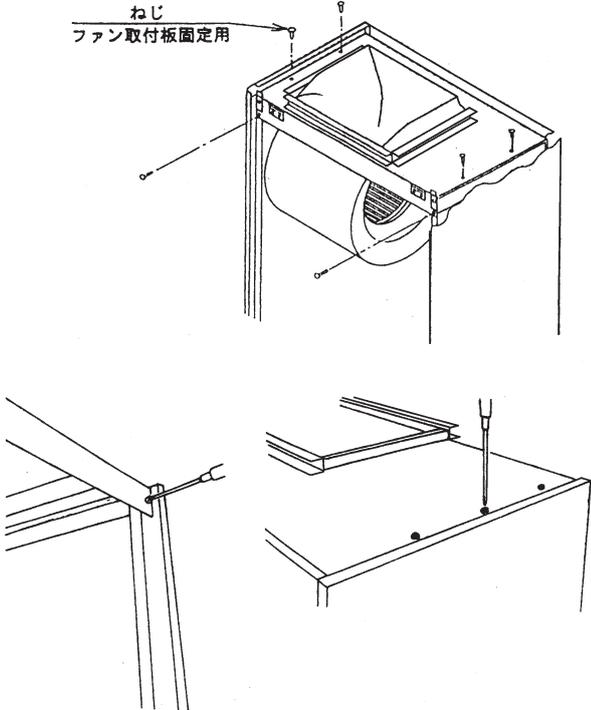
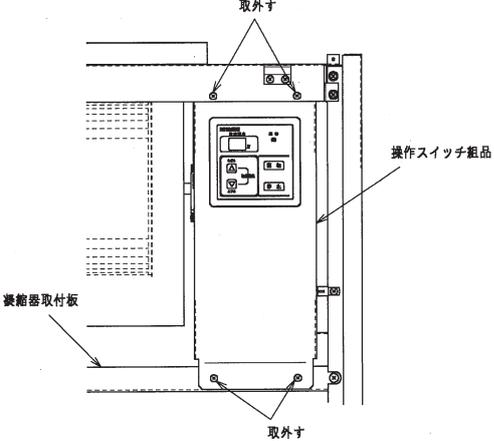
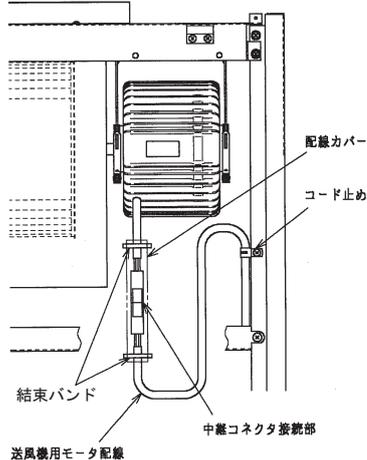
すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

(6) 電子膨張弁コイルの取り外し【電子膨張弁コイルの取り外しの際は、冷媒を回収する必要はありません。】

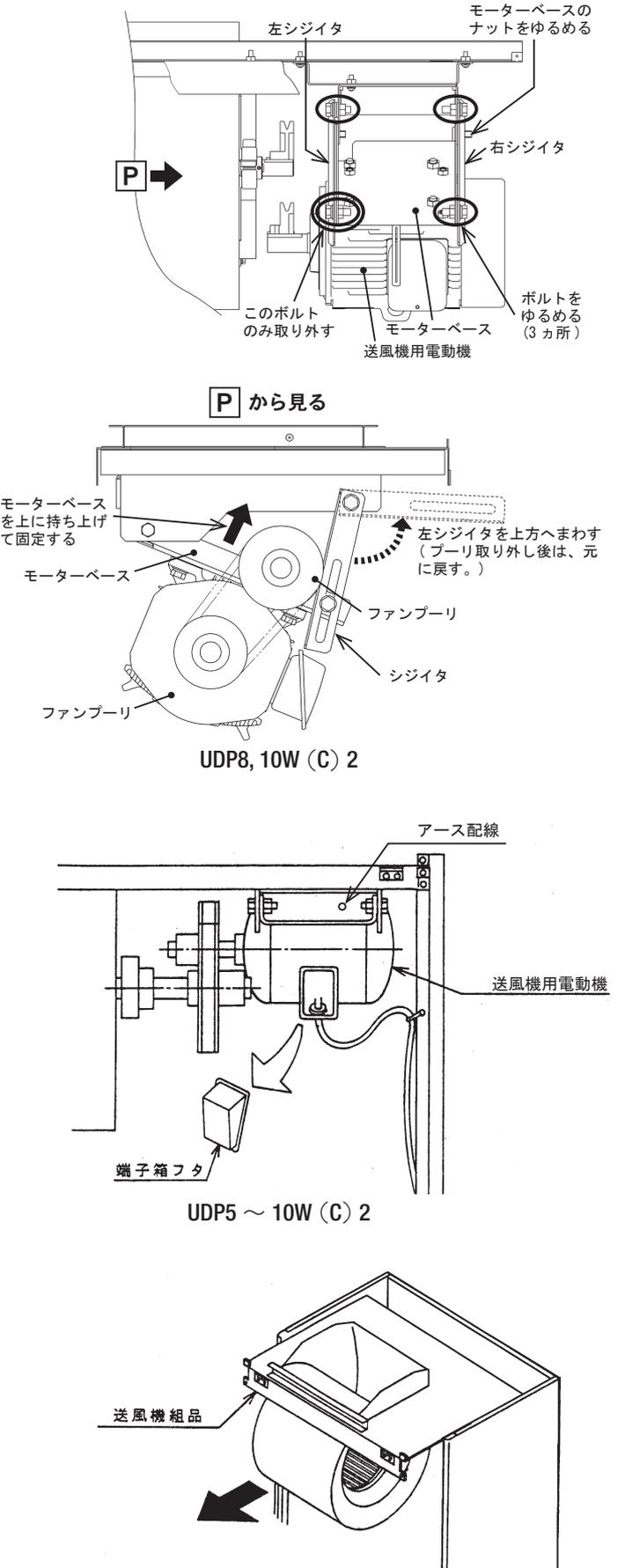
手 順	使用工具
<p>1. 「(1) ②下部正面カバーの取り外し」(69 ページ)の要領に従って、下部正面カバーを取り外します。電子膨張弁が正面にあります。(UDP5W (C) 2は電気品箱の裏側にあります。)</p> <p>2. スパナを2個(19番・14番)用意し、一方で本体平径部分をくわえ、他方でロックナットをゆるめます。ロックナットはモーター側からみて反時計方向に回せばゆるみます。</p> <div data-bbox="172 730 777 842" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>留意事項 モーター部を手を持ってスパナを使用しないでください。(駆動部底部がからまわりし、破損します。)</p> </div> <p>3. ロックナットを数回回転させるとねじから外れ、駆動部を外すことができます。</p> <p>4. 交換用の駆動部を用意します。これは交換用としてドライバ(駆動ねじ)の位置出しが行われているもの(サービス部品として設定されたもの)に限って使用してください。</p> <div data-bbox="172 1173 777 1301" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>留意事項 交換作業を通して、ゴミや異物が分離部分に入らないようにご注意ください。(分離にて露出した部分は、弁の機構部に相当します。)また、工具で接合部にキズをつけたりしないでください。</p> </div> <p>5. 交換用の駆動部を本体にあてがい両者の軸が揃うように保持し、ロックナットを本体側ねじへ結合させます。</p> <p>6. ある程度手締めにより締め付けた後、スパナにて締め付けてください。締め付トルクは、12N・m～15N・mとしてください。</p> <div data-bbox="172 1624 777 1930" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>留意事項 この際、モーターを手で持つなどモーター部に強い回転トルクや曲げ荷重が加わらないようにご注意ください。モーターの偏心部の方向は弁体横のパイプ断手と逆の方向へ向けた状態を基準にして工場組立されていますが、この向きが変化しても弁の開閉機能には影響しません。したがって交換により交換前のモーター位置に対し、回転方向のずれを生じても手や工具で無理に位置合わせをする必要はありません。(図2. 駆動部取付図参照)</p> </div> <p>7. 以上の作業が終了しましたら、コネクターの接続を行ってください。</p>	<p>スパナ(19・14)・モンキーレンチ・プラスドライバー・トルクスパナ</p> <div data-bbox="906 398 1412 974" style="text-align: center;"> </div> <p>図1. 膨張弁本体</p> <p>回転方向のずれOK (ただし、配管などに接触しないようにご注意ください。)</p> <div data-bbox="1098 1214 1220 1411" style="text-align: center;"> </div> <p>図2. 駆動部取付図</p>

すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

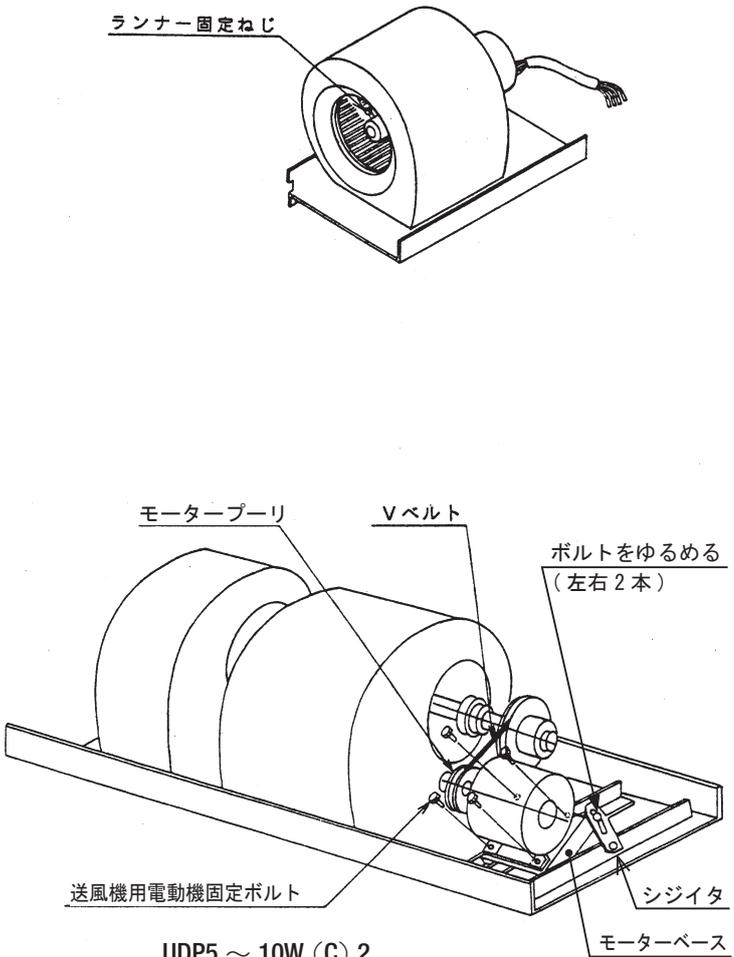
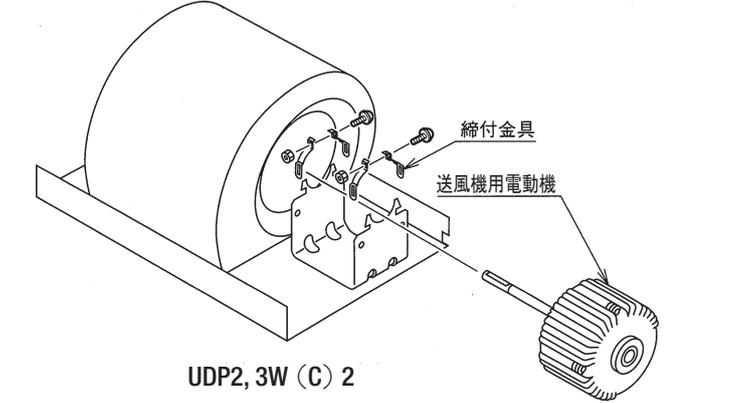
(7) 送風機用電動機の取り外し

手 順	使用工具						
<p>1. 「(1) ③上部正面カバーの取り外し」(69 ページ)の要領に従って、上部正面カバーを取り外します。</p> <p>2. ファン取付板を固定しているねじを外します。</p> <table border="1" data-bbox="116 840 643 945"> <thead> <tr> <th></th> <th>ねじ本数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>UDP2 ~ 5W (C) 2</td> <td>6 本</td> </tr> <tr> <td>UDP8, 10W (C) 2</td> <td>8 本</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 本体右上上部の操作スイッチ組品を取り外します。取り外した操作スイッチ組品は、凝縮器の上に乗せてください。その際、凝縮器フィンに傷つけない様に注意してください。また、操作スイッチ組品からは操作スイッチ用ケーブルが出ていますので、ケーブルに無理な力がかからない様に注意してください。</p> <p>4. 右側面カバーに付いているコード止めから送風機用モーター配線を取り外します。送風機用モーター配線についている配線カバー上下の結束バンドを切り外し、中継コネクター接続部を上下に引っばって中継コネクターを外します。 (UDP2, 3W (C) 2)</p> <div data-bbox="108 1771 209 1906" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>チェック ポイント</p> </div> <p>送風機用電動機の配線を外すときは、必ず端子の本体をつかんで外してください。配線部分を引っばると接続不良の原因となります。</p>		ねじ本数	UDP2 ~ 5W (C) 2	6 本	UDP8, 10W (C) 2	8 本	<p>モンキーレンチ・スパナ・ニッパー 六角レンチ・プーリ抜き・プラスドライバー</p>    <p style="text-align: center;">UDP2, 3W (C) 2</p>
	ねじ本数						
UDP2 ~ 5W (C) 2	6 本						
UDP8, 10W (C) 2	8 本						

すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

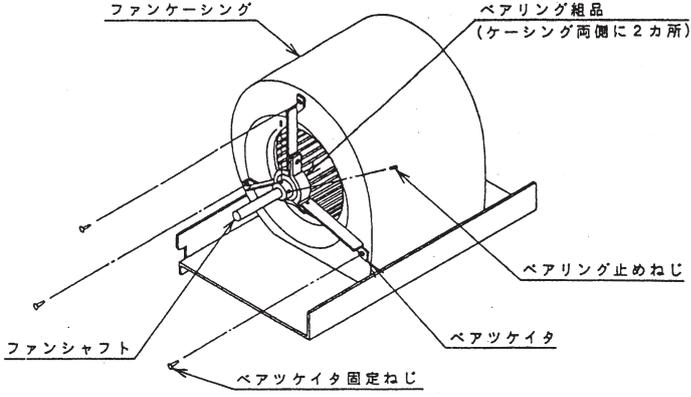
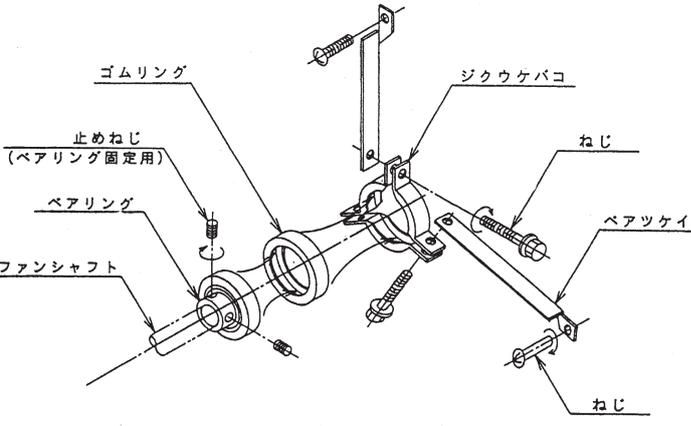
手 順	使用工具
<p>5. 送風機用電動機から電気配線を取り外します。</p> <p>UDP5W (C) 2 の場合 送風機用電動機の端子箱フタを取り外し、端子に取り付けてある送風機電動機用配線を取り外します。また、送風機用電動機アース配線も外しておきます。</p> <p>UDP8, 10W (C) 2 の場合</p> <ol style="list-style-type: none"> ①左右のシジイタおよびモーターベースを固定しているボルト・ナットをゆるめ、Vベルトを取り外します。(左シジイタは1カ所のみボルトを取り外す) ②ファンシャフトからファンプーリを取り外します。ファンプーリはシャフト(キー)に止めねじ1カ所で固定されています。キーは交換完了後も使用するので、作業中ではなくさないように保管してください。 ③モーターベースを上を持ち上げ、(1)でゆるめたボルト・ナットを再度固定してください。 ④送風機用電動機の端子箱フタを取り外し、端子に取り付けてある送風機電動機用配線を取り外します。また、送風機用電動機のアース配線も外しておきます。 <p>6. 送風機組品を手前にスライドさせながら室内ユニットより取り外します。</p>	<p>モンキーレンチ・スパナ・ニッパー 六角レンチ・プーリ抜き・プラスドライバー</p>  <p>①左右のシジイタおよびモーターベースを固定しているボルト・ナットをゆるめ、Vベルトを取り外します。(左シジイタは1カ所のみボルトを取り外す)</p> <p>②ファンシャフトからファンプーリを取り外します。ファンプーリはシャフト(キー)に止めねじ1カ所で固定されています。キーは交換完了後も使用するので、作業中ではなくさないように保管してください。</p> <p>③モーターベースを上を持ち上げ、(1)でゆるめたボルト・ナットを再度固定してください。</p> <p>④送風機用電動機の端子箱フタを取り外し、端子に取り付けてある送風機電動機用配線を取り外します。また、送風機用電動機のアース配線も外しておきます。</p> <p>6. 送風機組品を手前にスライドさせながら室内ユニットより取り外します。</p>
<p>留意事項</p> <p>UDP8, 10W (C) 2の送風機組品の総質量は、約70 kgあります。取り外しの際は、複数人で作業するようにしてください。</p>	

すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

手 順	使用工具
<p>7. 送風機組品を上下逆にして床面において、送風機ランナー固定用ねじ（四角ボルト×1本）をゆるめます。 (UDP2, 3W (C) 2)</p>	<p>モンキーレンチ・スパナ・ニッパー 六角レンチ・プーリ抜き・プラスドライバー</p>
<p>送風機組品の上下逆にして床面において、モーターベースに固定している左右のシジイタのボルトをゆるめます。送風機用電動機固定ボルト（4本）を外し、送風機用電動機を取り外します。その際、Vベルトとモータープーリも合わせて取り外します。 (UDP5～10W (C) 2)</p>	
<p>8. モーターベースに送風機用電動機を固定している締付金具を外し、ランナーから送風機用電動機のシャフトを抜きながら、送風機用電動機を取り外します。 (UDP2, 3W (C) 2)</p>	

すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

(8) ベアリングの取り外し (UDP5 ~ 10W (C) 2 のみ)

手 順	使用工具	プラスチックドライバー・スパナ・モンキーレンチ・六角レンチ
<p>1. 「(7) 送風機用電動機の取り外し」(78 ページ) に従って、送風機用電動機を取り外します。</p> <p>2. ベアリングをファンシャフトに固定している止めねじ (2 本×2 カ所) をゆるめます。ベアツケイタをファンケーシングに固定しているねじ (3 本×2 カ所) を外し、ベアリング組品をファンシャフトから引き抜きます。</p>		 <p style="text-align: center;">UDP5 ~ 10W (C) 2</p>
<p>3. ベアツケイタをジクウケバコに固定しているねじ (3 本) を外し、ジクウケバコを分解して、ゴムリングとベアリングを取り外します。</p>		 <p style="text-align: center;">UDP5 ~ 10W (C) 2</p>

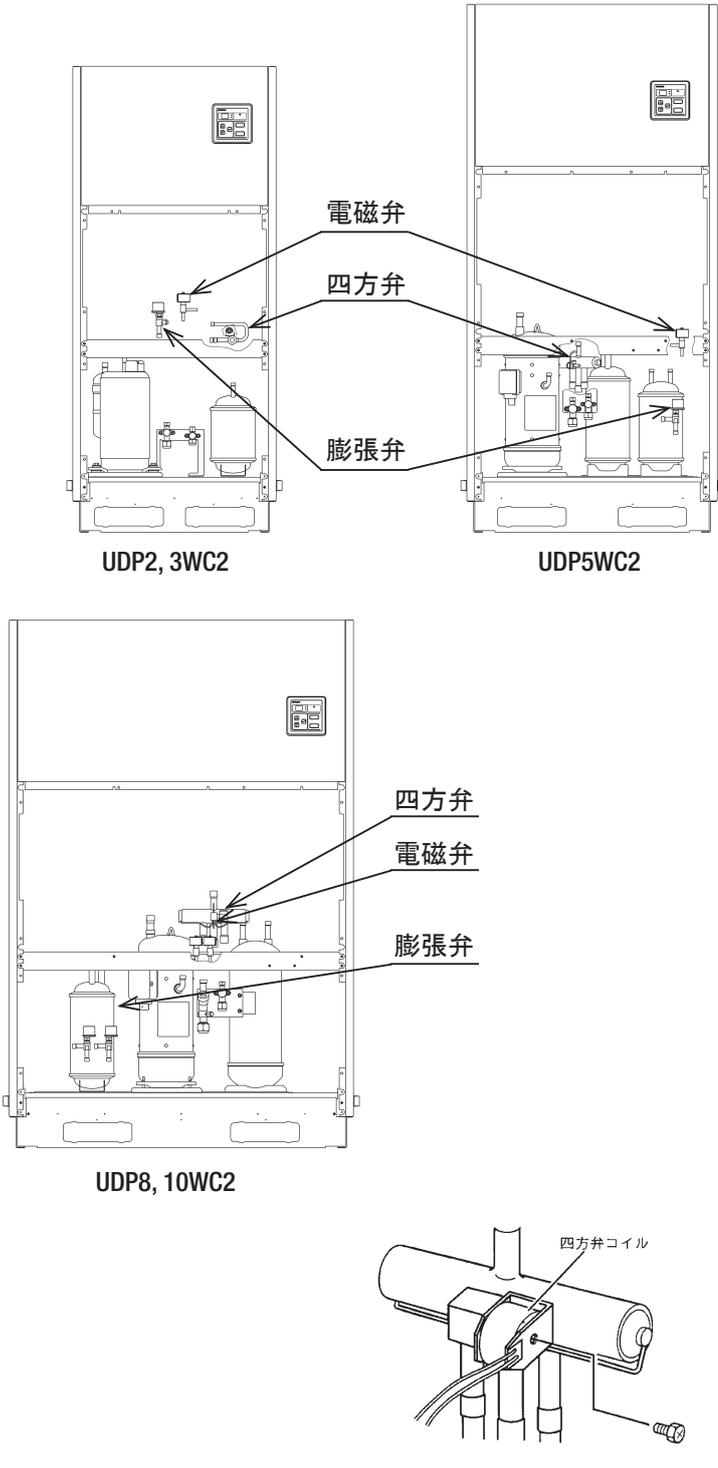
すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

(9) 冷凍サイクル部品の取り外し

冷凍サイクル部品の取り外しは、電源を遮断し、低圧側チェックジョイントより冷媒を回収した後に、実施してください。

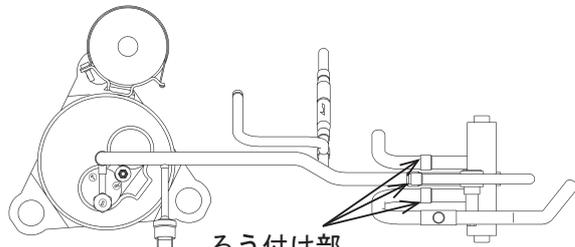
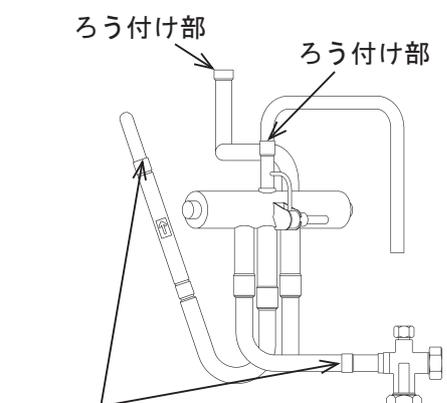
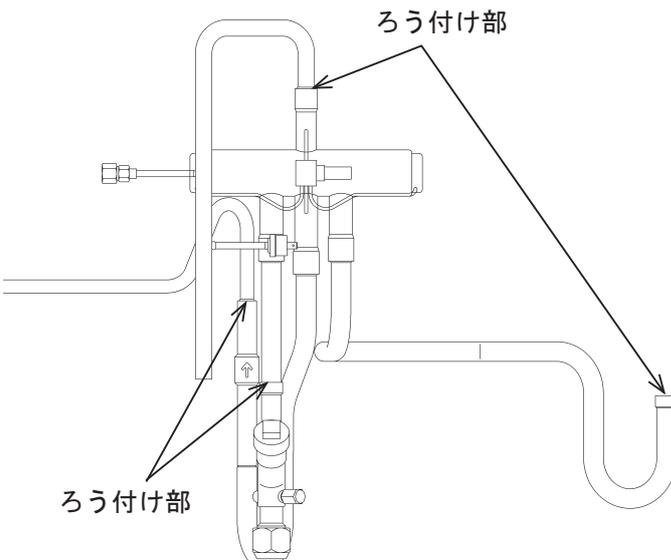
なお、四方弁または逆止弁の取り外し、あるいは交換部品の取り付けの際には、四方弁または逆止弁の本体部分を濡れ雑巾で冷却しながら、バーナーであぶるようにしてください。また、ろう付けする場所の近くに熱交換器やゴム、樹脂製部品などがある場合は、鉄板などで覆い損傷しないよう注意してください。

① 四方弁コイルの取り外し (UDP2 ~ 10WC2 のみ)

手 順	使用工具
<p>1. 「(1) ②下部正面カバーの取り外し」(69 ページ)の要領に従って、下部正面カバーを取り外します。</p> <p>2. 四方弁の配線の中継している接続コネクタを外します。(UDP5WC2 は電気品箱内にあります。)</p> <p>3. 四方弁コイルを取り外します。この際にプラスドライバーが入らない場合、だるま型プラスドライバー・スパナ・モンキーレンチを使用してください。</p>	<p>プラスドライバー・スパナ・モンキーレンチ(2本) プラスドライバー(だるま型)</p> 

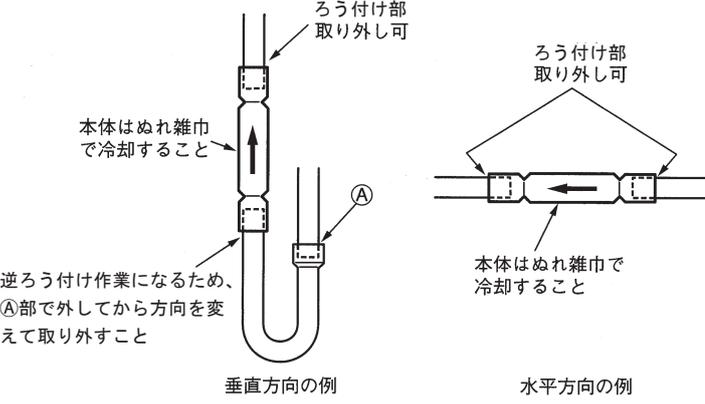
すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

②四方弁の取り外し (UDP2 ~ 10WC2 のみ)

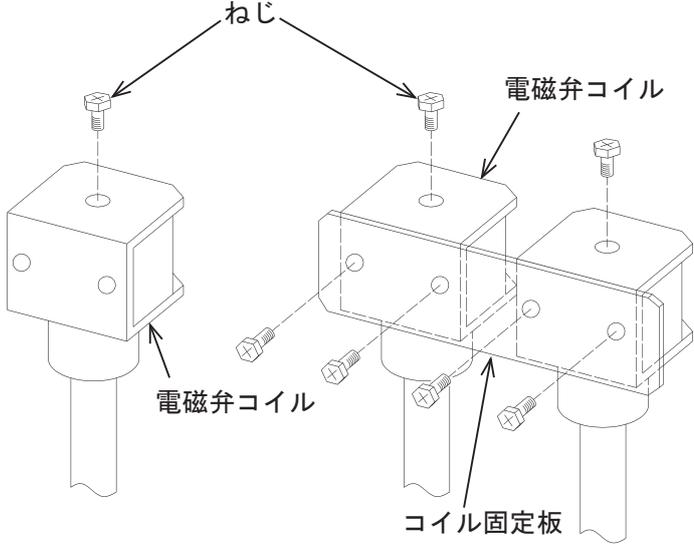
手 順	使用工具
<p>1. 「(1) ②下部正面カバーの取り外し」(69 ページ) の要領に従って、下部正面カバーを取り外します。</p> <p>2. チェックジョイントより冷媒を回収します。「(2) 圧縮機の取り外し」(70 ページ) を参照してください。</p> <p>3. 下記手順にてろう付け部を外してください。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;"> チェックポイント </div> <p>四方弁を取り外す際には、ぬれ雑巾などで四方弁本体を冷却しながら行ってください。また、四方弁を取り外したまま放置しますと、水分やごみが冷凍サイクル中に混入しますので、取り外し後すみやかに交換する四方弁を組み込んでください。やむをえず長時間放置する場合には、シールをしてください。</p> <p>ろう付け部を取り外してください。 フレアナット接続部を取り外してください。</p>	<p>チャージホース・ろう付け器具一式・濡れ雑巾</p> <div style="text-align: center;">  <p>ろう付け部</p> <p>UDP2, 3WC2 の場合</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ろう付け部</p> <p>ろう付け部</p> <p>ろう付け部</p> <p>UDP5WC2 の場合</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ろう付け部</p> <p>ろう付け部</p> <p>UDP8, 10WC2 の場合</p> </div>

すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

③ 逆止弁およびストレーナーの取り外し

手 順	使用工具
<p>1. 「(1) ②下部正面カバーの取り外し」(69 ページ)の要領に従って、下部正面カバーを取り外します。</p> <p>2. 逆止弁およびストレーナーのろう付け部を取り外します。 取り外しの際に、逆止弁およびストレーナー本体をバーナーであぶりますと、シート面が熱により変形しますので、必ず本体を濡れ雑巾で冷却しながら作業を行ってください。 なお、逆ろう付け作業になる個所は、部組レベルで取り外してから、方向を変えて作業してください。</p>	<p>ろう付け器具一式・濡れ雑巾</p> 

④ 電磁弁コイルの取り外し

手 順	使用工具
<p>1. 「(1) ②下部正面カバーの取り外し」(69 ページ)の要領に従って、下部正面カバーを取り外します。</p> <p>2. 電磁弁の配線を中継している接続コネクタを外します。 (UDP2～5W (C) 2は電気箱内にあります。)</p> <p>3. 電磁弁コイルを取り外します。この際にプラスドライバーが入らない場合、だるま型プラスドライバー、スパナまたはモンキーレンチを使用してください。 (電磁弁の位置は「(9) ①四方弁コイルの取り外し」(82・83 ページ)を参照してください。)</p>	<p>プラスドライバー・スパナ・モンキーレンチ(2本) プラスドライバー(だるま型)</p> 

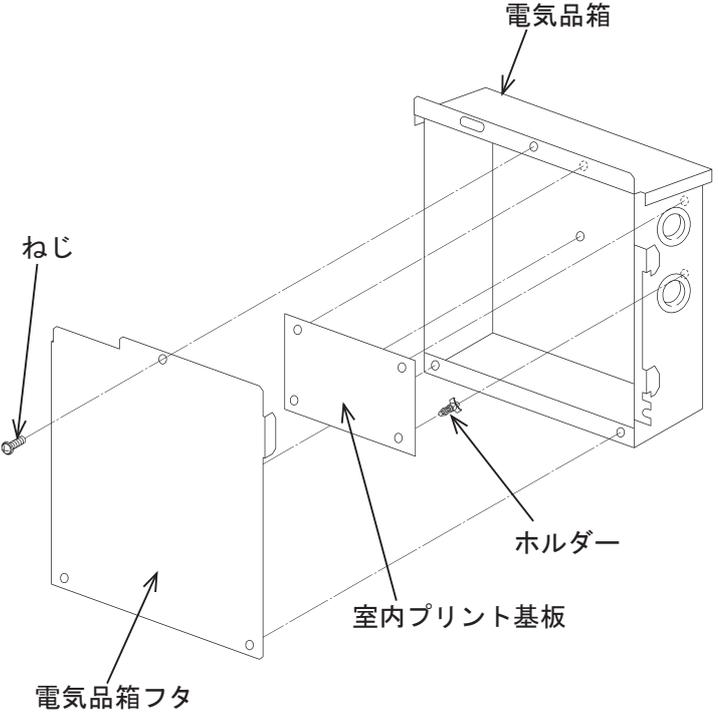
すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

(10) 操作スイッチの取り外し

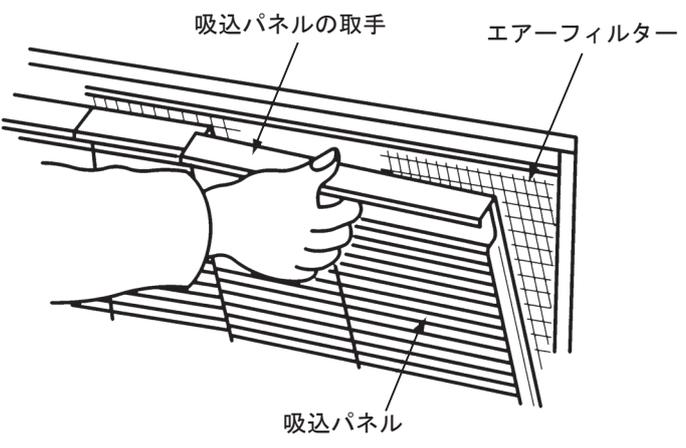
手 順	使用工具	プラスドライバー・マイナスドライバー
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「(1) ③上部正面カバーの取り外し」(69 ページ) に従い上部正面カバーを取り外してください。 本体上部に操作スイッチがあります。 2. 操作スイッチの下側にある切り欠き部に、マイナスドライバーを押し付けながら回転させて操作スイッチカバーを取り外します。 3. 操作スイッチベースから、プリント基板と操作スイッチカバーを取り外します。 4. プリント基板からケーブルを取り外します。 取り外したケーブルの先端は、ビニールテープなどで絶縁してください。 		

すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

(11) 室内プリント基板の取り外し

手 順	使用工具	プラスドライバー・ラジオペンチ
<p>1. 「(1) ②下部正面カバーの取り外し」(69 ページ)の要領に従って、下部正面カバーを取り外します。 本体右下部に電気品箱があります。</p> <p>2. 電気品箱フタを固定しているねじ(3本)を外し、電気品箱フタを取り外します。</p> <p>3. 室内プリント基板に接続されている配線をすべて取り外し、室内プリント基板を支えているホルダーの先端をラジオペンチなどでつまんで、室内プリント基板を取り外してください。</p> <div data-bbox="119 963 662 1120" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>留意事項 ラジオペンチなどでプリント基板をキズ付けないよう注意してください。</p> </div>		

(12) エアークフィルターの取り外し

手 順	使用工具	
<p>1. 「(1) ①吸込パネルの取り外し」(69 ページ)の要領に従って、吸込パネルを取り外します。</p> <p>2. エアークフィルターは蒸発器の手前に挿入されています。エアークフィルターを持って、斜め上に引き抜くようにして取り外してください。</p>		

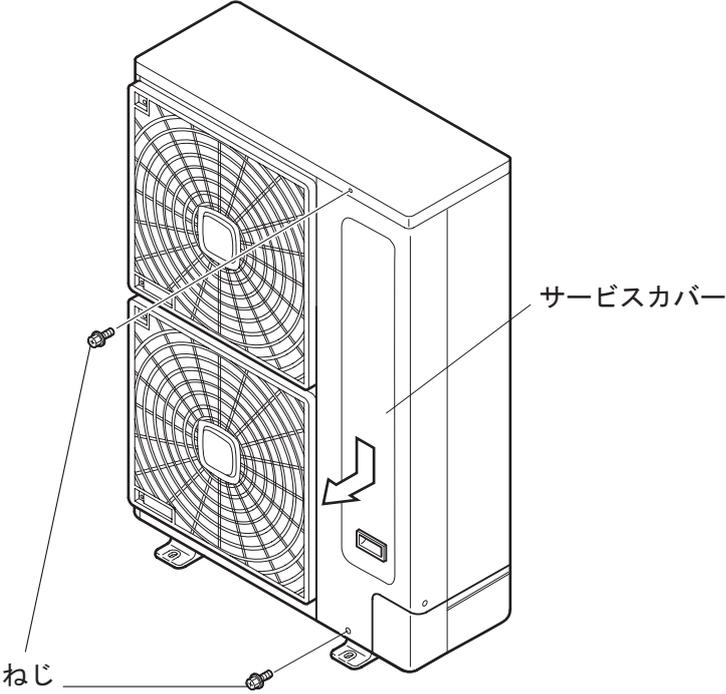
すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

2 室外ユニット (UDRCP2 ~ 5WC1)

主要部品の取り外し要領については、次に述べる手順によって行ってください。また、主要部品を組み込むときは、取り外し方法と逆の手順によって行ってください。

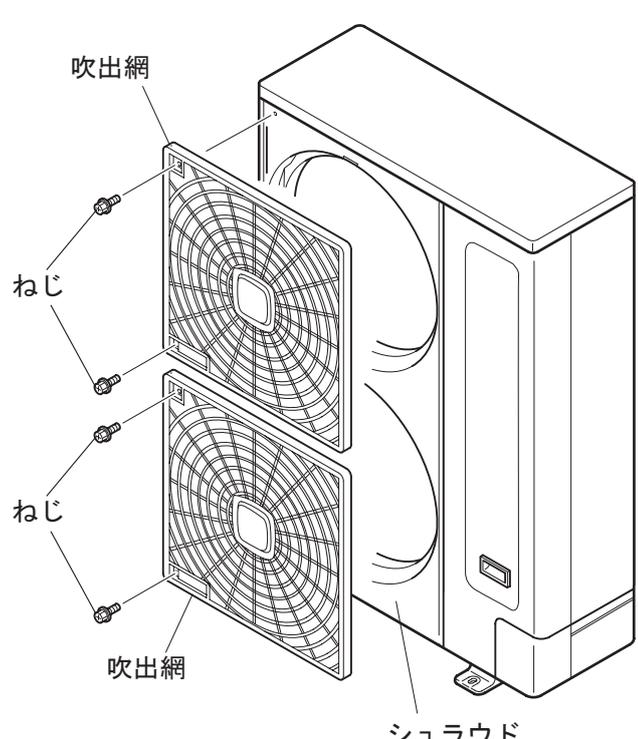
なお、冷凍サイクル部品を取り外したまま冷凍サイクルを放置しますと、水分やゴミが冷凍サイクル中に混入しますので、取り外し後速やかに交換する部品を組み込んでください。また、本資料は代表的な製品の図象で記載しますので、機種により図象が異なる場合があります。

(1) サービスカバーの取り外し

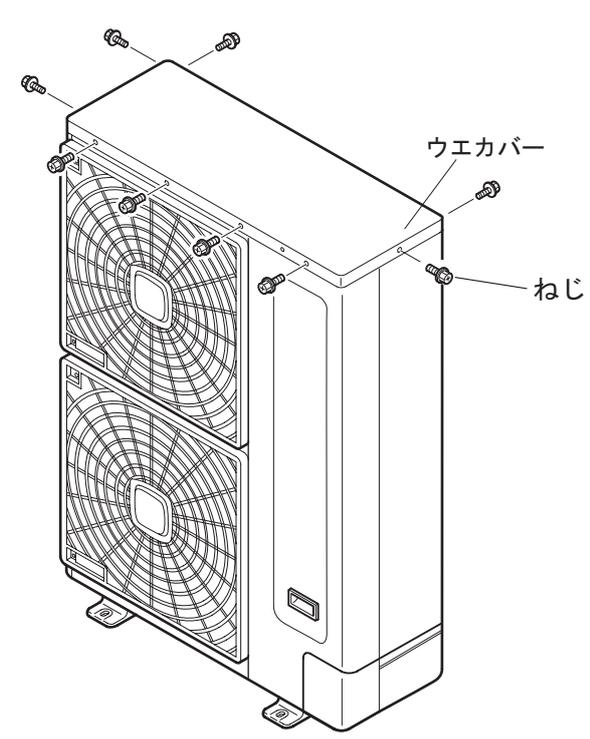
手 順	使用工具	プラスドライバー
<p>1. 上下に固定しているねじ (2 本) を外した後、サービスカバーを下向きに引き出して取り外します。この際、サービスカバーが落下しないように注意して作業してください。</p>		

すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

(2) 吹出網の取り外し

手 順	使用工具	プラスドライバー
<p>1. 各吹出網を固定しているねじ (2本×2カ所) を外します。</p>		

(3) ウエカバーの取り外し

手 順	使用工具	プラスドライバー
<p>1. ウエカバーを固定しているねじ (9本) を外した後、ウエカバーを上向きに取り外します。</p>		

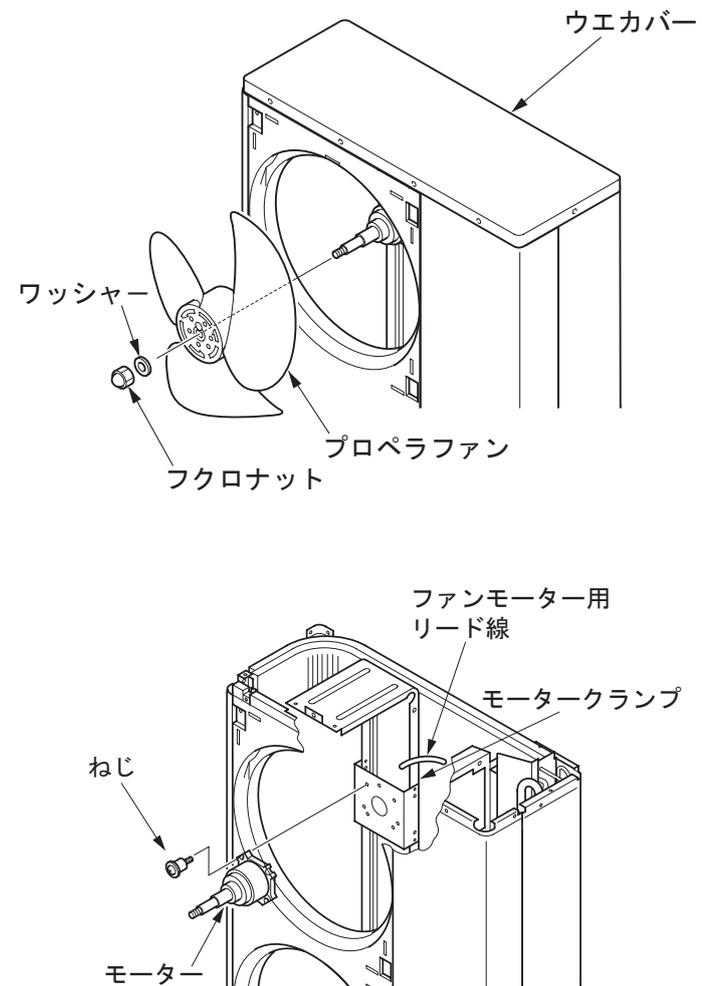
すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

(4) サービスカバーシタ・アトカバーの取り外し

手 順	使用工具	プラスドライバー
<p>1. 「(1) サービスカバーの取り外し」(87 ページ)に従って、サービスカバーを取り外します。サービスカバーシタを固定しているねじ(1本)を外し、サービスカバーシタを上を持ち上げて取り外します。</p> <p>2. 前ページの「(3) ウェカバーの取り外し」に従って、ウェカバーを取り外します。アトカバーを固定しているねじ8本(吸込網の固定が2本)を外し、アトカバーを背面側に引いて取り外します。</p> <div data-bbox="172 808 740 943" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>留意事項 ★外気サーミスター取り付け部のねじは他のねじと長さが異なりますので、ご注意ください。</p> </div>		

すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

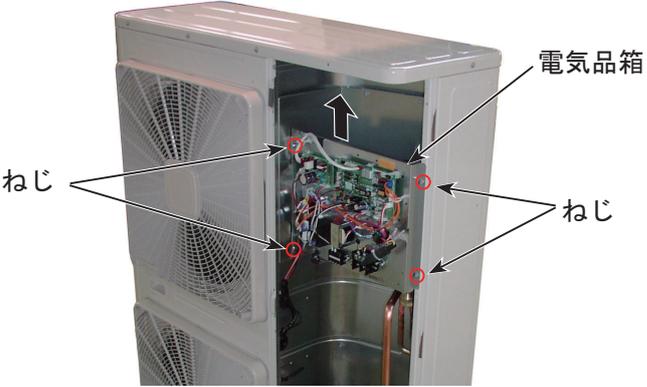
(5) 室外ファンモーターの取り外し

手 順	使用工具
<ol style="list-style-type: none"> 「(1) サービスカバーの取り外し」(87 ページ)に従って、サービスカバーを取り外します。 「(2) 吹出網の取り外し」(88 ページ)に従って、吹出網を取り外します。 「(3) ウエカバーの取り外し」(88 ページ)に従って、ウエカバーを取り外します。 プロペラファンをモーターシャフトに固定しているフクロナット・ワッシャーを取り外し、プロペラファンを取り外します。(プロペラファンとモーターシャフトが固く取り外しにくい時はプリー抜きを使用してください。) <ol style="list-style-type: none"> ①電気品箱のプリント基板に差し込んでいるファンモーター用コネクタを取り外します。 ②モータークランプに固定しているファンモーター用リード線の結束バンドをニッパーにて切断します。 ③モーターを固定しているねじ(4本)を外します。 	<p>プラスドライバー・モンキーレンチ・プリー抜き・ニッパー・トルクレンチ</p> 
<p>留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 配線はコード止めや結束バンドで確実に固定してください。プロペラファンへの巻き込みなどによる断線を防止します。 仕切り板を通すときには断線を防止するためゴムブッシュの取り付けを確実に実施してください。断線の原因になります。 	

<p>留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> モーターを取り付ける時は、リード線の出口を下に向けて取り付けてください。 モーター用リード線は、プロペラファンとの接触がないように、モータークランプに結束バンドで固定してください。また、ファンモーターの取り外しの際に外したにコード止めを使用し、配線を固定してください。 プロペラファンの取り付け モーターシャフトの切欠部に、ファンボス部の回り止め部(○マーク部)を合わせて挿入し、シャフトねじ部が十分出たからナットを締め付けてください。(締付トルク 20N・m) 電気品箱のプリント基板にモーター用リード線を接続してください。(接続の際、プリント基板上のコネクタの色とモーター用リード線のコネクタの色を必ず合わせてください。) 吹出網は、「(2) 吹出網の取り外し」(88 ページ)に従い、確実にシュラウドに取り付けてください。 	
---	--

すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

(6) 電気品箱の取り外し

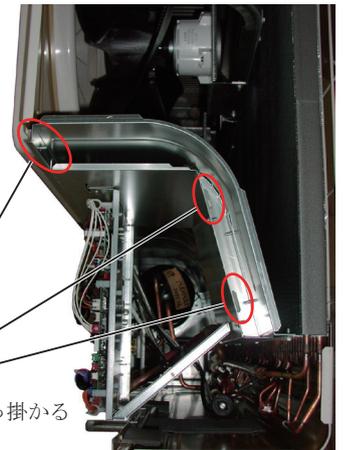
手 順	使用工具	プラスドライバー・モンキーレンチ・ニッパー
<ol style="list-style-type: none"> 「(1) サービスカバーの取り外し」(87 ページ)に従って、サービスカバーを取り外します。 「(3) ウェカバーの取り外し」(88 ページ)に従って、ウェカバーを取り外します。 電気品箱を固定しているねじ(4本)を外します。 電気品箱を上側に持ち上げると取り外しができます。 		

電気品箱を取り外す際は、配線類の取り外しが必要となります。

- プリント基板上的コネクタを取り外します。
THM8(液配管)、PCN2/PCN5(圧力スイッチ)
- 端子台に接続されている端子を取り外します。
端子番号:RS 一次側(電源)、端子番号:①② 1次側二次側両方(連絡配線:THM4)
- 電気品箱右上にある中継コネクタを取り外します。(室外ファン)
- 電気品箱を再取り付けする場合は、電気品箱がシキリイタと組み合わせるようにはめ込んでください。
(まず、フサギイタをシキリイタのU欠穴に入れ、送風機室側に位置するようにし、その後、電気品箱をシキリイタに引っ掛けるように取り付けてください。)

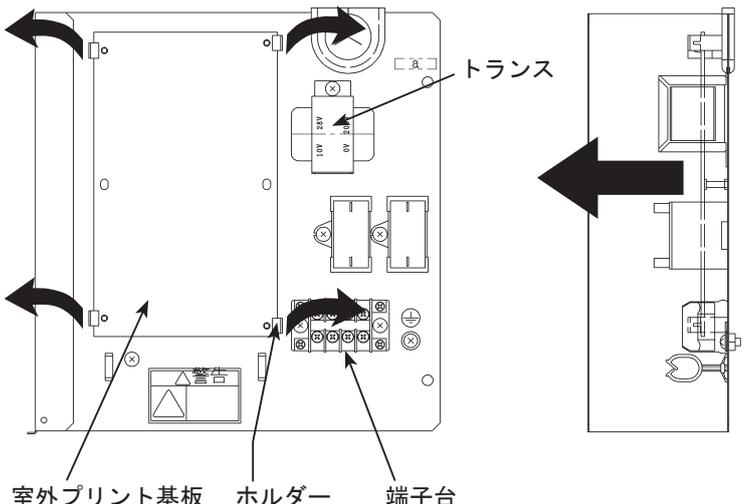
留意事項

シキリイタに○部が引っ掛かるように配置します。



すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

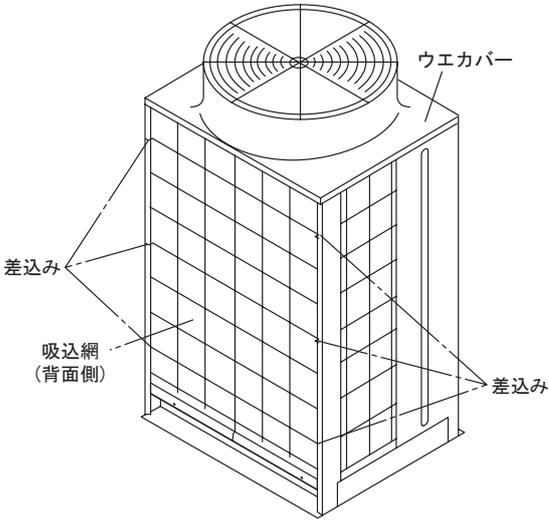
(7) 電気部品の取り外し

手 順	使用工具	プラスドライバー・ラジオペンチ・プラスドライバー（だるま型）
<p>● 室外プリント基板の取り外し</p> <ol style="list-style-type: none"> 「(1) サービスカバーの取り外し」(87ページ)に従って、サービスカバーを取り外します。 室外プリント基板に接続してある配線をすべて取り外します。 ホルダー(4カ所)を矢印の方向に移動し、プリント基板を取り外します。 <p>● 電気部品の取り外し</p> <ol style="list-style-type: none"> 電気部品に接続してある配線を取り外します。 電気部品を固定しているねじを外します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>留意事項 室外プリント基板の電気部品には触らないでください。室外プリント基板に強い力を加えて曲げたりしますと、室外プリント基板が故障する場合がありますのでご注意ください。</p> </div>		

すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

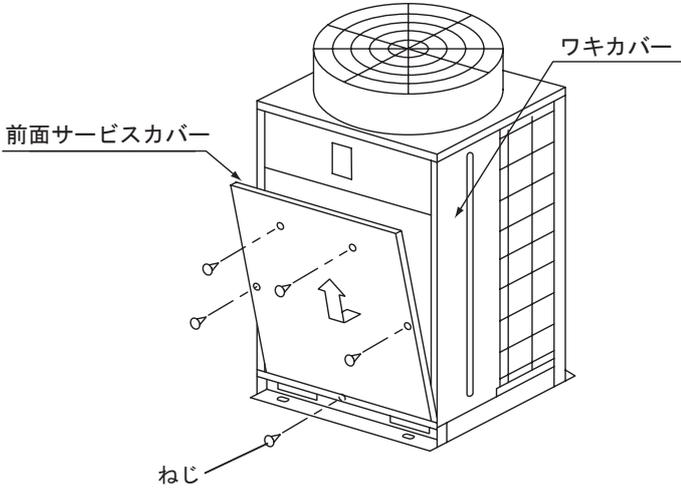
3 室外ユニット (UDRCP8, 10WC1)

(1) 吸込網の取り外し

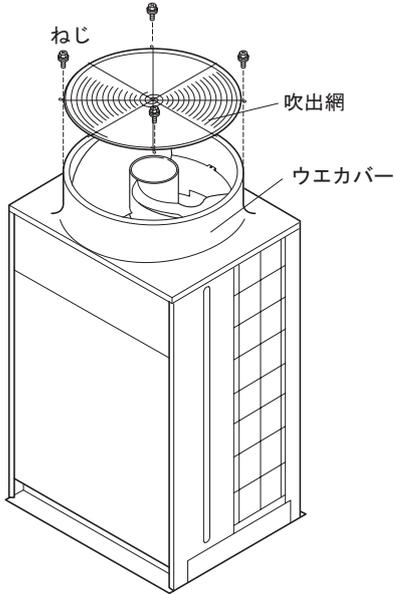
手 順	使用工具	
<p>1. 吸込網（背面側）の取り外し 左右の差込み部（網1枚につき6ヵ所）を手前に引き、吸込網（背面側）を取り外してください。</p>		 <p>The diagram illustrates the outdoor unit with a top cover (ウエカバー) and a back-side intake grille (吸込網 (背面側)). The grille is held in place by latching points (差込み) on both sides. The instructions indicate pulling these latching points forward to remove the grille.</p>

すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

(2) 前面サービスカバーの取り外し

手 順	使用工具	プラスドライバー
<p>1. 前面サービスカバーは1枚につき下記本数の取付ねじで固定されています。</p> <p>前面サービスカバーを取り付けているねじ5本を外し、上に持ち上げるように取り外します。</p> <div data-bbox="95 721 667 987" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>留意事項</p> <p>前面サービスカバーを取り外しの際は、下側のねじを先に取り外してください。据え付けの際は、前面サービスカバー下側をソコベースの内側に差し込んでから、ねじを取り付けてください。</p> </div>		

(3) 吹出網の取り外し

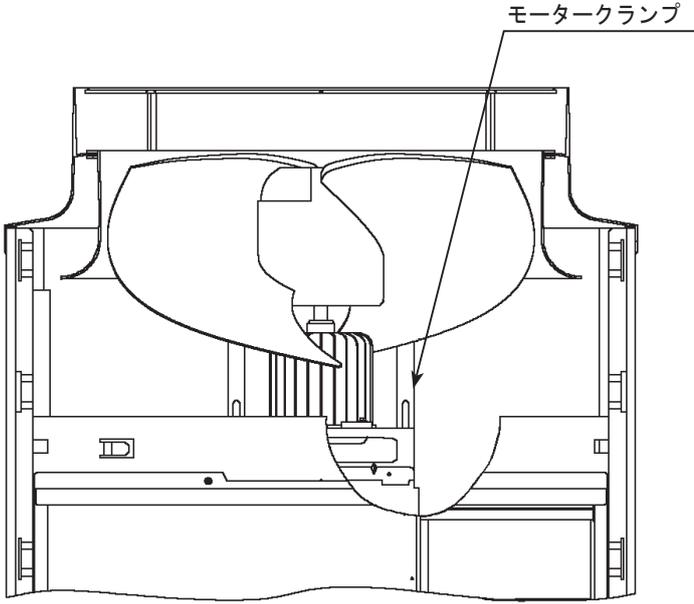
手 順	使用工具	プラスドライバー
<p>1. 吹出網は4本のねじで固定されています。4本のねじを外し、網を取り外してください。</p> <div data-bbox="95 1639 667 1800" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>留意事項</p> <p>ウエカバー（樹脂部品）に荷重を加えないでください。荷重により、変形および破損することがあります。</p> </div>		

すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

(4) 室外ファンモーターの取り外し

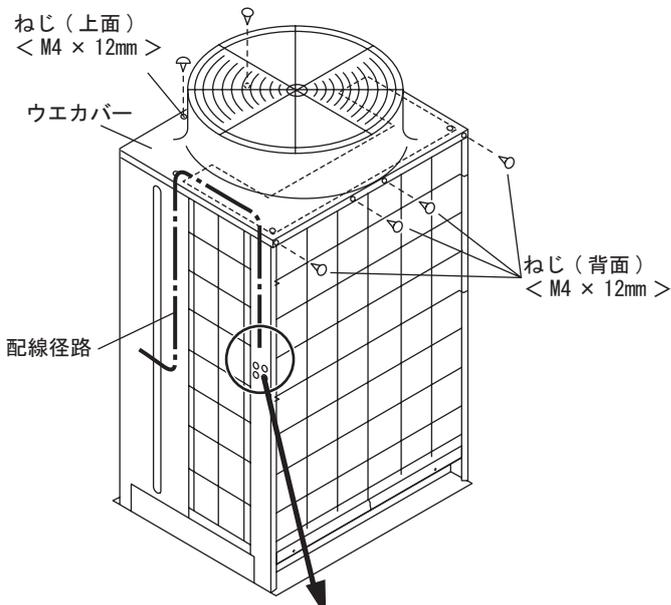
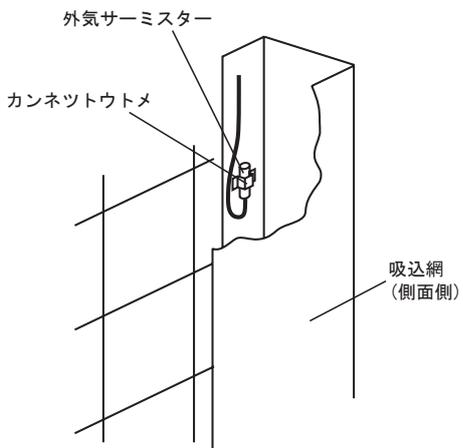
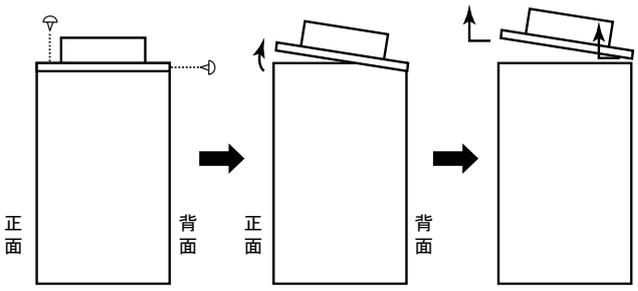
手 順	使用工具		
<p>1. 前ページの「(3) 吹出網の取り外し」に従って、吹出網を取り外します。</p> <p>2. プロペラファンをモーターシャフトに固定している、フクロナット・ヒラワをボックスレンチを使用して取り外してください。(プロペラファンとモーターシャフトが固く取り外しにくい場合は、プリー抜きを使用してください。)</p> <p>3. 前ページの「(2) 前面サービスカバーの取り外し」に従って、サービスカバー・電気品箱カバーを取り外します。電気品箱内のモーター用配線コネクタを取り外します。モーターを固定している、ボルト4本を外し、モーターを取り外します。</p> <div data-bbox="159 974 263 1120" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>チェック ポイント</p> </div> <p>①モーターを取り外すとき、モーターとナットの間にザガネが入っていますので、取り外す際注意してください。</p> <p>②モーターを取り付けるときは、配線の出口を下に向けて取り付けてください。モーターを取り付ける際、モーターランプのウエルドナット部にボウシゴムを取り付け(4カ所)モーターを固定しザガネ(2種類)を入れ、ナットで取り付けてください。</p> <div data-bbox="223 1355 742 1467" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ザガネ : SUS 外径φ 18mm × 内径φ 8.5mm × 厚さ t 1.6mm 外径φ 15.4mm × 内径φ 8.2mm × 厚さ t 2.0mm</p> </div> <p>③モーター用配線は、プロペラファンおよびモーターランプのエッジ部との接触がないよう、モーターランプに結束バンドで固定してください。</p> <p>④プロペラファンの取り付け モーターシャフトの切欠部に、ファンボスの回り止め部(一マーク側)を合わせて挿入し、シャフトねじ部が十分出たからナットを締め付けてください。 プロペラファン取り付け時締付トルク</p> <table border="1" data-bbox="295 1948 742 2004"> <tr> <td>締付トルク</td> <td>30N・m</td> </tr> </table> <p>⑤電気品箱の配線コネクタ部に、モーター用配線コネクタを接続してください。</p>	締付トルク	30N・m	<p>スパナ・モンキーレンチ・ボックスレンチ・プリー抜き・トルクレンチ</p> <div data-bbox="798 369 1484 593"> <p>電気品箱</p> <p>DCモーター</p> <p>矢印は送風機の位置を示します。図はユニット正面図です。</p> </div> <div data-bbox="798 627 1420 1344"> <p>フクロナット</p> <p>ヒラワ</p> <p>プロペラファン</p> <p>ウエカバー</p> <p>モーターシャフト</p> <p>電気品箱カバー</p> <p>電気品箱カバー取付ねじ</p> <p>モーター用配線固定あり (正面および下部側面の2カ所)</p> </div> <div data-bbox="798 1422 1420 1982"> <p>ナット</p> <p>モーターシャフト</p> <p>ザガネ</p> <p>ウエカバー</p> <p>ボウシゴム</p> <p>モーターランプ</p> <p>③作業: 配線をバンタイにてモーターランプへ固定の位置</p> <p>配線コネクタ</p> </div>
締付トルク	30N・m		

すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

手 順	使用工具	スパナ・モンキーレンチ・ボックスレンチ・プリー抜き
<p>4. 取り付けは、取り外しの逆の順序で作業してください。</p> <p>5. 取付作業完了後、ウエカバー上部よりプロペラファンとウエカバーの隙間が均等に確保されていることを確認してください。また、プロペラファン回転中にプロペラファンとウエカバーの接触による異音などがないことを確認してください。</p> <div data-bbox="95 772 670 1019" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>留意事項</p> <p>3項②モータークランプとモーターの間の座金の取り付け忘れ、取付位置間違い、またはモーター取り付け時の位置調整が実施されていない場合、プロペラファンとウエカバーのすき間が偏り、接触～異音の原因となりますのでご注意ください。</p> </div>		

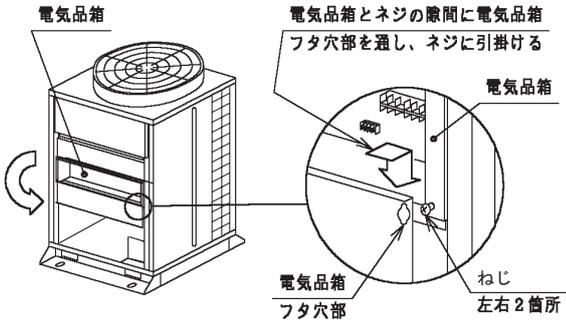
すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

(5) 外気サーミスターの取り外し

手 順	使用工具	プラスドライバー
<p>1. 「(1) サービスカバーの取り外し要領」(87 ページ)に従って、前面サービスカバー・電気品箱カバーを取り外します。</p> <p>2. 右図によりウエカバーを取り付けているねじを外し、ウエカバーを取り外します。 (上面2カ所・背面4カ所)</p> <div data-bbox="175 638 742 757" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>留意事項 ウエカバーの取り外しは上記手順に従い、破損などないように実施してください。</p> </div>		
<p>3. 「(2) 吸込網の取り外し」(88 ページ)に従って、側面側吸込網を取り外します。</p> <p>4. サーミスター配線は、熱交換器・配管などに固定されているため、配線固定部品を取り外します。</p> <p>5. カンネットウトメから外気サーミスターを取り外します。</p> <p>6. 取り付けは取り外しの逆の手順で作業してください。</p>		<div data-bbox="965 985 1476 1500" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">サーミスター取付図</p>  </div>
<div data-bbox="175 1332 742 1534" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>留意事項 ウエカバーを正確に取り付けていない場合、室外送風機運転時にウエカバーの振動が大きくなることがあります。ねじ取付け後、ウエカバーが正しく取り付けられているか確認してください。</p> </div>		<p><ウエカバー取外要領></p> <p>①ねじを取り外す。(上図参照) ②正面側を10cm程度持ち上げる。 ③全体を手前に引きながら全体を持ち上げる。</p> 

すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

(6) 電気品箱の取り外し

手 順	使用工具
<ol style="list-style-type: none"> 「(1) サービスカバーの取り外し」(87 ページ)に従って、前面サービスカバーを取り外してください。 電気品箱フタを固定しているねじ(左右2カ所)をゆるめて、電気品箱フタを取り外してください。 	<p>使用工具: プラスドライバー・ラジオペンチ</p> <p>電気品箱フタ 取り外し要領</p>  <p>サービスカバーを取り外した状態</p>
<p>留意事項 電気品箱フタが落下しますので、ねじを外さないでください。</p>	
<p>留意事項 電気品箱フタを取り外す時に電気品箱フタとサービスカバーの間に手を挟まないよう注意してください。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 電気品箱下側で固定している配線類のコード止めをゆるめ、開放してください。 プリント基板に接続してある配線のコネクタをすべて外します。 端子台に接続してある電源配線・制御連絡配線を外します。 ファンモーター用配線コネクタを外します。 電気品箱を上方に持ち上げ、左右のツメがワキカバーより外れたら、手前に引き抜きます。この際、電気品箱から出ているコード類を無理に引っ張らないでください。

すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

(7) 電気部品の取り外し

手 順	使用工具	プラスドライバー・ラジオペンチ・ニッパー
<p>●プリント基板の取り外し</p> <ol style="list-style-type: none"> 「(1) サービスカバーの取り外し」(87 ページ)の要領に従って、前面サービスカバーを取り外します。 前ページの「(6) 電気品箱の取り外し」要領に従って、電気品箱フタを取り外します。 プリント基板に接続してある配線をすべて外します。 ホルダー (4カ所) の腹部をラジオペンチで挟んでプリント基板を取り外します。 <p>●電気部品の取り外し</p> <ol style="list-style-type: none"> 電気部品に接続してある配線を取り外します。 電気部品を固定しているねじを外します。 <div data-bbox="177 1245 727 1435" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>留意事項 プリント基板の電気部品には触らないでください。プリント基板に強い力を加えて曲げたりしますと、プリント基板が故障する場合がありますのでご注意ください。</p> </div> <div data-bbox="177 1514 727 1644" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>留意事項 電気品箱フタを再取り付けする場合は、ねじ固定位置に注意して取り付けてください。</p> </div>		

6. 製品の仕様

6.1 仕様表

1 再熱専用機

(50/60Hz)

項目(単位)		型式	UDP2W2	UDP3W2	UDP5W2	UDP8W2	UDP10W2	
性能	法定冷凍能力	トン	0.68/0.82	1.00/1.21	1.49/1.79	2.40/2.89	3.03/3.65	
	除湿能力	L/h	5.5/6.3	7.6/8.7	14.0/16.0	20.1/22.5	26.1/29.0	
	空気条件		吸込空気乾球温度25℃ 相対湿度80%					
	電気特性	消費電力	kW	1.5/1.8	2.3/3.0	3.7/4.8	5.8/7.0	7.8/9.6
		運転電流	A	5.8/5.9	9.1/9.7	13.1/15.1	22.5/23.1	31.6/32.0
		力率	%	75/88	73/89	82/92	74/87	71/87
		始動電流(終了最大)	A	35/32	63/55	138/124	196/177	277/251
運転音	dB(A)	53	54	59	64	64		
外装(マンセル記号)			ベージュ(2.5Y 8/2)					
外形寸法(幅×奥行×高さ)		mm	650×400×(1,500+17)		800×500×(1,700+45)	1,100×500×(1,700+45)	1,400×500×(1,700+45)	
梱包寸法(幅×奥行×高さ)		mm	700×420×1,570		830×540×1,790	1,170×540×1,790	1,470×540×1,790	
冷却装置	型式		5KS225MAA21	5JS330MAA21	E505DH-49A2	E855DH-80A2	E1000GH-100A2	
		出力(極数)	kW	1.5(2)	2.2(2)	3.75(2)	5.5(2)	7.5(2)
	冷凍機油	種類		FV50S		FVC68D		
		メーカー		出光興産				
		封入量	L	0.67	1.13	1.50	1.90	3.00
	オイルヒーター出力	W	30[単相 200V]		40[単相 200V]			
	蒸発器		多通路クロスフィン式					
	凝縮器		多通路クロスフィン式					
	冷媒封入量 HFC(R410A)	kg	1.25	1.50	2.8	3.40	4.80	
	冷媒制御装置		電子制御膨張弁					
送風装置	型式×台数		両吸込多翼送風機×1			両吸込多翼送風機×2		
	風量	m ³ /min	21	30	44	80	97	
	機外静圧	Pa	60/80	60/60	20/120	20/170	20/190	
	電動機出力(極数)	kW	0.15(6)	0.27(4)	0.55(4)	1.5(4)	2.2(4)	
	電源		単相 200V 50/60Hz			三相 200V 50/60Hz		
	エアフィルター		ロングライフフィルター(PPハニカムろ材)					
運転装置	空気湿度調整装置		電子式湿度調節器					
	空気温度調整装置		電子式温度調節器					
	表示灯(赤)		運転一点灯・警報一点滅					
保護装置作動値	高圧遮断装置(OFF/ON)	MPa	4.15/3.20					
	圧縮機電流センサー設定値	A	13	18	34	48	63	
	送風機用過電流継電器	A	—		2.8	6.2	9.0	
	送風機プロテクター(OFF/ON)	℃	130/83			—		
	吐出ガス過熱防止サーモ	℃	127					
	操作回路用ヒューズ	A	5					
	動力回路用ヒューズ(圧縮機)	A	20	30	50	60		
除霜装置	除霜方式		ホットガスバイパス					
	除霜条件	最短除霜周期	min	30(15~60可変,5刻み)				
		最長除霜時間	min	15(5~30可変,5刻み)				
		除霜開始温度	℃	-15(蒸発器出口配管表面温度)				-10(蒸発器出口配管表面温度)
		除霜終了温度	℃	10(蒸発器出口配管表面温度)				15(蒸発器出口配管表面温度)
ドレン配管(エマージェンシー)			R1 (PT1 オス)					
製品質量(梱包質量)		kg	105(107)	110(112)	165(167)	225(228)	295(299)	
電源			三相 200V 50/60Hz					

- 注)1. 再熱除湿性能および電気特性は、吸込空気乾球温度 25℃、相対湿度 80%で運転した場合の値を示します。
2. 電気工事の際は、電気特性の 1.2 倍程度を見込んでください。
 3. 運転音は製品正面 1m、高さ 1m で反響のない場所で測定した値 (A スケール) を示します。実際の据付状態では周囲の騒音や反響の影響を受け表示値より大きくなるのが普通です。
 4. 再熱除湿運転を行うと吹出空気温度が吸込空気温度が高くなります。運転状態によっても異なりますが、約 10 ~ 25℃上昇します。温度上昇が問題となる場合は、別途冷房や換気を考慮してください。
 5. UDP2W2, UDP3W2 はモーター直結駆動式のため、機外静圧の値によって風量が変化します。

6. 製品の仕様

6.1 仕様表

2 冷却機能付機

冷却機能付機 (室内ユニット)

(50/60Hz)

型式		UDP2WC2	UDP3WC2	UDP5WC2		
項目 (単位)						
適用室外ユニット型式		UDRCP2WC1	UDRCP3WC1	UDRCP5WC1		
法定冷凍能力	トン	0.68/0.82	1.00/1.21	1.49/1.79		
再熱除湿性能	除湿能力	L/h	5.5/6.3	7.6/8.7		
	空気条件		室内吸込空気乾球温度 25℃, 相対湿度 80%			
	電気特性	消費電力	kW	1.5/1.8	2.3/3.0	
		運転電流	A	5.8/5.9	9.1/9.7	
		力率	%	75/88	73/89	
始動電流 (終了最大)		A	35/32	63/55		
冷却除湿性能	冷却能力	kW	6.1/7.0	9.0/10.0		
	除湿能力	L/h	5.3/6.1	7.1/8.2		
	空気条件		室内吸込空気乾球温度 25℃, 相対湿度 80%, 室外吸込空気乾球温度 30℃			
	電気特性	消費電力	kW	1.7/2.2	2.8/3.5	
		運転電流	A	6.7/7.2	11.0/11.7	
力率		%	73/88	74/86		
始動電流 (終了最大)		A	36/33	64/56		
運転音	dB	53	54	59		
外装 (マンセル記号)		ページュ (2.5Y 8/2)				
外形寸法 (幅×奥行×高さ)	mm	650 × 400 × (1500 + 17)		800 × 500 × (1700 + 45)		
梱包寸法 (幅×奥行×高さ)	mm	700 × 420 × 1570		830 × 540 × 1790		
冷却装置	圧縮機	型式	5KS225MAA21	5JS330MAA21	E505DH-49A2	
		出力 (極数)	kW	1.5 (2)	2.2 (2)	3.75 (2)
		冷凍機油	種類	FV50S		
			メーカー	出光興産		
		封入量	L	0.67	1.13	1.50
	オイルヒーター出力	W	30 [単相 200V]	40 [単相 200V]		
	蒸発器		多通路クロスフィン式			
凝縮器		多通路クロスフィン式				
冷媒封入量	kg	1.9	2.1	3.8		
冷媒		HFC (R410A)				
冷媒制御装置		電子制御膨張弁				
送風装置	型式×台数		両吸込多翼送風機×1			
	風量	m ³ /min	21	30	44	
	機外静圧	Pa	60/80	60/60	20/120	
	電動機出力 (極数)	kW	0.15 (6)	0.27 (4)	0.55 (4)	
	電源		単相 200V 50/60Hz		三相 200V 50/60Hz	
エアフィルター		ロングライフフィルタ (PP ハニカムろ材)				
空気湿度調整装置		電子式湿度調節器				
空気温度調整装置		電子式温度調節器				
表示灯		運転 — 点灯, 警報 — 点滅				
保護装置作動値	高圧遮断装置 (OFF/ON)	MPa	4.15/3.20			
	圧縮機電流センサー設定値	A	13	18	34	
	送風機用過電流継電器	A	-			
	送風機プロテクター	℃	130/83		-	
	吐出ガス過熱防止サーモ	℃	127			
	操作回路用ヒューズ	A	5			
	電力用ヒューズ (圧縮機)	A	20	30		
除霜装置	除霜方式		ホットガスバイパス			
	除霜条件	最短除霜周期	min	30 (15 ~ 60 可変, 5 刻み)		
		最長除霜時間	min	15 (5 ~ 30 可変, 5 刻み)		
		除霜開始温度	℃	- 15 (蒸発器出口配管表面温度)		
除霜終了温度		℃	10 (蒸発器出口配管表面温度)			
冷媒配管	ガス配管	mm	φ12.7 (フレアナット接続)		φ15.88 (フレアナット接続)	
	液配管	mm	φ9.52 (フレアナット接続)		φ12.7 (フレアナット接続)	
	最大配管長 (実長)	m	30			
	最大相当長	m	40			
	最大高低差	m	20 (室外ユニットが上), 5 (室外ユニットが下)			
ドレン配管		R1 (PT1 おす)				
製品質量	kg	110	115	170		
梱包質量	kg	112	117	172		
電源		三相 200V 50/60Hz				

6. 製品の仕様

6.1 仕様表

冷却機能付機 (室外ユニット)

(50/60Hz)

型式		UDRCP2WC1	UDRCP3WC1	UDRCP5WC1
項目 (単位)				
外装 (マンセル記号)		ナチュラルグレー (1.0Y 8.5/0.5)		
運転音	dB	42	45/46	46
外形寸法 (幅×奥行×高さ)	mm	850 × 315 × 800		850 × 315 × 1240
梱包寸法 (幅×奥行×高さ)	mm	930 × 400 × 910		930 × 400 × 1350
凝縮器		多通路クロスフィン式		
送風装置		φ465 プロペラファン × 1		φ465 プロペラファン × 2
型式×台数				
風量 (最大)	m ³ /min	51.3	56.3	95.0
電動機出力 (極数) × 台数	W	80 (6) × 1	95 (6) × 1	60 (6) × 1 + 80 (6) × 1
電源		単相 200V 50/60Hz		
制御装置	凝縮圧力制御	ファンスピード制御		
保護装置	ヒューズ	A		
	送風機プロテクター	℃		
		130/83	135/86	130/83
冷媒配管	ガス配管	φ12.7 (ロー付接続)		φ15.88 (ロー付接続)
	液配管	φ9.52 (ロー付接続)		φ12.7 (ロー付接続)
製品質量	kg	23	23	36
梱包質量	kg	28	28	41
電源		単相 200V 50/60Hz (室内ユニットより供給)		

- 注) 1. 再熱除湿性能および電気特性は、吸込空気乾球温度 25℃、相対湿度 80% で運転した場合の値を示します。
 2. 冷却除湿性能および電気特性は、吸込空気乾球温度 25℃、相対湿度 80%、室外吸込空気乾球温度 30℃ で運転した場合の値を示します。
 3. 電気工事の際は電気特性の 1.2 倍程度を見込んでください。
 4. 運転音は、製品正面 1 m、高さ 1 m で反響の少ない無響室で測定した値 (A スケール) を示します。
 実際の据付状態では周囲の騒音や反響の影響を受け表示値より大きくなるのが普通です。
 5. 再熱除湿運転を行なうと吹出空気温度が吸込空気より高くなります。運転状態によっても異なりますが、約 10 ~ 25℃ 上昇します。
 温度上昇が問題となる場合は、別途冷房や換気を考慮してください。
 6. 室内 — 室外ユニット間の接続配管長は、片道 5 m を標準としています。本表に表示の性能 (除湿能力等) は接続配管長片道 5 m (水平配管時) のものです。
 7. 本機を負荷の小さい場所 (小さい温室等) で使用すると、再熱除湿運転と冷却除湿運転が頻繁に切り換わり、故障の原因となります。
 このような場合は、換気や負荷を与える等切り換え頻度が 2 回 /h 以下となるようご配慮ください。
 8. UDP2WC2、UDP3WC2 は、モーター直結駆動式のため、機外静圧の値によって風量が変化します。

6. 製品の仕様

6.1 仕様表

冷却機能付機 (室内ユニット)

(50/60Hz)

項目 (単位)		型式	UDP8WC2	UDP10WC2	
適用室外ユニット型式			UDRCP8WC1	UDRCP10WC1	
法定冷凍能力		トン	2.40/2.89	3.03/3.65	
再熱除湿性能	除湿能力	L/h	20.1/22.5	26.1/29.0	
	空気条件		室内吸込空気乾球温度 25℃, 相対湿度 80%		
	消費電力	kW	5.8/7.0	7.8/9.6	
	運転電流	A	22.5/23.1	31.6/32.0	
	力率	%	74/87	71/87	
始動電流 (終了最大)	A	196/177	277/251		
冷却除湿性能	冷却能力	kW	22.1/23.7	29.4/32.4	
	除湿能力	L/h	16.9/19.2	22.2/25.0	
	空気条件		室内吸込空気乾球温度 25℃, 相対湿度 80%, 室外吸込空気乾球温度 30℃		
	消費電力	kW	6.9/8.6	9.8/11.9	
	運転電流	A	26.2/28.2	36.9/38.0	
力率	%	76/88	77/90		
始動電流 (終了最大)	A	203/184	284/258		
運転音	dB		64	64	
外装 (マンセル記号)			ページュ (2.5Y 8/2)		
外形寸法 (幅×奥行×高さ)		mm	1100 × 500 × (1700 + 45)	1400 × 500 × (1700 + 45)	
梱包寸法 (幅×奥行×高さ)		mm	1170 × 540 × 1790	1470 × 540 × 1790	
冷却装置	型式		E855DH-80A2	E1000GH-100A2	
	出力 (極数)	kW	5.5 (2)	7.5 (2)	
	圧縮機	種類		FVC68D	
		メーカー		出光興産	
		封入量	L	1.90	3.00
	オイルヒーター出力	W	40 [単相 200V]		
	蒸発器		多通路クロスフィン式		
凝縮器		多通路クロスフィン式			
冷媒封入量	kg	6.8	8.8		
冷媒		HFC (R410A)			
冷媒制御装置		電子制御膨張弁			
型式×台数		両吸込多翼送風機×2			
送風装置	風量	m³/min	80	97	
	機外静圧	Pa	20/170	20/190	
	電動機出力 (極数)	kW	1.5 (4)	2.2 (4)	
	電源		単相 200V 50/60Hz		
エアフィルター		ロングライフフィルタ (PPハニカムろ材)			
空気湿度調整装置		電子式湿度調節器			
空気温度調整装置		電子式温度調節器			
表示灯		運転 — 点灯, 警報 — 点滅			
保護装置作動値	高圧遮断装置 (OFF/ON)	MPa	4.15/3.20		
	圧縮機電流センサー設定値	A	48	63	
	送風機用過電流継電器	A	6.2	9.0	
	送風機プロテクター	℃	-	-	
	吐出ガス過熱防止サーモ	℃	127		
	操作回路用ヒューズ	A	5		
電力用ヒューズ (圧縮機)	A	50	60		
除霜方式		ホットガスバイパス			
除霜条件	最短除霜周期	min	30 (15 ~ 60 可変, 5 刻み)		
	最長除霜時間	min	15 (5 ~ 30 可変, 5 刻み)		
	除霜開始温度	℃	- 15 (蒸発器出口配管表面温度)	- 10 (蒸発器出口配管表面温度)	
	除霜終了温度	℃	10 (蒸発器出口配管表面温度)	15 (蒸発器出口配管表面温度)	
冷媒配管	ガス配管	mm	φ19.05 (フレアナット接続)		
	液配管	mm	φ15.88 (フレアナット接続)		
	最大配管長 (実長)	m	30		
	最大相当長	m	40		
	最大高低差	m	20 (室外ユニットが上), 5 (室外ユニットが下)		
ドレン配管		R1 (PT1 おす)			
製品質量	kg	240	310		
梱包質量	kg	244	315		
電源		三相 200V 50/60Hz			

6. 製品の仕様

6.1 仕様表

冷却機能付機 (室外ユニット)

(50/60Hz)

項目 (単位)		型式	UDRCP8WC1	UDRCP10WC1
外装 (マンセル記号)			ナチュラルグレー (1.0Y 8.5/0.5)	
運転音		dB(A)	51/52	53/54
外形寸法 (幅×奥行×高さ)		mm	950 × 790 × 1645	
梱包寸法 (幅×奥行×高さ)		mm	970 × 820 × 1680	
凝縮器			多通路クロスフィン式	
送風装置	型式×台数		ø644 プロペラファン × 1	
	風量 (最大)		m ³ /min 138	
	電動機出力 (極数) × 台数		W 275 (6) × 1	
	電源		単相 200V 50/60Hz	
	制御装置	凝縮圧力制御	ファンスピード制御	
保護装置	ヒューズ	操作回路用	A 5	
		ファンモータ用	10	
	送風機プロテクター		℃	130/83
冷媒配管	ガス配管		mm ø19.5 (ロー付接続)	
	液配管		mm ø15.88 (ロー付接続)	
製品質量		kg	96	99
梱包質量		kg	99	102
電源			単相 200V 50/60Hz (室内ユニットより供給)	

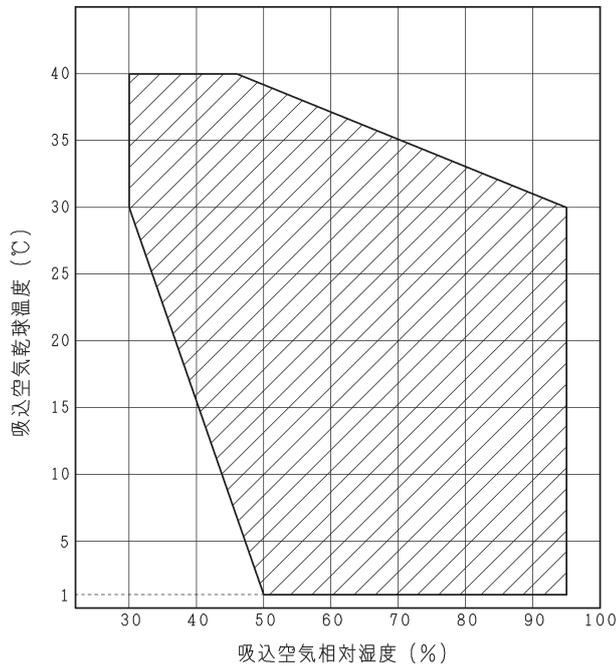
- 注) 1. 再熱除湿性能および電気特性は、吸込空気乾球温度 25℃、相対湿度 80% で運転した場合の値を示します。
 2. 冷却除湿性能および電気特性は、吸込空気乾球温度 25℃、相対湿度 80%、室外吸込空気乾球温度 30℃ で運転した場合の値を示します。
 3. 電気工事の際は電気特性の 1.2 倍程度を見込んでください。
 4. 運転音は、製品正面 1 m、高さ 1 m で反響の少ない無響室で測定した値 (A スケール) を示します。
 実際の据付状態では周囲の騒音や反響の影響を受け表示値より大きくなるのが普通です。
 5. 再熱除湿運転を行なうと吹出空気温度が吸込空気より高くなります。運転状態によっても異なりますが、約 10 ~ 25℃ 上昇します。
 温度上昇が問題となる場合は、別途冷房や換気を考慮してください。
 6. 室内 — 室外ユニット間の接続配管長は、片道 5 m を標準としています。本表に表示の性能 (除湿能力等) は接続配管長片道 5 m (水平配管時) のものです。
 7. 本機を負荷の小さい場所 (小さい温室等) で使用すると、再熱除湿運転と冷却除湿運転が頻繁に切り換わり、故障の原因となります。
 このような場合は、換気や負荷を与える等切り換え頻度が 2 回 /h 以下となるようご配慮ください。

1 使用基準

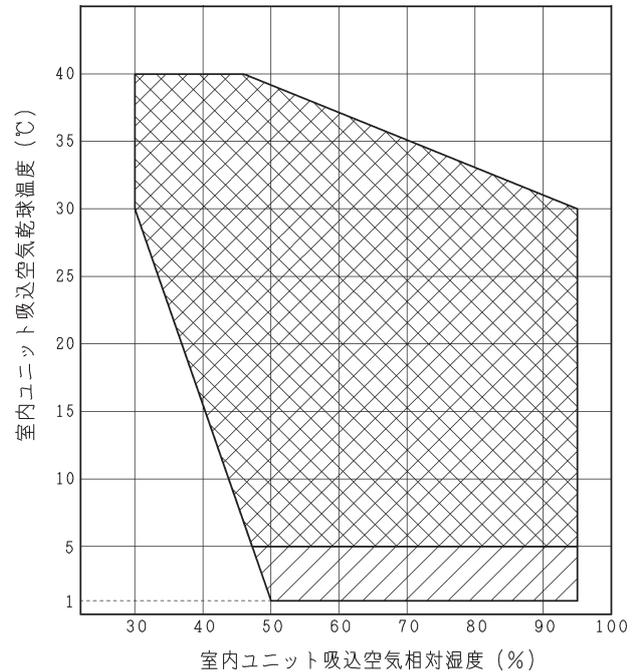
本機の使用温度範囲を下図に示します。

室内ユニット

●再熱専用機

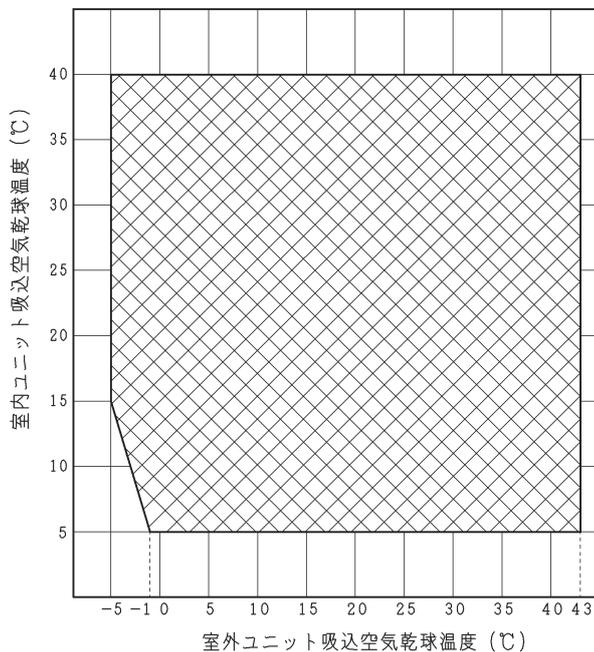


●冷却機能付機



室外ユニット

●冷却機能付機



- 注) 1. 図中  は、再熱除湿運転範囲を示します。
 2. 図中  は、冷却除湿運転範囲を示します。
 3. 冷却除湿運転時の外気温度範囲は、 $-5 \sim 43^{\circ}\text{C DB}$ です。
 4. 運転範囲を外れた場合、送風運転に切り換わる場合があります。
 5. 本機を負荷の少ない場所（小さな温室など）で使用すると再熱除湿運転と冷却除湿運転が頻繁に切り換わり、故障の原因となります。このような場合、換気したり負荷を与えるなどして、切換頻度が2回/hとなるようにご配慮ください。

(次ページへつづく)

(前ページよりつづき)

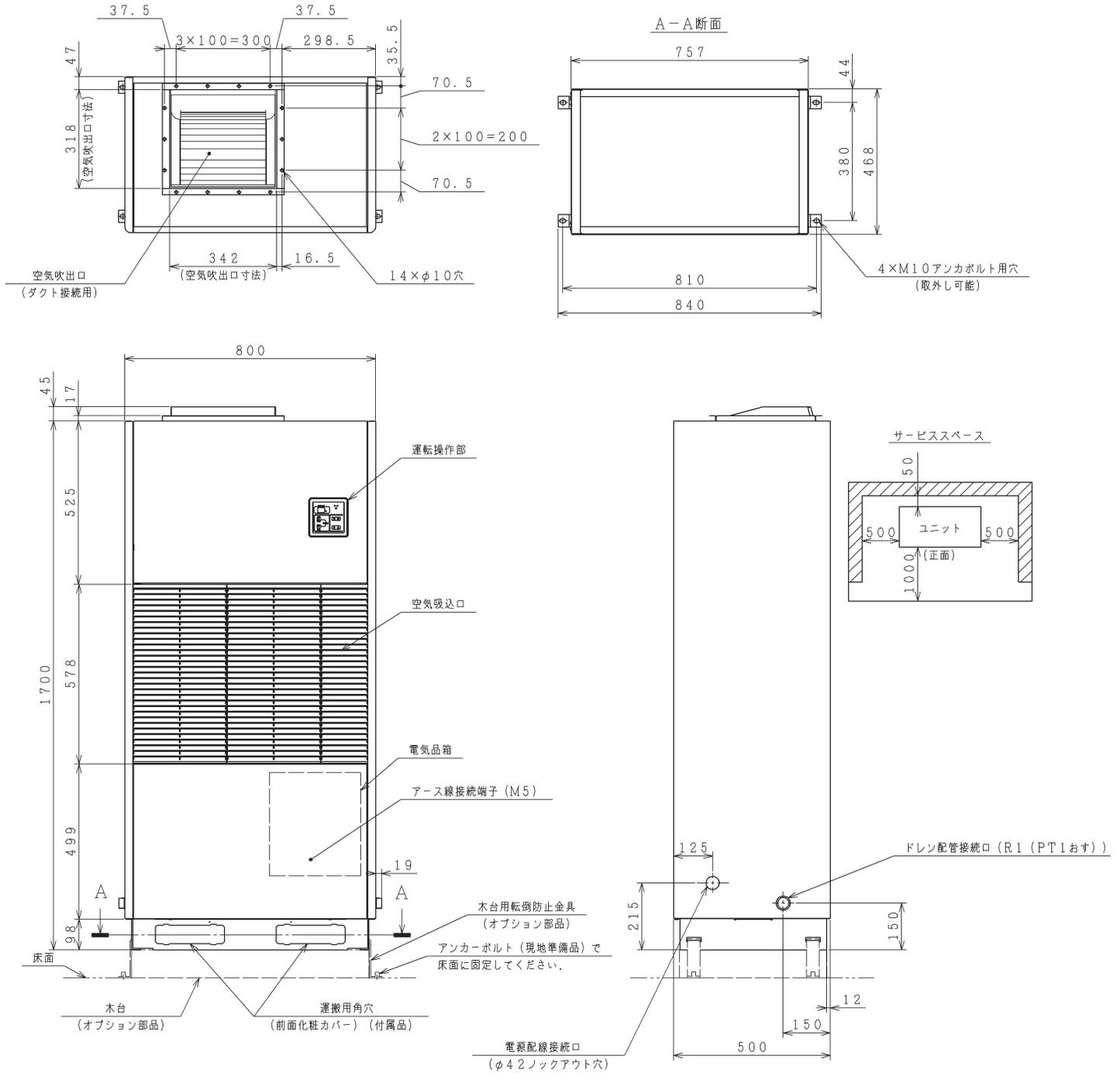
6. 本機は吸込空気温度が低下すると着霜することがあります。この場合、除霜運転と除湿・冷却運転を交互に行ないますので、除湿運転時間が減少し、除湿量や冷却能力が低下しますのでご使用に際し注意してください。
7. 10℃以下での連続運転は、2時間程度としてください。長時間の低温連続運転を行ないますと、熱交換器へ異常に霜が付着する場合があります。
8. 除湿機内の湿度調節器本体の誤差は、相対湿度 45%の設定値の時で± 5%、ON/OFF ディファレンシャルで 5% あります。さらに、除湿機内への組み込み具合などを含めると精密な湿度制御は難しいので、湿度設定値は一応の目処程度とお考えください。
9. 木材・薬品などの特殊な雰囲気など次のような場所での使用および設置はしないでください。
多くの場合除湿機が故障する原因となります。
 - 油（機械油も含む）の飛沫・蒸気の多い場所
 - 温泉地などの硫化ガスの多い場所
 - 可燃性ガス発生・流入などの恐れがある場所
 - 海岸地帯など塩分の多い場所
 - 酸性またはアルカリ性の雰囲気のある場所
10. ドレン配管への接続は、テーパめねじ (Rc1 または PT1)、または平行めねじ (Rp1 または Ps1) をご使用ください。
なお、塩ビ管を使用する場合は、必ず金属インサートタイプをご使用ください。
11. 木台（オプション部品）は、ドレン配管の排水勾配をとるための高さを確保するためのものです。
木台を使用する場合は、木台に付属のゴムマットを使用し、必ずアンカーボルトに転倒防止を行ってください。
12. 冷却機能付機をご使用時、室内温度よりも室外温度が低い場合は、外気を取り入れると効果的に温度を下げる
ことができます。

6. 製品の仕様

6.3 寸法図

● UDP5W2

(単位: mm)

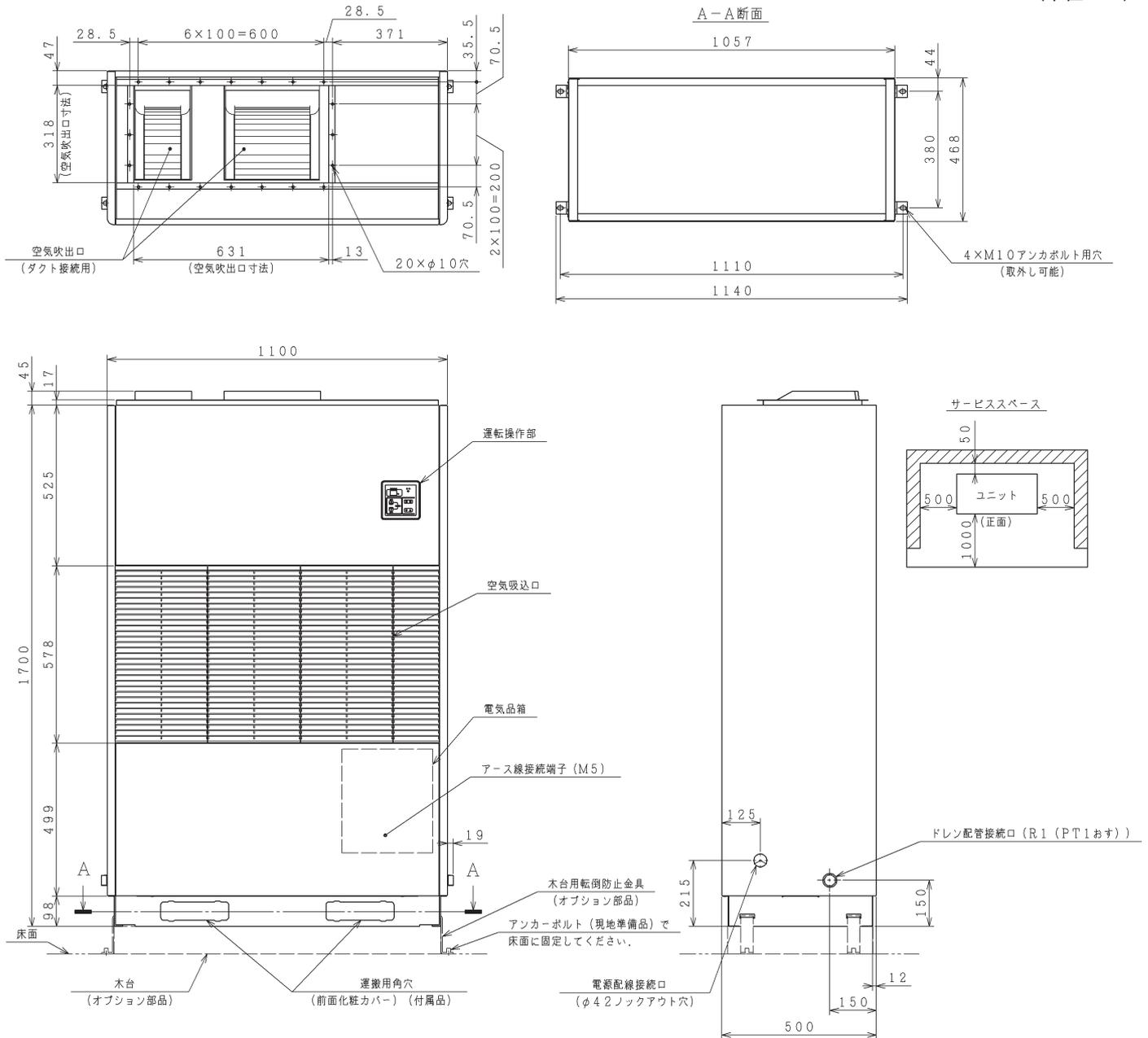


6. 製品の仕様

6.3 寸法図

● UDP8W2

(単位: mm)

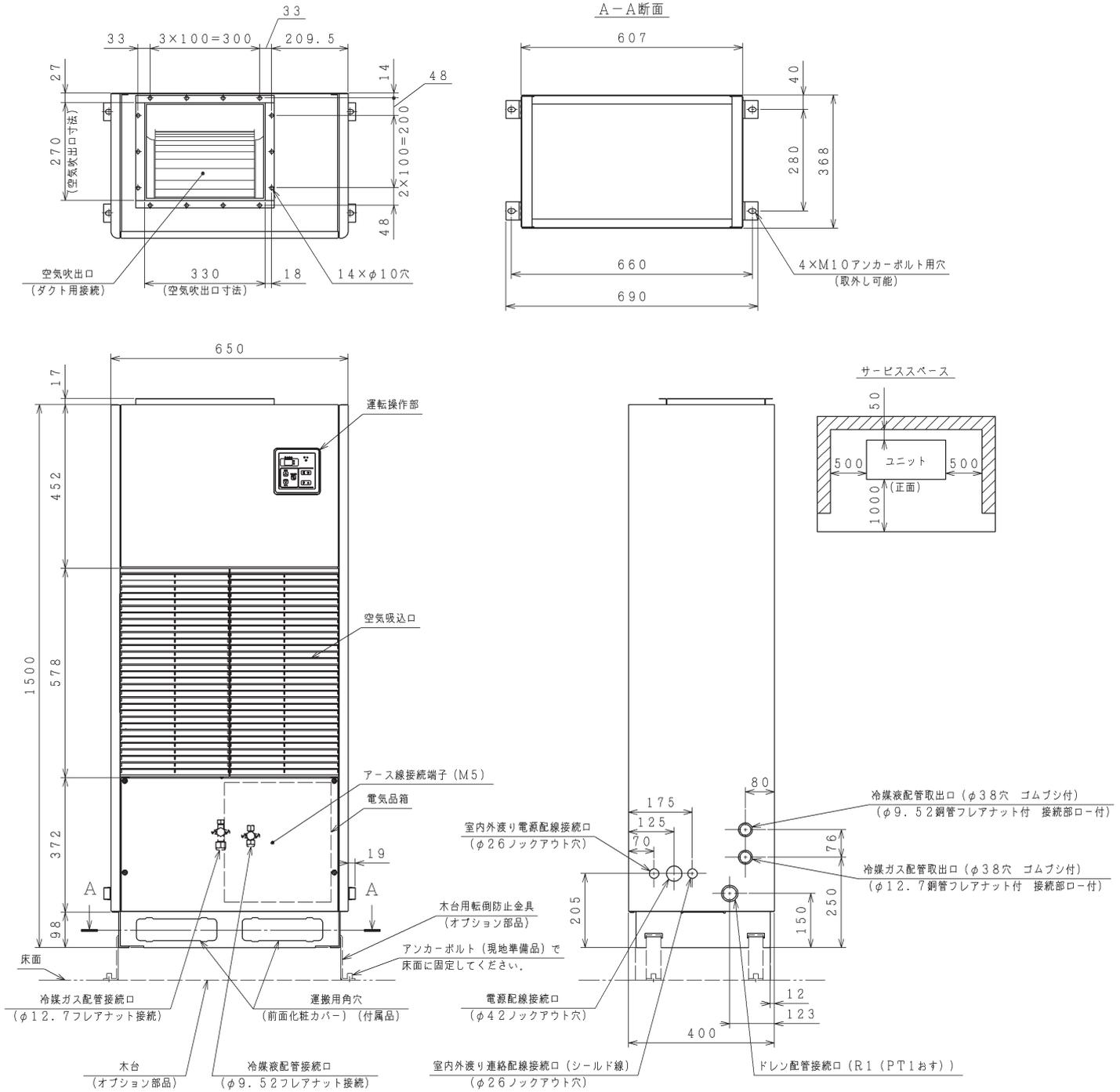


6. 製品の仕様

6.3 寸法図

● UDP2WC2 / UDP3WC2

(単位: mm)

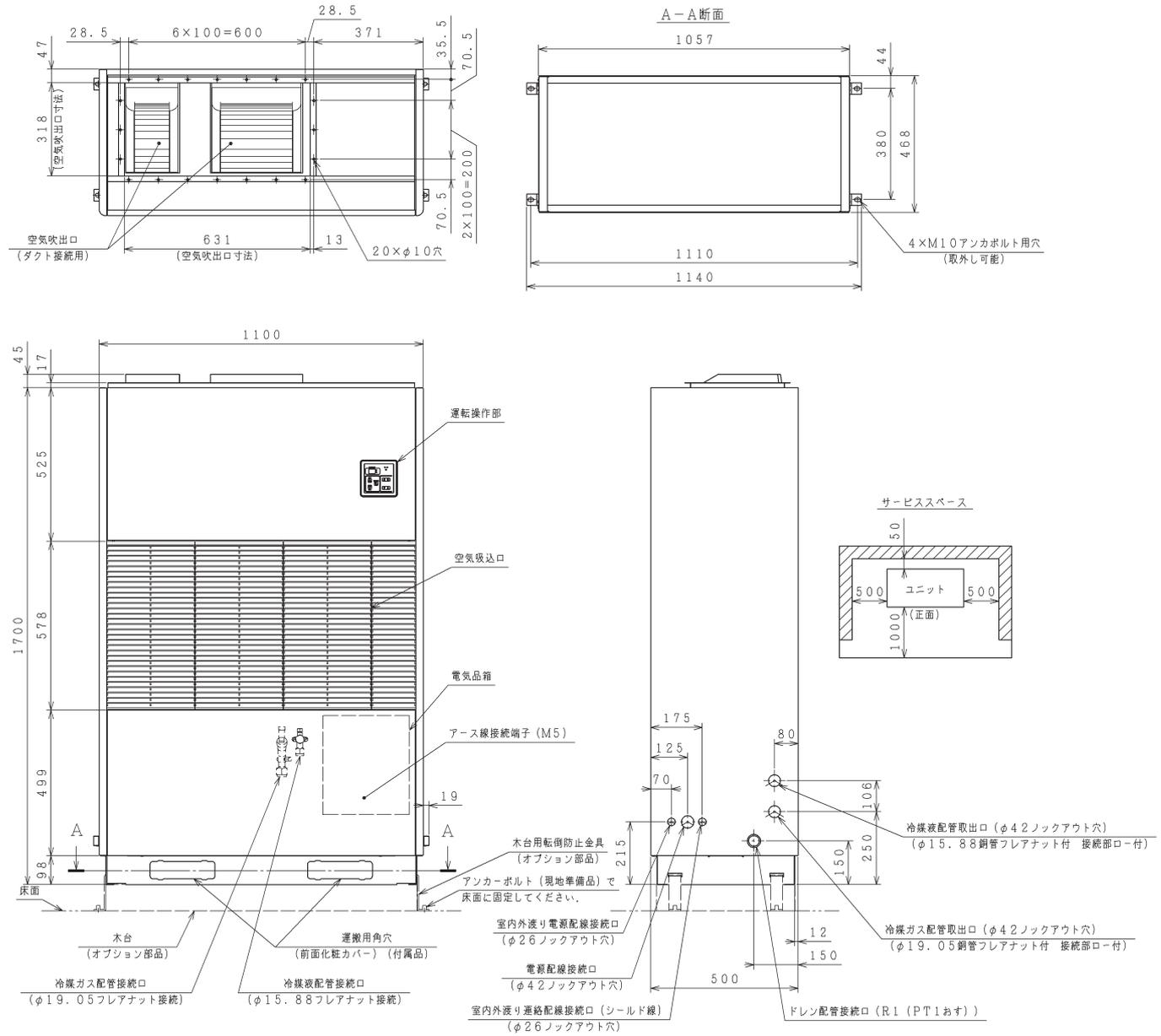


6. 製品の仕様

6.3 寸法図

● UDP8WC2

(単位: mm)

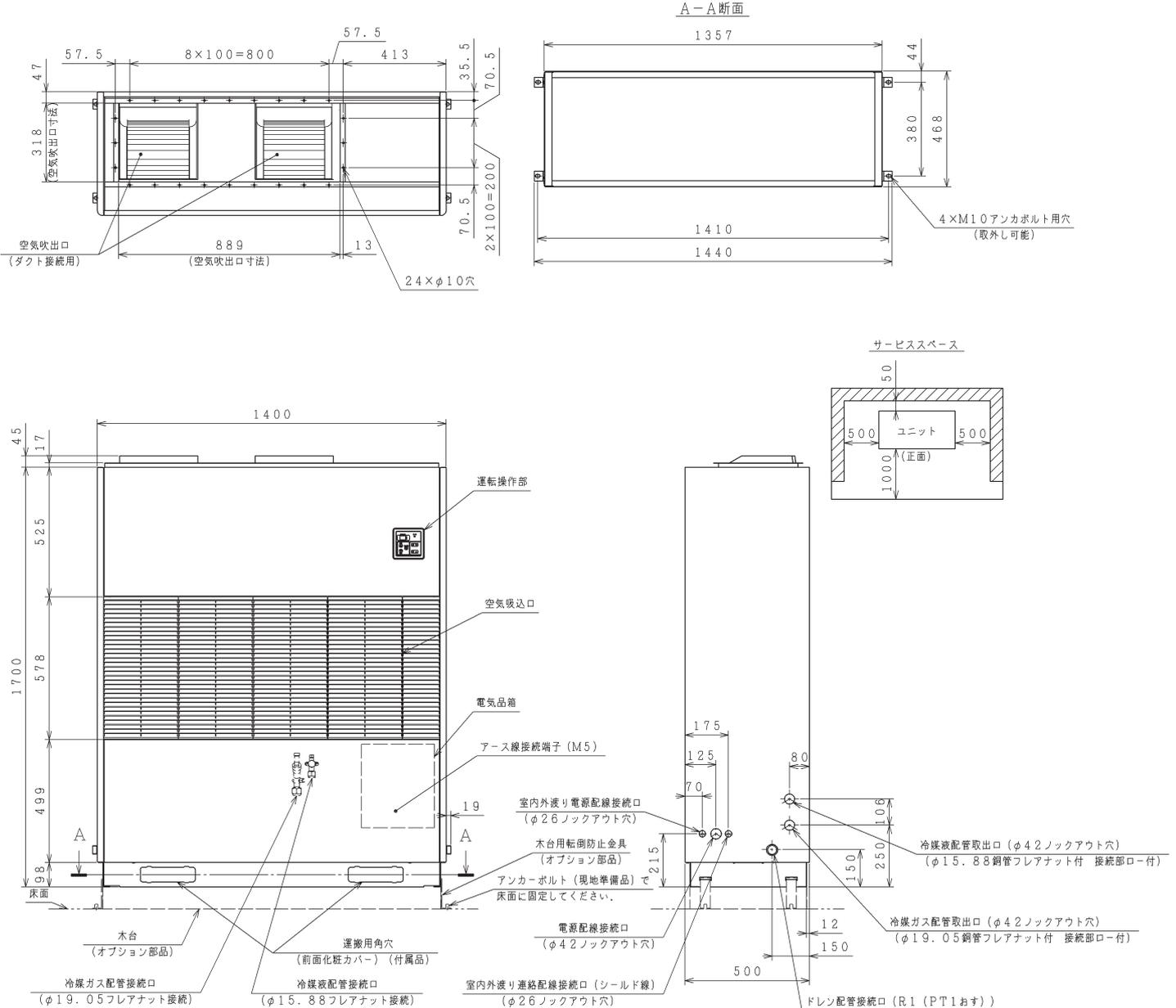


6. 製品の仕様

6.3 寸法図

● UDP10WC2

(単位: mm)



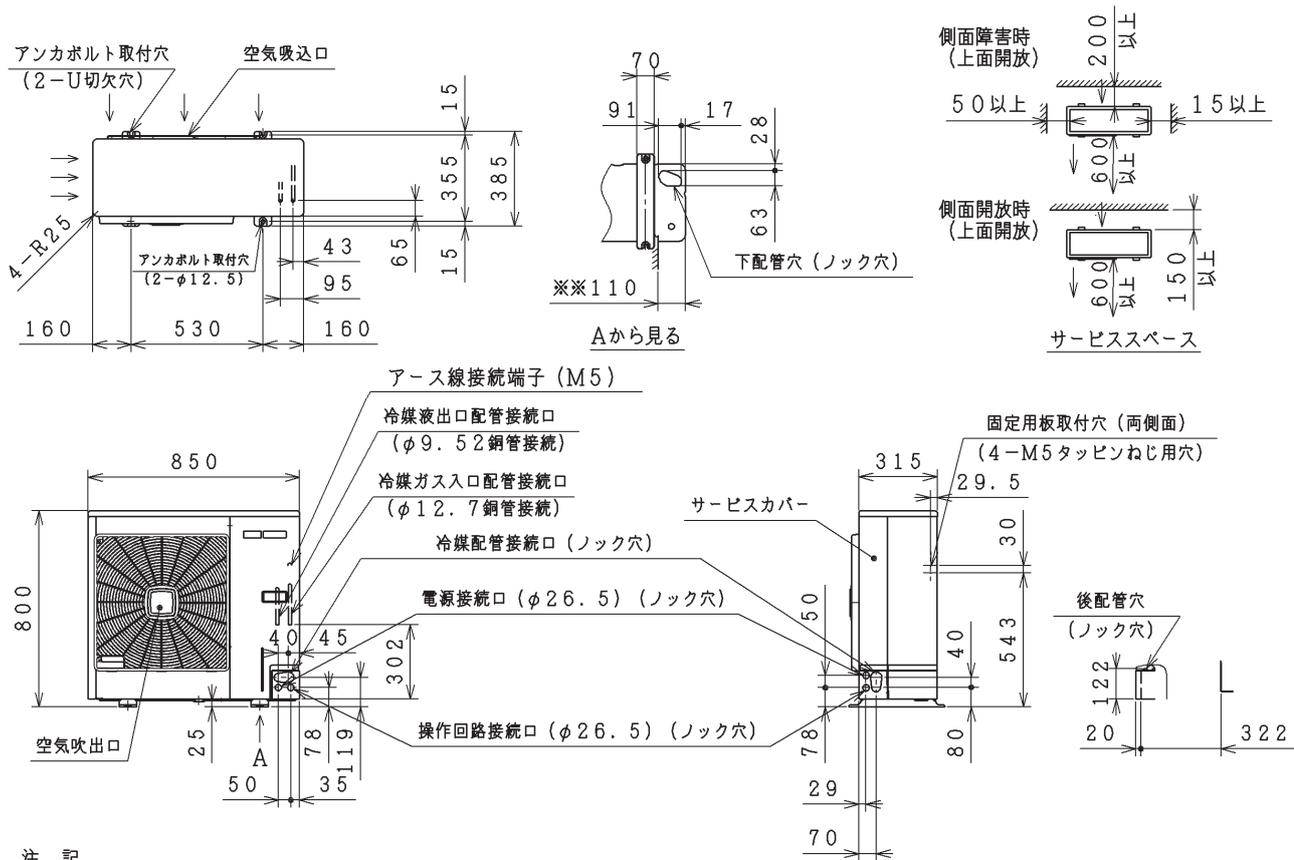
6. 製品の仕様

6.3 寸法図

2 室外ユニット

● UDRCP2WC1 / UDRCP3WC1

(単位: mm)

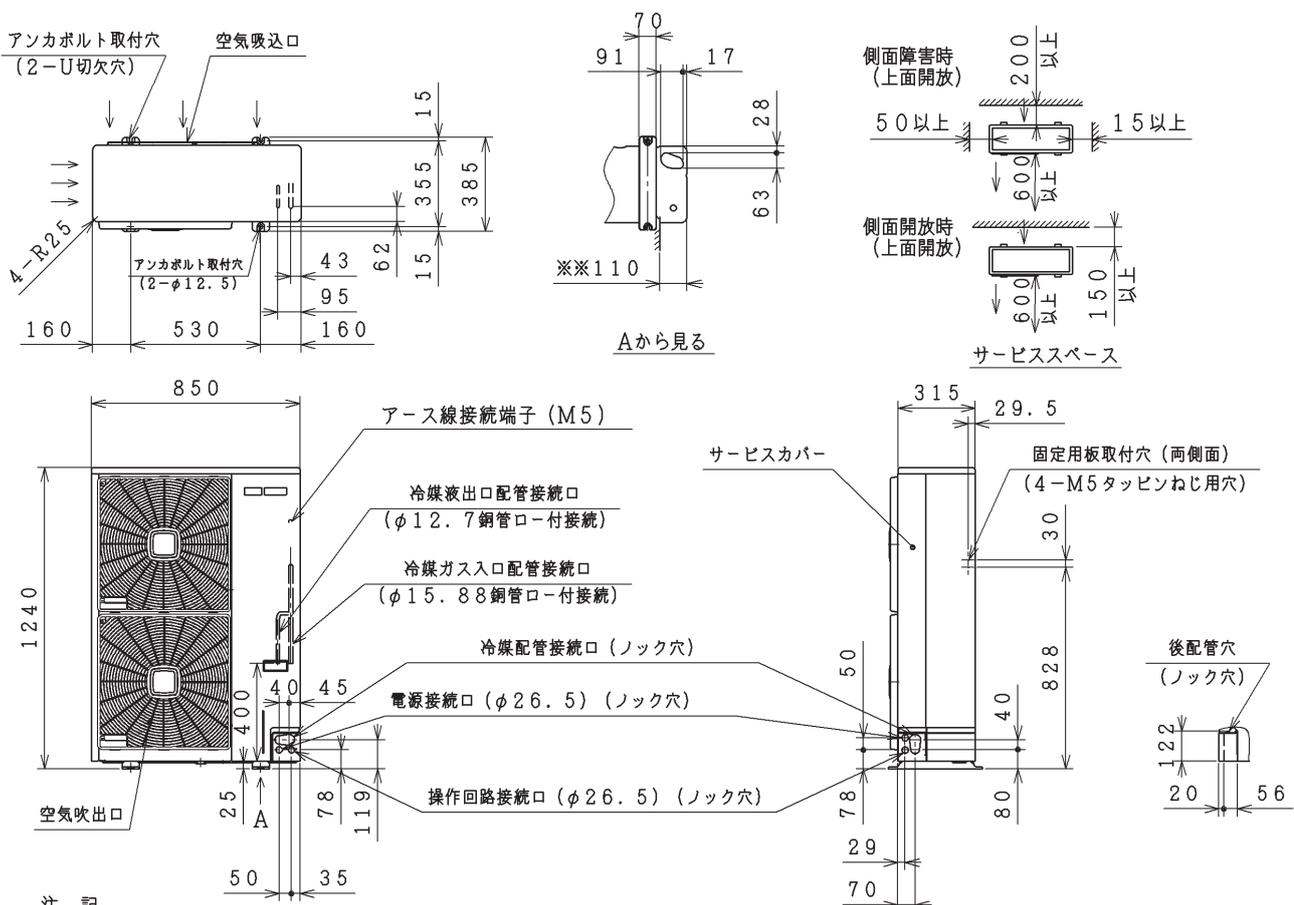


注記

1. ※110寸法を確保していただければ、縁石等の土台との干渉なく下配管工事ができます。

● UDRCP5WC1

(単位: mm)



注記

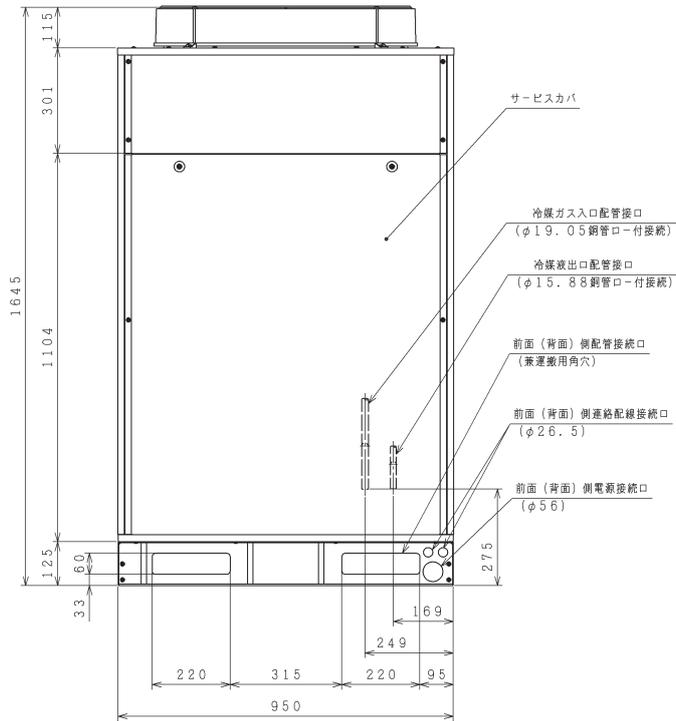
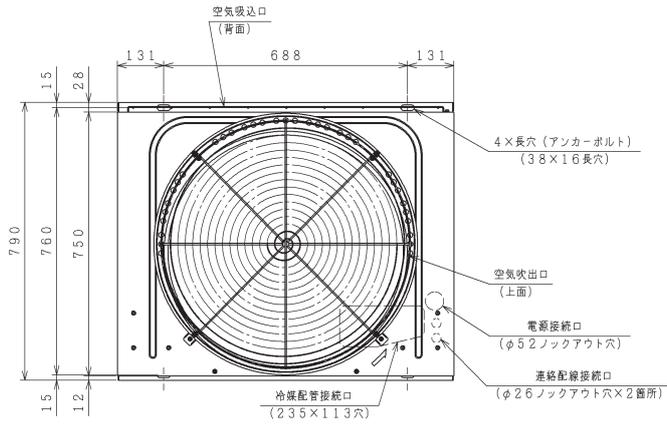
1. ※110寸法を確保していただければ、縁石等の土台との干渉なく下配管工事ができます。

6. 製品の仕様

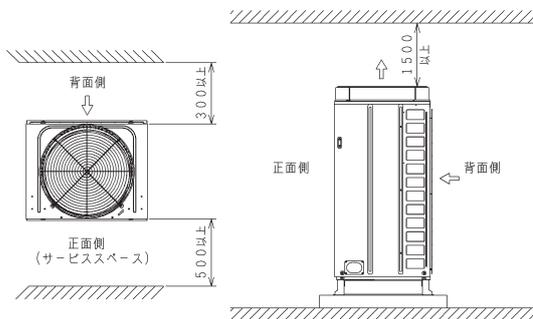
6.3 寸法図

● UDRCP8WC1 / UDRCP10WC1

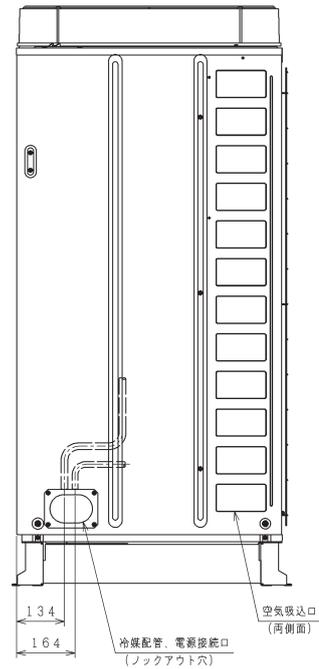
(単位: mm)



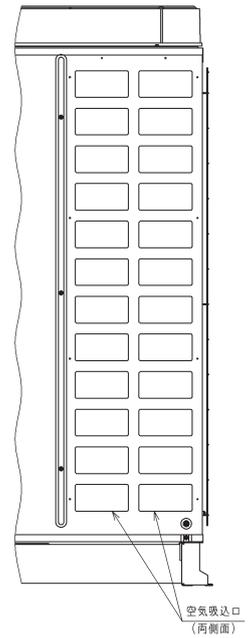
サービススペース



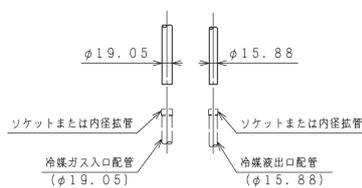
UDRCP8WC1 側面図



UDRCP10WC1 側面図



配管接続部詳細

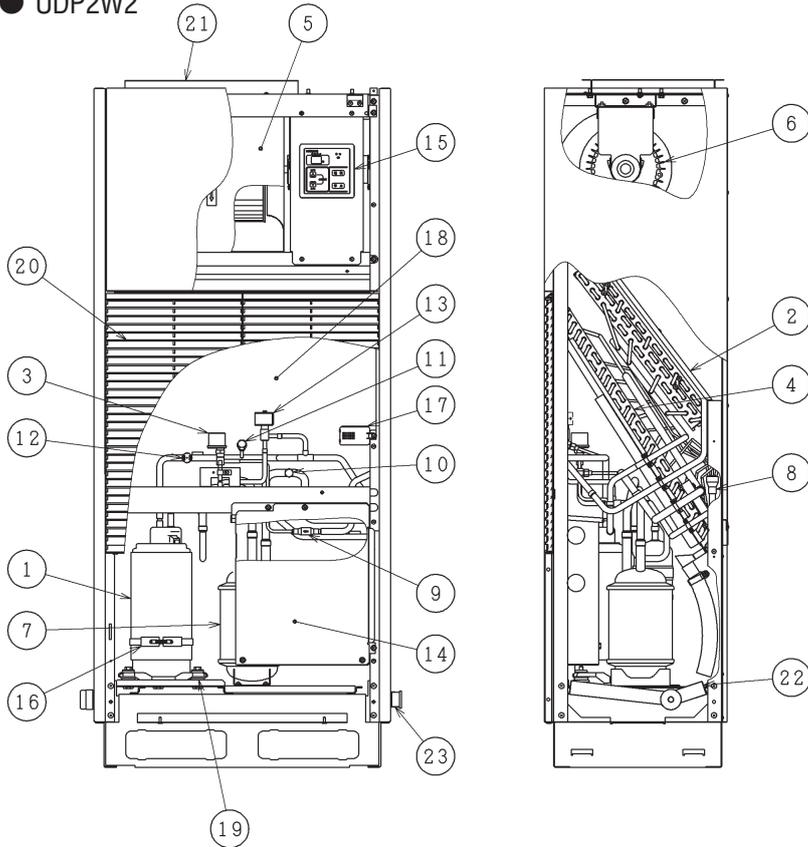


6. 製品の仕様

6.4 構造図

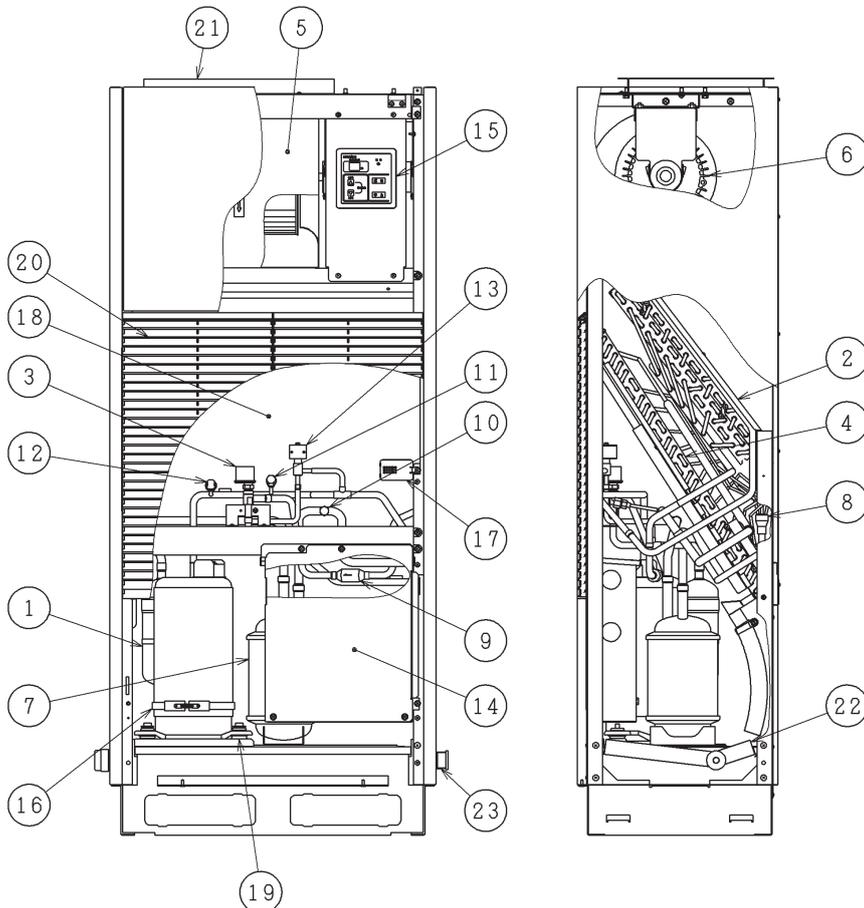
1 室内ユニット

● UDP2W2



番号	名称	備考
①	全密閉形圧縮機	ロータリ式 1.5kW
②	凝縮器	
③	電子膨張弁	
④	蒸発器	
⑤	送風機	
⑥	電動機 (送風機用)	0.15kW
⑦	アキュムレーター	圧力容器ではない
⑧	ディストリビューター	
⑨	ストレーナー	
⑩	チェックジョイント	低圧側
⑪	チェックジョイント	高圧側
⑫	高圧遮断装置	高圧カット用
⑬	電磁弁	除霜用
⑭	電気品箱	
⑮	操作スイッチ	
⑯	クランクケースヒーター	
⑰	温湿度センサー	
⑱	エアフィルター	
⑲	防振ゴム	
⑳	空気吸込口	
㉑	空気吹出口	
㉒	水受け	
㉓	ドレン配管接続口	R1 (PT1おす)

● UDP3W2

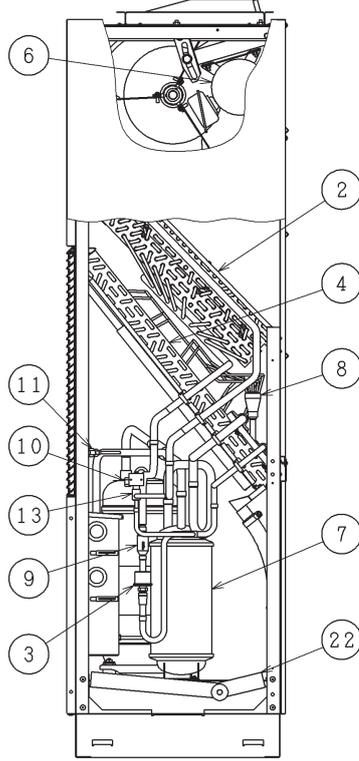
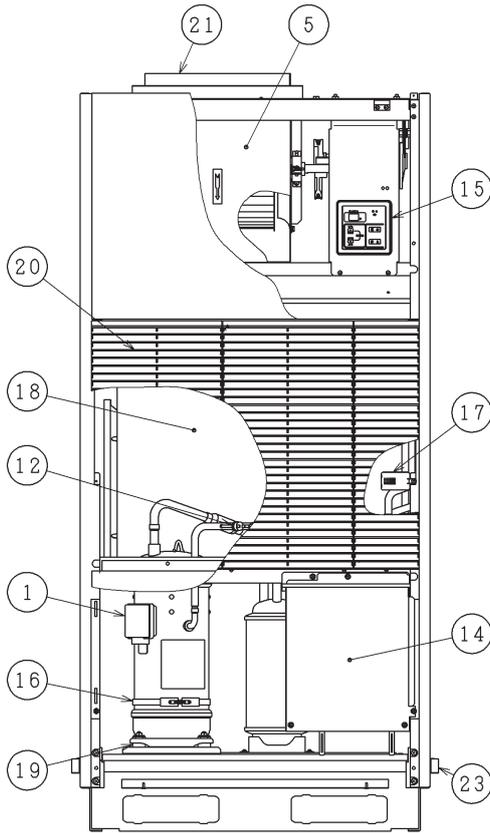


番号	名称	備考
①	全密閉形圧縮機	ロータリ式 2.2kW
②	凝縮器	
③	電子膨張弁	
④	蒸発器	
⑤	送風機	
⑥	電動機 (送風機用)	0.27kW
⑦	アキュムレーター	圧力容器ではない
⑧	ディストリビューター	
⑨	ストレーナー	
⑩	チェックジョイント	低圧側
⑪	チェックジョイント	高圧側
⑫	高圧遮断装置	高圧カット用
⑬	電磁弁	除霜用
⑭	電気品箱	
⑮	操作スイッチ	
⑯	クランクケースヒーター	
⑰	温湿度センサー	
⑱	エアフィルター	
⑲	防振ゴム	
⑳	空気吸込口	
㉑	空気吹出口	
㉒	水受け	
㉓	ドレン配管接続口	R1 (PT1おす)

6. 製品の仕様

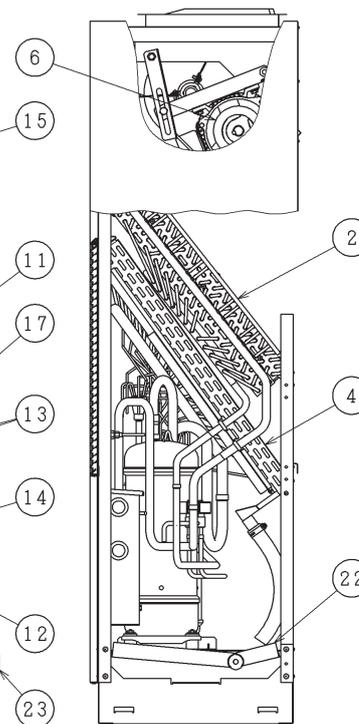
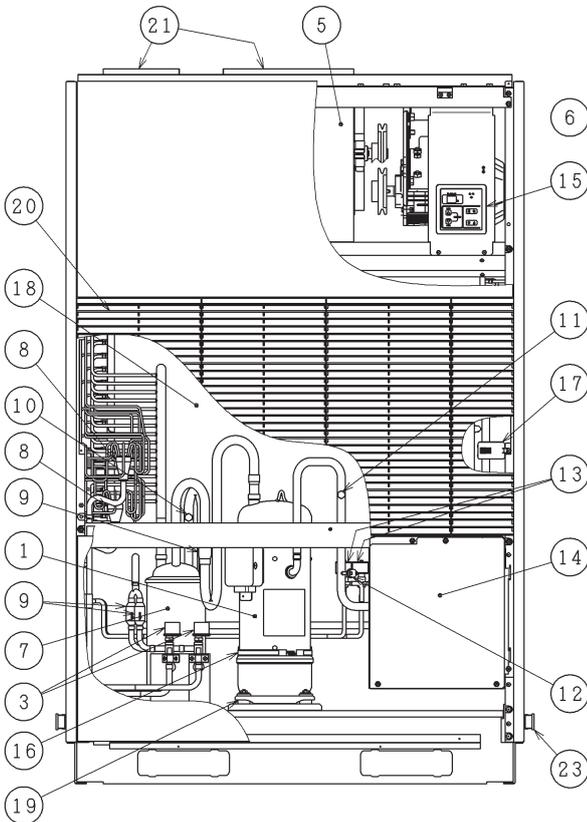
6.4 構造図

● UDP5W2



番号	名称	備考
①	全密閉形圧縮機	スクロール式 3.75kW
②	凝縮器	
③	電子膨張弁	
④	蒸発器	
⑤	送風機	
⑥	電動機 (送風機用)	0.55kW
⑦	アキュムレーター	圧力容器ではない
⑧	ディストリビューター	
⑨	ストレーナー	
⑩	チェックジョイント	低圧側
⑪	チェックジョイント	高圧側
⑫	高圧遮断装置	高圧カット用
⑬	電磁弁	除霜用
⑭	電気品箱	
⑮	操作スイッチ	
⑯	クランクケースヒーター	
⑰	温湿度センサー	
⑱	エアフィルター	
⑲	防振ゴム	
⑳	空気吸込口	
㉑	空気吹出口	
㉒	水受け	
㉓	ドレン配管接続口	R1 (PT1おす)

● UDP8W2

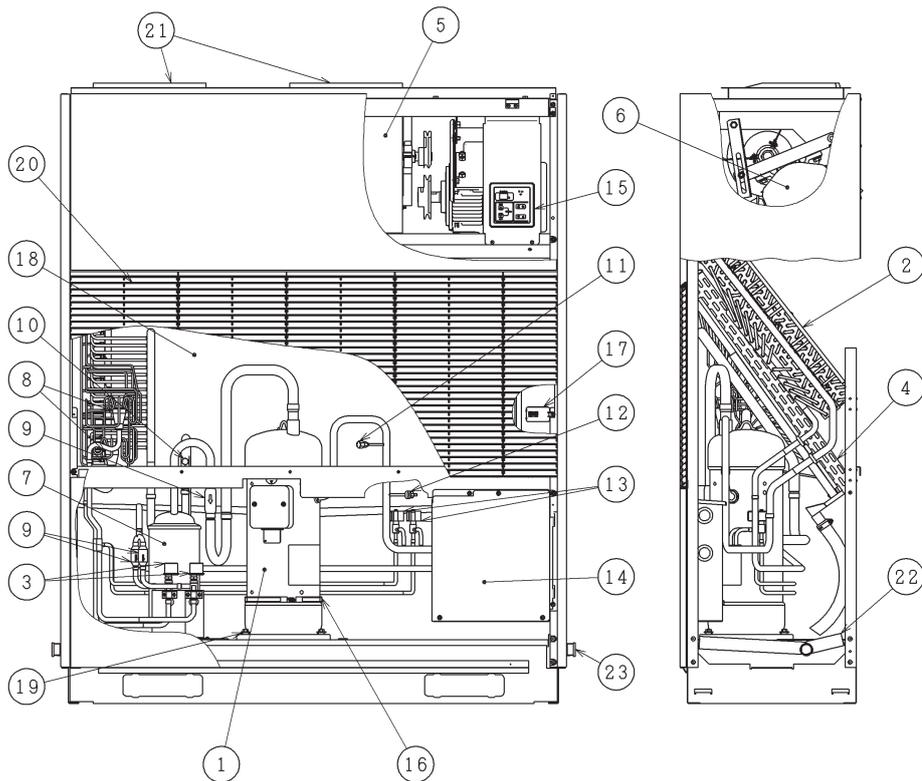


番号	名称	備考
①	全密閉形圧縮機	スクロール式 5.5kW
②	凝縮器	
③	電子膨張弁	
④	蒸発器	
⑤	送風機	
⑥	電動機 (送風機用)	1.5kW
⑦	アキュムレーター	圧力容器ではない
⑧	ディストリビューター	
⑨	ストレーナー	
⑩	チェックジョイント	低圧側
⑪	チェックジョイント	高圧側
⑫	高圧遮断装置	高圧カット用
⑬	電磁弁	除霜用
⑭	電気品箱	
⑮	操作スイッチ	
⑯	クランクケースヒーター	
⑰	温湿度センサー	
⑱	エアフィルター	
⑲	防振ゴム	
⑳	空気吸込口	
㉑	空気吹出口	
㉒	水受け	
㉓	ドレン配管接続口	R1 (PT1おす)

6. 製品の仕様

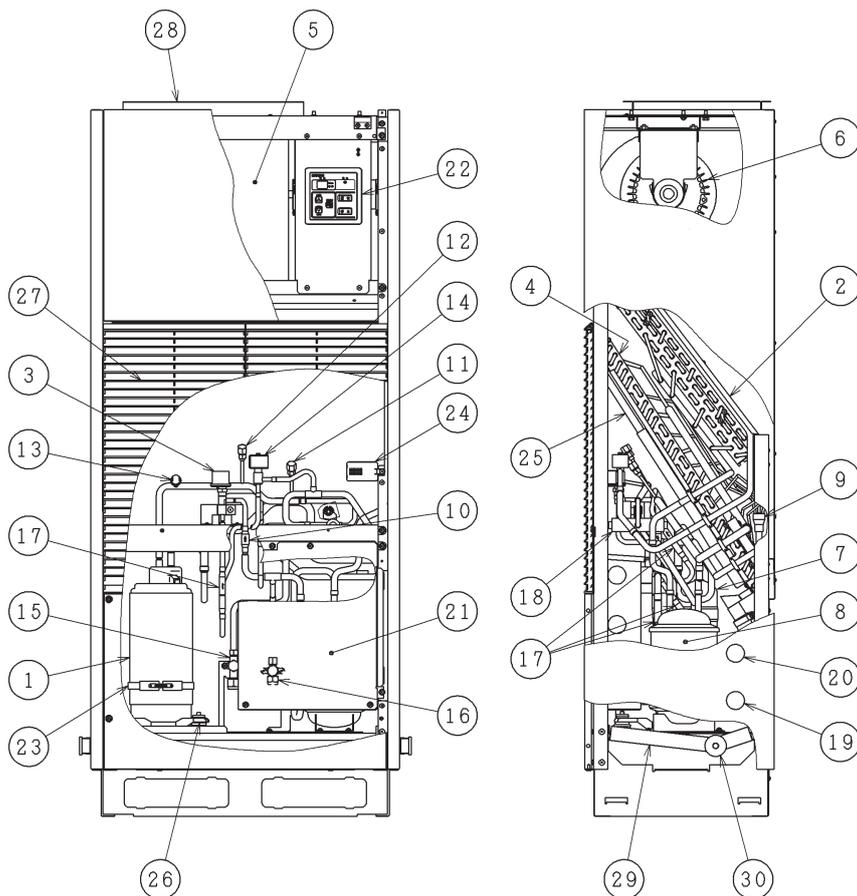
6.4 構造図

● UDP10W2



番号	名称	備考
①	全密閉形圧縮機	スクロール式 7.5kW
②	凝縮器	
③	電子膨張弁	
④	蒸発器	
⑤	送風機	
⑥	電動機 (送風機用)	2.2kW
⑦	アキュムレーター	圧力容器ではない
⑧	ディストリビューター	
⑨	ストレーナー	
⑩	チェックジョイント	低圧側
⑪	チェックジョイント	高圧側
⑫	高圧遮断装置	高圧カット用
⑬	電磁弁	除霜用
⑭	電気品箱	
⑮	操作スイッチ	
⑯	クランクケースヒーター	
⑰	温湿度センサー	
⑱	エアフィルター	
⑲	防振ゴム	
⑳	空気吸込口	
㉑	空気吹出口	
㉒	水受け	
㉓	ドレン配管接続口	R1 (PT1おす)

● UDP2WC2

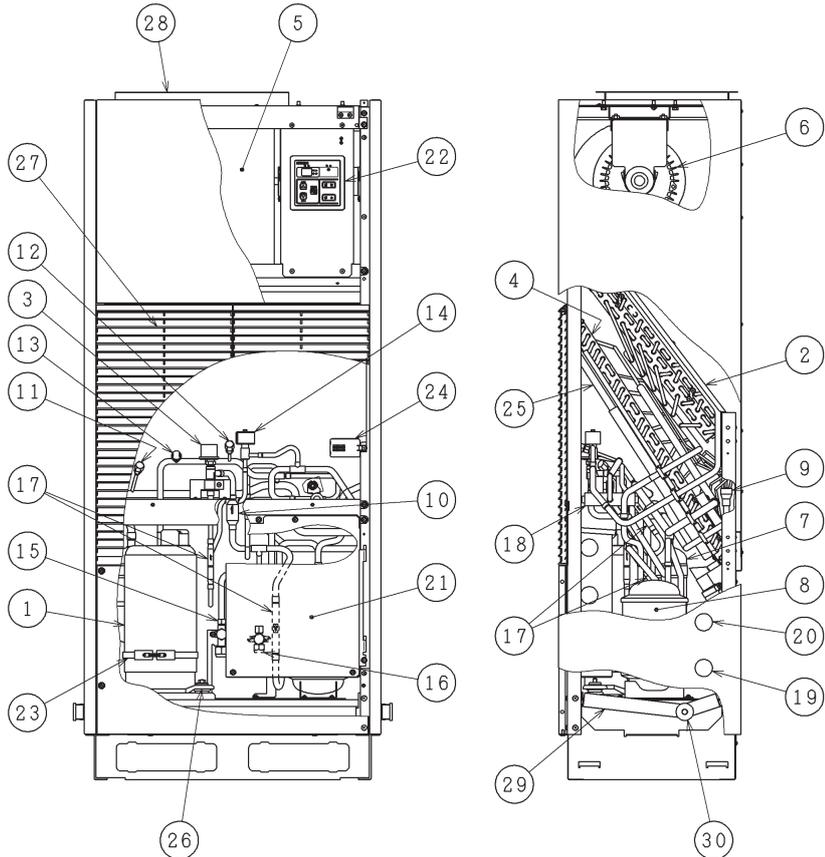


番号	名称	備考
①	全密閉形圧縮機	ロータリ式 1.5kW
②	凝縮器	
③	電子膨張弁	
④	蒸発器	
⑤	送風機	
⑥	電動機 (送風機用)	0.15kW
⑦	アキュムレーター	圧縮機付属
⑧	冷媒量調節器	圧力容器ではない
⑨	ディストリビューター	
⑩	ストレーナー	
⑪	チェックジョイント	低圧側
⑫	チェックジョイント	高圧側
⑬	高圧遮断装置	高圧カット用
⑭	電磁弁	除霜用
⑮	阻止弁 (ガス側)	1/2
⑯	阻止弁 (液側)	3/8
⑰	逆止弁	4個
⑱	四方弁	
⑲	冷媒ガス配管接続口	φ12.7銅管 φ38穴
⑲	冷媒液配管接続口	φ9.52銅管 φ38穴
㉑	電気品箱	
㉒	操作スイッチ	
㉓	クランクケースヒーター	
㉔	温湿度センサー	
㉕	エアフィルター	
㉖	防振ゴム	
㉗	空気吸込口	
㉘	空気吹出口	
㉙	水受け	
㉚	ドレン配管接続口	R1 (PT1おす)

6. 製品の仕様

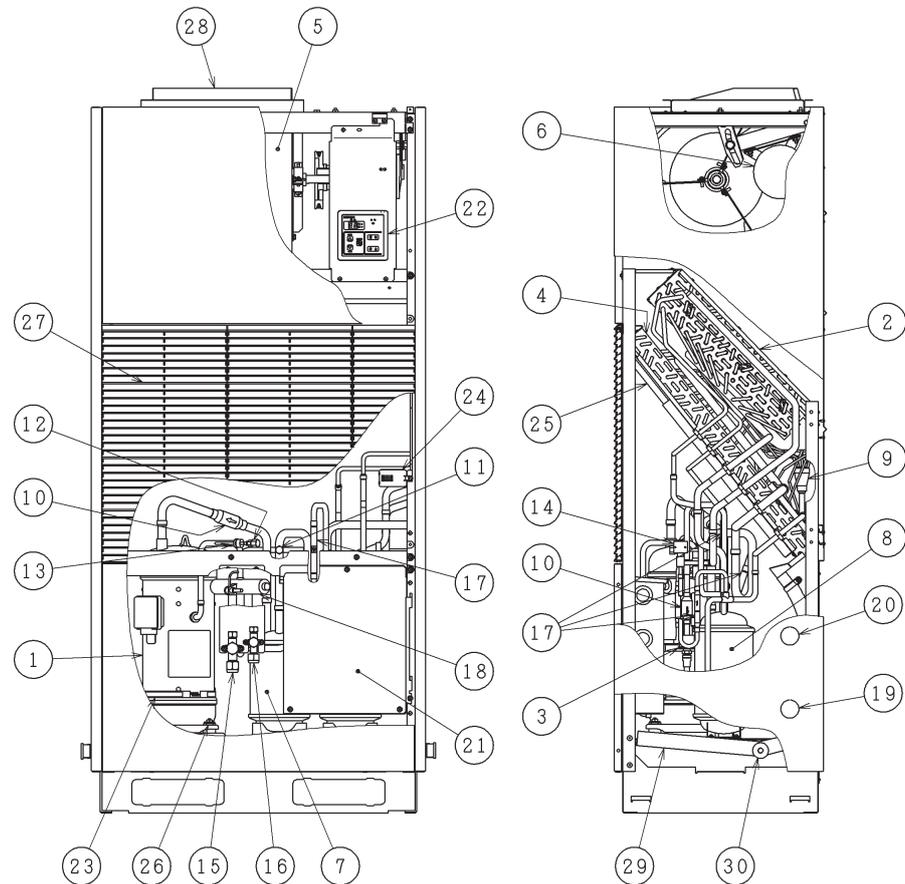
6.4 構造図

● UDP3WC2



番号	名称	備考
①	全密閉形圧縮機	ロータリ式 2.2kW
②	凝縮器	
③	電子膨張弁	
④	蒸発器	
⑤	送風機	
⑥	電動機 (送風機用)	0.27kW
⑦	アキュムレーター	圧縮機付属
⑧	冷媒量調節器	圧力容器ではない
⑨	ディストリビューター	
⑩	ストレーナー	
⑪	チェックジョイント	低圧側
⑫	チェックジョイント	高圧側
⑬	高圧遮断装置	高圧カット用
⑭	電磁弁	除霜用
⑮	阻止弁 (ガス側)	1/2
⑯	阻止弁 (液側)	3/8
⑰	逆止弁	4個
⑱	四方弁	
⑲	冷媒ガス配管接続口	φ12.7銅管 φ38穴
⑳	冷媒液配管接続口	φ9.52銅管 φ38穴
㉑	電気品箱	
㉒	操作スイッチ	
㉓	クランクケースヒーター	
㉔	温湿度センサー	
㉕	エアフィルター	
㉖	防振ゴム	
㉗	空気吸込口	
㉘	空気吹出口	
㉙	水受け	
㉚	ドレン配管接続口	R1 (PT1おす)

● UDP5WC2

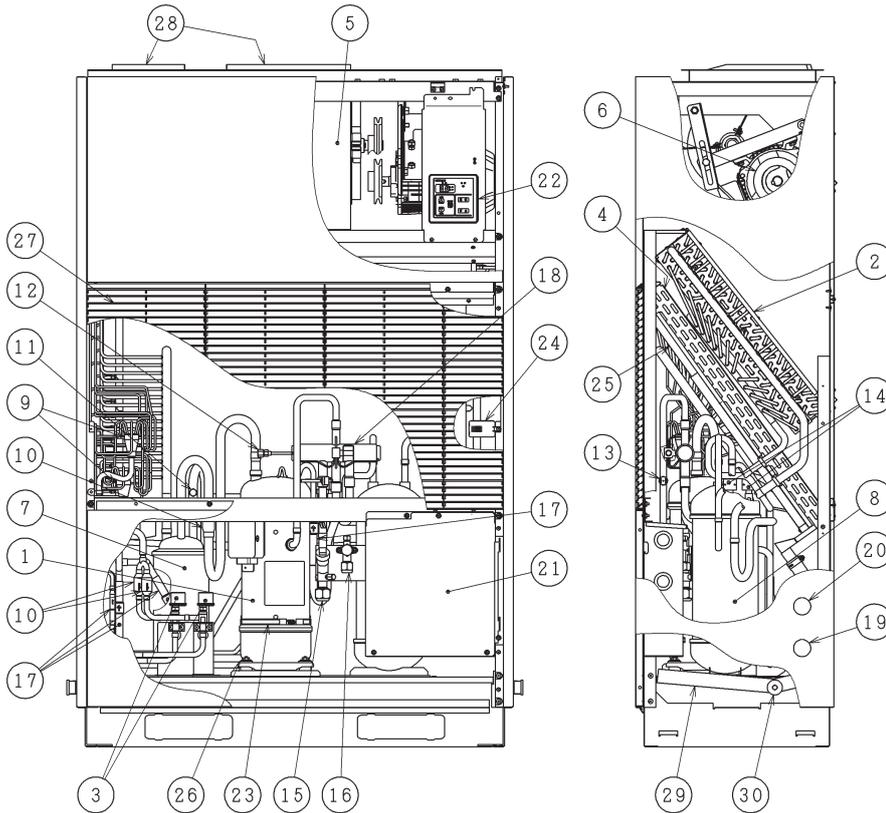


番号	名称	備考
①	全密閉形圧縮機	スクロール式 3.75kW
②	凝縮器	
③	電子膨張弁	
④	蒸発器	
⑤	送風機	
⑥	電動機 (送風機用)	0.55kW
⑦	アキュムレーター	圧力容器ではない
⑧	冷媒量調節器	圧力容器ではない
⑨	ディストリビューター	
⑩	ストレーナー	2個
⑪	チェックジョイント	低圧側
⑫	チェックジョイント	高圧側
⑬	高圧遮断装置	高圧カット用
⑭	電磁弁	除霜用
⑮	阻止弁 (ガス側)	5/8
⑯	阻止弁 (液側)	1/2
⑰	逆止弁	4個
⑱	四方弁	
⑲	冷媒ガス配管接続口	φ15.88銅管 φ42ノック穴
⑳	冷媒液配管接続口	φ12.7銅管 φ42ノック穴
㉑	電気品箱	
㉒	操作スイッチ	
㉓	クランクケースヒーター	
㉔	温湿度センサー	
㉕	エアフィルター	
㉖	防振ゴム	
㉗	空気吸込口	
㉘	空気吹出口	
㉙	水受け	
㉚	ドレン配管接続口	R1 (PT1おす)

6. 製品の仕様

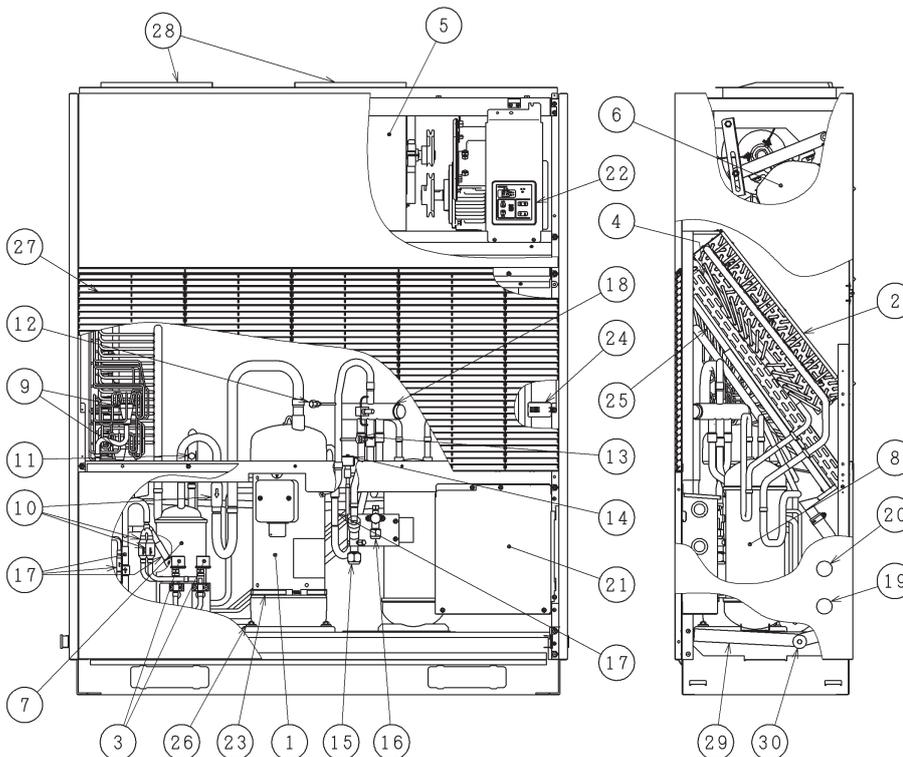
6.4 構造図

● UDP8WC2



番号	名称	備考
①	全密閉形圧縮機	スクロール式 5.5kW
②	凝縮器	
③	電子膨張弁	
④	蒸発器	
⑤	送風機	
⑥	電動機 (送風機用)	1.5kW
⑦	アキュムレーター	圧力容器ではない
⑧	冷媒量調節器	圧力容器ではない
⑨	ディストリビューター	
⑩	ストレーナー	3個
⑪	チェックジョイント	低圧側
⑫	チェックジョイント	高圧側
⑬	高圧遮断装置	高圧カット用
⑭	電磁弁	除霜用
⑮	阻止弁 (ガス側)	3/4
⑯	阻止弁 (液側)	5/8
⑰	逆止弁	5個
⑱	四方弁	
⑲	冷媒ガス配管接続口	φ19.05銅管 φ42ノック穴
⑳	冷媒液配管接続口	φ15.88銅管 φ42ノック穴
㉑	電気品箱	
㉒	操作スイッチ	
㉓	クランクケースヒーター	
㉔	温度センサー	
㉕	エアフィルター	
㉖	防振ゴム	
㉗	空気吸込口	
㉘	空気吹出口	
㉙	水受け	
㉚	ドレン配管接続口	R1 (PT1おす)

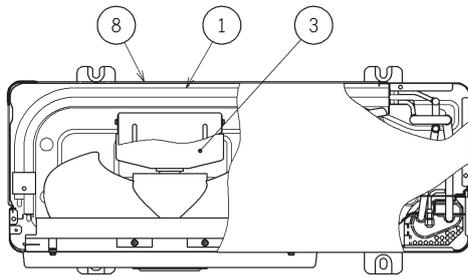
● UDP10WC2



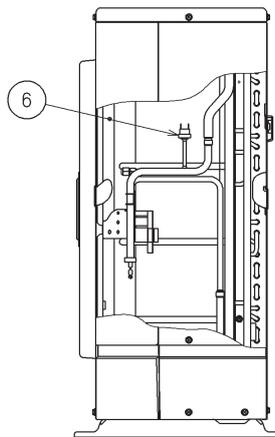
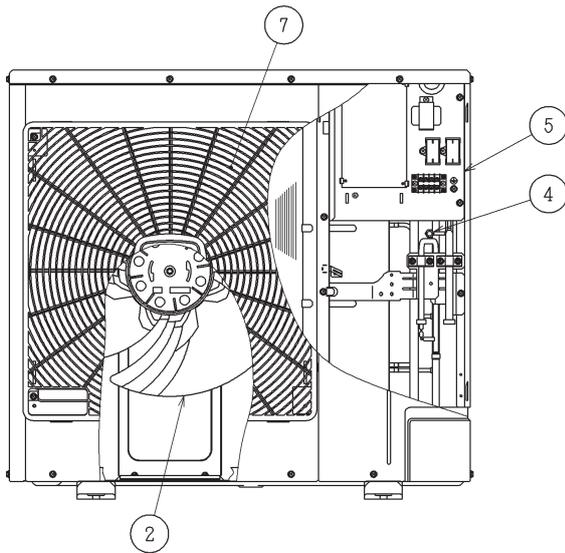
番号	名称	備考
①	全密閉形圧縮機	スクロール式 7.5kW
②	凝縮器	
③	電子膨張弁	
④	蒸発器	
⑤	送風機	
⑥	電動機 (送風機用)	2.2kW
⑦	アキュムレーター	圧力容器ではない
⑧	冷媒量調節器	圧力容器ではない
⑨	ディストリビューター	
⑩	ストレーナー	3個
⑪	チェックジョイント	低圧側
⑫	チェックジョイント	高圧側
⑬	高圧遮断装置	高圧カット用
⑭	電磁弁	除霜用
⑮	阻止弁 (ガス側)	3/4
⑯	阻止弁 (液側)	5/8
⑰	逆止弁	5個
⑱	四方弁	
⑲	冷媒ガス配管接続口	φ19.05銅管 φ42ノック穴
⑳	冷媒液配管接続口	φ15.88銅管 φ42ノック穴
㉑	電気品箱	
㉒	操作スイッチ	
㉓	クランクケースヒーター	
㉔	温度センサー	
㉕	エアフィルター	
㉖	防振ゴム	
㉗	空気吸込口	
㉘	空気吹出口	
㉙	水受け	
㉚	ドレン配管接続口	R1 (PT1おす)

2 室外ユニット

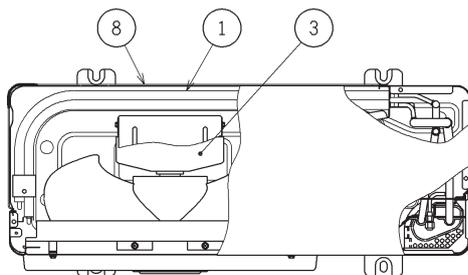
● UDRCP2WC1



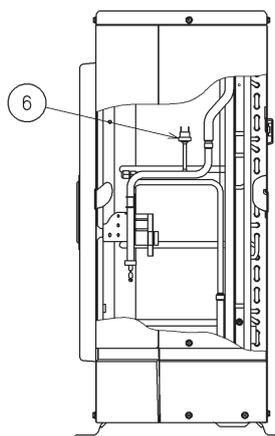
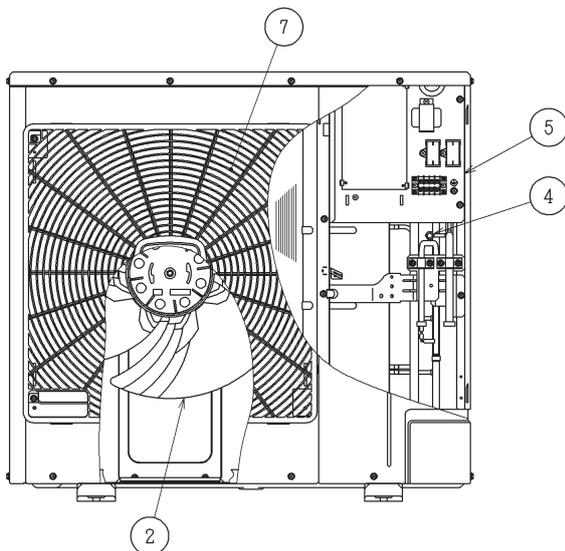
番号	名称	備考
①	凝縮器	
②	プロペラファン	φ465
③	送風機用電動機	80W
④	チェックジョイント	
⑤	電気品箱	
⑥	圧力スイッチ	
⑦	空気吹出口	正面
⑧	空気吸込口	背面, 側面



● UDRCP3WC1



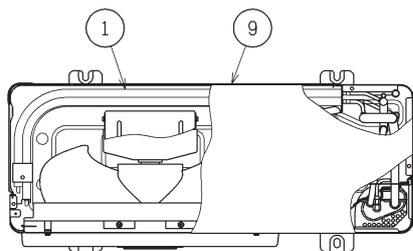
番号	名称	備考
①	凝縮器	
②	プロペラファン	φ465
③	送風機用電動機	95W
④	チェックジョイント	
⑤	電気品箱	
⑥	圧力スイッチ	
⑦	空気吹出口	正面
⑧	空気吸込口	背面, 側面



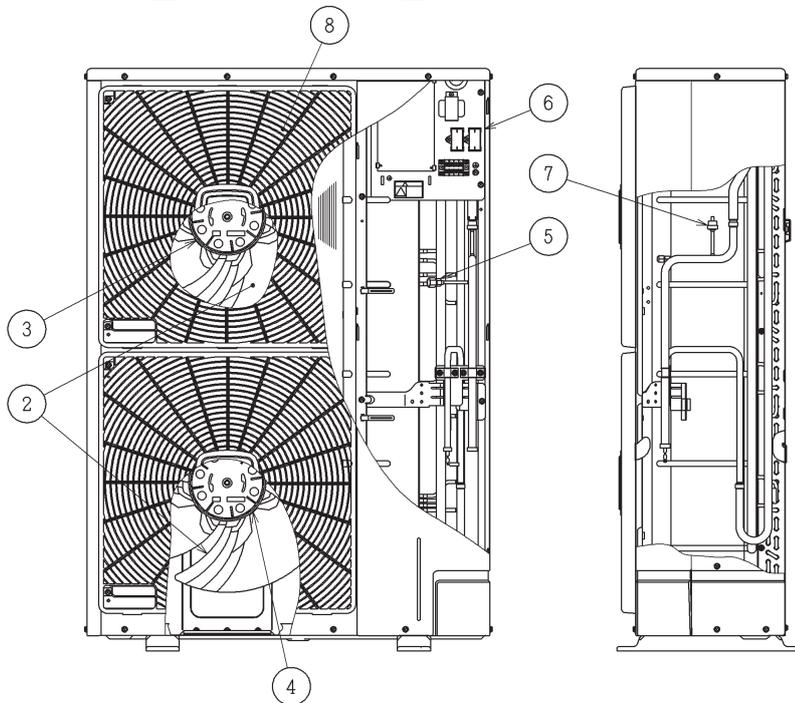
6. 製品の仕様

6.4 構造図

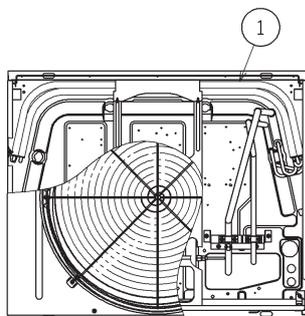
● UDRCP5WC1



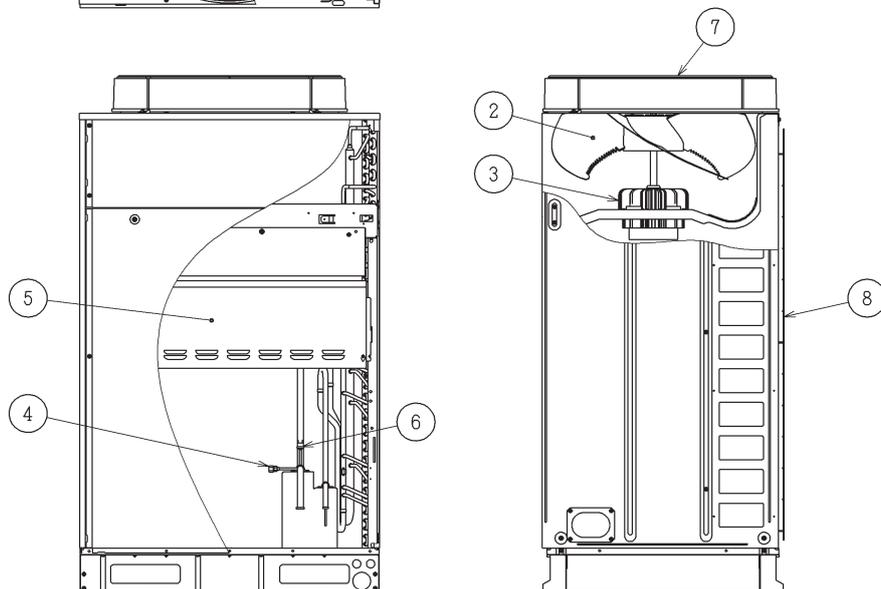
番号	名称	備考
①	凝縮器	
②	プロペラファン	φ465×2
③	送風機用電動機	60W
④	送風機用電動機	80W
⑤	チェックジョイント	
⑥	電気品箱	
⑦	圧力スイッチ	
⑧	空気吹出口	正面
⑨	空気吸込口	背面, 側面



● UDRCP8WC1



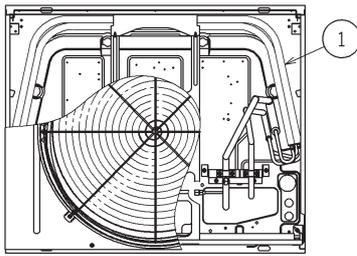
番号	名称	備考
①	凝縮器	
②	プロペラファン	φ644
③	送風機用電動機	275W
④	チェックジョイント	
⑤	電気品箱	
⑥	圧力スイッチ	
⑦	空気吹出口	上面
⑧	空気吸込口	背面, 側面



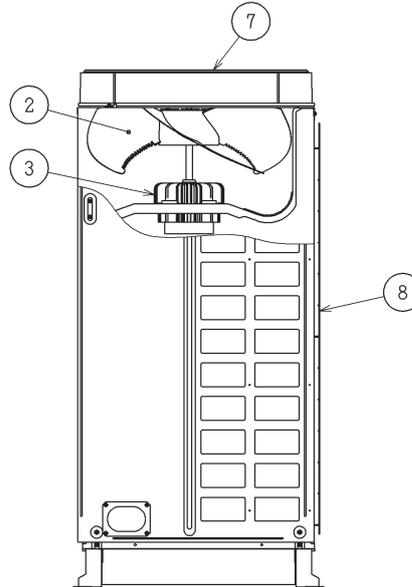
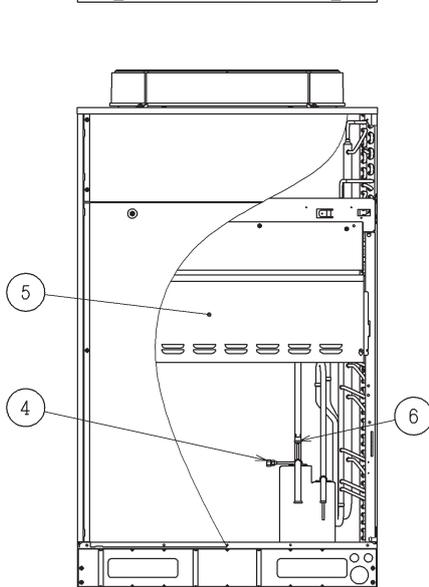
6. 製品の仕様

6.4 構造図

● UDRCP10WC1

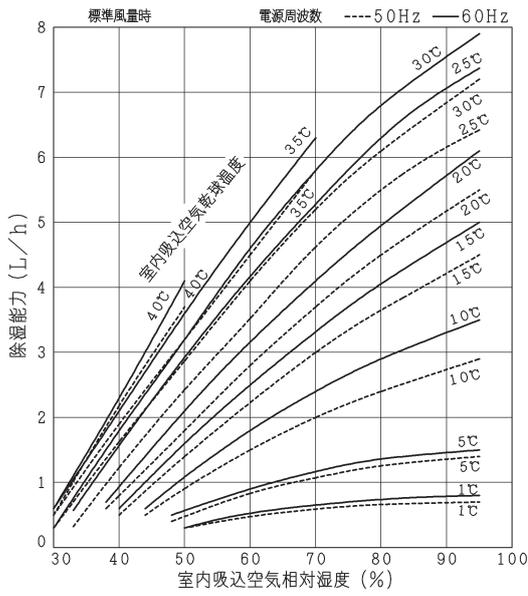


番号	名称	備考
①	凝縮器	
②	プロペラファン	φ644
③	送風機用電動機	275W
④	チェックジョイント	
⑤	電気品箱	
⑥	圧力スイッチ	
⑦	空気吹出口	上面
⑧	空気吸込口	背面, 側面

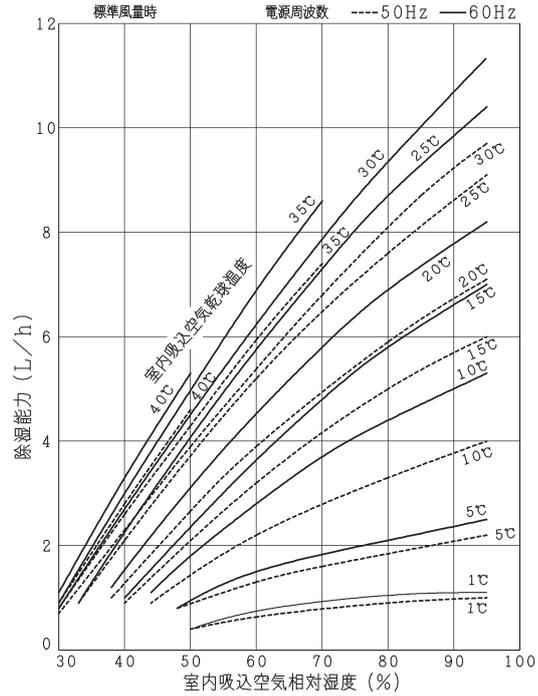


1 除湿能力

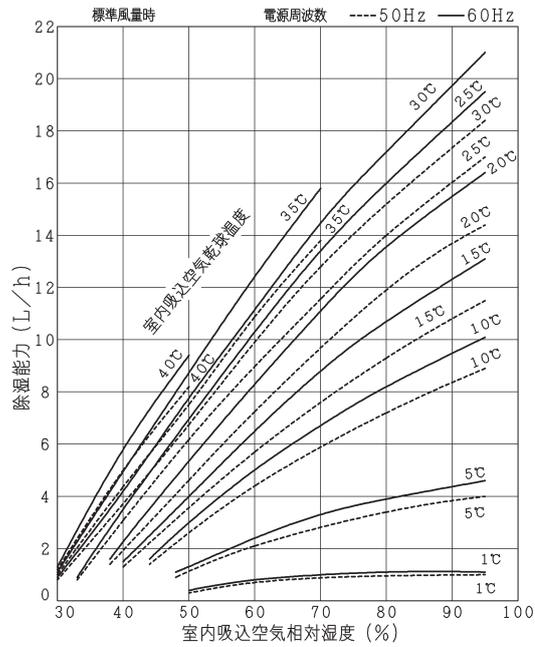
● UDP2W2



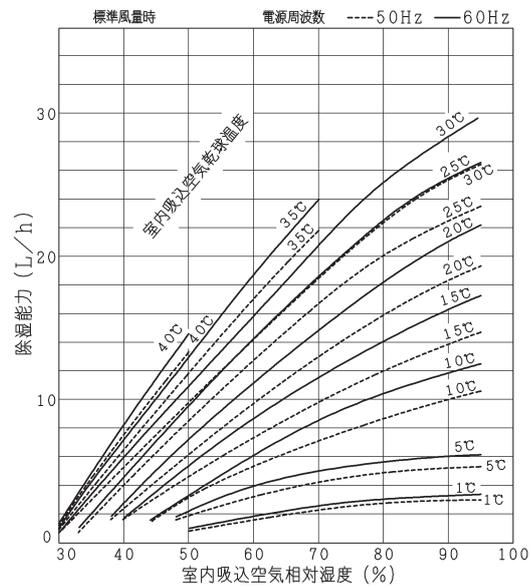
● UDP3W2



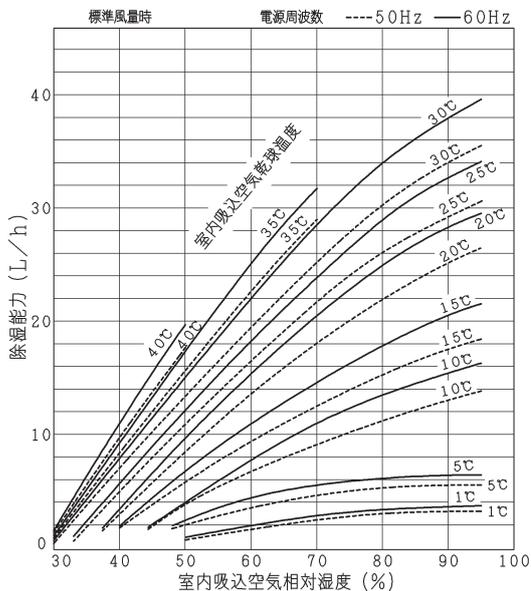
● UDP5W2



● UDP8W2



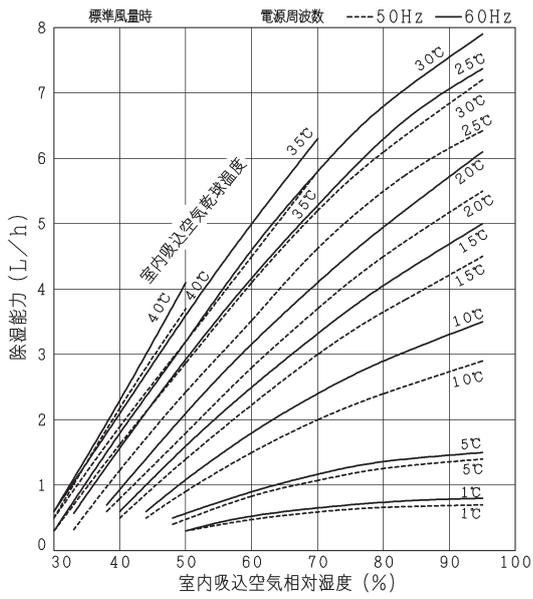
● UDP10W2



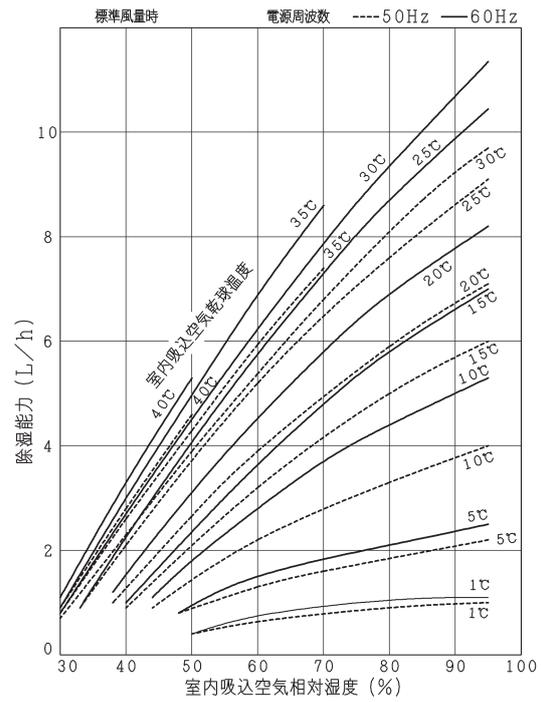
6. 製品の仕様

6.5 性能

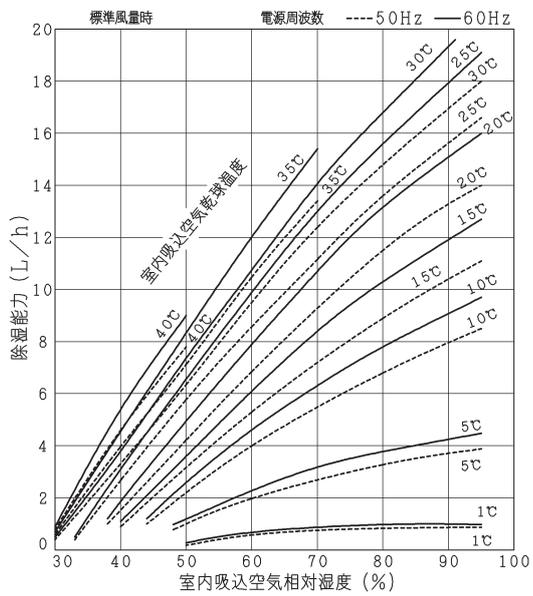
● UDP2WC2



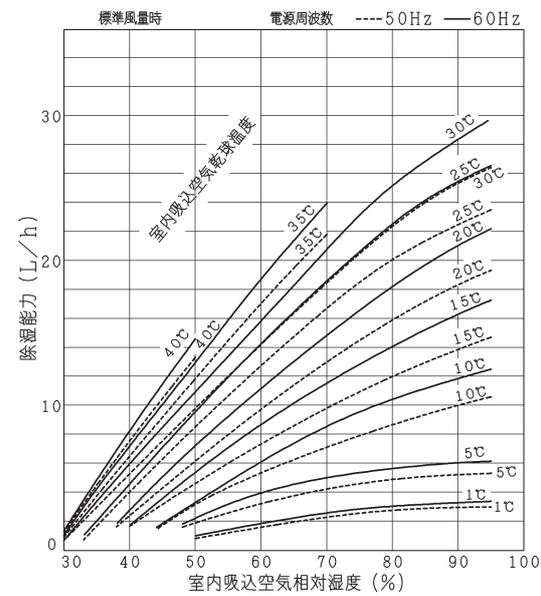
● UDP3WC2



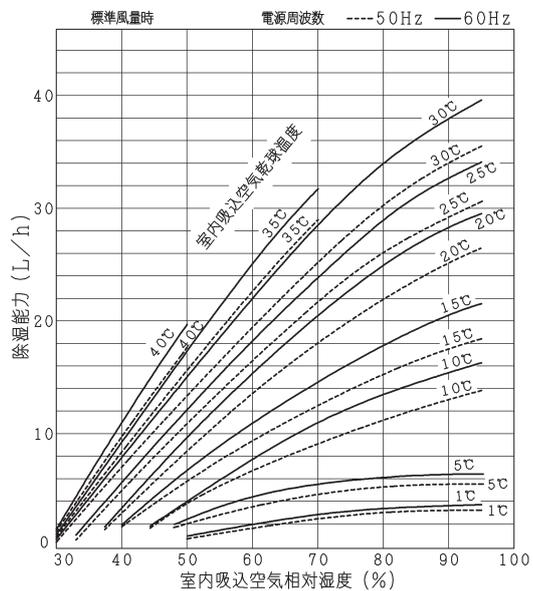
● UDP5WC2



● UDP8WC2

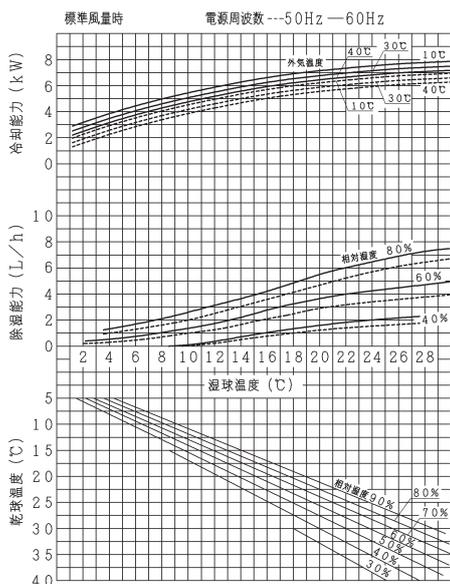


● UDP10WC2

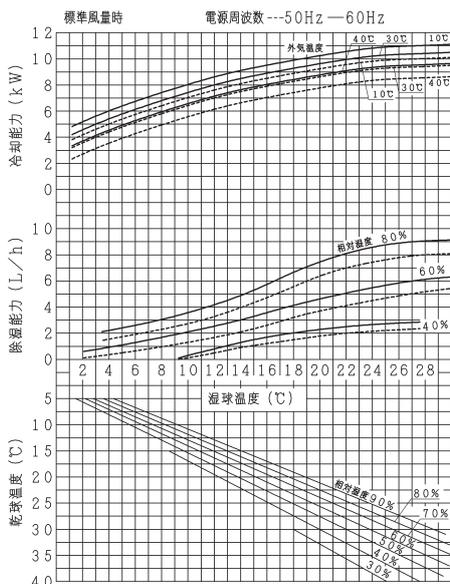


2 冷却能力

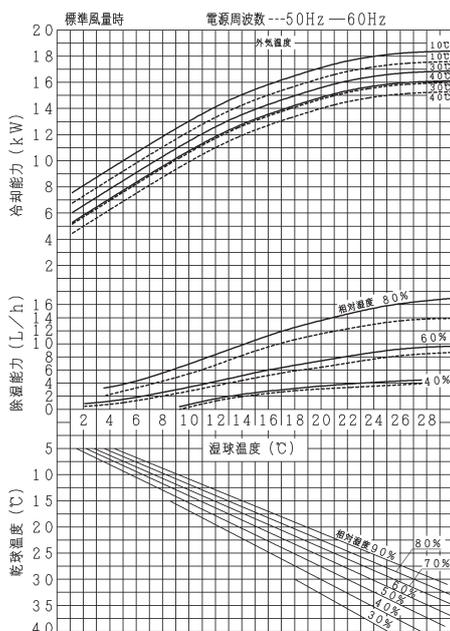
● UDP2WC2 + UDRCP2WC1



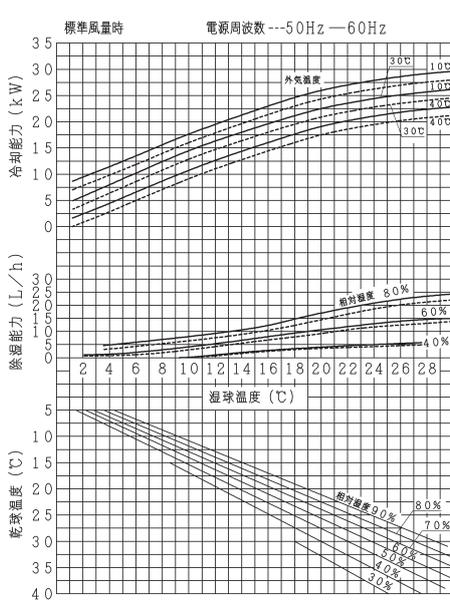
● UDP3WC2 + UDRCP3WC1



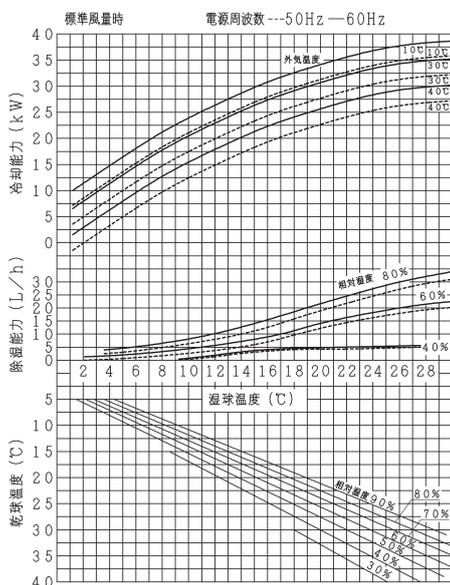
● UDP5WC2 + UDRCP5WC1



● UDP8WC2 + UDRCP8WC1



● UDP10WC2 + UDRCP10WC1



7. 応用機能

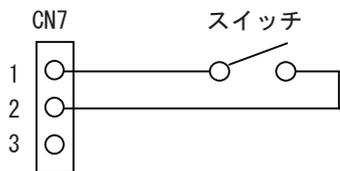
7.1 室内プリント基板からのオプション機能

室内ユニットのプリント基板から下記のオプション機能が使用できます。

1 遠方発停信号入力（運転 / 停止制御）

コネクタ CN7 の 1-2 ピン間にスイッチ（無電圧接点）を接続し、スイッチ接点閉で運転、スイッチ接点開で停止します。

(注)配線長さは、50m以内としてください。



遠方発停による運転・停止中も、ユニットの操作スイッチによる運転・停止の運転操作が可能です（後押し優先）。

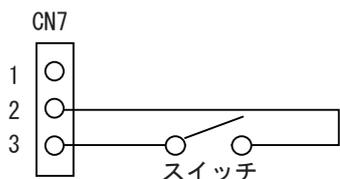
操作スイッチの機能選択 (F3) によりレベル信号とパルス信号の設定ができます。パルス入力ごとに運転・停止します。
パルス幅は 200ms 以上 としてください。

2 運転切換信号入力（冷却機能付機のみ）

コネクタ CN7 の 2-3 ピン間にスイッチ（無電圧接点）を接続し、スイッチ接点閉で冷却運転、スイッチ接点開で、再熱運転を行います。

なお、本機能を使用するには操作スイッチの機能選択 (F4) を有効にしてください。

(注)配線長さは、50m以内としてください。



3 外部ヒューミ / サーモ信号入力（圧縮機オン）

コネクタ (CN8) に外部ヒューミ / サーモ信号（レベル信号）を入力することで、遠方より圧縮機の ON/OFF に加え、冷却 / 再熱モードの切り換えを行うことができます。操作スイッチの機能選択 (o7・o9) にて、コネクタ (CN8) の機能を設定してください。

(注) 1. 再熱専用機の場合、サーモ信号の機能はありません。

2. 冷却機能付機の温度優先運転時では、サーモ信号に基づき運転を行います。

(1) 再熱専用機

●設定方法

操作スイッチの機能選択 配線コネクタ	外部ヒューミで使用する場合	外部サーモで使用する場合
	操作スイッチの機能選択 o7（入力設定 1）を 0 から 1 に設定してください。	再熱専用機では、設定できません
	操作スイッチの機能選択 o9（入力設定 2）を 0 から 1 に設定してください。	再熱専用機では、設定できません

●運転状態

外部信号	ヒューミ信号入力	サーモ信号入力
再熱運転	○	機能なし
送風運転	×	機能なし

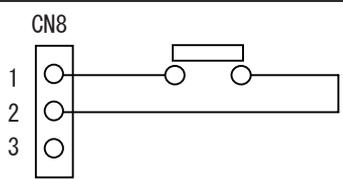
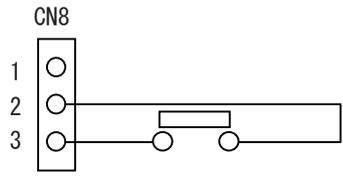
○：信号入力あり ×：信号入力なし

7. 応用機能

7.1 室内プリント基板からのオプション機能

(2) 冷却機能付機

●設定方法

操作スイッチの機能選択	外部ヒューミで使用する場合	外部サーモで使用する場合
配線コネクタ 	操作スイッチの機能選択 o7 (入力設定 1) を 0 から 1 に 設定してください。	操作スイッチの機能選択 o7 (入力設定 1) を 0 から 2 に 設定してください。
	操作スイッチの機能選択 o9 (入力設定 2) を 0 から 1 に 設定してください。	操作スイッチの機能選択 o9 (入力設定 2) を 0 から 2 に 設定してください。

o7：コネクタ (CN8) 1-2 番の入力内容を設定します。

o9：コネクタ (CN8) 2-3 番の入力内容を設定します。

●運転状態

湿度優先運転時

外部信号	ヒューミ信号入力	サーモ信号入力
冷却運転	○	○
再熱運転	×	○
送風運転	○	×
送風運転	×	×

○：信号入力あり ×：信号入力なし

温度優先運転時

外部信号	ヒューミ信号入力	サーモ信号入力
冷却運転	○	○
再熱運転	×	○
送風運転	○	×
送風運転	×	×

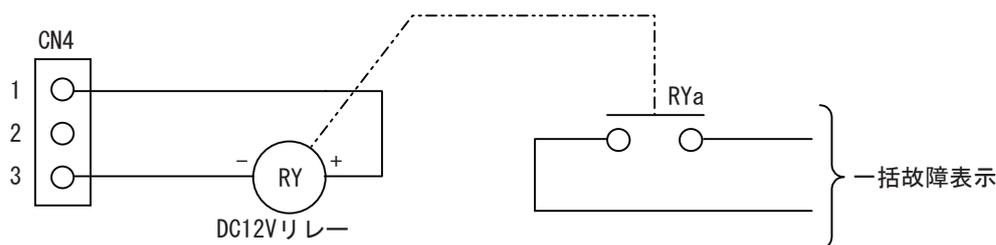
○：信号入力あり ×：信号入力なし

4 一括故障表示信号出力

室内ユニット異常時に、コネクタ CN4 より警報信号 (DC12V) を出力します。

CN4 の 1-3 ピン間に DC12V リレー (RY) を接続し、リレーの接点 (RYa) を使用してください。

なお、一括故障表示信号は、操作スイッチのデジタル表示部にアラームコードを表示している間、出力します。

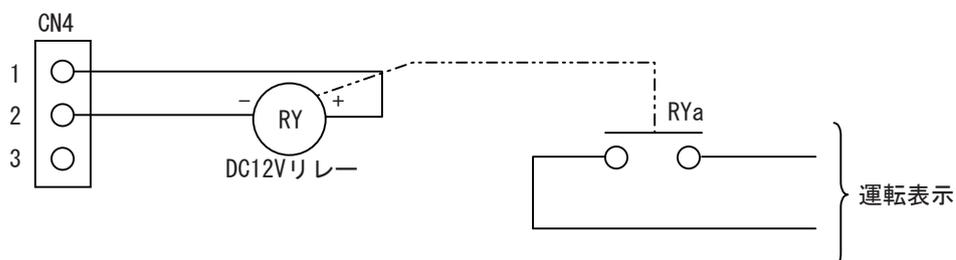


5 運転表示信号出力

室内ユニット運転中に、コネクタ CN4 より運転表示信号 (DC12V) を出力します。

CN4 の 1-2 ピン間に DC12V リレー (RY) を接続し、リレーの接点 (RYa) を使用してください。

なお、運転表示信号は、圧縮機が停止した場合にも出力します。



7. 応用機能

7.1 室内プリント基板からのオプション機能

6 圧縮機 ON 表示信号出力

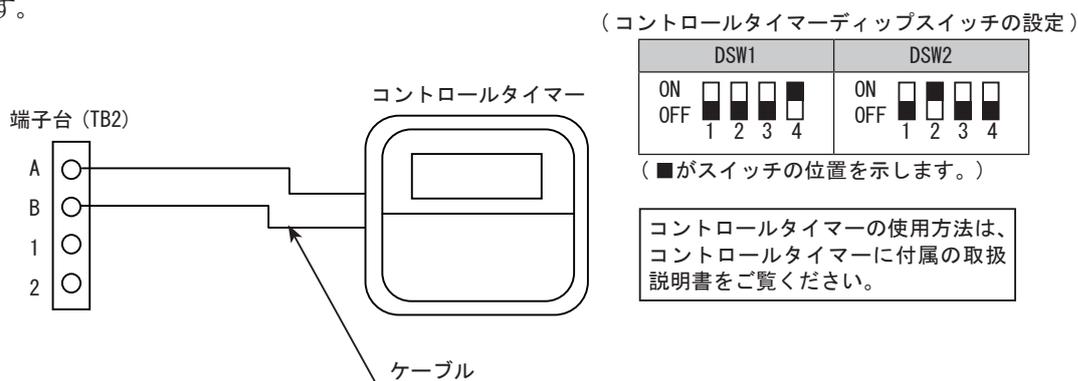
操作スイッチの機能選択 (F1・o8) 選択することでコネクタ CN5 の 1-2 番または 1-3 番に圧縮機サーモ ON 信号 (DC12V) を出力します。

7 除霜表示信号出力

操作スイッチの機能選択 (F1・o8) 選択することでコネクタ CN5 の 1-2 番または 1-3 番に除霜信号 (DC12V) を出力します。

8 コントロールタイマーの接続

端子台 (TB2) の A・B にオプションのコントロールタイマーを接続して、一週間単位のプログラム運転ができます。



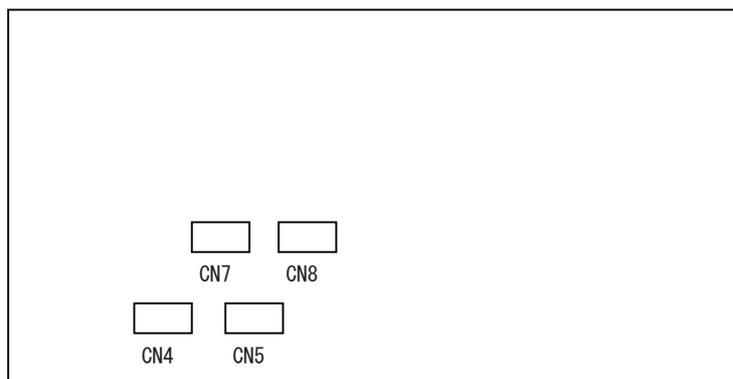
【オプション機能に使用する部品一覧】

部品	メーカー・仕様等	オプション部品型式
3ピンコネクタ (CN4・CN5・CN7・CN8に接続)	日本圧着端子製XAコネクタ (XARP-03V)	PCC-1A (5本/セット)
スイッチ(遠方発停用)	市販品手動スイッチ	—
DC12Vリレー	オムロン製パワーリレーLY相当品(コイル電圧DC12V)	—
電気配線	ユニット内部	0.3mm ² 市販品
	ユニット内部	0.5~0.75mm ² 市販品

(注) DC12V リレー (極性有) を使用する場合は、極性に十分注意してください。
万一、極性を誤って接続しますと、室内プリント基板が故障する恐れがあります。

【オプション機能に使用するコネクタの位置】

室内プリント基板 (PWB)



1 オプション設定機能

(1) オプション設定モードへの切換方法

停止状態であることを確認して、操作スイッチの **停止** スイッチと **上げる** スイッチを同時に1秒以上押してください。操作スイッチがオプション設定モードになります。

(2) オプション項目の変更と設定状態の変更

- **上げる** スイッチ、**さげる** スイッチを押すことにより、オプション項目が下記のように切り換わります。



- **運転** スイッチ、**停止** スイッチを押すことにより、設定状態が下記例のように切り換わります。

設定表示部が『**0**』・・・ **停止** スイッチを押した時

設定表示部が『**!**』・・・ **運転** スイッチを押した時

(3) オプション設定モードの解除方法

操作スイッチの **停止** スイッチと **上げる** スイッチを同時に1秒以上押すと通常状態に戻ります。

(4) オプション設定項目

設定項目	表示		設定			出荷時設定
	1 秒	1 秒	最小値	最大値	ピッチ	
出力設定 1	F1	2	0	2	1	2
停電後動作	F2	0	0	1	1	0
遠方発停	運転 / 停止	F3	0	1	1	0
運転切換信号選択	F4	0	0	1	1	0
ファン残留運転	F5	0	0	1	1	0
異常時ファン停止	F6	1	0	1	1	1
手元操作禁止	F7	0	0	1	1	0
ディファレンシャル	湿度	F8	5	10	1	5
	温度	F9	3	10	1	3
除霜周期	FA	30	15	60	5	30
除霜時間	Fb	15	5	30	5	15
補正	湿度	o1	0	5	1	0
	温度	o2	0	5	1	0
予備	o3	—	—	—	—	—
予備	o4	0	0	1	1	0
予備	o5	70	30	80	5	70
フィルターサイン時間変更	o6	0	0	2	1	0
入力設定 1	o7	0	0	2	1	0
出力設定 2	o8	1	0	2	1	1
入力設定 2	o9	0	0	2	1	0

7. 応用機能

7.2 操作スイッチからのオプション設定機能

(5) 機能名と機能内容の説明

用語の説明

機能名	項目	内容
出力設定 1	F1	コネクター (CN5) 1-2番の出力内容を設定します。 0 : なし 1 : 圧縮機サーモON出力 2 : 除霜出力
停電後動作	F2	停電復帰後の運転動作を設定します。 0 : 復電後、運転停止 1 : 復電後、停電前の状態で運転を開始
遠方発停	F3	遠方発停の種類を設定します。 0 : レベル信号 1 : パルス信号
運転切換信号選択	F4	外部信号(レベル)により、冷却運転と再熱運転の切り換えをします。(冷却機能付の湿度優先時のみ) 0 : 無効 1 : 有効(レベル信号入力時、冷却運転をします)
ファン残留運転	F5	運転停止後の室内送風機運転動作を設定します。 0 : 運転停止後、室内送風機も停止 1 : 運転停止後、室内送風機は30秒間運転を継続し、停止
異常時ファン停止	F6	「02」「05」以外のアラームが発生した場合の室内送風機運転・停止を設定します。 0 : 運転継続 1 : 運転停止
手元操作禁止	F7	操作スイッチの操作内容を制限します。 0 : 通常操作 1 : 温度・湿度設定および優先切換ができません
ディファレンシャル (湿度)	F8	圧縮機運転の湿度ディファレンシャルを設定します。 5 : 5% ~ 10 : 10%
ディファレンシャル (温度)	F9	圧縮機運転の温度ディファレンシャルを設定します。 3 : 3℃ ~ 10 : 10℃
除霜周期	FA	除霜周期を設定します。 15 : 15分 ~ 60 : 60分
除霜時間	Fb	除霜時間を設定します。 5 : 5分 ~ 30 : 30分
湿度補正	o1	室内ユニットの温湿度センサーで検知する湿度の補正を設定します。 -5 : -5% ~ 5 : 5%
温度補正	o2	室内ユニットの温湿度センサーで検知する温度の補正を設定します。 -5 : -5℃ ~ 5 : 5℃
予備	o3	本機能の設定はありません。
予備	o4	本機能の設定はありません。
予備	o5	本機能の設定はありません。
フィルターサイン時間変更	o6	フィルターサインの時間を設定します。 0 : フィルターサイン表示なし 1 : 1, 200時間 2 : 2, 500時間

(次ページへつづく)

7. 応用機能

7.2 操作スイッチからのオプション設定機能

(前ページよりつづき)

機能名	項目	内容
入力設定 1	o7	コネクタ (CN8) 1-2番の入力内容を設定します。 0: なし 1: 外部ヒューミ (レベル信号) 入力時、室内ユニットの吸込湿度センサーの代わりに圧縮機の運転/停止をします 2: 外部サーモ (レベル信号) 入力時、室内ユニットの吸込温度センサーの代わりに圧縮機の運転/停止をします (再熱専用機は機能しません) (注) 湿度優先時、外部信号により圧縮機の運転/停止をしたい場合は、外部ヒューミ信号および外部サーモ信号が必要です。
出力設定 2	o8	コネクタ (CN5) 1-3番の出力内容を設定します。 0: なし 1: 圧縮機サーモON出力 2: 除霜出力
入力設定 2	o9	コネクタ (CN8) 2-3番の入力内容を設定します。 0: なし 1: 外部ヒューミ (レベル信号) 入力時、室内ユニットの吸込湿度センサーの代わりに圧縮機の運転/停止をします 2: 外部サーモ (レベル信号) 入力時、室内ユニットの吸込温度センサーの代わりに圧縮機の運転/停止をします (再熱専用機は機能しません) (注) 湿度優先時、外部信号により圧縮機の運転/停止をしたい場合は、外部ヒューミ信号および外部サーモ信号が必要です。

複数台制御

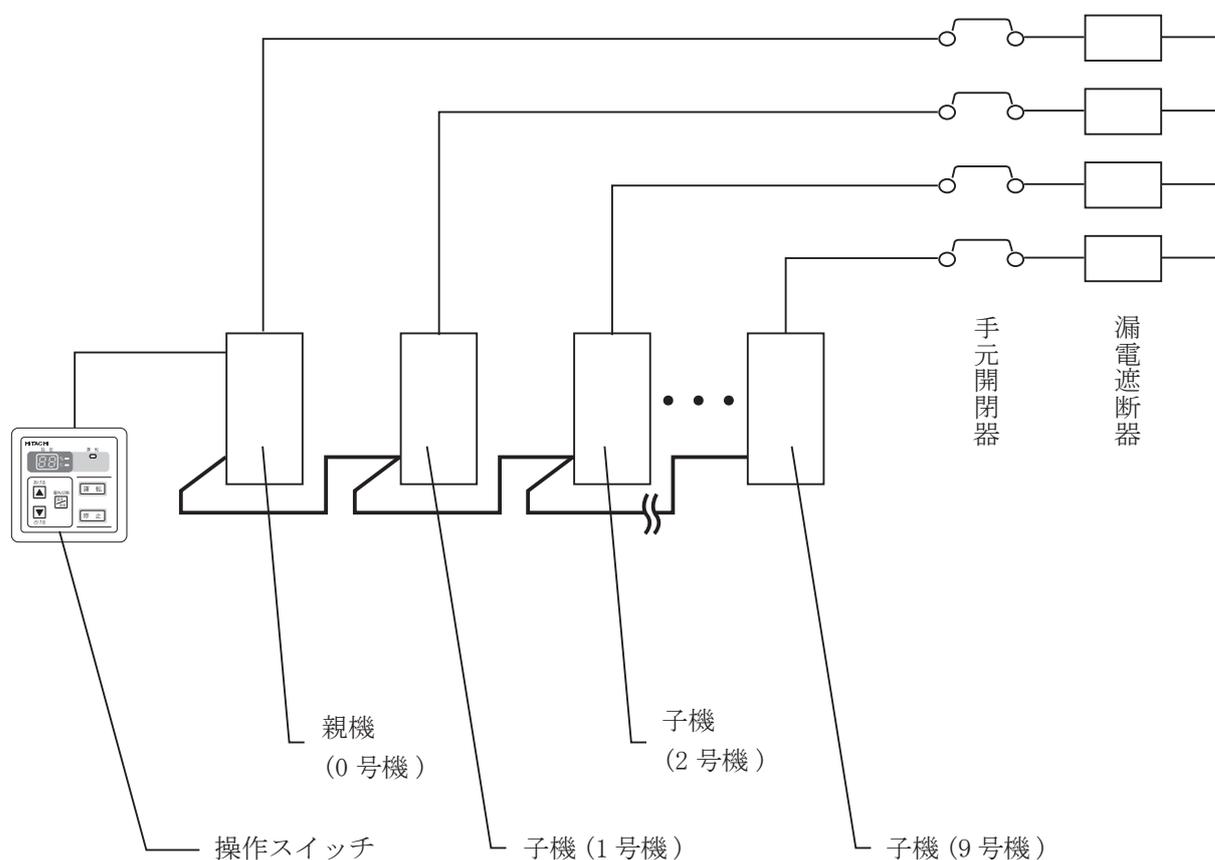
複数台制御とは親機（0号機）に接続した操作スイッチ（1台）で最大10台の子機（1～9号機）を制御します。なお、圧縮機の運転/停止や除霜運転は、室内ユニットごとで制御します。複数台制御の配線作業を下記に示しますので、正しい順序で実施してください。

1 配線のしかた

下図のとおり、制御用配線（操作スイッチと各室内ユニット間）は

操作スイッチ ⇒ 親機（0号機） ⇒ 子機（1号機） ⇒ 子機（2号機） … ⇒ 子機（9号機）と順番に配線してください。ただし、動力配線は室内ユニットごとに手元開閉器および漏電遮断機を必ず取り付けてください。

すべての電圧を遮断してください。電圧がオフになったことをテスターで確認してください。

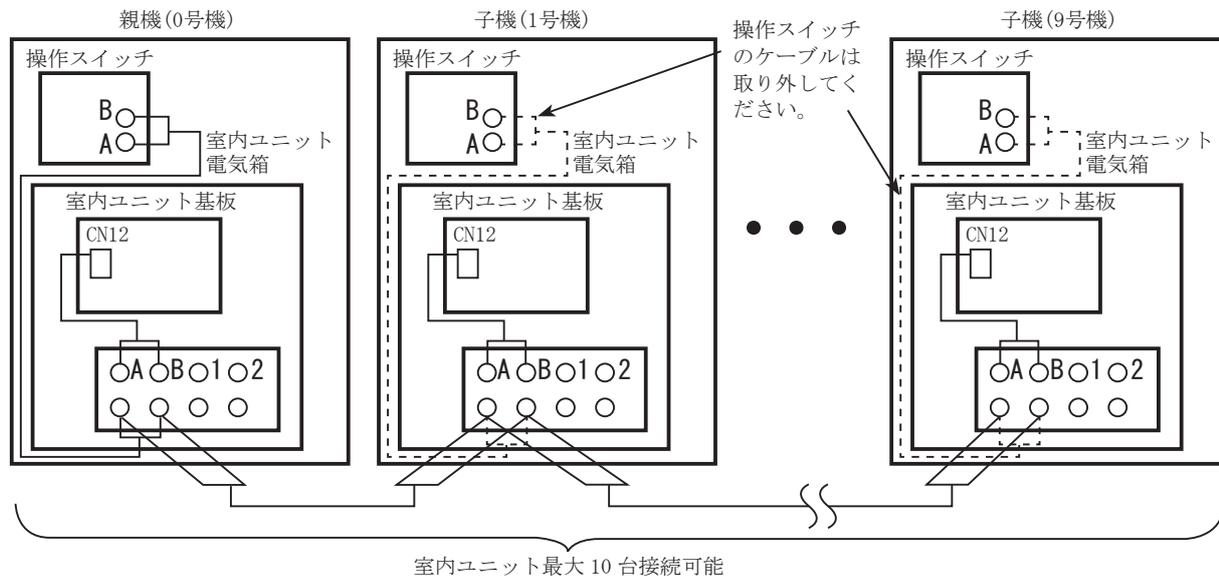


- (注) ■異なる相当馬力の接続は可能ですが、再熱専用機・冷却機能付機を混在して接続することはできません。
- 子機（1～9号機）の操作スイッチは使用できませんので、必要に応じて運転表示灯などを別途取り付けてください。
 - 複数台制御は、電源投入後に操作スイッチから接続室内ユニットの確認を行います（約20秒間）。各室内ユニットの漏電遮断器（ELB）および手元開閉器を一カ所に設置するか、その上位に一括して取り付けてください。

2 伝送線の接続方法

(1) 操作スイッチ～各室内ユニット間

操作スイッチと各室内ユニット間の配線は下図のとおりに行ってください。



操作スイッチは親機(0号機)のみに接続し、子機の操作スイッチは取り外してください。この時、取り外したケーブルの端子部が露出しないように絶縁テープなどで覆ってください。

(注) ■伝送線には、0.75mm²の2芯ケーブル(型式:VCTF・VCTなど)や2芯ツイストペアケーブル(型式:KPEV・KPEV-S相当品)を使用し、総配線長を200m以下としてください。

なお、総配線長が30m以下の場合、ツイストペアケーブル以外の配線(0.5mm²)でも使用できます。

■室内ユニットに内蔵されている操作スイッチを取り外す場合、操作スイッチ取り外しによって生じる前カバーの角穴を塞ぎカバー(オプション部品)で塞いでください。

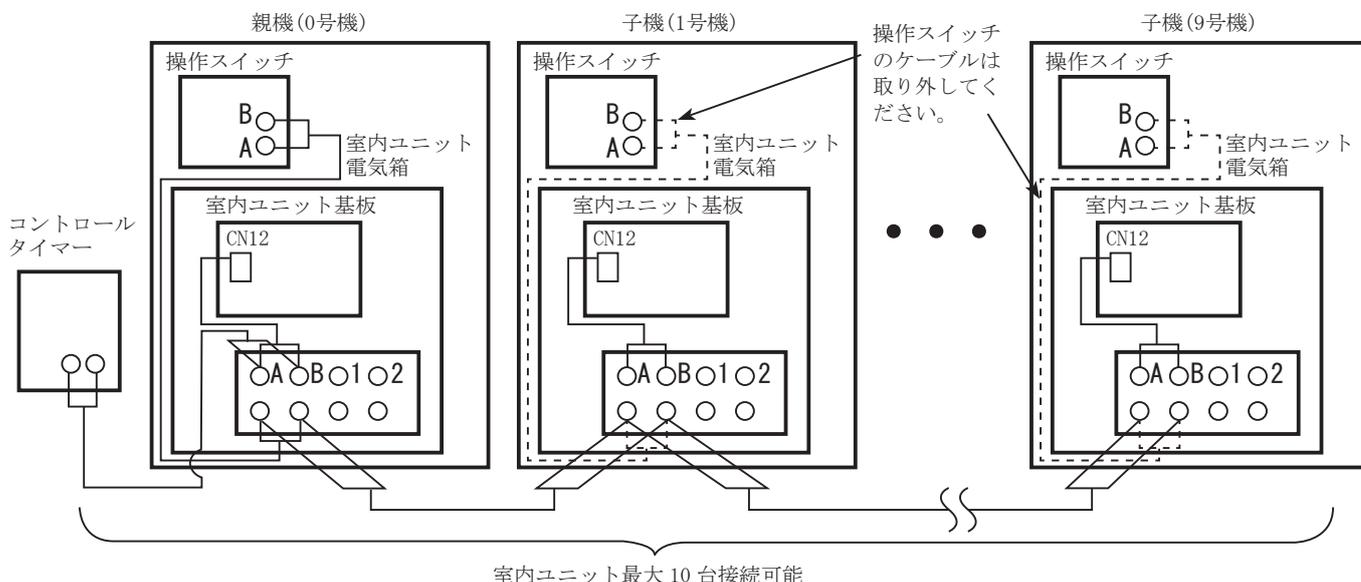
■操作スイッチのケーブルを取り外した室内ユニットの運転ランプおよびセグメント表示はされませんのでご注意ください。除湿機の運転状態を確認したい場合は、操作スイッチの点検モードにてご確認ください。

留意事項

1. 操作スイッチのケーブルとユニット間のケーブルは、電源配線と30cm以上離して設置してください。30cm以内に取り付ける時は、鉄製電線管にケーブルを入れて電線管の方端をアースしてください。この処置をしないと、ユニット制御(機器動作)が乱れたり、機器故障の原因となります。
2. プリント基板などを点検する際は、絶対に素手で触らないでください。静電気発生防止用手袋を着用してください。

(2) コントロールタイマー

コントロールタイマーの接続は下図のとおりに行ってください。

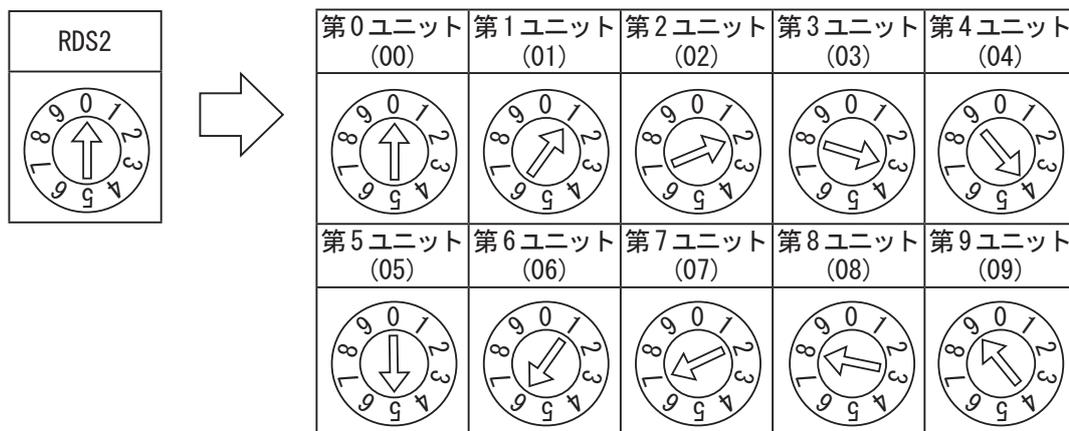


操作スイッチは親機(0号機)のみに接続、子機の操作スイッチの配線は取り外してください。コントロールタイマーは親機(0号機)の端子台に接続してください。

(注) コントロールタイマーの伝送線には、0.75mm²の2芯ツイストペアケーブル(型式:KPEV・KPEV-S相当品)を使用してください。

3 ロータリースイッチによる号機設定

ロータリースイッチ(RDS2)を下図のように設定を変更し、各室内ユニットの号機番号を決定してください。
設定の際は号機番号が重複しないように注意してください。



4 運転操作

(1) 運転操作および設定方法

運転/停止の操作および設定変更は、親機(0号機)に接続した操作スイッチで行ってください。

(注) ■ 子機の設定温湿度は親機(0号機)の設定に従います。

- 運転は親機(0号機)の動作後、0.2秒間の遅延を設けております。子機は号機番号順に前の室内ユニット運転後0.2秒ずつ遅れて起動します。
- 圧縮機のON/OFFおよび湿度優先時の再熱/冷却切替動作は、各室内ユニットにより検出した吸込空気温湿度により制御します。
- 室内吸込空気温湿度は、接続されている機器の平均値を表示します。

(2) 送風運転

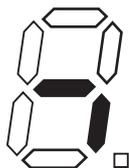
操作スイッチにより、再熱や冷却運転から送風運転に切り換えると全室内ユニットが送風運転を行います。

(注) 通常運転に切り換えた際、圧縮機の3分ガードを優先しますので、圧縮機がすぐに運転しない場合があります。

(3) 除霜運転

除霜運転は室内ユニットごとに個別判定します。このとき、操作スイッチのセグメント上で除霜表示は行いません。ただし、操作スイッチの点検モード( リレー出力(室内ユニット))から確認可能です。

除霜中のリレー出力

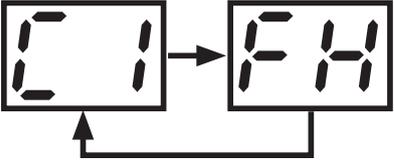


5 警報制御

(1) 警報制御

フィルター警報を発生した場合は、セグメントに号機番号と警報コードの順に表示します。

リセットの方法は  スイッチを押すことにより、警報リセットすることができます。

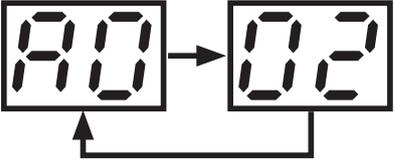
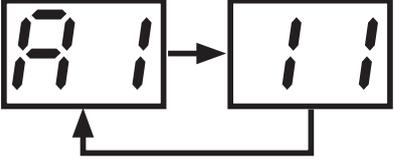
デジタル表示部	表示内容
	子機 (1 号機) がフィルター警報を発生した場合 C1 (号機番号) → FH (フィルター警報コード)

(2) 異常 (アラーム) 制御

運転中に異常を発生すると当該ユニットのみ直ちに運転を停止し、セグメントに号機番号と異常コードの順に表示します。

リセットの方法は  スイッチを押すことにより、異常リセットし、運転を再開します。

(注)  スイッチを押した場合でも、異常リセットが可能ですが全室内ユニットが停止します。

デジタル表示部	表示内容
	親機 (0 号機) が保護装置作動によりアラーム停止した場合 A0 (号機番号) → 02 (保護装置作動アラームコード)
	子機 (1 号機) が室内サーミスター異常によりアラーム停止した場合 A1 (号機番号) → 11 (室内サーミスター異常アラームコード)

(3) 伝送制御

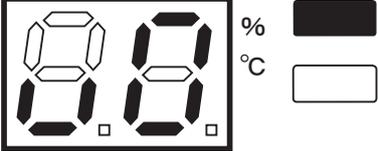
室内ユニット間は常時、伝送信号により通信を行っています。3分間連続して通信ができないと伝送異常となり、操作スイッチの運転ランプが2秒間隔で点滅します。

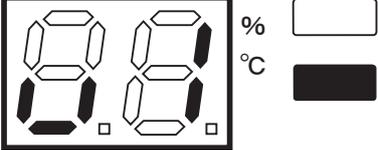
なお、伝送信号が正常になると自動で復帰します。リセット方法は  スイッチを押すことにより、異常表示を解除することができます。このとき、正常に接続されている室内ユニットは、運転が停止しますが、伝送線の断線などにより接続されていない室内ユニットは運転が停止しませんので、電源を遮断し、室内ユニットを停止してください。

6 点検モードのしかた

(1) 点検モードの起動

室内ユニット運転、停止中または除霜中に **停止** スイッチを押しながら、**▼** スイッチを1秒以上同時に押すと、点検モードを開始します。起動後7秒以内に **▲** **▼** スイッチを押して、号機設定を行ってください。

<p>点検モード 開始</p>	<p>点検モードが起動するとデジタル表示部が号機番号「u0」を表示します。</p>	 <p>号機番号「u0」が点灯表示します。</p>
---------------------	---	--

<p>号機設定</p>	<p>点検モードが起動すると</p> <ul style="list-style-type: none"> ▲ スイッチで号機を選択します。 ▼ スイッチを押すと、ひとつずつ上がります。 ▼ スイッチを押すと、ひとつずつ下がります。 	 <p>1号機を設定した場合、「u1」を表示します。</p>
-------------	--	---

操作スイッチソフトウェアバージョン
↓
室内ユニットソフトウェアバージョン
・
・

「4.1 **3** 室内プリント基板の入出力確認」(42ページ)に記載した点検モードの順に従い、点検モードを行います。

(2) 点検モードの終了

再度、**停止** スイッチを押しながら **▼** スイッチを1秒以上同時に押すことにより、点検モードを終了します。

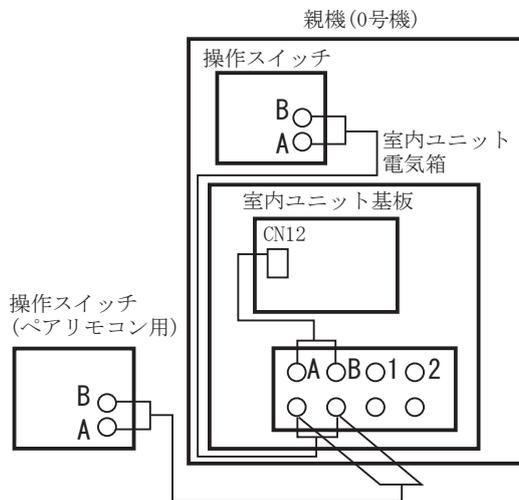
ペアリモコン機能

ペアリモコン機能とは親リモコン、子リモコンの両方の操作スイッチから室内ユニットを操作します。ペアリモコン機能の配線作業を示しますので、正しい順序で実施してください。

すべての電源を遮断してください。電源がオフになったことをテスターで確認してください。

1 ペアリモコン機能の接続方法

操作スイッチと室内ユニット間の配線は下図のとおりを実施してください。

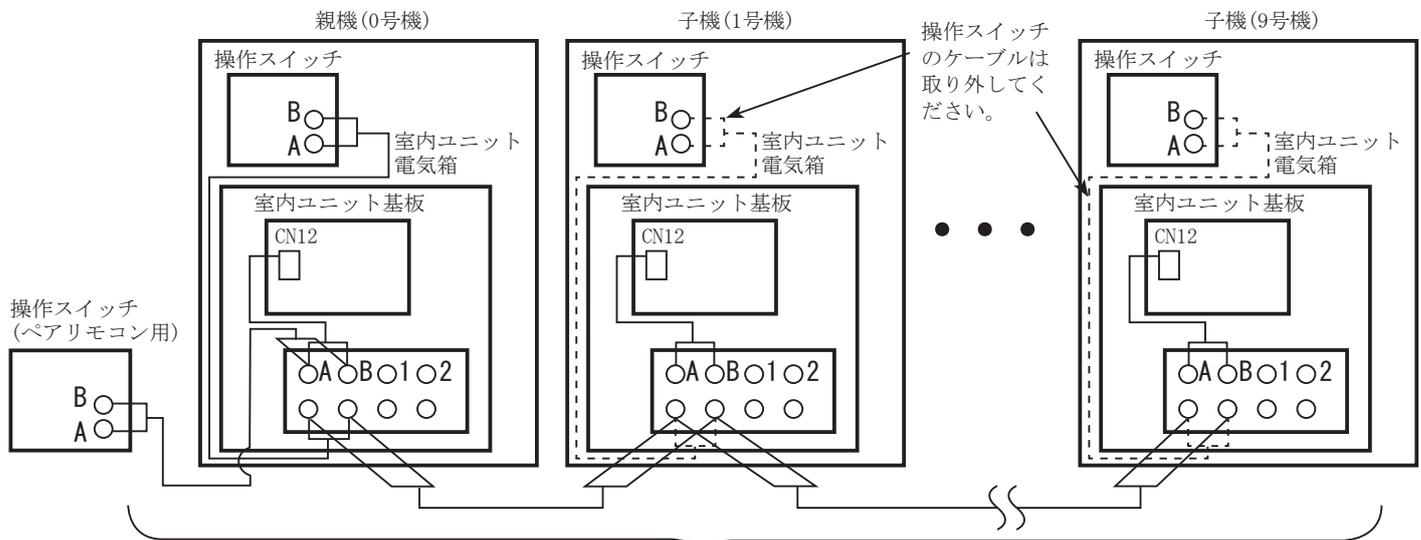


ペアリモコン機能は室内ユニットの端子台に接続してください。

- (注) ■ 伝送線には、0.75mm²の2芯ツイストペアケーブル(型式 KPEV・KPEV-S相当品)を使用してください。総配線長は200m以下としてください。
- ペアリモコン機能とコントロールタイマーの併用はできません。

(1) 複数台制御時のペアリモコン接続方法

操作スイッチと室内ユニット間の配線は下図のとおりを実施してください。



室内ユニット最大 10 台接続可能

ペアリモコン機能で使用する操作スイッチは親機(0号機)に接続してください。

なお、子機の操作スイッチは取り外してください。(この時、取り外したケーブルの端子部が露出しないように絶縁テープなどで覆ってください。)

複数台設置時の注意事項は、「7.3 複数台制御」(135ページ)を参照してください。

- (注) ■ 室内ユニットに内蔵されている操作スイッチを取り外す場合、操作スイッチ取り外しによって生じる前カバーの角穴を塞ぎカバー(オプション部品)で塞いでください。
- 操作スイッチのケーブルを取り外した室内ユニットの運転ランプおよびセグメント表示はされませんのでご注意ください。
 - 除湿機の運転状態を確認したい場合は、操作スイッチの点検モードにてご確認ください。
 - ペアリモコン機能で使用する操作スイッチは、端子台A・Bに接続してください。この時いずれか一方の操作スイッチを子リモコン設定する必要があります。

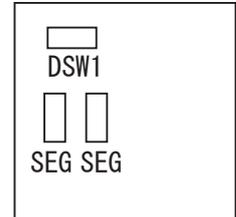
2 ペアリモコンの設定方法

使用状況に応じて、操作スイッチのプリント基板のディップスイッチ (DSW1) から親子リモコン設定を行ってください。出荷時のディップスイッチの設定を下記に示します。

出荷時設定

	除湿機本体操作スイッチ	操作スイッチ (PC-RKL・PC-RKT)
DSW1		
親子設定状態	親設定	子設定

操作スイッチ
プリント基板



- ①除湿機本体に接続されている操作スイッチを親リモコン設定とする場合
ディップスイッチの変更は必要ありません。
- ②除湿機本体に接続されている操作スイッチを子リモコン設定とする場合
下表のとおり、操作スイッチのディップスイッチを設定してください。

	除湿機本体操作スイッチ	操作スイッチ (PC-RKL・PC-RKT)
DSW1		
親子設定状態	子設定	親設定

3 ペアリモコンの運転操作

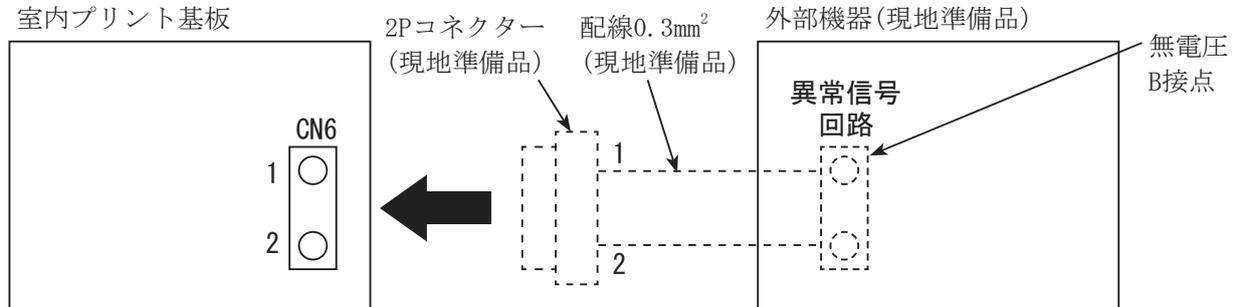
親リモコンと子リモコンともにすべての運転操作が可能です。
なお、操作は後押しが優先されます。

1 外部機器異常信号入力

外部機器異常信号入力を使用することで、外部機器(現地準備品)の異常信号を除湿機が検知し、除湿機をアラーム停止させることができます。設定や配線作業を示しますので、正しい順序で実施してください。

(1) 配線の接続

室内ユニットのプリント基板のコネクター (CN6) の1-2ピンに、外部機器からの異常信号の配線を接続してください。



必要配線部品の仕様

品名		メーカー・仕様	個数
2P コネクター	ハウジング	日本圧着端子製 XA コネクター用ハウジング 2極 XARP-02V 相当品	1
	コンタクト	日本圧着端子製 XA コネクター用コンタクト	2
	リテーナ	日本圧着端子製 XA コネクター用リテーナ 2極 XMS-02V 相当品	1
配線		0.3mm ² 市販品	2

(注) ■ 外部機器および配線部品は、現地準備品となります。

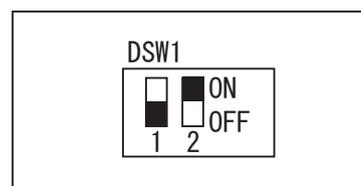
なお、配線部品は「部品番号P29710(コードCN14)」を使用できますが、コネクター色が室内プリント基板と異なりますので、接続時にご注意ください。

- 外部機器の電源は、必ず除湿機とは別の電源を確保し、除湿機からの電源供給はしないでください。
- 外部機器の異常信号は、無電圧B接点としてください。

(2) 外部機器異常信号入力の設定

室内ユニットのプリント基板のディップスイッチ(DSW1)を右図の通り設定してください。

室内プリント基板



(■がスイッチの位置を示します)

(3) 外部機器異常信号検知時の動作

外部機器からの異常信号を除湿機が10秒間継続して検知すると、操作スイッチの運転ランプが点滅し、設定表示部にアラームコード「01」を表示し、運転を停止します。アラームの詳細は、「4. 製品の様子がおかしいときの処置 4.2故障診断方法」(46ページ)をご参照ください。

(注)外部機器の異常や故障については、外部機器の購入先やメーカーにご相談ください。

(4) 外部機器設置時の注意事項

- 外部機器は現地準備品となります。
- 外部機器の異常や故障・選定などについては、外部機器の購入先やメーカーへご相談ください。
- 外部機器選定の際は、外部機器異常入力時の除湿機の停止動作時間(外部機器異常信号を10秒間継続して検知するとアラーム停止)を考慮し選定してください。例えば、外部機器としてドレンポンプを取り付ける場合、ドレンポンプ内の貯水量によっては、異常発生時にドレンポンプがオーバーフローするなどが考えられますので、ドレンポンプに補助ドレンパンを設けるなどの対応が必要となります。
- 外部機器を設置する際は、外部機器の取扱説明書や設置要領書などを確認のうえ、注意事項を遵守し正しく取り扱いください。
- 外部機器設置時は必ず試運転を行い、除湿機および外部機器とも支障なく正常に運転できることや、異常発生時の運転動作など十分に確認を行ってください。

1 プレナムチャンバー

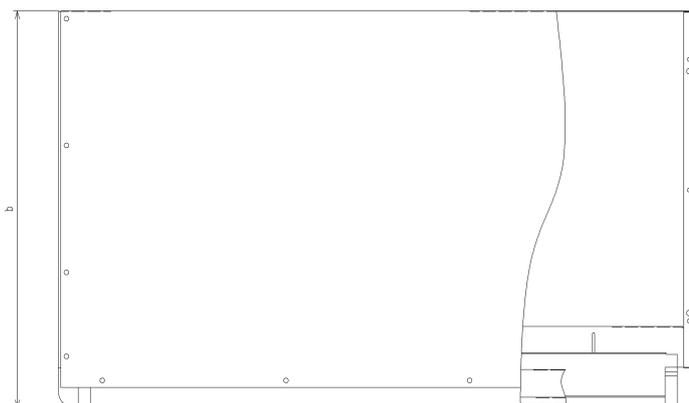
プレナムチャンバーを使用することにより、標準のダクト型を直吹型として使用することができます。
 なお、電源周波数 60Hz 地区でご使用の場合は、風量調節作業が必要となります。
 作業詳細は次ページの [風量調節作業] をご参照ください。

型式	品名コード	適用除湿機型式
UD2-PC	27439431	UDP2W (C) 2 UDP3W (C) 2
UD5-PC2	27439455	UDP5W (C) 2
UD8-PC2	27439802	UDP8W (C) 2
UD10-PC2	27439803	UDP10W (C) 2

(注)

1. プレナムチャンバー吹出口の風向き調整用縦羽による風向調整は初期設定 (2 ~ 3 回程度) のみ可能です。
 繰り返し風向調整をしますと、縦羽根が破損する場合があります。
2. プレナムチャンバーを使用する場合は、ダクト型に対して騒音や振動が大きくなります。

(単位 : mm)

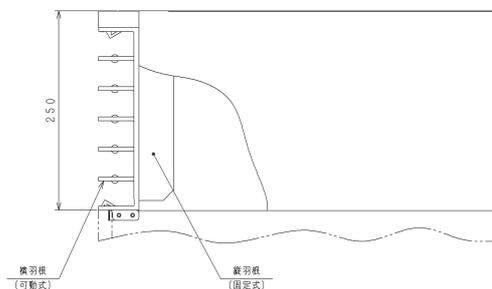
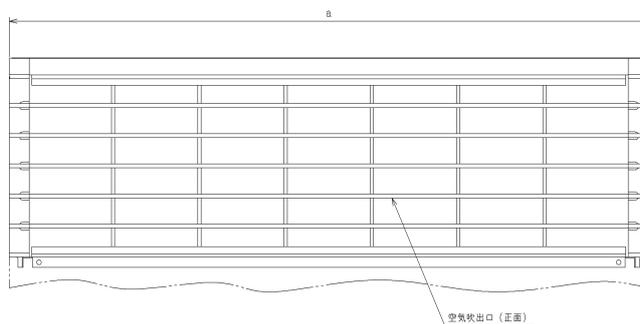


寸法表

型式	除湿機 (床置タイプ)	品名コード	a	b	付属品
UD2-PC	UDP2W (C) 2 UDP3W (C) 2	27439431	650	400	プレナムチャンバー一式 送風機用コード (静圧調整用)
UD5-PC1	UDP5W (C) 2	27439455	800	500	プレナムチャンバー一式 ファンブリー (60Hz 時、静圧調整用) V-ベルト (60Hz 時、静圧調整用)
UD8-PC2	UDP8W (C) 2	27439802	1100	500	
UD10-PC2	UDP10W (C) 2	27439803	1400	500	

注 記

1. 本図はプレナムチャンバーを組立てた図象です。(プレナムチャンバーは現地組立品です。)
2. 梱包内には静圧調整用のコードやファンブリー、Vベルトなどが同梱されています。
 組立および取付の際は、プレナムチャンバーに同梱されている要領書をご参照ください。
3. プレナムチャンバーを使用した場合、騒音や振動が大きくなりますので据付場所は
 騒音などが気にならない場所を選定してください。
4. 縦羽根は固定式になっていますので、左右方向の調節は初期設定した後に再度調節しないでください。
 調節を繰り返すと、縦羽根が外れる場合があります。



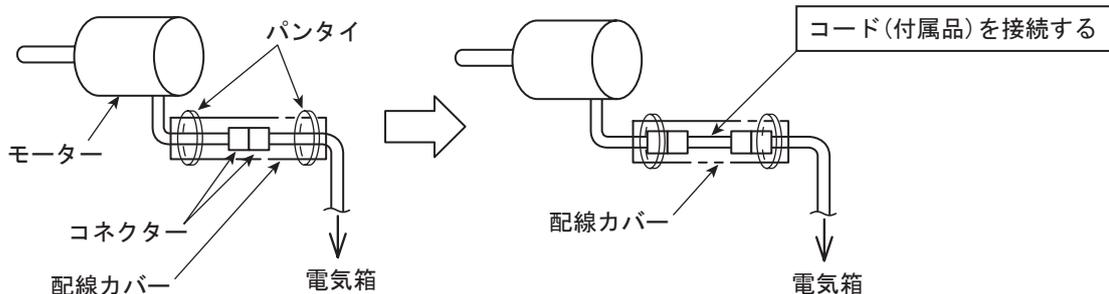
8. オプション部品

8.1 プレナムチャンバー

[風量調節作業]

(1) UDP2, 3W (C) 2 の場合

モーター配線のコネクタを取り外し、付属のコードを接続します。



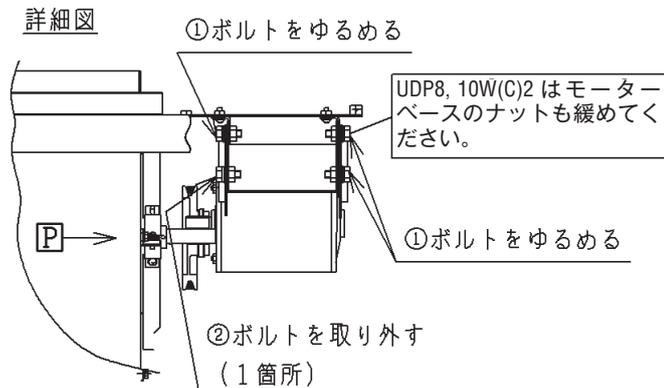
(2) UDP5 ~ 10W (C) 2 の場合

(注) 電源周波数 60Hz 地区のみの作業となります。

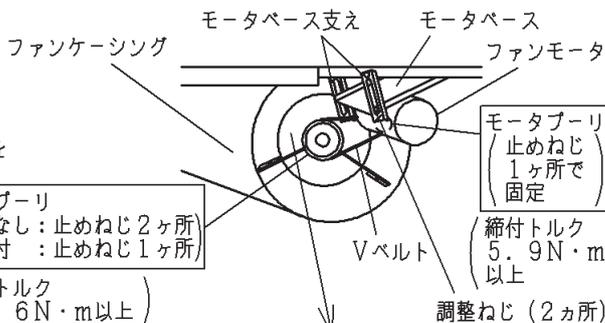
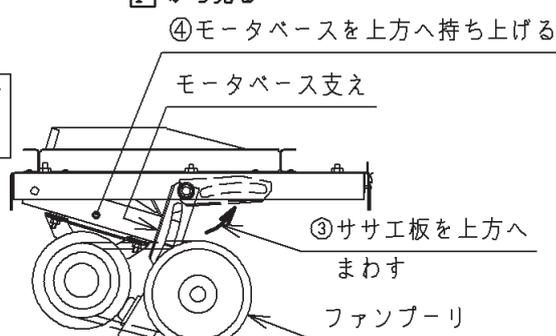
回転数の調整

ファンプーリの変更は次の要領で行ってください。

詳細図



[P] から見る



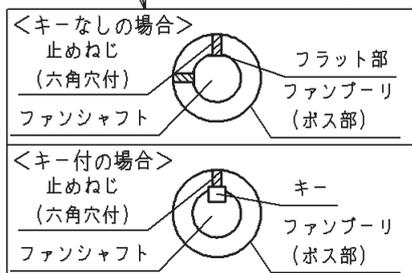
※機種によってモーター取付位置が異なりますが、変更の要領は同じです。

1. 左右のモーターベース支えおよびモーターベースを固定している調整ねじをゆるめ、モーターベースを上を持ち上げてVベルトを取り外してください。
2. ファンプーリに交換してください。止めねじで固定されています。

ファンプーリ
(キーなし: 止めねじ 2ヶ所
(キー付: 止めねじ 1ヶ所)
(締付トルク
19.6N・m以上)

除湿機	外形 (mm)	呼び径 (mm)	軸穴径 (mm)
UDP5W (C) 2	169	160	20
UDP8, 10W (C) 2	169	160	25

3. ファンプーリとシャフトの固定およびモータープーリとの芯合わせ (平行度) を十分に行ない、ファンプーリの止めねじを图中的締付トルク以上に締め付けてください。
4. Vベルトを取り付け、モーターベースの調整ねじを締め付けてください。簡易的にVベルトの張りを調整するには、ファンプーリとモータープーリの中央位置において、Vベルトを指で押さえ5mm程度たわむようにVベルトの張りを調整してください。



除湿機	型	長さ (インチ)
UDP5W (C) 2	A (レッド)	27
UDP8, 10W (C) 2	A (レッド)	29

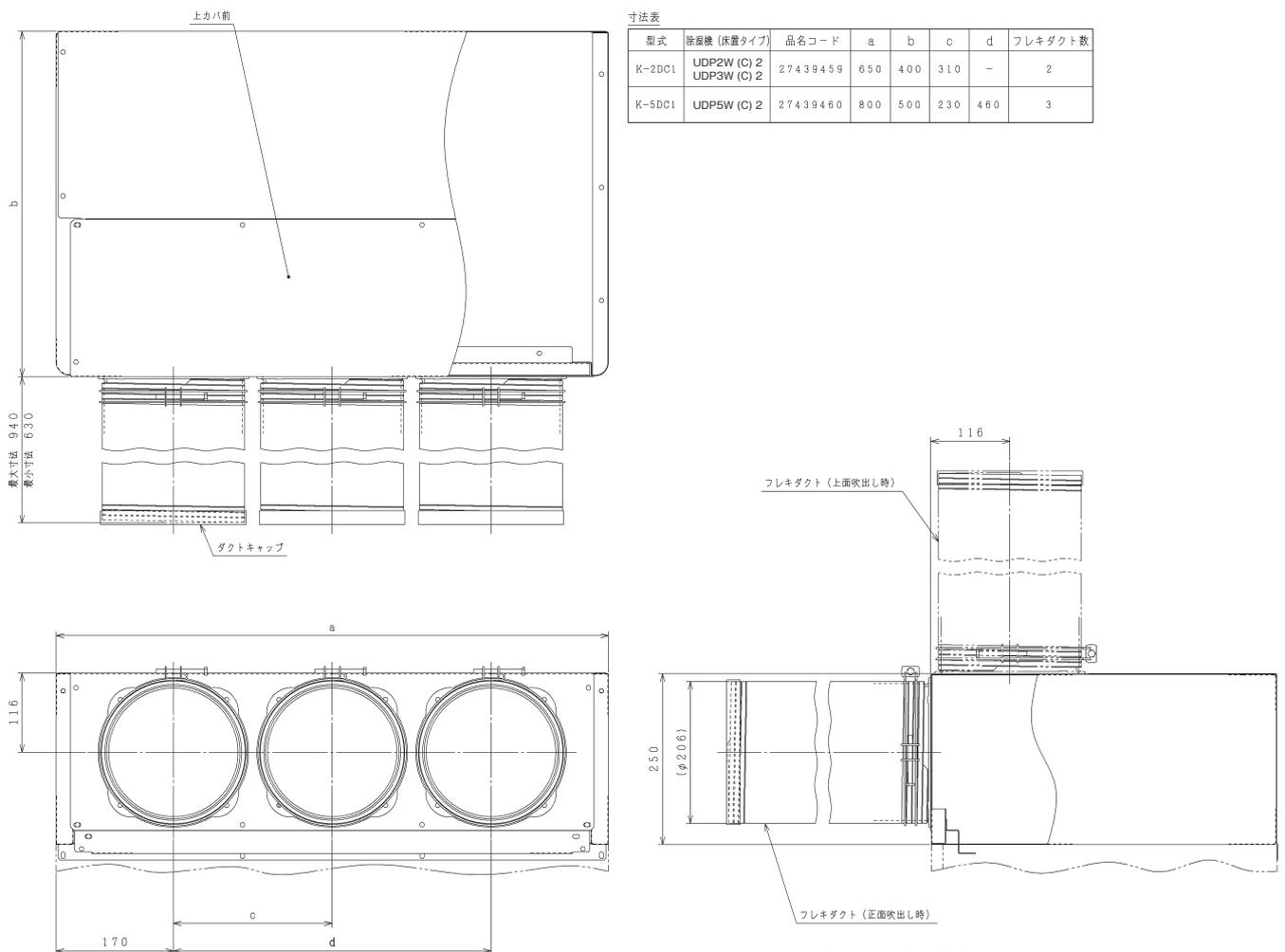
1 ダクトチャンバー

ダクトチャンバーを使用することにより、標準のダクト型を2方向または3方向に吹き分けて使用することができます。

なお、電源周波数 60Hz 地区でご使用の場合は、風量調節作業が必要となります。
作業詳細は前ページのプレナムチャンバーの [風量調節作業] をご参照ください。

型式	品名コード	適用ユニット型式
K-2DC1	27439459	UDP2W (C) 2 UDP3W (C) 2
K-5DC1	27439460	UDP5W (C) 2

(単位：mm)



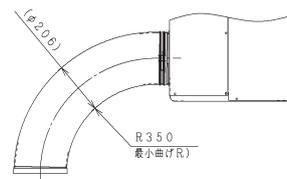
寸法表

型式	除湿機 (床置タイプ)	品名コード	a	b	c	d	フレキシダクト数
K-2DC1	UDP2W (C) 2 UDP3W (C) 2	27439459	650	400	310	-	2
K-5DC1	UDP5W (C) 2	27439460	800	500	230	460	3

図 1 (本体上面より見た図)

注 記

1. 本図はダクトチャンバーを組み立てた図象です。(ダクトチャンバーは現地組立品です。)
2. 組立および取付の際は、ダクトチャンバーに同梱されている要領書をご参照ください。
3. 上カバーの取付け方向により、フレキシダクトは正面、上面どちらの方向にも取付けられます。
4. フレキシダクトの最小曲げ半径は350mmです。(図1参照)
5. フレキシダクトの先端より吹出された風が、直接吸込まないようにしてください。ショートサーキットの原因になります。
6. ダクトチャンバーを使用した場合、騒音や振動が大きくなりますので据付場所は、騒音などが気にならない場所を測定してください。
7. 従来同梱されていたビニールダクトは、別オプション(型式K-30BD, 50BD)となりますので、ご利用の際は別途ご用意ください。



1 ビニールダクト

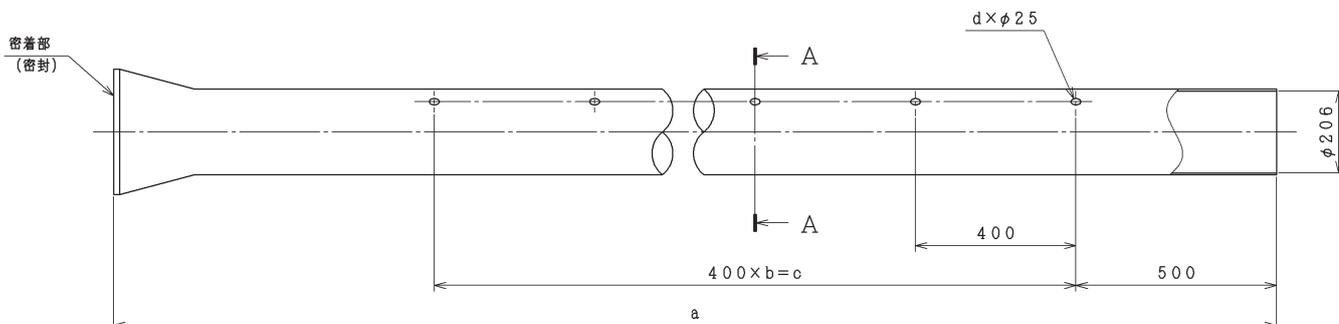
ビニールダクトを使用することにより、ダクト長を延長し、農業用途などに使用できます。

本品は、必ずダクトチャンバーと併用しご使用ください。

K-50BD を電源周波数 50Hz 地区でご使用の場合は、ファンプーリ・Vベルトの交換が必要となります。

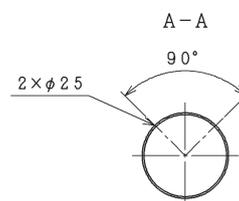
詳細は下記の [交換部材] (現地準備品) をご参照ください。

(単位 : mm)

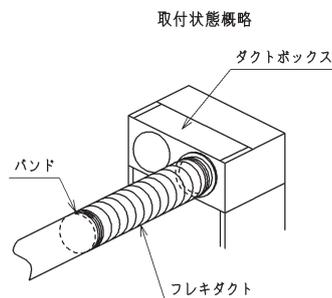
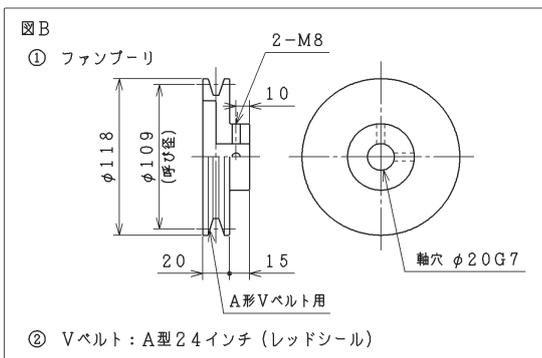


寸法表

型 式	適用除湿機	品名コード	a	b	c	d	付属品
K-30BD	UDP2W (C) 2 UDP3W (C) 2	27439461	30000	73	29200	148	ビニルダクト×2コ バンド ×2コ
K-50BD	UDP5W (C) 2	27439462	50000	123	49200	248	ビニルダクト×3コ バンド ×3コ



[交換部材] (現地準備品)



注 記

1. 本品は、ダクトボックスと併用しご使用ください。
2. 取付は、ビニルダクトに同梱されている要領書をご参照ください。
3. K-50BDを電源周波数50Hz地区でご使用する場合は、ファンプーリ、Vベルトの交換が必要となります。現地準備品となりますので予めご用意ください。なお、準備する部材は、図Bをご参照ください。

1 コネクター付きコード

応用機能として室内ユニットのプリント基板から各種入出力信号を取り出す場合に使用します。（応用機能の詳細は「7.1 プリント基板からのオプション機能」（129 ページ）を参照してください。）

型 式	品名コード	備考
PCC-1A	60199286	3 ピンコネクター (CN4・CN5・CN7・CN8 に接続)

8.5 コントロールタイマー

1 コントロールタイマー

コントロールタイマーを使用することにより、一週間単位のプログラム運転ができます。

コントロールタイマーの詳細は、パッケージエアコンのカタログ・テクニカルハンドブックなどをご確認ください。

プリント基板との接続方法については、「7.1 プリント基板からのオプション機能」（129 ページ）を参照してください。

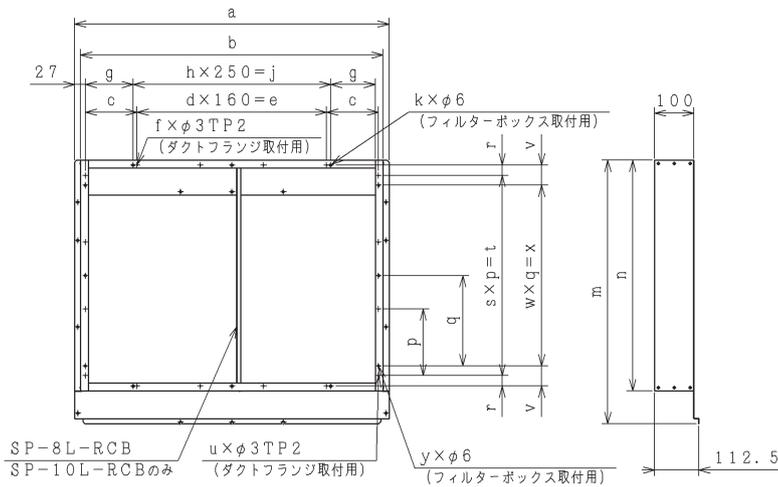
1 背面吸込ダクトセット

背面吸込ダクトセットを使用することにより、吸込空気を製品の背面から取り入れることができます。また、背面吸込ダクト施工の際は、製品の仕様に見合った静圧になるように、ダンパーなどにより静圧を調節してください。

なお、UDP5～10W (C) 2はファンプリーまたはモータープリーを交換することで機外静圧を調節することも可能です。「8.9 プリーセット」(155 ページ)のプリー選定表を参照してください。

(1) ユニットフランジ寸法図

(単位 : mm)



仕様表

項目	型式	SP-2L-RCB	SP-5L-RCB	SP-8L-RCB	SP-10L-RCB
適用除菌機 (床置タイプ)		UDP2W (C) 2 UDP3W (C) 2	UDP5W (C) 2	UDP8W (C) 2	UDP10W (C) 2
ユニットフランジ				亜鉛鋼板	
フィルターボックス				亜鉛鋼板	
ダクトフランジ				亜鉛鋼板	
遮へい板				亜鉛鋼板	
製品質量 (kg)		11	16	22	28
形状		現地組立品			
構成部品		① ユニットフランジ × 1 ② フィルターボックス × 1 ③ ダクトフランジ × 1 ④ 遮へい板 × 1 ⑤ センサ取付板 × 1 ⑥ コードメ × 1 ⑦ M4×φ3/φ4 × 3/4 ⑧ パンタイ × 3 ⑨ シールパテ × 1 ⑩ 要領書 × 1	① ユニットフランジ × 1 ② フィルターボックス × 1 ③ ダクトフランジ × 1 ④ 遮へい板 × 1 ⑤ センサ取付板 × 1 ⑥ コードメ × 1 ⑦ M4×φ3/φ4 × 3/4 ⑧ パンタイ × 3 ⑨ シールパテ × 1 ⑩ 要領書 × 1	① ユニットフランジ × 1 ② フィルターボックス × 1 ③ ダクトフランジ × 1 ④ 遮へい板 × 1 ⑤ センサ取付板 × 1 ⑥ コードメ × 1 ⑦ M4×φ3/φ4 × 4/6 ⑧ パンタイ × 3 ⑨ シールパテ × 1 ⑩ 要領書 × 1	① ユニットフランジ × 1 ② フィルターボックス × 1 ③ ダクトフランジ × 1 ④ 遮へい板 × 1 ⑤ センサ取付板 × 1 ⑥ コードメ × 1 ⑦ M4×φ3/φ4 × 5/4 ⑧ パンタイ × 3 ⑨ シールパテ × 1 ⑩ 要領書 × 1
ロングライフ 抗菌加工のグラフィ		F-2L-L	F-5L-L	F-8L-L	F-10L-L
脱臭		F-2L-K	F-5L-K	F-8L-K	F-10L-K
高性能		F-2L-D	F-5L-D	F-8L-D	F-10L-D
別売		F-2L-M	F-5L-M	F-8L-M	F-10L-M
器具注意点		<ul style="list-style-type: none"> 吸込ダクト部にキャブスタクトなどを利用して直線部を設けてください。 各種フィルターは、付属されておりません。 別売の各種フィルターを取り付けた場合、風量の低下に伴い、除湿能力が10%程度低下しますので、ご注意ください。 別売の抗菌加工ロングライフフィルター、脱臭フィルターおよび高性能フィルターの併用はできません。 			

注記

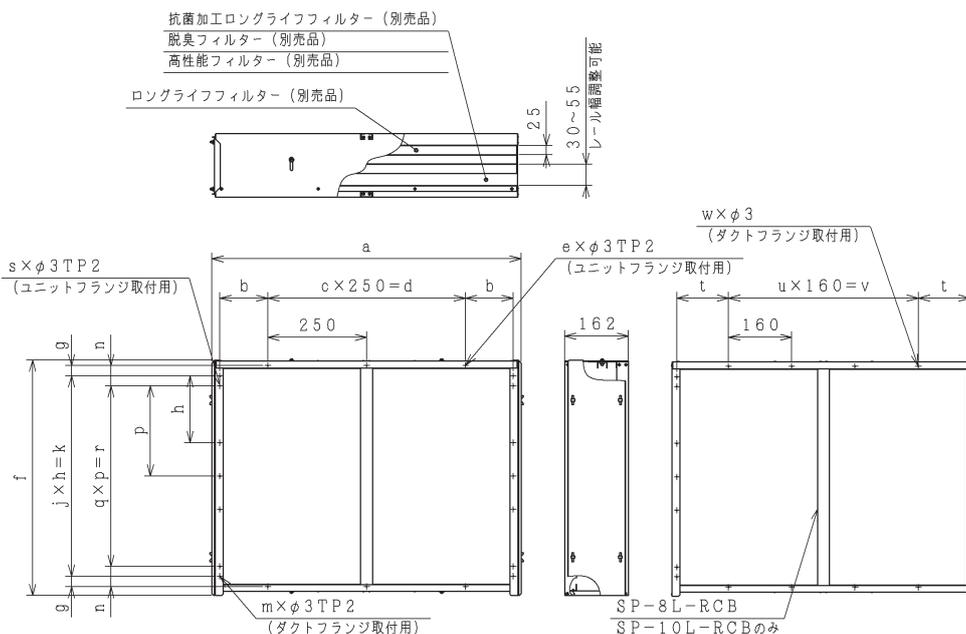
- 本図は背面吸込遮へい板セットの寸法を示します。
- 組立の詳細については、製品の同梱されている要領書をご参照ください。
- 別売のフィルターを取り付けた場合、風量の低下に伴い、除湿能力が10%程度低下しますので、ご注意ください。
- 別売の抗菌加工ロングライフフィルター、脱臭フィルターおよび高性能フィルターの併用はできません。

寸法表

型式	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	m	n	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y
SP-2L-RCB	646	616	56	3	480	4	46	2	500	3	523.8	440	170	300	38	2	340	3	59	—	300	2
SP-5L-RCB	796	766	131	3	480	4	121	2	500	3	670.8	587	170	230	26.5	3	510	4	51.5	2	460	3
SP-8L-RCB	1096	1066	121	5	800	6	146	3	750	4	783.8	700	160	200	18	4	640	5	38	3	600	4
SP-10L-RCB	1396	1366	111	7	1120	8	171	4	1000	5	828.8	745	170	210	20.5	4	680	5	45.5	3	630	4

(2) フィルターボックス寸法図

(単位 : mm)



寸法表

型式	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	m	n	p	q	r	s	t	u	v	w
SP-2L-RCB	632	46	2	500	3	453	38	170	2	340	3	58	300	—	—	2	56	3	480	4
SP-5L-RCB	782	121	2	500	3	600	26.5	170	3	510	4	51.5	230	2	460	3	131	3	480	4
SP-8L-RCB	1082	146	3	750	4	713	18	160	4	640	5	38	200	3	600	4	121	5	800	6
SP-10L-RCB	1382	171	4	1000	5	758	20.5	170	4	680	5	45.5	210	3	630	4	111	7	1120	8

1 エアークフィルタ

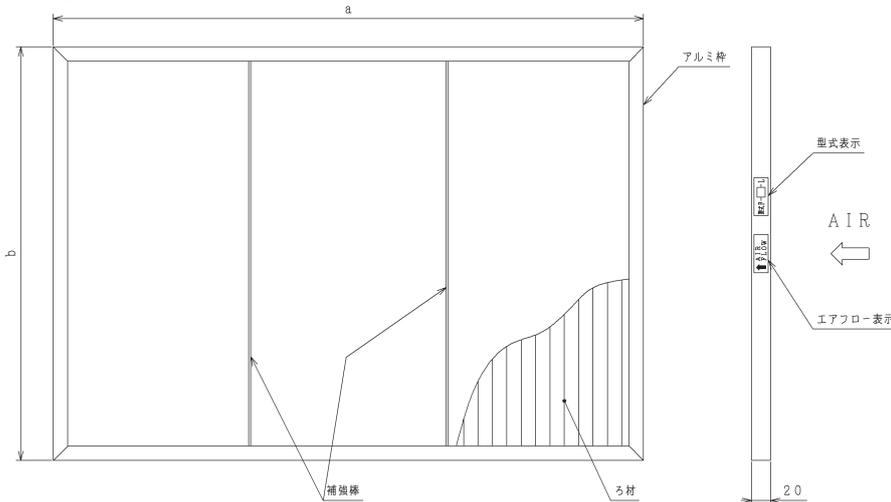
オプション部品の背面吸込ダクトセットと併せてエアークフィルタを使用する場合には、以下の(1)～(4)の中から別途選定してください。

なお、(2) 抗菌加工ロングライフフィルタ、(3) 高性能フィルタおよび(4) 脱臭フィルタの併用はできませんのでご注意ください。

(1) ロングライフフィルタ

(単位: mm)

● F-2L-L・F-5L-L

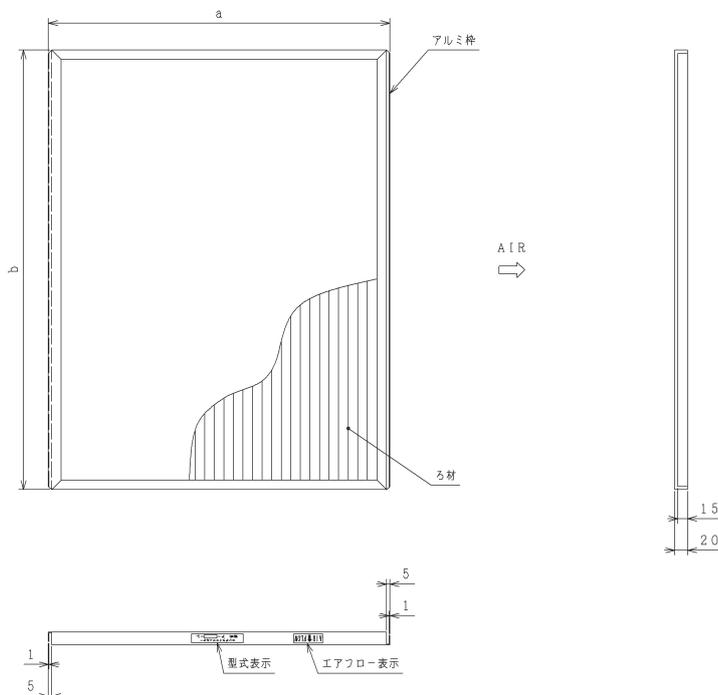


ロングライフフィルタ仕様表

項目	型式	
	F-2L-L	F-5L-L
適用除湿機	UDP2W (C) 2	UDP3W (C) 2
使用数量 (各ユニット毎)	1	1
塵埃捕集効率 %	50 (重量法)	
風量 m^3/min	21	30
初期圧力損失 Pa	6.7	9.5
色調 (ろ材, 外枠)	グレー色, アルミ色	
耐用時間	2500h	
再利用	可	
洗浄	可	
a 寸法 mm	616	766
b 寸法 mm	434	581
質量 kg	0.6	0.8
使用する材質	P.P	
背面吸込ダクトへい板セット 型式 (別売品)	SP-2L-RCB	SP-5L-RCB

● F-8L-L・F-10L-L

(単位: mm)



ロングライフフィルタ仕様表

項目	型式	
	F-8L-L	F-10L-L
適用除湿機	UDP8W (C) 2	UDP10W (C) 2
使用数量 (各ユニット毎)	2	2
塵埃捕集効率 %	50 (重量法)	
風量 m^3/min	80	97
初期圧力損失 Pa	8.7	7.6
色調 (ろ材, 外枠)	グレー色, アルミ色	
耐用時間	2500h	
再利用	可	
洗浄	可	
a 寸法 mm	535	685
b 寸法 mm	694	739
質量 kg	0.9 (1枚)	1.2 (1枚)
使用する材質	P.P	
背面吸込ダクトへい板セット 型式 (別売品)	SP-8L-RCB	SP-10L-RCB

注記

1. 本フィルタは、日立除湿機に背面吸込ダクトへい板セット (別売品) と併せてご使用いただくものです。

油霧曲気など特殊環境下で使用しないでください。

2. 本フィルタは、水洗いによる再利用が可能です。ろ材に目詰まりが起きたら水洗いをして埃を除去してください。

3. 耐用時間は、フィルタ掃除の目安であり仕様環境により変化します。

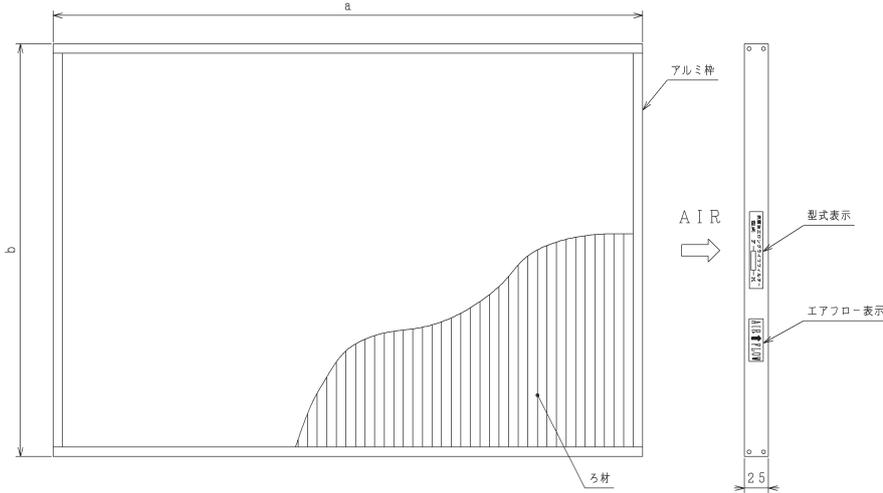
8. オプション部品

8.7 エアーフィルター

(2) 抗菌加工ロングライフフィルター

● F-2L-K・F-5L-K

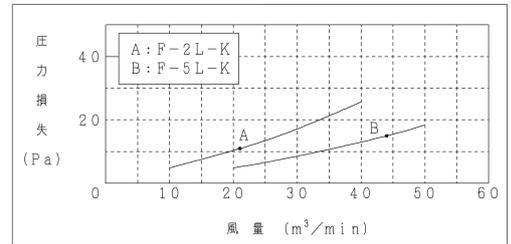
(単位：mm)



抗菌加工ロングライフフィルター仕様表

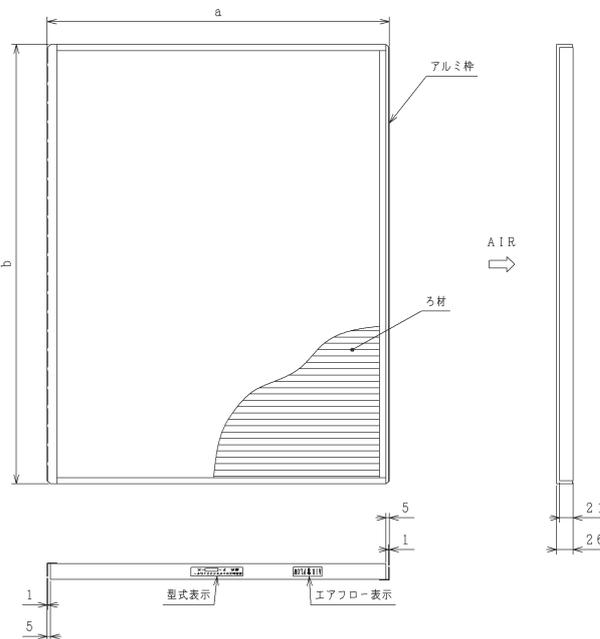
項目	型式	F-2L-K	F-5L-K
適用除湿機		UDP2W (C) 2	UDP3W (C) 2
使用数量 (各ユニット毎)		1	1
塵埃捕集効率	%	50 (重量法) [※1]	
風量	m ³ /min	21	30
初期圧力損失	Pa	11	17
終期圧力損失	Pa	45	70
色調 (ろ材、外枠)		白色、アルミ色	
耐用年数		4年 (1250h毎メンテ)	
再利用		可	
洗浄		可 [※2]	
a 寸法	mm	616	766
b 寸法	mm	434	581
質量	kg	0.6	1.0
抗菌・防カビ性能		一般細菌、カビの繁殖を防止	
使用する材質	抗菌加工繊維	変性アクリル繊維1 (無機系抗菌材 (銀系) 含有繊維) 変性アクリル繊維2 (有機系抗菌材 (4級7-β-ハル系) 含有繊維)	
	補強ネット	P. P	
背面吸込差し板セット 型式 (別売品)		SP-2L-RCB	SP-5L-RCB
使用制限		別売品の脱臭フィルターおよび高性能フィルターとの併用はできません	

風量-圧力損失特性曲線 (初期圧力損失)



● F-8L-K・F-10L-K

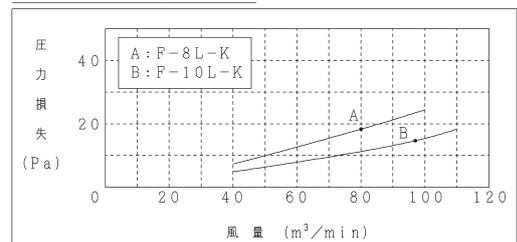
(単位：mm)



抗菌加工ロングライフフィルター仕様表

項目	型式	F-8L-K	F-10L-K
適用除湿機		UDP8W (C) 2	UDP10W (C) 2
使用数量 (各ユニット毎)		2	3
塵埃捕集効率	%	50 (重量法) [※1]	
風量	m ³ /min	80	97
初期圧力損失	Pa	18	15
終期圧力損失	Pa	74	52
色調 (ろ材、外枠)		白色、アルミ色	
耐用年数		4年 (1250h毎メンテ)	
再利用		可	
洗浄		可 [※2]	
a 寸法	mm	535	458
b 寸法	mm	694	739
質量	kg	1.4 (1枚)	1.3 (1枚)
抗菌・防カビ性能		一般細菌、カビの繁殖を防止	
使用する材質	抗菌加工繊維	変性アクリル繊維1 (無機系抗菌材 (銀系) 含有繊維) 変性アクリル繊維2 (有機系抗菌材 (4級7-β-ハル系) 含有繊維)	
	補強ネット	P. P	
背面吸込差し板セット 型式 (別売品)		SP-8L-RCB	SP-10L-RCB
使用制限		別売品の脱臭フィルターおよび高性能フィルターとの併用はできません	

風量-圧力損失特性曲線 (初期圧力損失)



注記

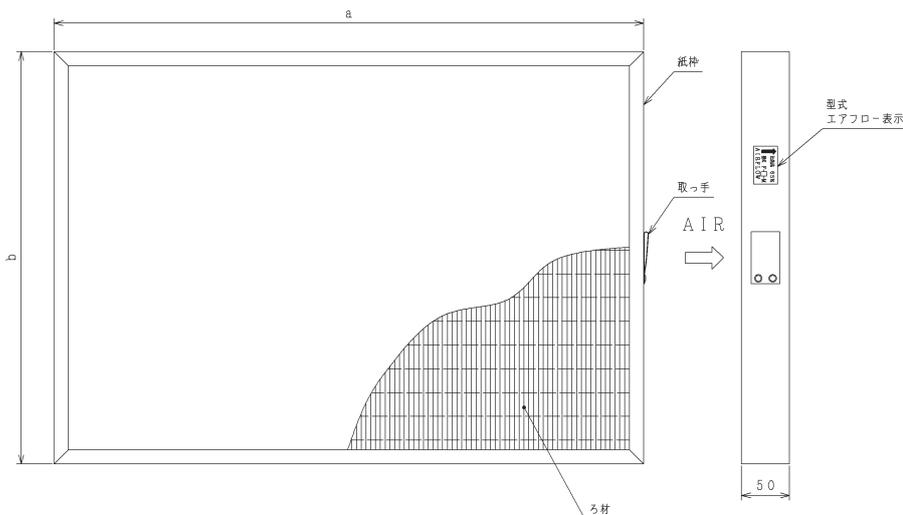
- 本フィルターは、日立除湿機に背面吸込差し板セット (別売品) と併せてご使用いただくものです。油霧阻気など特殊環境下で使用しないでください。
- 表中[※1]の塵埃捕集効率は、一般浮遊塵埃 (塵埃濃度0.1mg/m³) に対するもので、一般細菌、カビの捕集効率を示すものではありません。
- 耐用年数は目安であり使用環境により変化します。なお、塵埃がフィルター表面に堆積しますと抗菌効果が得られない場合がありますので、洗浄等定期的なお手入れを行なってください。
- 耐用年数を経過した本フィルターは交換してください。
- 表中[※2]の洗浄方法は、水又は中性洗剤ですすぎ洗いを行なってください。
- 本フィルターは、別売品の脱臭フィルターおよび高性能フィルターとの併用はできません。

8. オプション部品

8.7 エアーフィルター

(3) 高性能フィルター

● F-2L-M・F-5L-M

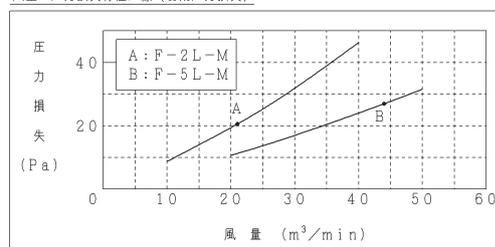


(単位: mm)

高性能フィルター仕様表

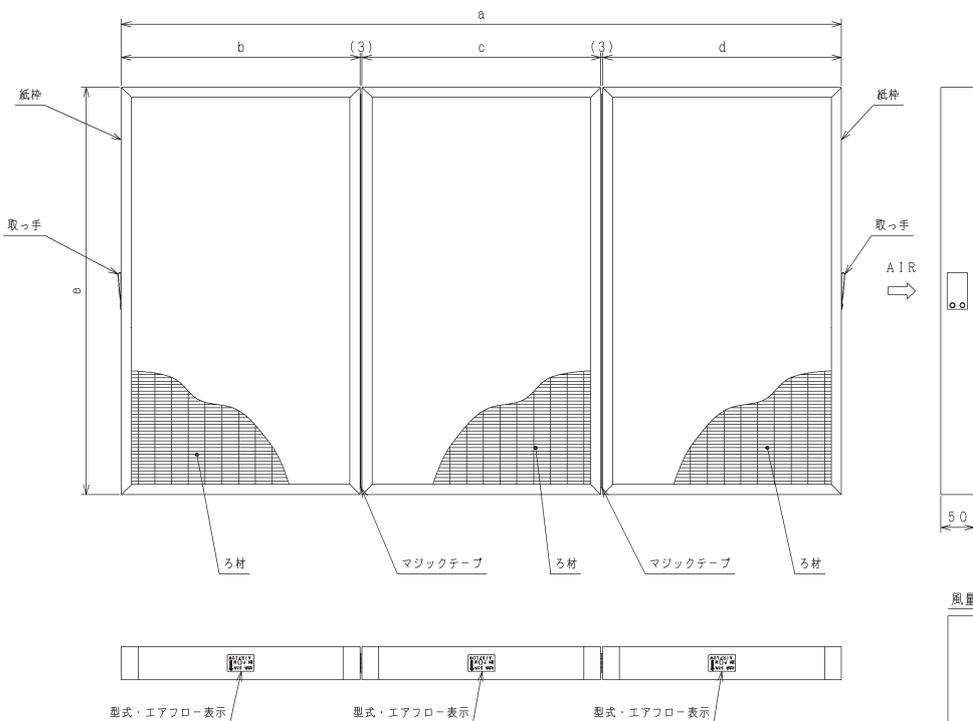
項目	型式	F-2L-M	F-5L-M
適用除塵機		UDP2W (C) 2	UDP3W (C) 2
使用数量 (各ユニット毎)		1	1
平均効率 %		65 (比色法)※1	
風量 m^3/min		21	30
初期圧力損失 Pa		19	29
終期圧力損失 Pa		59	91
色調 (ろ材, 外枠)		白色, 青色	
耐用時間		2500 h※1	
再利用		不可	
洗浄		不可	
a 寸法 mm		616	766
b 寸法 mm		434	581
質量 kg		1.2	1.6
使用する材質		合成繊維布織布 (静電フィルター)	
背面吸込逃へい板セット 型式 (別売品)		SP-2L-RCB	SP-5L-RCB
使用制限		・別売品の抗菌加工ロングライフフィルターおよび脱臭フィルターとの併用はできません	

風量-圧力損失特性曲線 (初期圧力損失)



● F-8L-M・F-10L-M

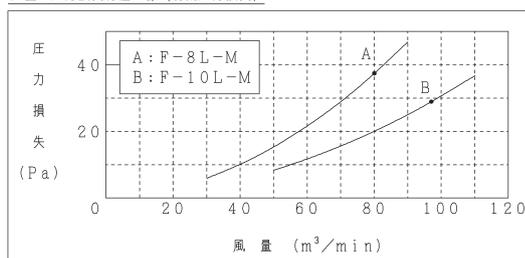
(単位: mm)



高性能フィルター仕様表

項目	型式	F-8L-M	F-10L-M
適用除塵機		UDP8W (C) 2	UDP10W (C) 2
使用数量 (各ユニット毎)		1セット (2枚/台)	1セット (3枚/台)
平均効率 %		65 (比色法)※1	
風量 m^3/min		80	97
初期圧力損失 Pa		37	29
終期圧力損失 Pa		101	85
色調 (ろ材, 外枠)		白色, 青色	
耐用時間		2500 h※1	
再利用		不可	
洗浄		不可	
a 寸法 mm		1066	1366
b 寸法 mm		531	453
c 寸法 mm		-	453
d 寸法 mm		531	453
e 寸法 mm		694	739
質量 kg		3.3	4.5
使用する材質		合成繊維布織布 (静電フィルター)	
背面吸込逃へい板セット 型式 (別売品)		SP-8L-RCB	SP-10L-RCB
使用制限		・別売品の抗菌加工ロングライフフィルターおよび脱臭フィルターとの併用はできません	

風量-圧力損失特性曲線 (初期圧力損失)



注記

- 本フィルターは、日立除塵機に背面吸込逃へい板セット (別売品) と併せてご使用いただくものです。
油霧気など特殊環境下で使用しないでください。
- 表中※1の平均効率、耐用時間は比色法 (塵埃濃度 $0.15 mg/m^3$) によります。
- 仕様中の耐用時間は目安であり、使用環境により変化します。(油霧気などでご使用の場合は、極端に耐用時間が短くなります。)
- 耐用時間を経過した高性能フィルターは交換してください。(高性能フィルターを洗浄することはできません。)
- 本フィルターは、別売品の抗菌加工ロングライフフィルターおよび脱臭フィルターとの併用はできません。

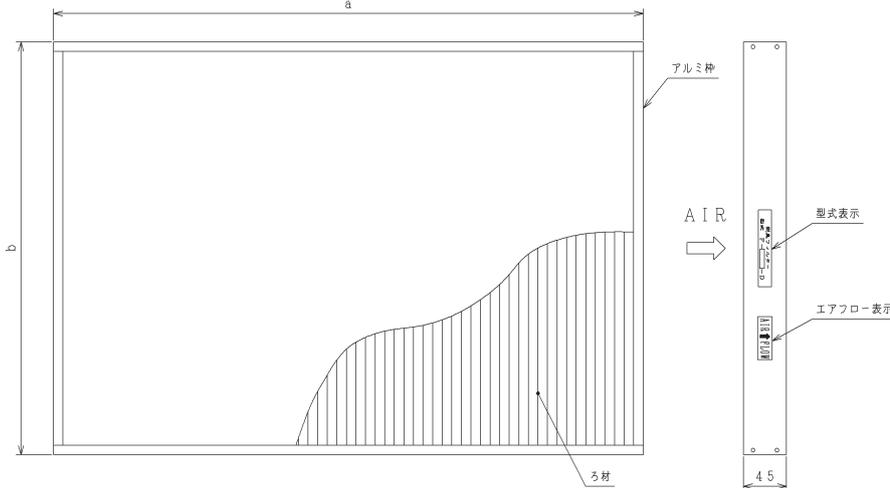
8. オプション部品

8.7 エアーフィルター

(4) 脱臭フィルター

● F-2L-D・F-5L-D

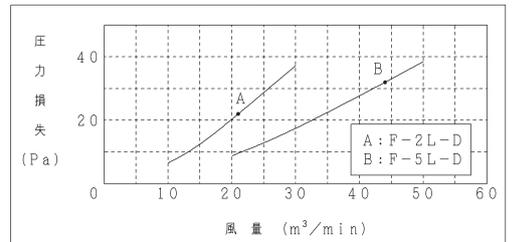
(単位：mm)



脱臭フィルター仕様表

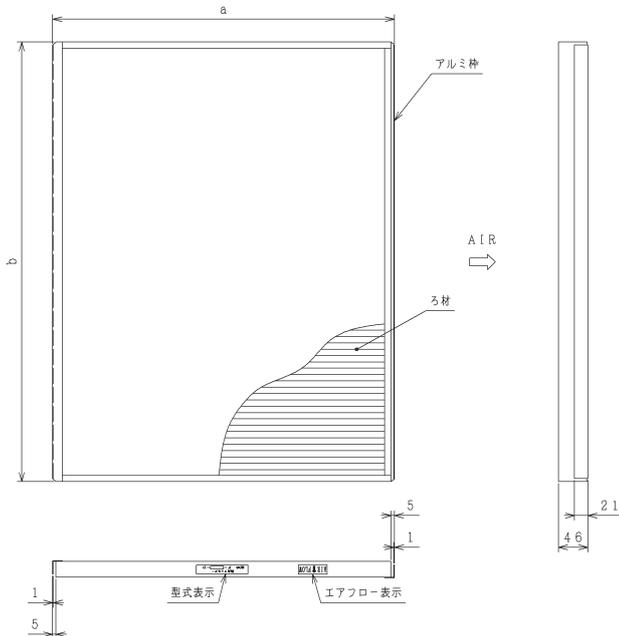
項目	型式	F-2L-D		F-5L-D
		UDP2W (C) 2	UDP3W (C) 2	UDP5W (C) 2
適用除湿機		UDP2W (C) 2	UDP3W (C) 2	UDP5W (C) 2
使用数量 (各ユニット毎)		1	1	1
塵埃捕集効率	%	50 (重量法) ※1		
風量	m ³ /min	21	30	44
初期圧力損失	Pa	22	37	32
終期圧力損失	Pa	37	60	52
色調 (ろ材, 外枠)		ピンク色, アルミ色		
耐用年数		3年 (1250h毎メンテナンス)		
再利用		可 (天日干し) ※2		
洗浄		可 (水洗い) ※3		
a 寸法	mm	616		766
b 寸法	mm	434		581
質量	kg	0.8		1.2
脱臭性能		タバコ臭, 体臭等の一般生活臭を吸着 (例 アンモニア・酢酸・アセトアルデヒド)		
使用する材質	脱臭繊維	アクリレート繊維1 (塩基性ガス吸着繊維)		
		アクリレート繊維2 (酢酸ガス吸着繊維)		
補強ネット		P, P/P, E		
補強シート		P, P		
背面吸込遮へい板セット 型式 (別売品)		SP-2L-RCB		SP-5L-RCB
使用制限		・ 洗剤による洗浄不可 (脱臭性能低下のため) ・ 別売品の抗菌加工ロングライフフィルターおよび高性能フィルターとの併用はできません		

風量-圧力損失特性曲線 (初期圧力損失)



● F-8L-D・F-10L-D

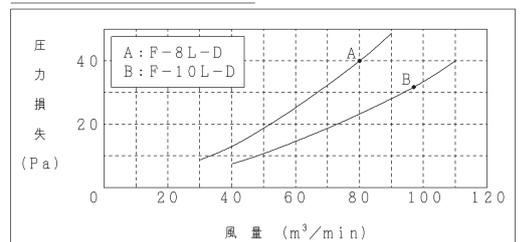
(単位：mm)



脱臭フィルター仕様表

項目	型式	F-8L-D		F-10L-D
		UDP8W (C) 2	UDP10W (C) 2	UDP10W (C) 2
適用除湿機		UDP8W (C) 2	UDP10W (C) 2	UDP10W (C) 2
使用数量 (各ユニット毎)		2	3	3
塵埃捕集効率	%	50 (重量法) ※1		
風量	m ³ /min	80		97
初期圧力損失	Pa	40		32
終期圧力損失	Pa	65		53
色調 (ろ材, 外枠)		ピンク色, アルミ色		
耐用年数		3年 (1250h毎メンテナンス)		
再利用		可 (天日干し) ※2		
洗浄		可 (水洗い) ※3		
a 寸法	mm	535		458
b 寸法	mm	694		739
質量	kg	1.7 (1枚)		1.5 (1枚)
脱臭性能		タバコ臭, 体臭等の一般生活臭を吸着 (例 アンモニア・酢酸・アセトアルデヒド)		
使用する材質	脱臭繊維	アクリレート繊維1 (塩基性ガス吸着繊維)		
		アクリレート繊維2 (酢酸ガス吸着繊維)		
補強ネット		P, P/P, E		
補強シート		P, P		
背面吸込遮へい板セット 型式 (別売品)		SP-8L-RCB		SP-10L-RCB
使用制限		・ 洗剤による洗浄不可 (脱臭性能低下のため) ・ 別売品の抗菌加工ロングライフフィルターおよび高性能フィルターとの併用はできません		

風量-圧力損失特性曲線 (初期圧力損失)

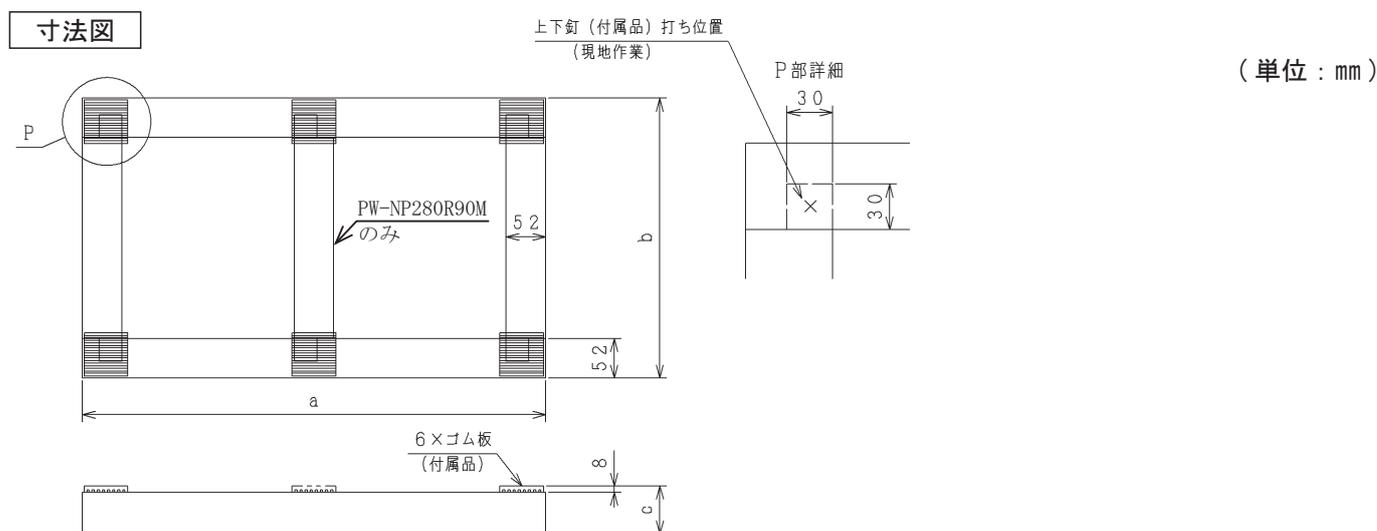


注記

- 本フィルターは、日立除湿機に背面吸込遮へい板セット (別売品) と併せてご使用いただくものです。油煙囲気など特殊環境下で使用しないでください。
- 表中※1の塵埃捕集効率は、一般浮遊塵埃 (塵埃濃度 0.15 mg/m³) に対するもので、臭気吸着効率を示すものではありません。
- 耐用年数は目安であり使用環境により変化します。なお、塵埃がフィルター表面に堆積しますと脱臭効果が得られない場合がありますので、洗浄等定期的なお手入れを行ってください。
- 耐用年数を経過した本フィルターは交換してください。
- 本フィルターは、タバコ臭、体臭等の一般生活臭を吸着するもので、特殊臭気 (溶剤系又は硫化水素等) は吸着できません。
- 表中※2再利用は、約1日天日干しさせ、吸着した臭気を大気放出することで可能となります。
- 表中※3洗浄は、水によるすすぎ洗いを行ってください。(洗剤使用は吸着性能を低下させるため使用できません)
- 本フィルターは、ろ材の水濡れ時及び通風停止時は脱臭効果がありませんのでご注意ください。
- 本フィルターは、別売品の抗菌加工ロングライフフィルターおよび高性能フィルターとの併用はできません。

1 木台

木台を使用することにより、ドレン配管の排水勾配を確保することができます。木台を使用する場合、木台用転倒防止金具を取り付け、必ずアンカーボルトにて転倒防止を行ってください。



仕様表

項目	共通仕様
材 料	米松または米梅
形 状	現地組立品
塗 装	全面黒色 (外観 : ラッカー3回塗装)
付 属 品	ゴム板 : 6枚 (8T×60×60) 釘 : 8本 (50L)(PW-NP280R90Mは12本 (50L))
据付注意点	・木台を据え付けた場合、エアコン (室内ユニット) の背面上部・底ベースを利用し、転倒防止をしてください。エアコン (室内ユニット) の底ベースと床面との固定用として別売品の「木台用転倒防止金具 (適用型式は下表参照)」を用意しておりますのでご利用ください。

寸法表

型式	適用除湿機	品名コード	a (mm)	b (mm)	c (mm)	別売木台用転倒防止金具型式
PW-NP70K90M	UDP2, 3W (C) 2	27439498	609	370	90	PWTB-90MCA
PW-NP140D90M	UDP5W (C) 2	60066158	759	470	90	PWTB-90MCA
PW-NP280D90M	UDP8W (C) 2	60066160	1,059	470	90	PWTB-90MCA
PW-NP280R90M	UDP10W (C) 2	60066163	1,359	470	90	PWTB-90MCA

1 プーリセット

UDP5～10W (C) 2 の場合は静圧調整が可能です。現地で機外静圧を変更する際は、次ページのプーリ選定表に従ってご準備ください。

(1) プーリセットの型式と適用型式

プーリセット型式	適用型式	軸穴・キー溝(mm)
PS-1A090-1405	UDP5W (C) 2	 止めねじ(M6)1個付属
PS-1A090-2408 ∩ PS-1A103-2408	UDP8W (C) 2	 止めねじ(M8)1個付属
PS-1A100-2808 ∩ PS-1A118-2808	UDP10W (C) 2	 止めねじ(M8)1個付属
PS-1A106-2000 ∩ PS-1A160-2000	UDP5W (C) 2	 止めねじ(M8)2個付属
PS-1A106-2508 ∩ PS-1A180-2508	UDP8W (C) 2 UDP10W (C) 2	 止めねじ(M8)1個付属

(2) プーリセットの型式の説明

型式：PS - ① - ② A ③ ④ - ⑤ ⑥

番号	記号	内容
①	PS	「プーリセット」
②	1	適用ベルト本数 (1本)
③	A	適用ベルト種類 (A型Vベルト)
④	067	ピッチ径 (φ67mm)
⑤	19	軸穴系 (φ19mm)
⑥	06	キー溝幅 (6mm、00はキー溝なし)

(3) プーリセットの型式の選定

下表の標準装着プーリおよび送風機特性曲線から送風機に必要な回転数を計算し、次ページ選定表によりプーリセット型式を選定してください。

	UDP5W (C) 2		UDP8W (C) 2		UDP10W (C) 2	
	ピッチ径 (mm)	軸穴径 (mm)	ピッチ径 (mm)	軸穴径 (mm)	ピッチ径 (mm)	軸穴径 (mm)
モータープーリ	90	14	103	24	100	28
ファンプーリ	132	20	132	25	132	25
Vベルト	660 (26)		660 (26)		660 (26)	
プーリ軸間距離	154		146		147	

● UDP5W (C) 2 プーリ選定表

運転周波数 (Hz)	プーリサイズ				送風機回転数 (rpm)	機外静圧 (Pa)			Vベルト	
	モーター側		ファン側			最小風量時 (31m³/min) (機内 100Pa)	標準風量時 (44m³/min) (機内 167Pa)	最大風量時 (53m³/min) (機内 225Pa)	サイズ (インチ)	種類 (A型)
	プーリ型式	ピッチ径 (mm)	プーリ型式	ピッチ径 (mm)						
50	PS-1A090-1405 (標準組込)	90	PS-1A132-2000 (標準組込)	132	940	130	20	-	26	レッドラベル
			PS-1A125-2000	125	990	165	55	-	25	
			PS-1A118-2000	118	1050	195	85	-		
			PS-1A112-2000	112	1110	230	110	20		
			PS-1A109-2000	109	1140	245	125	35	24	
PS-1A106-2000	106	1170	255	135	45					
60	PS-1A090-1405 (標準組込)	90	PS-1A160-2000 (プレナムチャンパー付属)	160	940	130	20	-	27	
			PS-1A150-2000	150	995	165	55	-	26	
			PS-1A140-2000	140	1070	205	95	0		
			PS-1A132-2000 (標準組込)	132	1130	240	120	30		

注記

- は標準組込み部品のため、別売部品の手配は不要です。
- 「-」は使用範囲外を示します。

● UDP8W (C) 2 プーリ選定表

運転周波数 (Hz)	プーリサイズ				送風機回転数 (rpm)	機外静圧 (Pa)			Vベルト	
	モーター側		ファン側			最小風量時 (58.3m³/min) (機内 97Pa)	標準風量時 (80m³/min) (機内 172Pa)	最大風量時 (94.5m³/min) (機内 248Pa)	サイズ (インチ)	種類 (A型)
	プーリ型式	ピッチ径 (mm)	プーリ型式	ピッチ径 (mm)						
50	PS-1A103-2408 (標準組込)	103	PS-1A150-2508	150	980	60	-	-	28	レッドラベル
			PS-1A140-2508	140	1050	110	-	-	27	
			PS-1A132-2508 (標準組込)	132	1130	165	20	-	26	
			PS-1A125-2508	125	1180	190	50	-		
			PS-1A118-2508	118	1250	230	90	-		
			PS-1A112-2508	112	1320	275	135	0	25	
			PS-1A109-2508	109	1350	305	160	25		
			PS-1A106-2508	106	1390	330	185	50		
60	PS-1A090-2408	90	PS-1A160-2508	160	970	50	-	-	28	
	PS-1A103-2408 (標準組込)	103	PS-1A150-2508	150	1030	95	-	-	27	
			PS-1A160-2508 (プレナムチャンパー付属)	160	1100	165	20	-	29	
			PS-1A150-2508	150	1180	190	50	-	28	
			PS-1A140-2508	140	1270	240	105	-	27	
			PS-1A132-2508 (標準組込)	132	1360	310	170	30	26	

注記

- は標準組込み部品のため、別売部品の手配は不要です。
- 「-」は使用範囲外を示します。

● UDP10W (C) 2 プーリ選定表

運転周波数 (Hz)	プーリサイズ				送風機回転数 (rpm)	機外静圧 (Pa)			Vベルト	
	モーター側		ファン側			最小風量時 (67.9m³/min) (機内 137Pa)	標準風量時 (97m³/min) (機内 228Pa)	最大風量時 (116.4m³/min) (機内 340Pa)	サイズ (インチ)	種類 (A型)
	プーリ型式	ピッチ径 (mm)	プーリ型式	ピッチ径 (mm)						
50	PS-1A100-2808 (標準組込)	100	PS-1A150-2508	150	970	90	-	-	28	レッドラベル
			PS-1A140-2508	140	1040	130	-	-	27	
			PS-1A132-2508 (標準組込)	132	1100	170	20	-	26	
	PS-1A125-2508	125	PS-1A112-2508	112	1170	200	70	-		
			PS-1A106-2808	106	1240	240	120	-		
			PS-1A112-2808	112	1310	280	170	-		
			PS-1A118-2808	118	1380	330	220	30		
60	PS-1A100-2808 (標準組込)	100	PS-1A180-2508	180	980	90	-	-	31	
			PS-1A170-2508	170	1030	125	-	-	30	
			PS-1A160-2508 (プレナムチャンパー付属)	160	1100	170	20	-	29	
			PS-1A150-2508	150	1170	200	70	-	28	
			PS-1A140-2508	140	1250	250	130	-	27	
			PS-1A132-2508 (標準組込)	132	1330	300	190	0	26	

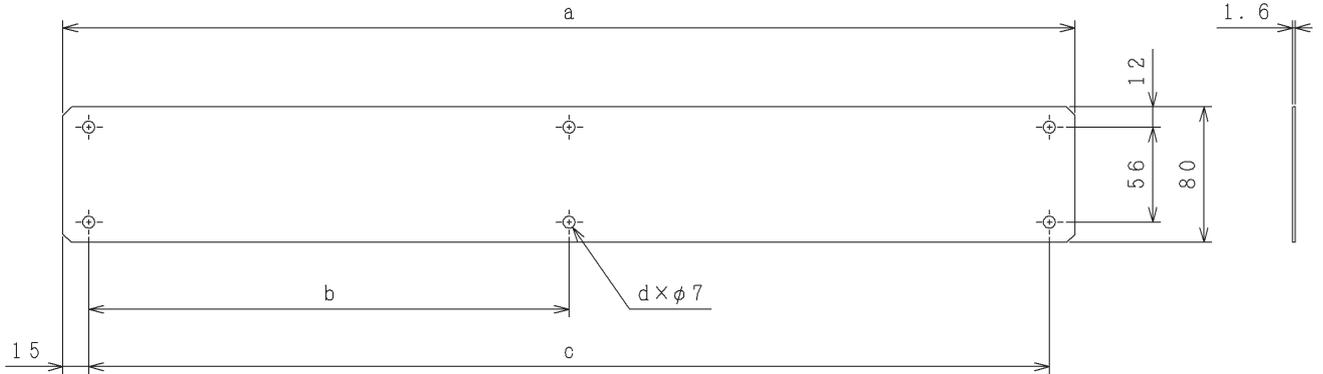
注記

- は標準組込み部品のため、別売部品の手配は不要です。
- 「-」は使用範囲外を示します。

1 ベースカバー

運搬などで生じたソコベース正面の傷をベースカバーを使用することにより、傷ついた部分を塞ぐことができます。このとき、製品付属の化粧ベースカバーは使用することができません。

(単位：mm)



仕様表

項目	型式	K-2BC	K-5BC	K-8BC	K-10BC
適用除湿機		UDP2W (C) 2 UDP3W (C) 2	UDP5W (C) 2	UDP8W (C) 2	UDP10W (C) 2
材質 (色調)		亜鉛鋼板 (ユートピアベージュ) (マンセル記号 2.5Y8/2)			
構成部品	ベースカバー	×1	×1	×2	×2
	M5 タッピンネジ	×6	×6	×8	×12
	要領書	×1	×1	×1	×1

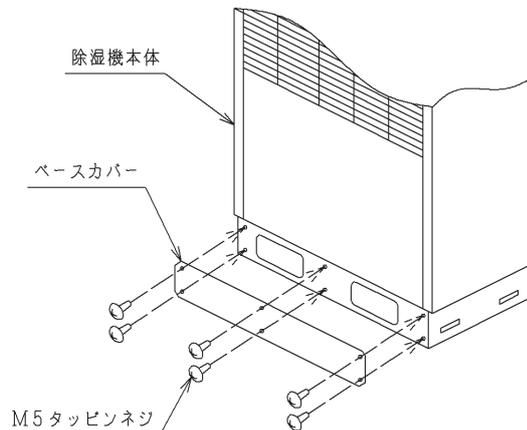
型式別寸法表

型式	寸法	a	b	c	d
K-2BC		592	281	562	6
K-5BC		742	356	712	6
K-8BC		520	-	490	4
K-10BC		670	360	640	6

注記

1. 本部品は、日立床置型除湿機に装着して使用する部品です。
2. 本部品は、底ベース正面を塞ぐための部品です。
3. 製品付属の化粧カバーと併用することができません。
化粧カバーは必要に応じて、大切に保管してください。
4. 取付の際は、本部品に同梱されている要領書をご参照ください。

ベースカバー取付図
(例 K-2BC取付の場合)

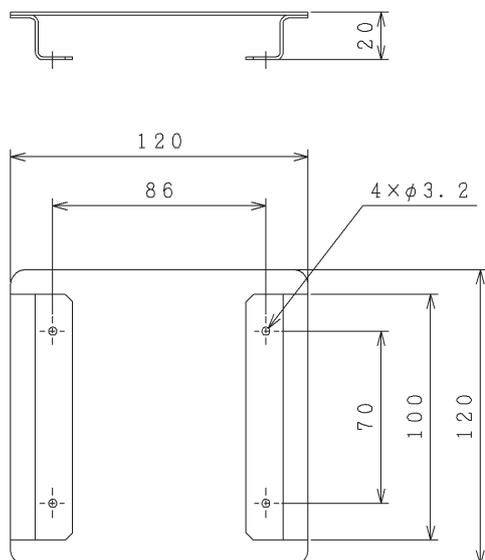


型式	適用除湿機	品名コード
K-2BC	UDP2W (C) 2 UDP3W (C) 2	27439504
K-5BC	UDP5W (C) 2	27439505
K-8BC	UDP8W (C) 2	27439506
K-10BC	UDP10W (C) 2	27439507

1 操作スイッチ塞ぎカバー

操作スイッチ塞ぎカバーを使用することにより、除湿機に取り付けられている操作スイッチを他の場所へ移動して使用する場合に、操作スイッチを取り外した前カバーの穴を塞ぐことができます。

(単位：mm)



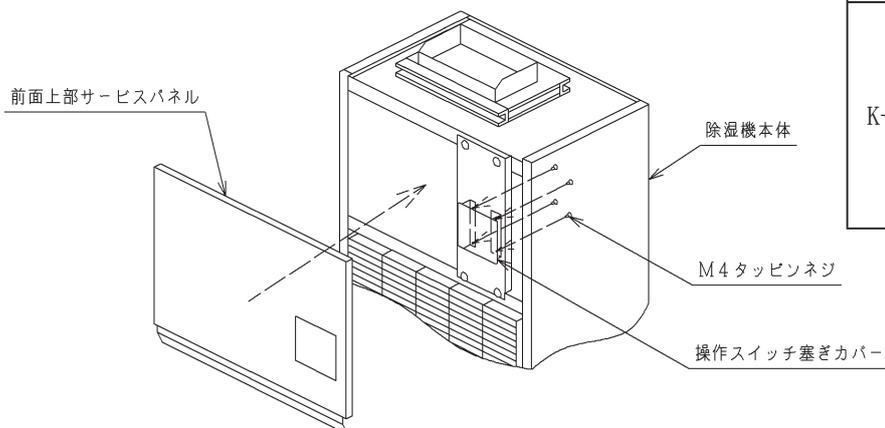
仕様表

項目	型式	K-SC
適用除湿機		UDP2W (C) 2 UDP3W (C) 2 UDP5W (C) 2 UDP8W (C) 2 UDP10W (C) 2
材質 (色調)		亜鉛鋼板 (ユートピアベージュ) (マンセル記号 2.5Y8/2)
構成部品		操作スイッチ塞ぎカバー ×1
		M4 タッピンネジ ×4
		要領書 ×1

注 記

1. 本部品は、日立床置型除湿機に装着して使用する部品です。
2. 本部品は、操作スイッチを別の場所へ移動する場合に、操作スイッチを取り外した角穴を塞ぐための部品です。
3. 取付の際は、本部品に同梱されている要領書をご参照ください。

操作スイッチ塞ぎカバー取付位置



型式	適用除湿機	品名コード
K-SC	UDP2W (C) 2 UDP3W (C) 2 UDP5W (C) 2 UDP8W (C) 2 UDP10W (C) 2	27439503

8. オプション部品

8.12 室外ユニットオプション部品

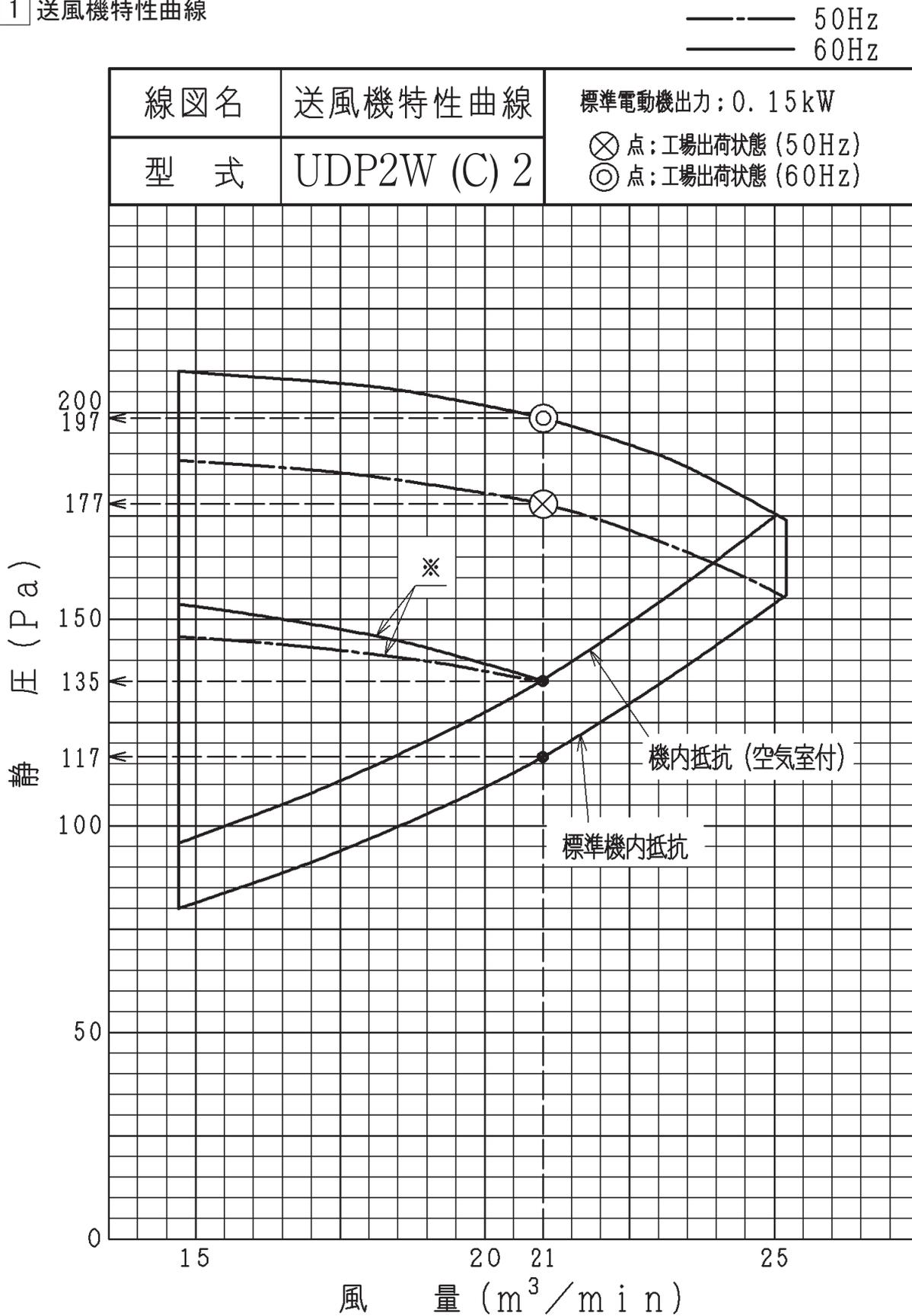
1 室外ユニットオプション部品一覧

種 類		型式	品名コード	適用型式		
風向ガイド		AG-264	60290812	UDRCP2W1 UDRCP3W1		
		AG-264 × 2		UDRCP5W1		
防風セット		WSP-264	60290811	UDRCP2W1 UDRCP3W1		
		WSP-264 × 2		UDRCP5W1		
防雪フード	亜鉛メッキ 鋼板製	吹出口	ASG-NP80F1	60066238	UDRCP2W1 UDRCP3W1	
		背面吸込口	ASG-P80B2			60066229
		左吸込口	ASG-P80L2			60066230
		吹出口	ASG-NP80F1 × 2	60066238	UDRCP5W1	
		背面吸込口	ASG-P160B2	60066231		
		左吸込口	ASG-P160L2	60066232		
		吹出口	ASG-BP280FA2	60066197	UDRCP8W1	
		背面吸込口	ASG-BP280BA2	60066198		
		左吸込口	ASG-BP224LRA2 × 2	60066196		
		吹出口	ASG-BP280FA2	60066197	UDRCP10W1	
		背面吸込口	ASG-BP280BA2	60066198		
		左吸込口	ASG-BP280LRA2 × 2	60066199		
	ステンレス製	吹出口	ASG-P80FS3	60066036	60066036	UDRCP2W1 UDRCP3W1
		背面吸込口	ASG-P80BS3	60066037		
		左吸込口	ASG-P80LS3	60066038		
		吹出口	ASG-P80FS3 × 2	60066036	60066036	UDRCP5W1
		背面吸込口	ASG-P160BS3	60066039		
		左吸込口	ASG-P160LS3	60066040		
		吹出口	ASG-BP280FAS4	60066004	60066004	UDRCP8W1
		背面吸込口	ASG-BP280BAS4	60066005		
		左吸込口	ASG-BP224LRAS4 × 2	60066003		
		吹出口	ASG-BP280FAS4	60066004	60066004	UDRCP10W1
		背面吸込口	ASG-BP280BAS4	60066005		
		左吸込口	ASG-BP280LRAS4 × 2	60066006		
防雪フード用転倒防止金具<ワイヤー式>		ASG-SW20A	60291008	全機種共用		

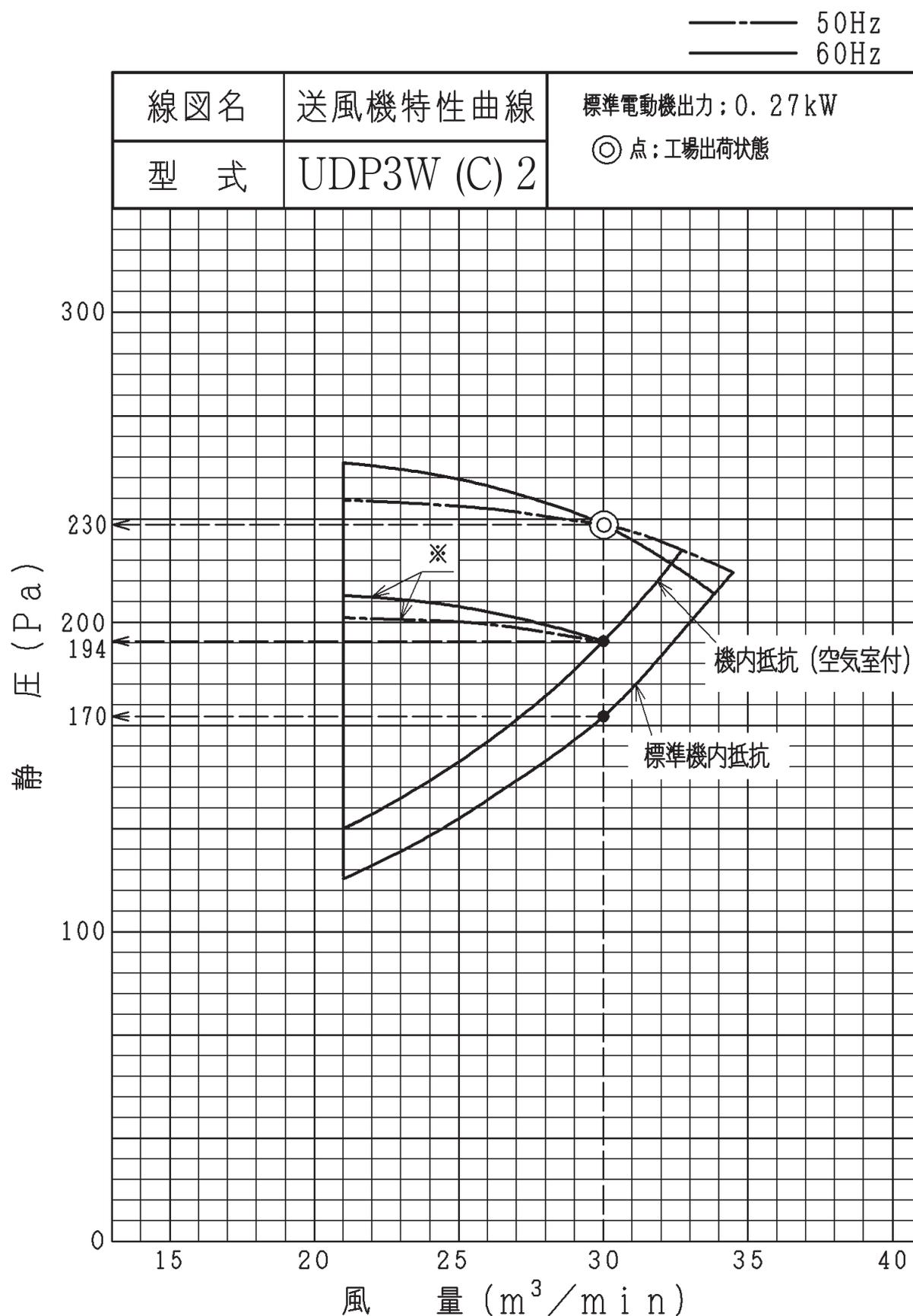
9. 参考資料

9.1 送風機特性曲線

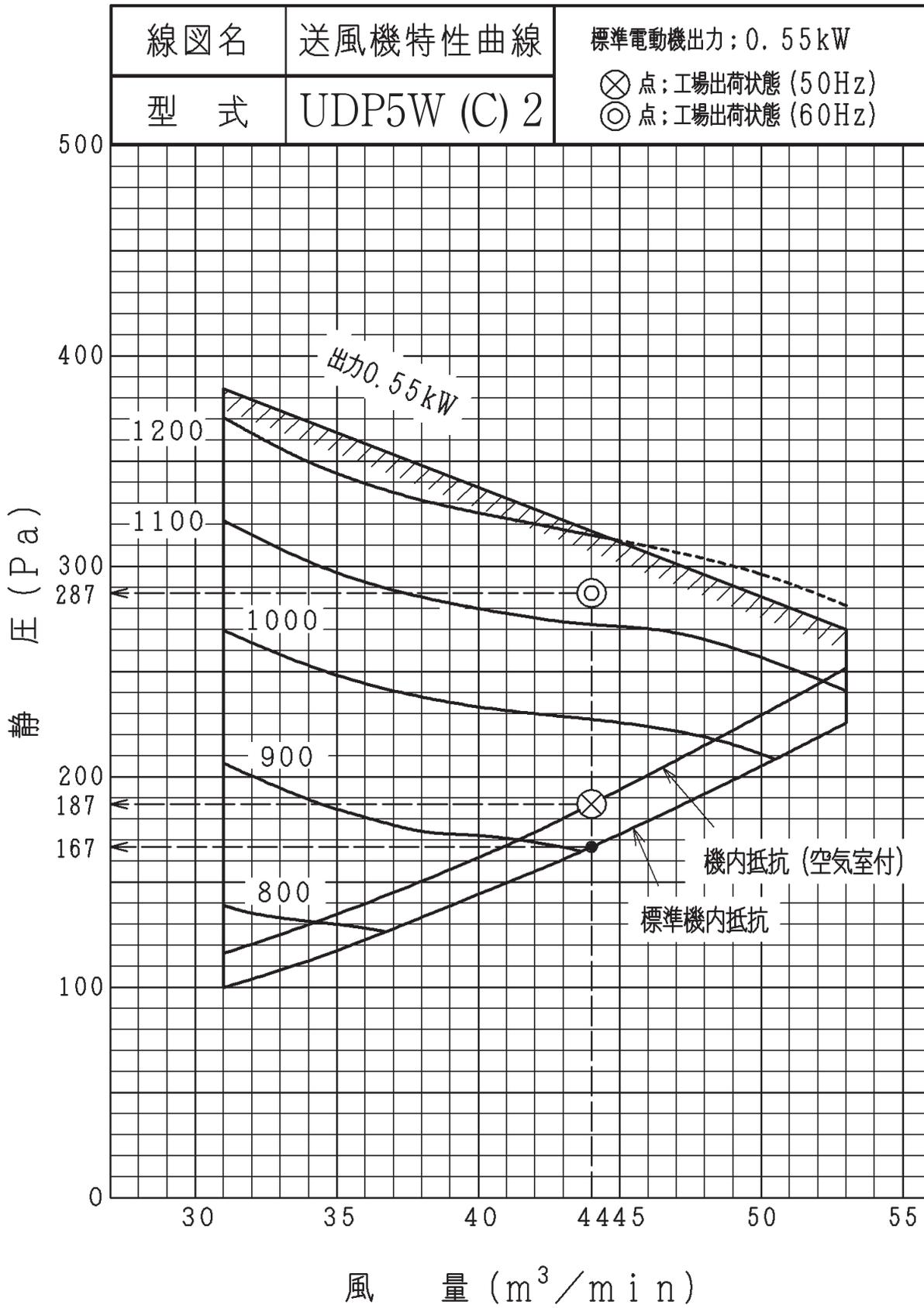
1 送風機特性曲線

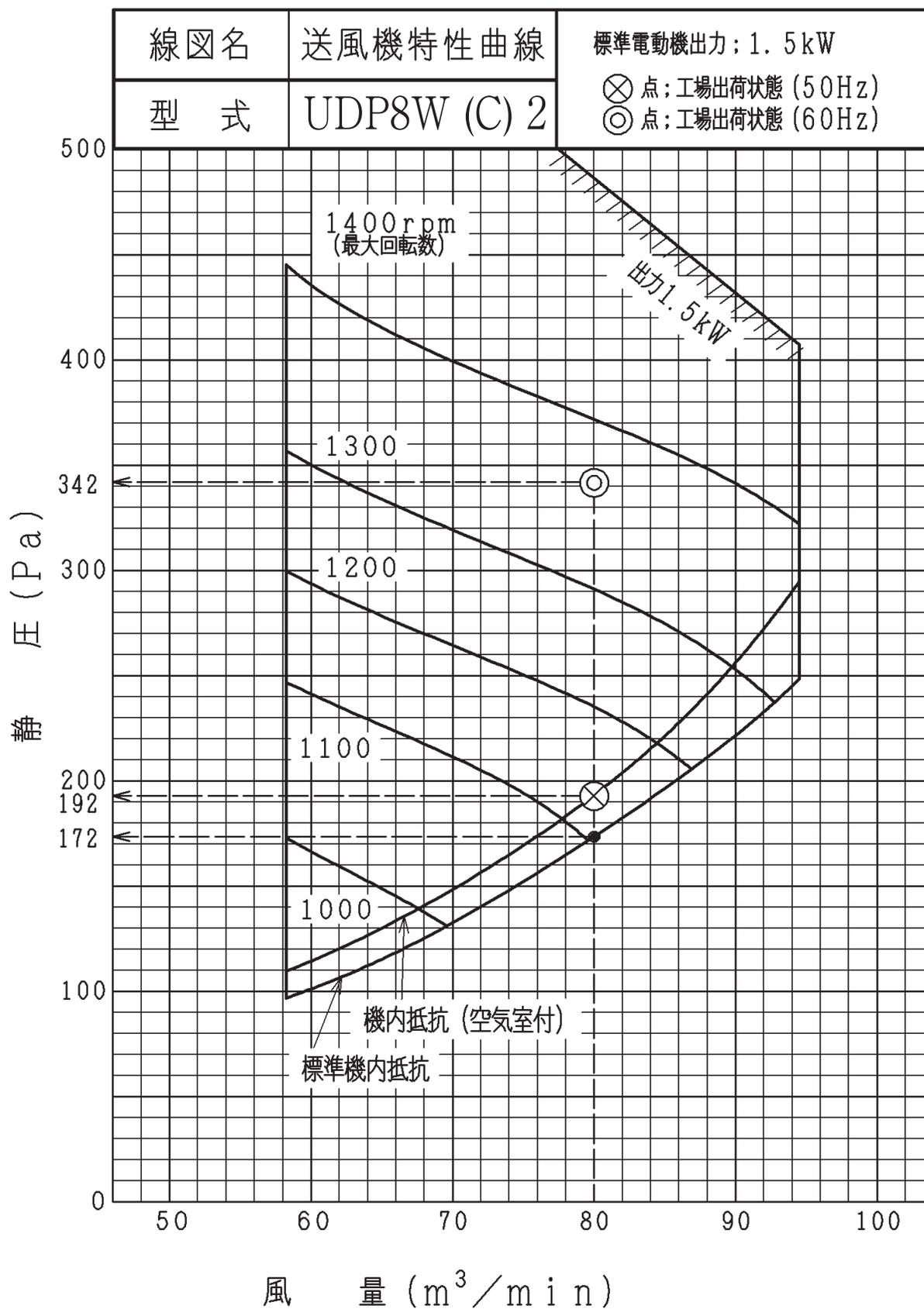


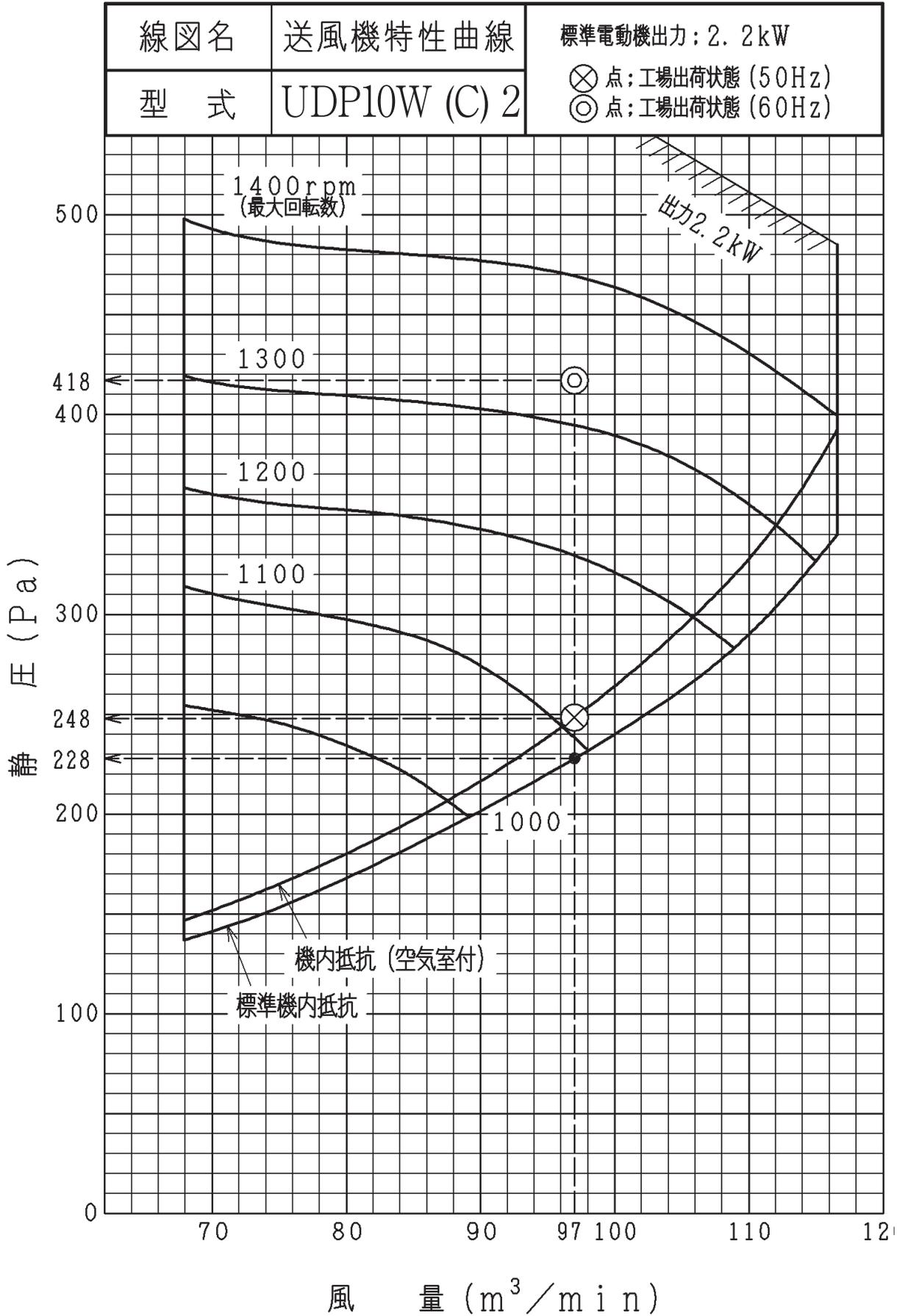
注) ※は別売のプレナムチャンバ (型式 UD2-PC) またはダクトボックス (型式 K-2DC1) に付属のコードにより、送風機回転数を調整した場合を示します。



注) ※は別売のプレナムチャンバ (型式 UD2-PC) またはダクトボックス (型式 K-2DC1) に付属のコードにより送風機回転数を調整した場合を示します。







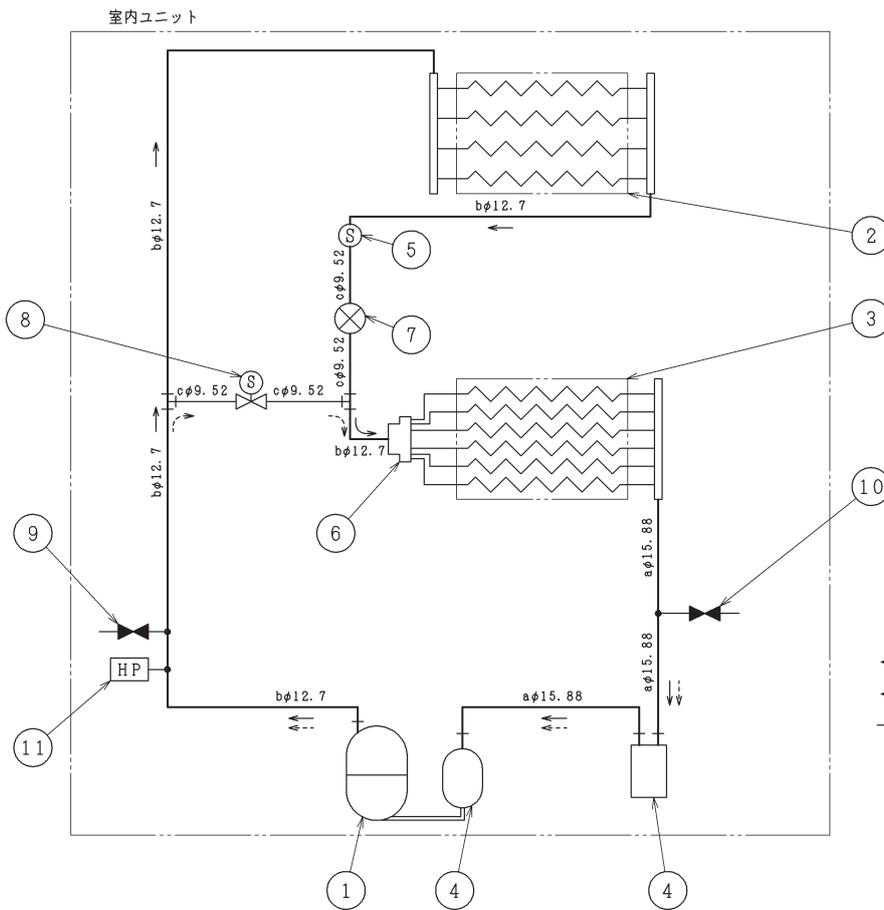
9. 参考資料

9.2 冷凍サイクル系統図

1 冷凍サイクル系統図

● UDP2W2

(単位: mm)



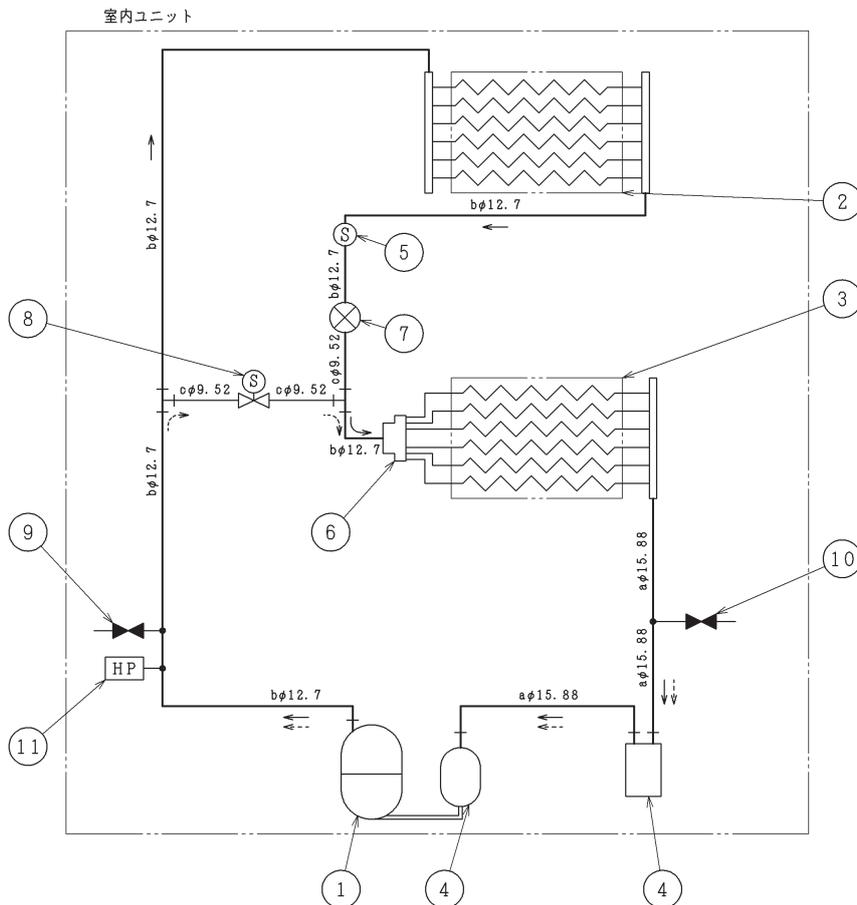
番号	部品名	備考
1	圧縮機	
2	凝縮器	
3	蒸発器	
4	アキュムレーター	圧力容器ではない
5	ストレーナー	
6	ディストリビューター	
7	電子制御膨張弁	
8	電磁弁	除霜用
9	チェックジョイント	高圧側
10	チェックジョイント	低圧側
11	高圧遮断装置	

記号	外径 × 肉厚	材質
a	15.88 × 1.0	C1220-O
b	12.7 × 1.0	
c	9.52 × 1.0	
d	6.35 × 1.07	

← : 運転サイクル
 ←- : 除霜サイクル
 + : ロー付接続

● UDP3W2

(単位: mm)



番号	部品名	備考
1	圧縮機	
2	凝縮器	
3	蒸発器	
4	アキュムレーター	圧力容器ではない
5	ストレーナー	
6	ディストリビューター	
7	電子制御膨張弁	
8	電磁弁	除霜用
9	チェックジョイント	高圧側
10	チェックジョイント	低圧側
11	高圧遮断装置	

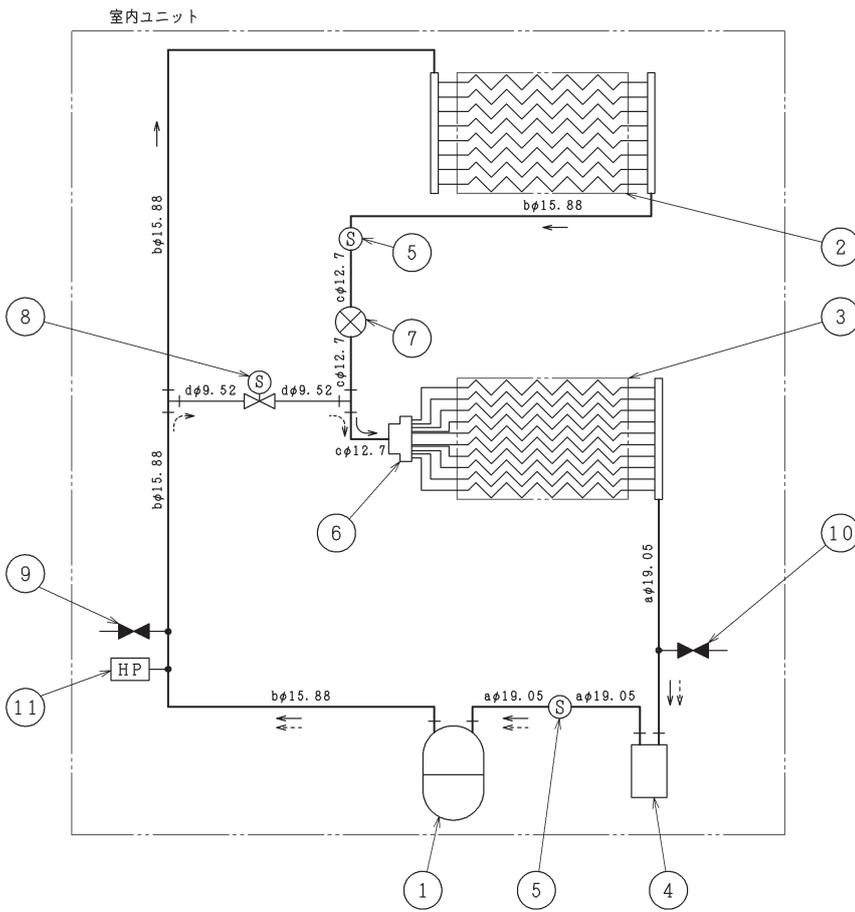
記号	外径 × 肉厚	材質
a	15.88 × 1.0	C1220-O
b	12.7 × 1.0	
c	9.52 × 1.0	
d	6.35 × 1.07	

← : 運転サイクル
 ←- : 除霜サイクル
 + : ロー付接続

9. 参考資料

9.2 冷凍サイクル系統図

● UDP5W2



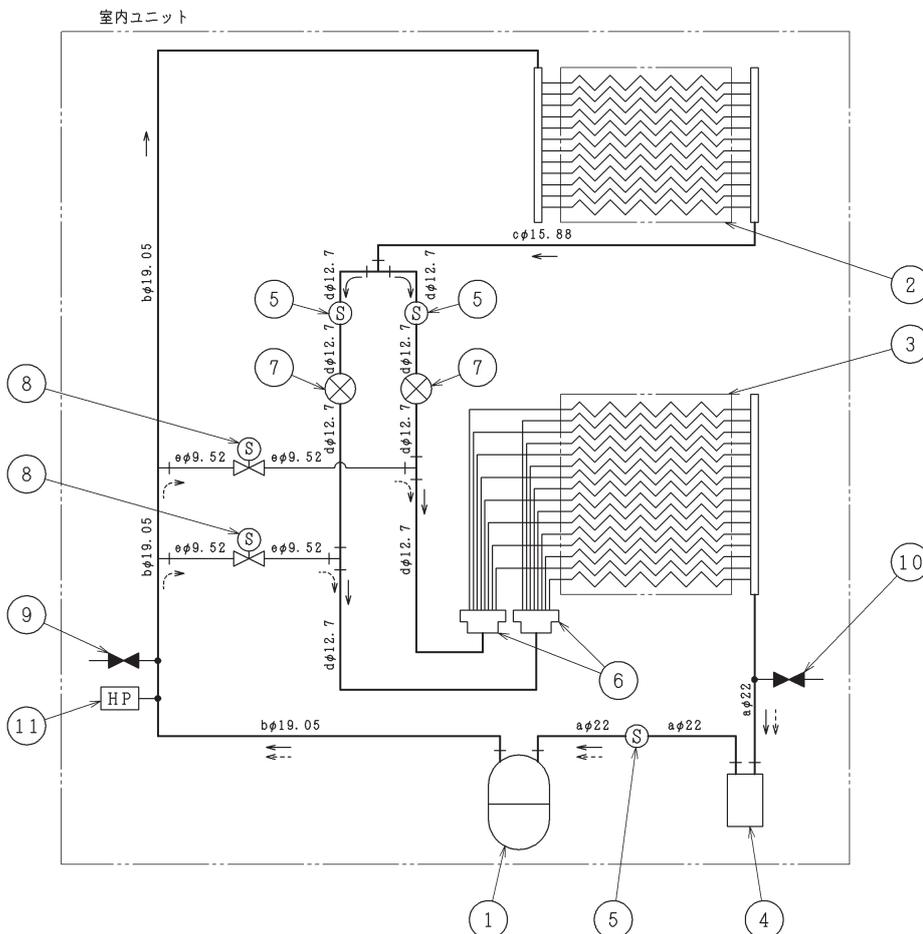
(単位：mm)

番号	部品名	備考
1	圧縮機	
2	凝縮器	
3	蒸発器	
4	アキュムレーター	圧力容器ではない
5	ストレーナー	
6	ディストリビューター	
7	電子制御膨張弁	
8	電磁弁	除霜用
9	チェックジョイント	高圧側
10	チェックジョイント	低圧側
11	高圧遮断装置	

記号	外径 × 肉厚	材質
a	19.05 × 1.2	C1220-0
b	15.88 × 1.0	
c	12.7 × 1.0	
d	9.52 × 1.0	

← : 運転サイクル
 ←- : 除霜サイクル
 + : ロー付接続

● UDP8W2



(単位：mm)

番号	部品名	備考
1	圧縮機	
2	凝縮器	
3	蒸発器	
4	アキュムレーター	圧力容器ではない
5	ストレーナー	
6	ディストリビューター	
7	電子制御膨張弁	
8	電磁弁	除霜用
9	チェックジョイント	高圧側
10	チェックジョイント	低圧側
11	高圧遮断装置	

記号	外径 × 肉厚	材質
a	22 × 1.2	C1220-0
b	19.05 × 1.2	
c	15.88 × 1.0	
d	12.7 × 1.0	
e	9.52 × 1.0	

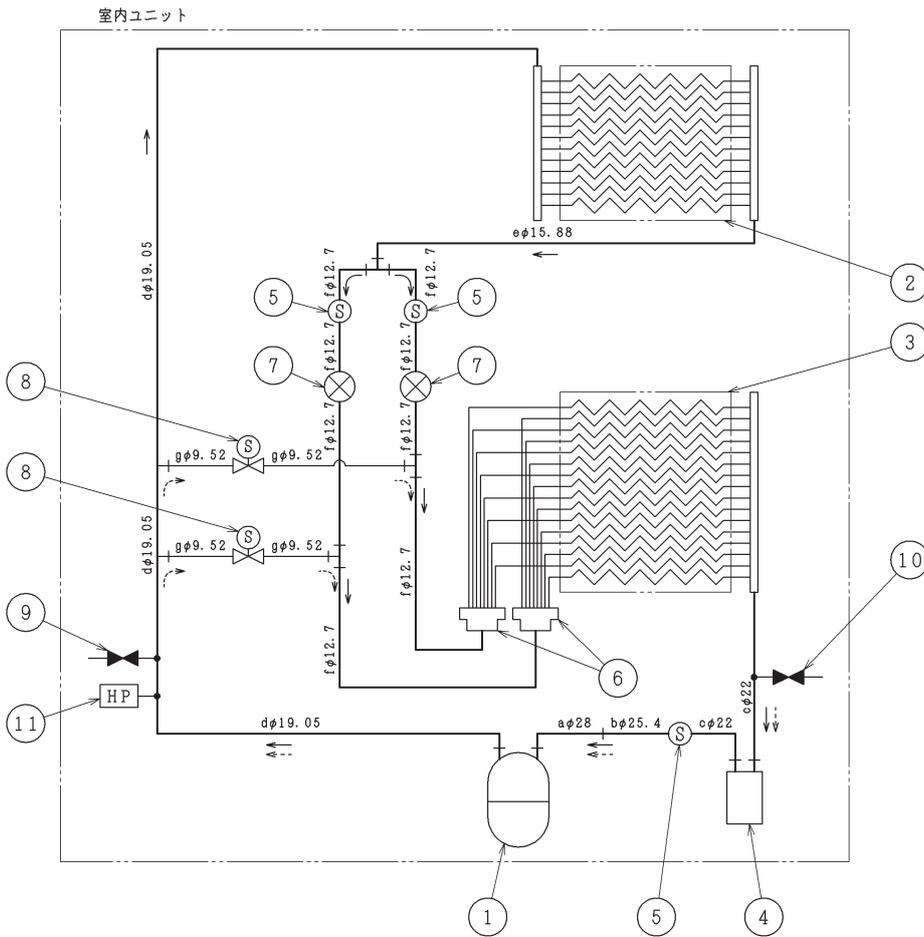
← : 運転サイクル
 ←- : 除霜サイクル
 + : ロー付接続

9. 参考資料

9.2 冷凍サイクル系統図

● UDP10W2

(単位：mm)



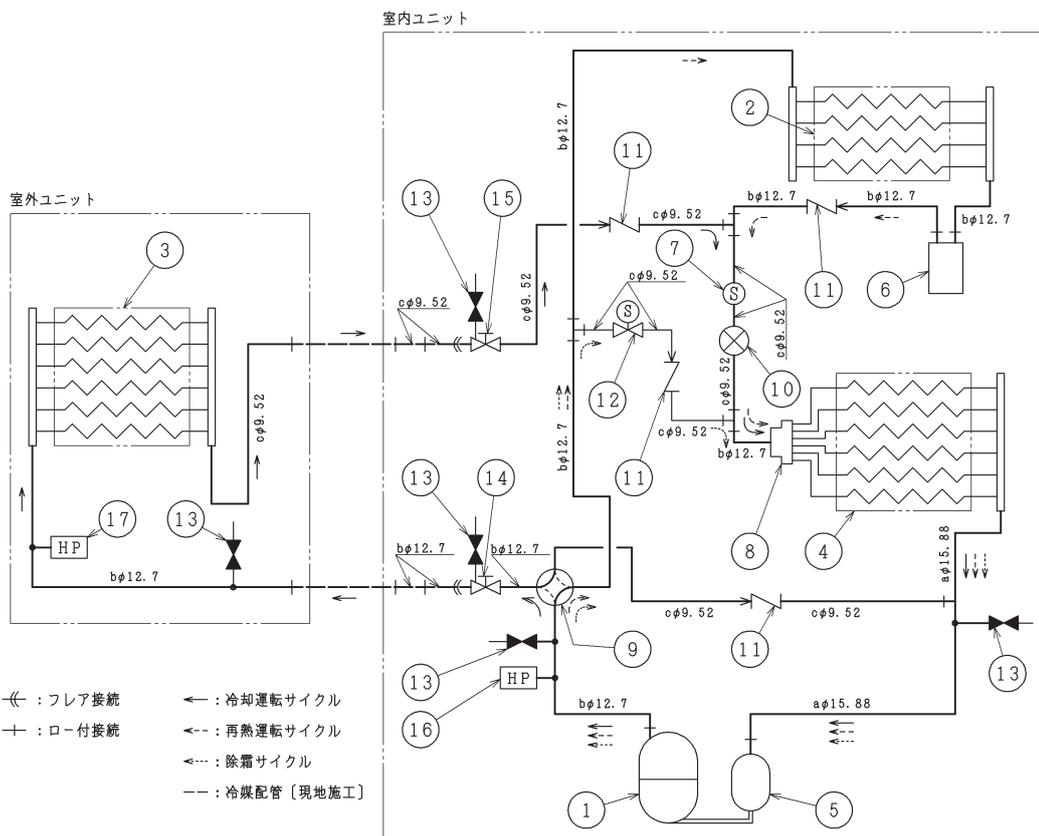
番号	部品名	備考
1	圧縮機	
2	凝縮器	
3	蒸発器	
4	アキュムレーター	圧力容器ではない
5	ストレーナー	
6	ディストリビューター	
7	電子制御膨張弁	
8	電磁弁	除霜用
9	チェックジョイント	高圧側
10	チェックジョイント	低圧側
11	高圧遮断装置	

記号	外径 × 肉厚	材質
a	28 × 1.6	C1220-0
b	25.4 × 1.6	
c	22 × 1.2	
d	19.05 × 1.2	
e	15.88 × 1.0	
f	12.7 × 1.0	
g	9.52 × 1.0	

- ← : 運転サイクル
- ←← : 除霜サイクル
- ⊕ : ロー付接続

● UDP2WC2 + UDRCP2WC1

(単位：mm)



番号	部品名	備考
1	圧縮機	
2	室内側熱交換器	再熱器
3	室外側熱交換器	凝縮器
4	室内側熱交換器	蒸発器
5	アキュムレーター	圧縮機付属
6	冷媒量調節器	圧力容器ではない
7	ストレーナー	
8	ディストリビューター	
9	四方弁	
10	電子制御膨張弁	
11	逆止弁	
12	電磁弁	除霜用
13	チェックジョイント	
14	阻止弁 (ガス側)	
15	阻止弁 (液側)	
16	高圧遮断装置	保護用
17	高圧圧力スイッチ	室外送風機制御用

記号	外径 × 肉厚	材質
a	15.88 × 1.0	C1220-0
b	12.7 × 1.0	
c	9.52 × 1.0	
d	6.35 × 1.07	

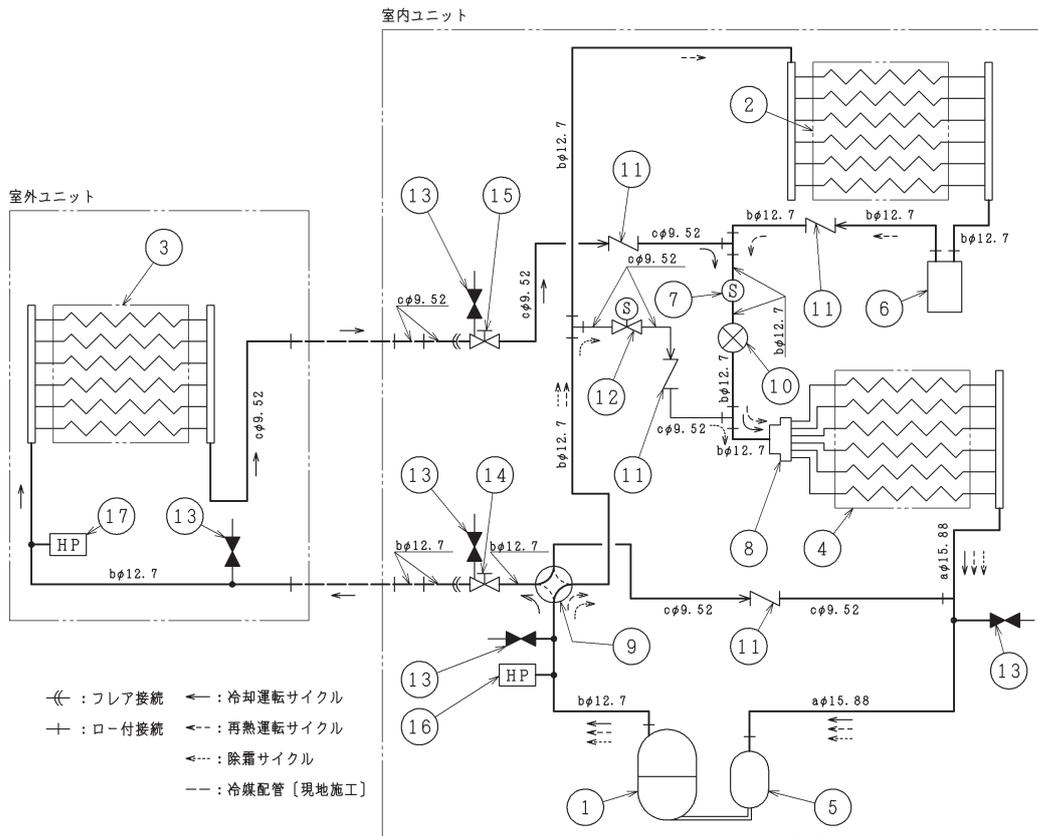
- ← : フレア接続
- ←← : 冷却運転サイクル
- ←← : 再熱運転サイクル
- ←← : 除霜サイクル
- : 冷媒配管 [現地施工]
- ⊕ : ロー付接続

9. 参考資料

9.2 冷凍サイクル系統図

● UDP3WC2 + UDRCP3WC1

(単位：mm)

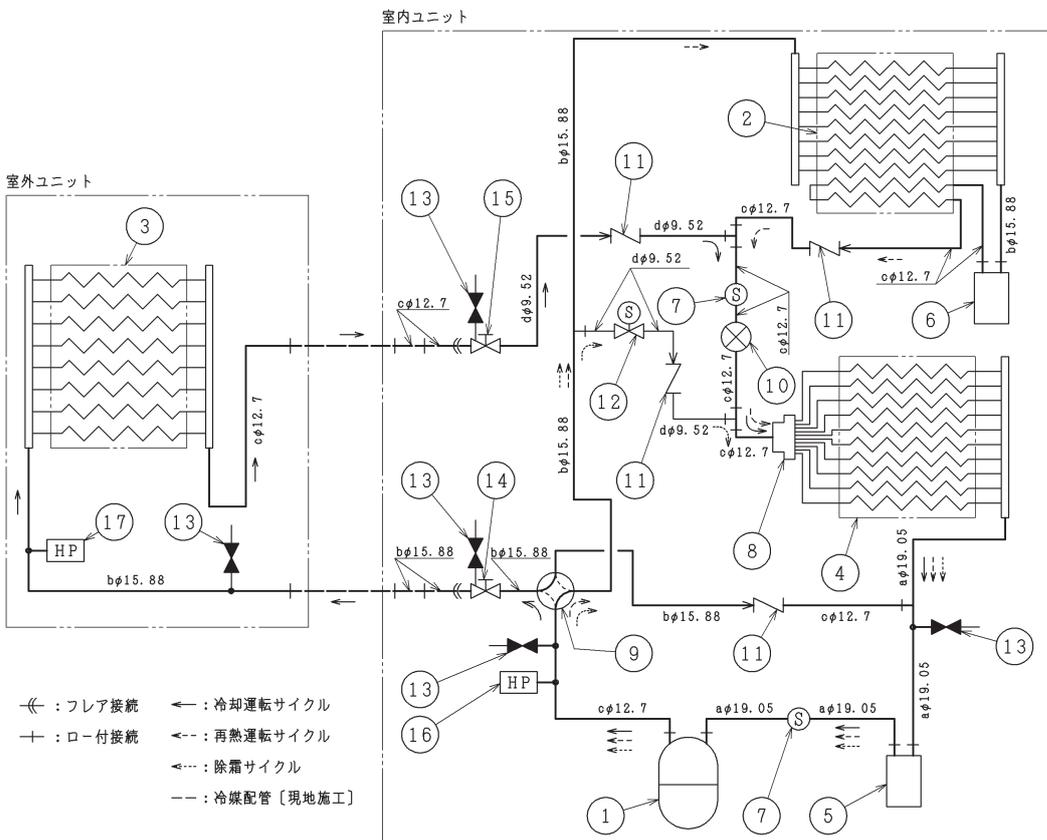


番号	部品名	備考
1	圧縮機	
2	室内側熱交換器	再熱器
3	室外側熱交換器	凝縮器
4	室内側熱交換器	蒸発器
5	アキュムレーター	圧縮機付属
6	冷媒量調節器	圧力容器ではない
7	ストレーナー	
8	ディストリビューター	
9	四方弁	
10	電子制御膨張弁	
11	逆止弁	
12	電磁弁	除霜用
13	チェックジョイント	
14	阻止弁 (ガス側)	
15	阻止弁 (液側)	
16	高圧遮断装置	保護用
17	高圧圧カスイッチ	室外送風機制御用

記号	外径 × 肉厚	材質
a	15.88 × 1.0	C1220-0
b	12.7 × 1.0	
c	9.52 × 1.0	
d	6.35 × 1.07	

● UDP5WC2 + UDRCP5WC1

(単位：mm)



番号	部品名	備考
1	圧縮機	
2	室内側熱交換器	再熱器
3	室外側熱交換器	凝縮器
4	室内側熱交換器	蒸発器
5	アキュムレーター	圧力容器ではない
6	冷媒量調節器	圧力容器ではない
7	ストレーナー	
8	ディストリビューター	
9	四方弁	
10	電子制御膨張弁	
11	逆止弁	
12	電磁弁	除霜用
13	チェックジョイント	
14	阻止弁 (ガス側)	
15	阻止弁 (液側)	
16	高圧遮断装置	保護用
17	高圧圧カスイッチ	室外送風機制御用

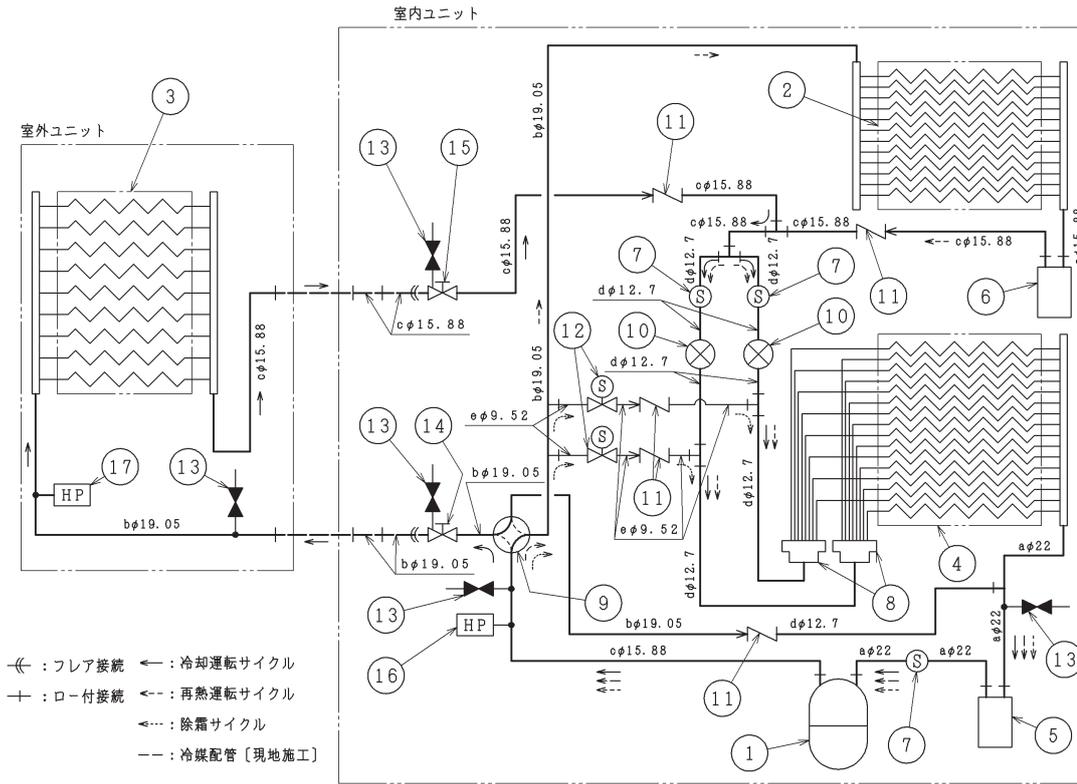
記号	外径 × 肉厚	材質
a	19.05 × 1.2	C1220-0
b	15.88 × 1.0	
c	12.7 × 1.0	
d	9.52 × 1.0	

9. 参考資料

9.2 冷凍サイクル系統図

● UDP8WC2 + UDRCP8WC1

(単位: mm)

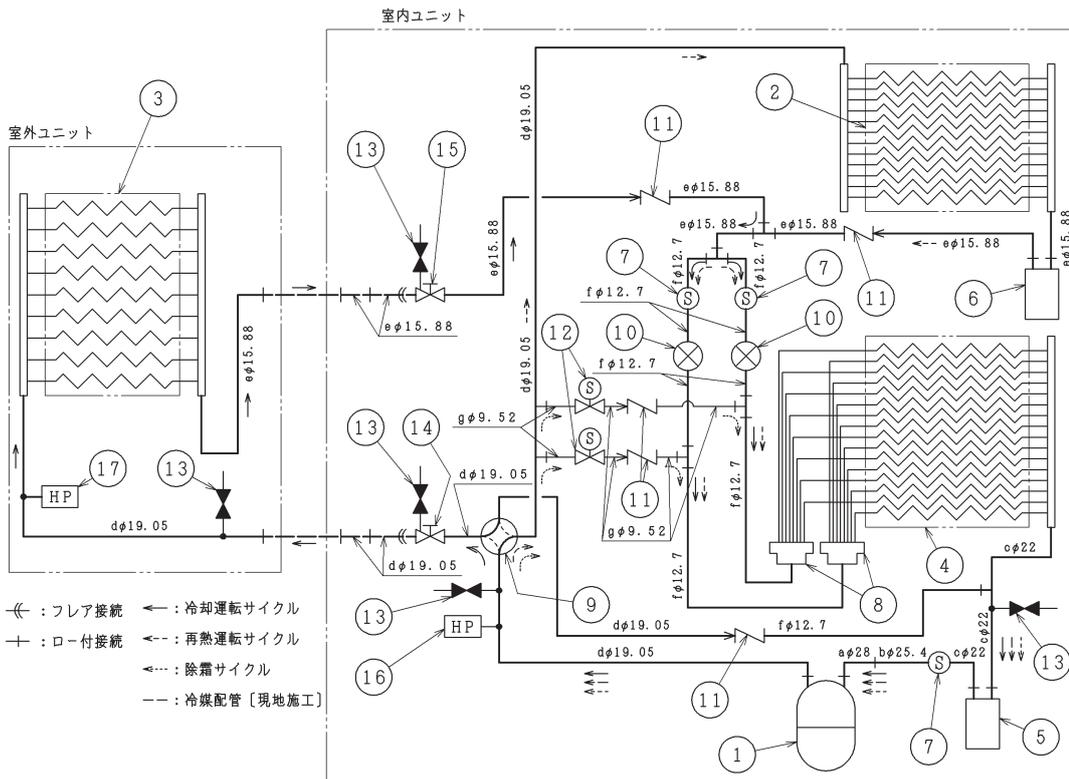


番号	部品名	備考
1	圧縮機	
2	室内側熱交換器	再熱器
3	室外側熱交換器	凝縮器
4	室内側熱交換器	蒸発器
5	アキュムレーター	圧力容器ではない
6	冷媒量調節器	圧力容器ではない
7	ストレーナー	
8	ディストリビューター	
9	四方弁	
10	電子制御膨張弁	
11	逆止弁	
12	電磁弁	除霜用
13	チェックジョイント	
14	阻止弁 (ガス側)	
15	阻止弁 (液側)	
16	高圧遮断装置	保護用
17	高圧圧カスイッチ	室外送風機制御用

記号	外径 × 肉厚	材質
a	22 × 1.2	C1220-0
b	19.05 × 1.2	
c	15.88 × 1.0	
d	12.7 × 1.0	
e	9.52 × 1.0	

● UDP10WC2 + UDRCP10WC1

(単位: mm)



番号	部品名	備考
1	圧縮機	
2	室内側熱交換器	再熱器
3	室外側熱交換器	凝縮器
4	室内側熱交換器	蒸発器
5	アキュムレーター	圧力容器ではない
6	冷媒量調節器	圧力容器ではない
7	ストレーナー	
8	ディストリビューター	
9	四方弁	
10	電子制御膨張弁	
11	逆止弁	
12	電磁弁	除霜用
13	チェックジョイント	
14	阻止弁 (ガス側)	
15	阻止弁 (液側)	
16	高圧遮断装置	保護用
17	高圧圧カスイッチ	室外送風機制御用

記号	外径 × 肉厚	材質
a	28 × 1.6	C1220-0
b	25.4 × 1.6	
c	22 × 1.2	
d	19.05 × 1.2	
e	15.88 × 1.0	
f	12.7 × 1.0	
g	9.52 × 1.0	